

レリトノ報道ニ接シタルヲ以テ他ノ公務ヲ措テ出場シ爾來現問題發議者及賛成者ノ説ヲ聞クニ或ハ貧民ノ救済ヲ理由トシ或ハ道德ノ維持ヲ理由トスルニ過キス元來現行法ノ改正ヲ要スル所以ハ其稅則ノ不完備ニシテ道德ヲ守ル營業者ハ不幸ヲ被リ守ラサル營業者ハ幸ヲ得ルカ爲メナリ而シテ此二條ハ此道德者ヲ保護シ不道德者ヲ抑壓スルニ必要ナル規定ナリ之ヲ削レハ現行法ヲ改正セサルト何ソ擇ン彼ノ賃切人ノ如キハ他人ノ製造場ニ行テ業務ヲ取ル可シ之ヲ厭ハ、此稅則ニ據ルノ外ナシ本案ハ稅則ナリ貧民救助ノ法律ニ非サレハ此上貧民ノ便利ヲ圖ルヲ要セス且ヤ煙草製造ノ外他ニ營業ナキニ非ス殊ニ大ナル營業者ノ轉業スルハ難キモ小ナル營業者ノ轉業スルハ難カラサルナリ聞ク歐米各國ノ煙草規則ハ頗ル嚴酷ナリト畢竟現問題ハ道德ヲ維持セントシテ却テ不道德ヲ養生スルモノト謂フ可シ其否決センコトヲ希望ス

○番一岩崎小 第十七第十八ノ二條ヲ削除スル說問題ト爲レリ然ルニ第十七條ヲ削レハ大ナル煙草製造人ノ自己ノ營業場外ニテ煙草ヲ製造シ又製造セシムルモ之ヲ禁スルヲ得サルノ疑ヒ無キ能ハス或ハ其製造處ハ即チ營業場ナレハ私ニ之ヲ開クヲ得サルニ依リ強テ不都合ナシト云シモ前陳ノ如キ疑ヒノ生スル有ルヲ奈何セン又第十八條ヲ削ルハ賃切人ノ困難ニ陷井ルヲ防ク爲メナリト言ヒ而シテ本案ハ現行法第二條但書ノ如キ取除法ヲ付セサルニ依リ之ヲ削レハ賃切人ハ却テ困難ニ陷井ル可シトノ說ニ對シ此場合ニハ大ナル製造人ノ彼ニ代テ保證金營業稅ヲ出ス者アル可キニ依リ之ヲ存スルニ比スレハ寧ロ可ナリト言ヘリ論者ノ如ク果シテ保證金營業稅ヲ代納スル者アリトセハ

五十六番ノ駁論セル如ク之ヲ存スルモ亦不可ナキニ非スヤ又之ヲ削リ且第三讀會ヲ待テ現行法第二條但書ノ精神ヲ本案ニ移シ出サントノ說ニ對シテハ第一讀會ニ於ケル說明ヲ復說セサルヲ得ス抑々現行法第二條但書ノ旨意ヲ本案ニ載セサルト此第十七條第十八條ノ規定トハ是レ本稅則改正ノ要點ニシテ貧民ノ之カ爲メニ困弊スル者アルハ疑ヒテ容レヌ主務省モ法律ノ許ス限リハ固ヨリ之ヲ助クル意ナレトモ事ノ大小輕重ヲ圖ラサル可カラズ今ノ所謂賃切人ハ問屋ノ依頼ヲ受ケ其器械ヲ用ヒテ煙草ヲ製造スル者少ナク自家用料等ノ名ヲ藉テ之ヲ製造シ以テ私ニ販賣スル者多シ此犯則者ハ就中大坂及名古屋地方ニ多ク去十九年大坂地方ニ出張セル收稅官ノ報告書ヲ見ルニ大坂府下ノミニテ賃切人ノ數二百人ニ上ルト言ヘリ名古屋ニ於ケルモ同年ノ稽查報告書ニ據レハ眞ノ製造人八十四人賃切人百五十人ナリト云フ而シテ是等ノ輩ハ自ラ煙草ヲ製造シ無印紙ニテ竊ニ之ヲ販賣スル者太々多ク且適々犯則ノ廉ヲ以テ罰金ヲ科スルモ之ヲ出サス體刑ハ甘シテ之ヲ受クルヲ常トス現ニ名古屋ノ如キハ脫稅ヲ圖ルヲ目的トシテ成立セル組合アリ其事實ノ蔽フ可カラサルハ之カ規約書ヲ一讀セハ明瞭ナリ是皆現行法第二條但書アルニ起因セサルハ莫シ十五年煙草稅則ヲ改正スルニ方リ參事院及主務省ニテモ此ニ見ル所アリ其第二條但書ニ付頼リニ論シタルコトアリシカトモ姑ラク之ヲ存シ數年經驗ノ後チ果シテ惡弊ノ生スル有レハ則チ之ヲ削ル可シト爲シ遂ニ今日ニ及ヘリ故ニ今ハ縱令少シク貧民ノ之カ爲メ窮困スル者アルモ多數ナル正業者ヲ保護スル爲メ本案ノ如ク規定シ從來ノ弊患ヲ除却スルヲ必要トス然ルニ又現行法第二條但書ノ旨

趣ヲ本案ニ掲ケ出サントスルハ果シテ得策ナルヤ否ヤ本員ハ疑ヒ無キ能ハス敢テ請フ各官ノ熟考アラソコトヲ

○六十八番重俊 本官モ現問題ニ不同意ナリ兩條ヲ削除セハ却テ賃切人ノ迷惑スルノミナラス製造人モ亦迷惑ス可シ何トナレハ之ヲ存セハコソ製造人ハ自己ノ營業場ナレハ非營業者ヲ雇使スルヲ得ルモ之ヲ削レハ自己ノ營業場ニテモ之ヲ雇使スル能ハサルニ依リ製造人自ラ手ヲ下シテ製造スルノ外ナケレハナリ反對ナル六番及三十五番ノ説モ一理ナキニ非サレトモ營業場ヲ定ルハ帶印紙ヲ廢スルト均シク取締上甚ダ必要ナリ之カ爲メ從來ノ營業者ノ其產業ヲ失フハ已ムヲ得ス之ヲ憂ヘハ諸般ノ改良ハ得テ望ム可カラス人力車起レハ輪夫ハ其業ヲ失フ此ハ器械ノ發明彼ハ規則ノ變更ナルモ世ノ便益ヲ圖ルハ一ナリ其便益上ヨリ一方ノ害ヲ被ルハ實ニ已ムヲ得サルナリ

出席

五十番

三浦

安

○議長 議論盡キタリト認ムルヲ以テ決テ取ラン現問題即チ六番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者七人

○議長 少數ナルヲ以テ六番ノ動議ハ消滅ス

他ニ發議ナキヲ以テ第十六條乃至第十八條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

退席

十四番

渡邊

清

書記官西山眞平 朗讀

第二十九條 煙草耕作人ニアラサル者ハ自用ノ爲メタリトモ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

煙草耕作人自用ノ爲メニ製造シタル煙草ハ之ヲ賣渡貸渡讓渡ストヲ得ス

第二十二條 煙草小賣人ハ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス

第二十三條 煙草營業者ハ無印紙不足印紙ノ製造煙草若クハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ所持シ又ハ賣渡貸渡讓渡スルコトヲ得ス

但第十條第十一條ノ場合ハ此限ニアラズ

○議長 發議ナキヲ以テ朗讀ノ分可決ト認メ次條ニ移ル

書記官西山眞平 朗讀

第二十四條 何人ニアテモ無印紙不足印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ煙草營業者ヨリ買受借受讓受クルコトヲ得ス

第二十五條 煙草營業者ハ既ニ貼用シタル煙草印紙ノ剝取切取リタルモノ又ハ既ニ用ヒタル煙草包裹ニ印紙ノ全部ヲ存スルモノヲ所持シ又ハ賣買スルコトヲ得ス又何人

ニテモ之ヲ賣買スルコトヲ得ス

第二十六條 鑑札ハ賣渡貸渡讓渡又ハ買受借受讓受クルコトヲ得ス

○議長 發議ナキヲ以テ朗讀ノ分可決ト認メ次條ニ移ル

書記官西山眞平 朗讀

第二十七條 ^五 煙草印紙ハ管廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ノ外ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十八條 ^六 煙草營業者ノ營業場倉庫其他ノ場所及營業ニ關スル帳簿物品ハ當該官吏

之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第二十九條 ^七 營業免許ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ逋脫ニ係ル營業稅三倍ノ

罰金ニ處シ仍ホ其煙草ヲ沒收ス第十九條又ハ第二十一條第二項ヲ犯シタル者ハ製造

營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草ヲ沒收ス

○議長 發議ナキヲ以テ朗讀ノ分可決ト認メ次條ニ移ル

書記官西山眞平 朗讀

第三十條 ^{二十八} 煙草製造人ニシテ第二十二條ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處

シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第三十一條 ^{二十九} 第九條第十八條ヲ犯シタル者又ハ煙草仲買人煙草小賣人ニシテ第二十三

條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

シ第十七條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第三十二條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若クハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ脫稅ヲ謀リタル者又ハ

煙草製造人ニシテ製造煙草ヲ定價ヨリ高ク賣渡シテ脫稅シタル者ハ十圓以上百圓以

下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

○議長 發議ナキヲ以テ朗讀ノ分可決ト認メ次條ニ移ル

書記官西山眞平 朗讀

第三十三條 第四條ヲ犯シタル者又ハ帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ五圓以上五十圓

以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第二十七條ニ違ヒ煙草印紙ヲ賣渡シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金

ニ處シ仍ホ現在印紙ヲ沒收ス之ヲ買受ケタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 第十五條第十六條第十七條第二十二條ヲ犯シタル者又ハ質流抵當流ノ業

煙草ヲ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シタル者又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處

シ仍ホ其煙草ヲ沒收ス

○議長 發議ナキヲ以テ朗讀ノ分可決ト認メ次條ニ移ル

書記官西山眞平 朗讀

第三十六條 第十三條第二十條第二十一條第一項第二十五條第二十六條ヲ犯シタル者

ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル物品ヲ沒收スシ第十九條第一項

ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第三十七條 煙草自用者ニシテ葉煙草若クハ無印紙不足印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解

綻毀損シタル製造煙草ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十八條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡シ又ハ消糜シタルトキ

ハ其代金ヲ追徵ス

○議長 發議ナキヲ以テ朗讀ノ分可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 朗讀

第三十九條 煙草製造人煙草仲買人其營業稅又ハ罰金ヲ完納セサルトキハ保證金ヲ以

テ之ニ充ツヘシ第三十八條ニ依リ追徵セラレタル代金ヲ完納セサルトキモ亦同シ

前項ノ處分ヲ受ケタルトキハ其日ヨリ三十日以内ニ保證金ノ缺損ヲ補充スヘシ若シ

之ヲ補充セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第四十條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒ

三十九

第四十一條 煙草營業者ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○四十番 內閣委員ニ質問セン第三十七條ニ「罰金ヲ完納セサルトキハ保證金ヲ以

テ之ニ充ツヘシ」ト有リ此罰金完納期限ハ刑法第二十七條ニ依ルヤ又保證金五十圓ヲ

出シタル者ニシテ罰金百圓ヲ科セラル、トキハ保證金ヲ以テ之ニ充ルモ猶ホ五十圓ノ

不足アリ此不足金額ハ換刑處分ト爲ルヤ

○番 罰金ノ完納期限ハ刑法ニ據ル又本條ハ營業稅若クハ罰金ヲ完納セサル場

外ニ保證金ヲ以テ之ニ充ルコトヲ示シタルマデナリ故ニ保證金ヲ以テ之ニ充ルモ猶ホ

足ラサルトキハ無論追徵スルノ意ナリ

出席 十四番 渡邊 清

○議長 朗讀ノ分可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 朗讀

第四十二條 煙草印紙ノ種類其貼用ノ方法煙草包裹ノ樣式及帳簿調製記載ノ方式ハ大

藏大臣之ヲ定ム

第四十三條 此稅則ハ明治 年 月 日ヨリ施行ス

第四十四條 沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆國七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此

稅則施行ノ地ニ煙草ヲ輸送スルトキハ此稅則ニ從フヘシ

○議長 朗讀ノ分可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第四十五條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケテ煙草營業ヲ爲ス者ハ此稅則施行ノ日ヨリ

三月以内ニ第三條ノ保證金ヲ納ムヘシ若シ之ヲ納メサルトキハ其免許ノ効ヲ失フモ

ノトス

第四十六條 此稅則施行以前ヨリ煙草仲買人煙草小賣人ノ所持スル卷煙草ハ煙草製造人ニ委託シ又ハ人ニ委託シ又ハ自ラ包裹ヲ施シ印紙ヲ貼用スヘシ

第四十七條 此稅則發布以前ニ裝置シタル刻煙草ハ此稅則施行ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ賣捌クコトヲ得

前項ノ期限ヲ過キ賣捌ニ至ラサル刻煙草ハ其所持人ニ於テ煙草製造人ニ委託シ又ハ自ラ此稅則ニ從ヒ包裹ヲ施シ更ニ印紙ヲ貼用スヘシ

○十四番 渡邊 清 本官ハ第四十三條ノ「再犯云云」ト言ヘル再ノ字ヲ削除スルヲ可トス是レ本官等第三條ノ冒頭ニ「新ニ」ノ二字ヲ加ヘタルヨリ生スル動議ナリ元來第三條ニ新ニノ字ヲ加ヘテ從來ノ營業者ニ限リ保證金ヲ納ムル義務ヲ負ハセサルハ眞ニ特典ト謂フ可シ然レハ將來一タビ此稅則ヲ犯ス以上ハ新營業者ト同シク保證金ヲ納メシメテ可ナリ然ルニ初犯ハ許シ再犯以上始テ此保證金ヲ出サシムルハ法理ニ適セス且新營業者ト

ノ權衡モ合ハサルナリ因テ本官ハ調査委員席ニテ熱心ニ之ヲ論シタレトモ行ハレサルニ依リ今日之ヲ議場ニ訴フルニ至レリ願クハ各官本條ト第三條トヲ對照シ本條ノ再ノ字ヲ削ルト否ト孰レカ法理ニ合シ又孰レカ公平ヲ得ルヤヲ審判セラレシコトヲ

○六十八番 岡内 重俊 賛成ス五十番ハ嘗テ調査委員席ニ於テ古物商取締條例ニ斯ル例アリト言ヒシモ退テ其條例ヲ見ルニ彼ハ營業ヲ禁止停止スル場合ニ關シテ「再犯云云」ト言ヘリ然レハ本案ト同日ノ論ニ非ス且ヤ保證金ヲ出スハ犯則セサルコトヲ確保スルカ爲メナリ左レハ營業者ノ新舊ヲ問ハス實ハ凡テ之ヲ出ス可キモ現在ノ營業者マデニ及フハ憐ム可キ事情アルヲ以テ主務大臣トモ協議シ彼ニ限リテ斯ル特典ヲ與ヘリ就テハ一タビ犯則スル以上ハ新營業者ト同シク之ヲ納メシム可シ然ラザレハ彼此太々不公平ヲ生スルノミナラス保證金ヲ徵スル主旨ニ背戾セン因テ本官モ調査委員ノ一人ナルニ拘ハラス十四番ノ動議ニ左袒ス

○議長 十四番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○五十八番 鍋島 直彬 本官モ調査委員ノ一人ナリ十四番ノ修正稅ハ不條理ナリトハ考ヘサルモ委員ノ多數ヲ以テ斯ク決シタル理由ヲ陳レハ一體保證金ヲ出サシムルハ本案ノ主眼ナリ然ルニ本院ニ在テ嘗テ之ヲ非トセルハ畢竟現行法ニ安シテ從來營業スル者ヲシテ保證金ヲ出サシムルノ苛酷ナルニ在リ本官モ亦同感ナルヲ以テ委員席ニテ第三條ノ削除說ヲ提出セント欲シタレトモ然ルトキハ本案ノ精神ヲ拔キ去ルニ異ナラス乃チ現行酒造稅則ノ清酒ハ百石以上濁酒ハ幾石以上釀造スル者ニ非サレハ新ニ酒造營業免許

ヲ與ヘサル規定ノ主旨ヲ取テ本官等第三條ニ新ニノ文字ヲ加ヘ而モ從來ノ營業者ト雖モ犯則二回ニ及フ以上ハ最早保證金ヲ出サシムルモノトセリ十四番ハ初犯ハ許シ云云ト言フモ初犯ト雖モ其罪ハ許スニ非ス惟タ保證金ハ再犯ニ及ンテ始テ之ヲ出サシムルノミ獨リ古物商取締條例ニノミ依テ然ク修正セルニ非サルナリ

○五十番^{三補}安

本官モ現問題ニ不同意ナリ十四番ハ再犯ニテ保證金ヲ取ラサルハ法理ニ合セスト言フモ天下ニ一定ノ法理ナシ殊ニ再犯加重ト言ヘルコトハ何レノ法律ニモ認ル所ニシテ再犯ニ比スレハ初犯ノ輕キハ疑ヒテ容レヌ况シテ本案ノ主旨タル初犯ヲ罰セサルニ非ス只初犯ニテハ未タ保證金ヲ徵スルヲ要セスト爲スニ止ルヲヤ又再犯ノ事ハ古物商取締條例ヲ取リタルニ相違ナシ且彼ニハ「一年內ニ此條例ヲ再犯シタルトキ云云」ト有リ此ハ稅則ニシテ彼カ如キ特別ニ嚴ナルヲ要セサレトモ一年內ニ再犯トセハ際限ナキヲ以テ本案ハ單ニ再犯トシ此ニ重キヲ加ヘテ營業禁止停止ノ嚴法ニ倣ハス且保證金ト言ヘハ易キ如キモ之ヲ出サレハ營業ヲ止メサルヲ得サルニ依リ決シテ易キニ非サルナリ加之犯則ニモ其罪ノ至テ輕キモノ有リ故ニ重キハ勿論輕キモ再犯ニ及ヘハ保證金ヲ出サシムルモノトセリ法理云云ノ駁論ノ如キハ取ルニ足ラサルナリ

○十四番^{清渡邊}

法理ハ一定ノモノニ非ストハ抑々何ノ謂ソ本官ハ其理ヲ解スル能ハス又古物商トノ比較論ハ太タ誤レリ本官ハ新舊營業者ヲ比較スルコソ必要ナラント思考ス元來保證金ヲ取ルハ取締上必要ナリト認メタル以上ハ營業者ノ新舊ヲ問ハス均シク之ヲ取ル可ナルニ似タルモ然ルトキハ舊營業者ノ之カ爲メ產業ヲ失フ者アルヲ慮リ第三

條ニ新ニノ字ヲ加ヘリ然シ舊營業者ト雖モ此稅則ヲ犯ス以上ハ縱令其罪ハ輕キモ不良心アル者ト認メサルヲ得サレハ最早之ヲ寬待スルヲ要セス再犯ニ非サレハ保證金ヲ取ラストハ之ヲ新營業者ト比較スルニ如何ニモ不權衡ナリ斯ル人情法理ニ合セサル規定ヲ見ル程ナレハ寧ロ一般ニ保證金ヲ取ルヲ止ムルニ若カサラン再ノ字ハ須ラク削除スヘシ

○六番^{宮本}

古物商ノ取締ヲ爲セハ延テ盜賊ノ取締ニモ爲レトモ煙草製造等ノ營業ハ斯ルモノニ非ス適ニ其營業人中ニ惡キ者アルノミ故ニ新ニ營業スル者ノ外ハ終始保證金ヲ取ラサル方寧ロ條理ニ合スルモ斯ク便利法ヲ設クル以上ハ成ル可ク舊營業者ヲ寬待スルヲ可トス罰金ヲ取リタル上ニ又保證金ヲ取ルトハ所謂重荷ニ小附否大附ト謂フ可シ因テ本官ハ現問題ニ反シ再ノ字ヲ三トモ四トモ修正セント欲スル程ナリ

○六十八番^{岡内}

再ノ字ヲ削ラサレハ法理ニ合セサルヤ否ヤハ容易ニ斷定スル能ハサレハ本官ハ只不權衡ヲ理由トシテ之ヲ削除セント欲スルナリ五十番ハ今又古物商取締條例ノ或條ヲ援テ辨セルモ彼ハ營業禁止停止ノ場合ニ係ル規定ナレハ此引證ハ頗ル不適切ト謂フ可シ併セテ陳フ本官等ノ意見ハ既ニ辨シ盡シタルハ最早可否ノ決ヲ取ランコトヲ望ム

○議長

發議盡キタルヲ以テ決ヲ取ラン現問題即チ十四番ノ修正說ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ十四番ノ修正説ハ消滅ス

他ニ發議ナキヲ以テ朗讀ノ分可決ト認メ此ニ第二讀會ヲ畢ル

○番一岩崎小 本案ハ再度調査委員ノ調査ヲ經タリ又之ヲ實行スルニハ包裹ノ様式ヲ始トシ種々營業者ニ示サル、ヲ得サルモノ有ルニ依リ猶ホ幾許ノ時日ヲ要スルヲ以テ

續テ第三讀會ヲ開カンコトヲ請求ス

○七十番東久世 建議ヲ爲ス本案ハ再度ノ調査ヲ經頗ル整頓セルヲ以テ内閣委員ノ請求ヲ容レ續テ第三讀會ヲ開キ且朗讀ヲ省略シ議長ノ意見ヲ以テ適宜ニ數條ヲ連帶シテ議決セシコトヲ望ム

○議長 内閣委員ノ請求ニ應シ續テ第三讀會ヲ開クヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十四人

○議長 多數ナルヲ以テ續テ第三讀會ヲ開キ七十番建議ノ如ク朗讀ヲ省略シ此ニ第一條乃至第八條ヲ問題ト爲ス

退席

五十番 三浦 安

十四番 渡邊 清

三十四番 小畑 美稻

○三十五番津田眞道 本官ハ本案大體ニ不同意ナルモ今日ノ議場ノ景况ニテハ之ヲ説クモ無用ニ屬スト考フルニ依リ敢テ辯セス

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ第一條乃至第八條ハ可決ト認メ第九條乃至第十七條ヲ問題ト爲ス

ト爲ス

發議ナキヲ以テ問題ノ分ハ可決ト認メ第十八條乃至第二十七條ヲ問題ト爲ス

發議ナキヲ以テ問題ノ分ハ可決ト認メ第二十八條乃至第三十三條ヲ問題ト爲ス

發議ナキヲ以テ問題ノ分ハ可決ト認メ第三十四條乃至第三十九條ヲ問題ト爲ス

發議ナキヲ以テ問題ノ分ハ可決ト認メ第四十條乃至第四十五條即チ末條マテヲ問題ト爲ス

○三十七番山口尚芳

入念ノ爲メ内閣委員ニ質問セン第四十條ヲ見ルニ大藏大臣ノ定ムルヲ得ル事項ヲ列記セリ是レ本稅則ノ施行ニ關シテ他ニ大臣ノ定ム可キモノ無シトスルニ在ル乎恐クハ然ラザラン然レハ通例ノ文體ニ倣ヒ本稅則施行ノ方法細則ハ大藏大臣之ヲ定ムト言ヘル如ク廣ク記スル方寧ロ可ナラン知ラス他ニ理由アルカ爲メ乎

○番一岩崎小

成ル程他ニ大藏大臣ノ定メサルヲ得サルモノ許多アリ然レトモ三十七番モ知悉スル如ク法律規則ノ執行ニ關スル事項ハ主務大臣ノ權内ニテ之ヲ定ムルヲ得ルニ依リ實際ニ妨ク無シ然レハ何ノ爲メニ或事項ニ限リ特記セシヤト言フニ煙草印紙ノ種類ハ現行法ニ之ヲ載セ其貼用ノ方法ハ布達ヲ以テ之ヲ定メ又煙草包裹ノ様式ハ同シク現行法ニ示シタル等此ニ特記セシモノハ幾許カ他ノ事項ト異ナルカ爲メナリ且ヤ從前ノ法律ニモ斯ル文例ノモノ全ク之レ無キニ非サルナリ

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ問題ノ分ハ可決ト認メ此ニ第三讀會ヲ畢ル例ニ依リ上奏ス可シ散會セヨ

午後第三時三十分閉場

元老院會議筆記

○號外第四十一號意見書憲法議案ヲ下付セラレテ請フノ件

禁傍聽

○明治二十年十月三日 第一讀會

議長大木
齋任

出席議員

二番	清岡 公張	十六番	伊東 祐賢
三番	永山 盛輝	十七番	壬生 基修
四番	石井 忠亮	十八番	長與 專齋
六番	宮本 小一	二十番	岩村 定高
七番	尖戸 穊	二十一番	稅所 篤
八番	楠本 正隆	二十二番	中村 正直
九番	榎村 正直	二十三番	久我 通久
十番	大給 恒	二十五番	中島 錫胤
十一番	箕作 麟祥	二十六番	河田 景與
十二番	黒田 綱彦	二十七番	尾崎 三良
十五番	大久保一翁	二十八番	原田 一道

三十番	本田 親雄	五十三番	福羽 美靜
三十五番	津田 眞道	五十四番	加藤 弘之
三十六番	安藤 則命	五十五番	調所 廣丈
三十八番	細川潤次郎	五十六番	林 友幸
三十九番	村田 保	五十七番	神山 郡廉
四十一番	長岡 護美	五十九番	長松 幹
四十二番	大鳥 圭介	六十一番	楫取 素彦
四十三番	田邊 太一	六十二番	渡 正元
四十四番	坂本 政均	六十三番	渡邊 驥
四十六番	橋口 兼三	六十五番	西 周
四十七番	野村 素介	六十六番	鶴田 皓
四十八番	鳥尾小彌太	六十八番	岡内 重俊
四十九番	神田 孝平	六十九番	上杉 茂憲
五十番	三浦 安	七十番	東久世通禧
五十一番	井田 讓		

午前第十時開場

○議長 號外第四十一號意見書第一讀會ヲ開ク朗讀ハ添書ノミニ止ム

書記官 森山 朗讀

別紙意見書可然御取計被下度候也

明治二十年九月十四日

起草者

尾崎 三良

贊成者

三浦 安

議官 箕作 麟祥

議官 細川潤次郎

議官 大給 恆

議長大木喬任殿

參觀ノ便ニ供スル爲メ此ニ本案ヲ附載ス

憲法議案ヲ下附セラレンコトヲ奏請スルノ意見書

國會開設ノ期纔ニ二年ニ迫ル宜ク時ニ及テ憲法ヲ定メ國會ノ制度ヲ立テ公衆ヲシテ各其依ル所ヲ知ラシムヘシ然リ而シテ其憲法國會ハ當サニ建國ノ大體ニ基キ字内ノ大勢ニ從ヒ又我國情民度ニ適セサルヘカラス果シテ能ク斯ノ如クナル時ハ上下和合協心勦力國運益々隆盛ニ字内強國ト相對峙シ凌駕スルニ至ルモ亦難ラサルヘシ若シ又之ニ反スル時ハ却テ國家ノ累ト爲リ爲メニ上下ノ乖離ヲ釀シ國勢日々ニ衰憊其弊終ニ言フヘカラサルニ至ラントス伏テ惟ルニ

陛下聰明初メ國會ノ聖詔ヲ發シ玉ヒシ時既ニ字内ノ大勢ヲ達觀シ時勢民度ヲ洞察シ其

大綱業已ニ

宸衷ニ斷シ玉ヒ又當局ノ有司皆其職ニ適ヒ憲法國會ノ章程時ニ及テ制定セラレンコト敢テ信スル所ナリ然レモ上下共ニ之ニ甘從シ之ヲ確守スルノ精神ナキ時ハ向ノ所謂和合決シテ望ムヘカラスシテ却テ乖離ノ媒ト爲ラン上下甘從確守ノ精神ヲ定メントスルニハ宜ク先ツ廣ク朝臣元老ニ諮詢シ衆議ヲ盡シ以テ

陛下ノ宸斷ヲ資クヘシ幸ニ本院議法人職ニ備ハル宜ク先ツ法案ヲ本院ニ下附シ審議セシメラルヘシ抑憲法國會ノ如キハ國家未曾有ノ大典ニシテ尋常法律ノ如ク區々タル旬日又ハ數月ノ能ク審査スヘキモノニアラサルハ論ヲ俟タス今ニ及テ速ニ其衆議ヲ盡サハルモハ恐クハ時期切迫審議スルノ違アラス上下ヲシテ此新設未會有ノ大典ニ於テ始メヨリ不滿ヲ懷カシメ終ニ以テ向ノ所謂乖離ノ不祥ニ陥ランコトヲ豈塞心セサルヘケンヤ仰キ願クハ速ニ憲法國會ノ法案ヲ本院ニ付セラレンコトヲ謹テ奏請進止ヲ取ル

○二十七番尾崎 本案ハ本官ノ提出スル所ニシテ其旨趣ハ此ニ記載スルヲ以テ特ニ説明ヲ要セサルモ聊カ之ヲ補述セン抑々本案ノ主眼ハ憲法議案ノ下付ヲ請求スルニ在リ各官ノ知ル如ク國會開設ノ期近キニ在レハ遲クモ二十二年ノ夏マテニハ憲法ヲ發布セサル可ラス故ニ本官ハ早ク其案ノ審議ニ從事スルヲ必要トス但此憲法ハ各法律中最モ至重ノモノナレハ必ス議定ニ付セラレ可キモ其期漸ク迫ルヲ以テ今之カ下付ヲ請求スルハ蓋シ議法院タル職分ヲ盡ス者ト謂フ可シ論者或ハ言ン早晚議定ニ付セラレ可ケレハ特ニ請求スルヲ要セスト然レトモ之ヲ議スルハ少ナクモ一歳ノ月日ヲ要シ其期切迫ニ

及テ議定ニ付セラレ、如キアラハ恐クハ完備ヲ望ム可ラス從來内閣ノ命ニ依リ浩瀚且至重ノ法案ヲ迅速ニ議了セル事例少ナカラサレハ憲法議案モ亦此ノ如キコト有ランヲ恐ル元來至重ノ法案ヲ迅速ニ議了セハ不満足ノ議決ヲ見ルハ數ノ免レサル所ナリ尋常法律ト雖モ容易ニ之ヲ改ムルヲ不可トス況ヤ憲法ヲヤ其改正ナキヲ欲セハ始テ慎マサル可ラス故ニ早ク其審議ニ從事スルヲ要ス又或ハ言ン本案ヲ提出スルハ本院章程第七條ニ背戻スト然レトモ憲法モ即チ法律ナリ從來本院意見書多クハ布告案ヲ具スルモ之ヲ具セサレハ提出スル能ハサルニ非ス況ヤ戸數割法ノ制定ヲ内閣ニ請求セル適例アルニ於テヲヤ本官ヲ以テ之ヲ見ルニ本條ハ束縛ノ旨趣ニ非ス凡ソ法律ニ關スル事項ニ就テハ意見書ヲ出シテ可ナリトノ精神ニシテ條理ヨリ論スルモ之ヲ言フハ議法院ノ職權ニ屬ス可ケレハ幸ニ本案ニ同意ヲ請フ尤モ文中字句ノ不妥ナルハ修正スヘキヲ以テ本官ハ惟々旨趣ノ行ハレンコトヲ是レ望ム

○十番大給 本官ハ本案賛成者ノ一人ナルヲ以テ聊カ理由ヲ陳ヘ併セテ其希望ヲ告ントス憲法ハ邦國ノ重要タル喋辯ヲ要セサルモ其臧否ハ天下ノ治亂盛衰ニ關係シ此制定ハ我國二千有餘年ノ政體ヲ變改スルニ在レハ鄭重ニ鄭重ヲ加ヘサル可ラス故ニ陛下ノ御參考ト爲ル可キ事項ハ成ル可ク審議シテ奏聞スルヲ可トス是レ本官本案ニ賛成スル所以ナリ論者或ハ本案ノ尋常意見書ト其體ヲ異ニシ建白書ト意見書ト混淆セル如キヲ見テ之ヲ非斥スルアランモ本官ハ本案ニ限り却テ此體ヲ善シトス或ハ又憲法ハ即チ法律ナレハ斯ル意見書ヲ提出センヨリハ寧ロ其草案ヲ作り上奏スルノ優レルニ若カスト云

ヒ或ハ我國ノ憲法ハ本ト欽定ニ出ルヲ以テ草案ト雖モ之ヲ議スルハ庶民ノ爲ニ容喙ノ
 備ヲ作ル者ナリト云ハンモ憲法ノ欽定タルハ明治九年九月本院議長ニ左ノ聖勅アルヲ
 以テ之ヲ知ル「朕爰ニ我建國ノ體ニ基キ廣ク海外各國ノ成法ヲ斟酌シ以テ國憲ヲ定メ
 ントス汝等ツレ宜シク之カ草案ヲ起草シ以テ聞セヨ朕將ニ撰ハント是ニ由テ之ヲ觀
 レハ憲法ハ欽定ナルモ之カ草案ヲ作り及ヒ討議スルハ臣下ニ在テ之ヲ爲スノ不可ナキ
 ヲ覺フ否ナ惟タ不可ナキノミナラス本院ハ議法人ノ局ニ當ルヲ以テ之ヲ起草スルハ即チ
 其適任ナリトノ叙慮ナルヲ信ス然ラハ欽定ト云フモ本官等徒ラニ沈黙シテ之ヲ待ツハ
 却テ叙慮ニ戻ラン尤モ前年本院ヨリ其草案ヲ上奏セル有ルモ今日ノ時勢ハ前日ノ比ニ
 非ス且本院議員ノ人員モ今日ハ頗ル増加シタレハ再ヒ草案ヲ作り之ヲ上奏シテ可ナレ
 氏前ニ本院ニ勅シテ草案ヲ作ラシメタル程ノコナレハ今回ハ本案ノ如ク憲法議案ノ下
 付ヲ請フヲ穩當ナリトス但案中尙ホ一層恭敬ノ意ヲ見ハサンコトヲ望メ且本案ノ存廢
 ヲ決セル後ニアラサレハ或ハ無益ノ論辯ニ屬センヲ恐レ今此ニ贊セス前年憲法起草ノ
 命ヲ受ケタル議員ハ四名ニシテ起草ノ際別ニ意見ヲ提出セル議員九名アリ本官モ亦其
 一名ナリ然ルニ本官頗ル遺憾ト爲セシハ當時之ヲ議場ニ於テ議究セサリシコト是レナ
 リ因テ今回ハ本案ヲ可決シテ内閣ニ請求シ他日憲法議案ノ下付アルニ方リ當議場ニ於
 テ充分ニ議究シ以テ完全無瑕ノ憲法ヲ得ンコトヲ望ムナリ

○八番楠本正隆 本案ノ旨趣タル憲法ハ天皇陛下ノ親裁ニ成ル可キモ本院ハ議法人ナルヲ
 以テ其草案ヲ審議セント欲スルニ在リ十番ハ先年憲法草案ヲ作レル事例ヲ援引シテ論

セルモ是レ惟タ聖意ヲ遵奉シ各自ノ意見ヲ奏聞セルノミ未タ以テ本案ヲ贊スル理由ト
 爲ス能ハス又章程論ハ始ラク措キ本官等ハ欽定憲法ヲ可トスルヲ以テ縱令各自ノ意見
 ヲ具上スルモ議法院ヨリ之レヲ議センコトヲ上請スルハ不可ナルヲ信ス然リト雖モ陛
 下躬ラ之ヲ創定シ給フコトハ恐ラクハ難カラン因テ相當 人ヲ勅選シ一局ヲ設ケ以テ
 之カ草案ヲ作ラシムルヲ可トス故ニ本官ハ本案ノ精神ハ可ナルモ之ニ同意スル能ハス

○五十一番井田憲 本官モ本案ノ精神ヲ可トスレ且同意ヲ表スル能ハス是即チ本案ノ文體
 ハ意見書ニ似ス歎願書ニ類スレハナリ又欽定憲法ト云フモ八番ノ說ノ如ク陛下御一人
 ニテ之ヲ創定シ給フコトハ難カルヘシ故ニ本院議員中幾名又ハ其他ノ人ヲ勅選シ其起
 草ヲ命セラル、ヲ可トス向者地方長官ニ訓示ノ文ヲ内覽スルニ我憲法ニ關シテ討議ス
 ルヲ許サ、ルノ意明瞭ナレハ本院ヨリ其議案ノ下付ヲ上請スルモ猶ホ妥當ナラサルカ
 コトシ因テ本官ハ起草者ノ外數名ヲ擇ヒ本案調査委員ト爲シ以上ノ旨趣ニ原キ調査修
 正ヲ加ヘンコトヲ望ム

○四十六番橋口兼三 起草者ノ意ニ憲法ハ法律ノ重要ナル者ニシテ本案ハ章程ニ背戻セスト
 然レトモ憲法ト一般法律トハ同一視ス可ラス某議員モ既ニ論スル如ク内閣ノ訓示ニ
 「憲法ノ新裁ヲ異議スル者アラハ斷シテ言論集會及請願ノ範圍ノ外ニ出ル者トシ」云々
 ト有ルヲ見ルモ憲法ニ容喙ス可ラサルノ意明瞭ナリ但親裁ト云フモ大臣其他朝臣中
 學識アル者ヲシテ草案ヲ作ラシメ之ヲ裁定シ給フナラン議法人タル本院ノ如キ固ヨ
 リ之ヲ審議スルヲ熱望スト雖モ之ヲ上請スルハ章程ニ背戻スルヲ如何又憲法起草ノ一

局ヲ新設スルヲ望ム説アレトモ今日遽ニ之カ起草ニ着手スル如キ迂濶ノ内閣ニハ非サル可シ本官思慮未タ至ラサルニ因ルカハ知ラサルモ本案ニ「若シ又之ニ反スル時ハ却テ國家ノ累ト爲リ爲メニ上下ノ乖離ヲ釀シ」云々ト有ル如キハ尤モ語病アリ我内閣焉シテ國家ノ累ト爲リ上下ノ乖離ヲ釀ス如キ憲法ヲ作ランヤ斯ル意見書ヲ提出センヨリハ寧ロ起艸者賛成者自ラ内閣ニ到リ大臣ノ意見ヲ問ヒ又自己ノ意見ヲ詳述スルヲ優レリトス竊ニ聞ク憲法ハ既ニ創定セラレ今其審議中ナリト然ルニ事此ニ出スシテ斯ル督促書ニ類スル者ヲ上奏スルハ本官ノ敢テ取ラサル所ナリ起草者及ヒ賛成者ノ精神ハ感服ナルモ本案ニハ斷然不同意ナリ

○五十四番加藤弘之 本官モ不同意ナリ其理由ハ八番五十一番ト同シカラス八番等ハ曰ク憲法ハ他法律ト異ニシテ特ニ重要ノ者ナレハ本院ノ議定ニ付セラレスト本官ハ之ニ反シ重要ナル故ニ益々議定ニ付セサル可ラサルヲ信ス世人或ハ欽定ヲ以テ必ス陛下ノ專斷シ給フコト、解スルモ直正ノ意義ハ國會ノ審議ニ付セス陛下自ラ親裁スト云フニ在レハ實際起艸者審議者共ニ無カル可ラス泰西諸國ニ在テハ憲法議案ヲ國會ノ議定ニ付セル多シ即チ人民ノ要請ニ依リ之ヲ制定スルカ爲メナリ而テ我國ハ然ラス是レ欽定ト爲ス所以ナラン然レモ其議案ハ縱令國會ノ議定ニ付セサルモ本院ノ議定ニ付セラル可キハ疑ヒヲ容レス今後内閣ノ要求ニ依リ口ヲ刻シテ迅速議了スル如キコト無ラン爲メ今其下付ヲ請求スル固ヨリ條理ナキニ非スト雖モ奈何セン本案ハ章程第七條ニ背戾スルアリテ起草者ノ意縱令本條「新法」云々ヲ引據シテ之ヲ論スルモ到底牽強附會ヲ免レス

本院ニシテ斯ノ如キ解釋ヲ下セハ恐クハ天下ノ誹謗ヲ來シ本院ノ體面ヲ汚スニ至ラン是レ本官不同意ナル理由ナリ

○六十八番岡内重俊 本官モ本案ニ同意スル能ハス聞ク前年陛下ノ勅命ニ依リ本院議員中數名ヲシテ憲法ヲ起草セシメ之ヲ上奏スト其起草ノ時ニ方リ他ノ議員ヨリモ意見ヲ提出シ十番議員亦其中ニ在リト云ヘリ願フニ今日ハ猶ホ叙覽中ナラン然ルニ今又斯ル意見書ヲ提出スルハ前後撞着ヲ免レス若シ本案起草者賛成者ヨリ一己ノ意見ヲ上奏スルハ格別ナルモ本院意見書トシテ之ヲ上奏スルハ不同意ナリ

○五十番三浦安 本官ハ本案賛成ノ一人ナリ起草者モ説ク如ク文章ノ不備ナルハ修正ス可シ本官モ此マ、ニテ足レリトハ思考セス反對論者中八番ノ説ハ惟タ其手段ヲ異ニスルノミニシテ到底本案ト旨趣ヲ同ウスルヲ以テ駁論ヲ要セサルモ四十六番五十四番六十八番ノ説ニ至テハ一辯セサルヲ得ス四十六番ハ曰ク斯ル意見書ヲ提出センヨリハ寧ロ内閣ニ往テ各自ノ意見ヲ陳ルニ若カスト本官等希望スル所ハ憲法ノ臧否ハ國家ノ休戚ニ關スル細少ニ非ルヲ以テ本院ニ於テ其議案ヲ審議シ完全無瑕ノ欽定憲法ヲ作ントスルニ在リ内閣ニ往テ云々ノ説ハ蓋シ問題外ナラン前年既ニ本院議員ヲシテ憲法ヲ起草セシメ之ヲ上奏セリト聞ケル今日ハ時勢モ進歩シ時期モ漸ク迫リタルヲ以テ各自ノ意見ヲ奏上センヨリハ議場ニ於テ之ヲ研究シ多數ノ是認スル者ヲ奏上スルノ優レルニ若カス要スルニ本官等ハ憲法草案ノ完備ヲ欲スルニ在リテ親裁ノ憲法ニ容喙セントスルニ在ラサルナリ論者或ハ本案ヲ斥シテ内閣訓示ノ旨趣ニ背戾スト做スモ多數ノ意見ヲ

奏上シ以テ親裁ノ一助ニ供セントスルニ於テハ斷シテ背戻セサルヲ信ス又五十四番ハ
章程第七條ヲ援テ本案ヲ駁セルモ必竟各人ノ見解異ナルニ依ルモノニテ本官ハ憲法ト
一般法律ト同一視セサルモ本條ノ爲メニ本案ヲ提出ス可ラストマテ思考セス又六十八
番ハ前年本院議官中ヨリ憲法草案ヲ奏上シタレハ今又斯ル意見書ヲ提出スルハ前後撞
着ナリト云フモ一タヒスレハ再ヒス可ラストノ理由ハ無カラシ「況ヤ彼ハ一己ノ意見
此ハ多數ノ意見ナルニ於テヲヤ」以上説ク所ヲ以テ本官本案ニ賛成セル理由ハ自ラ見
ル可シ若シ夫レ文章ノ妥當ナラサルカ爲メ廢案ニ歸スルハ頗ル遺憾ナルヲ以テ起立ノ
叙五十一番ノ建議ヲ賛成ス

○四十八番鳥尾小 本案ヲ賛成ス頻リニ反對説出ルモ本官ハ皆以テ條理ニ合ハサル論ナ
リト思考ス請フ之ヲ辯セン論者ノ言ニ憲法ハ至重ノ者ナレハ吾輩容喙ス可ラスト爲ス
モ本院ハ天皇陛下ノ元老院ナリ吾輩ハ元老院ノ議官ナリ本官等之ヲ議スルニ何ノ憚ル
コトカ有ラン之ヲ議スルハ即チ其職ヲ盡ス者ニテ若シコレヲ不可トセハ議場ヲ退クノ
外ナカラン又曰ク内閣諸公ハ賢明ナリ其意ニ放任スルモ可ナリト是レ所謂拜ミ倒シニ
爲ス者ナリ併シ各官ノ心意如何ニ存スレハ吾輩敢テ左右スル能ハサレレ之ヲ議場ニ公
言ス可キ者ニ非ラン又曰ク本案ノ精神ハ可ナルモ章程第七條ニ背戻スルヲ以テ同意ス
ル能ハスト聊カ斯ル嫌ヒ無キニ非サレトモ第七條ノ旨趣ヲ玩味セハ本案ト雖モ亦提出
ス可ラサルノ理ナシ又云フ先年憲法草案ヲ奏上シタルニ今又本案ヲ提出スルハ前後撞
着ヲ免レスト然レモ當時議官數名ノ起草ニ係ルモノヲ奏上セルニ過キスト聞ケハ是レ

一己ノ意見ノミ本案ハ元老院ナル集合體ノ意見ヲ奏上セント云フニ在レハ彼此同一視
ス可ラス本官賛成ノ旨趣ハ以上陳ル所ヲ以テ自ラ明瞭ナル可シ因テ調査委員ヲ撰ミ文
章ヲ修改スルヲ可トシ之ニ同意ス

○四十六番橋口 本官ハ前ニ本案ニ不同意ナル所以ヲ陳ヘタレモ言訥ニシテ意ヲ盡ササ
ルヲ以テ再ヒ略陳セン論者ハ第七條ニ據リ本案ヲ提出スルヲ得ヘシト云フモ憲法ト他
法律トハ同一視ス可ラス故ニ本案ヲ議スルモ既ニ誤レリト爲ス然レモ議場ノ排斥スル
所ト爲リ起草者ノ精神ヲ徹底セサルハ本官ト雖モ之ヲ惜ム且本官ノ意モ固ヨリ憲法ノ
備不備ハ傍觀シテ可ナリトスルニアラス故ニ起草者ノ精神ヲ徹底セシムル他ノ手段ヲ
説キタルノミ但本文中「若シ又之ニ反スル時ハ却テ國家ノ累ト爲リ爲メニ上下ノ乖離
ヲ醸シ」云々ノ語アリテ憲法議案ヲ本院ノ議定ニ付セスハ遂ニ此ニ至ラント言ヘル
カ如キハ不敬モ亦甚シカラスヤ斯ル圭角アル意見書ヲ提出スルハ本官ノ取ラサル所ナ
レハ起草者等自ラ内閣ニ往テ意見ヲ詳陳スルヲ可トス斯クスレハ憲法親裁ノ順序ヲモ
知ルヲ得他日幸ニ憲法議案ノ下付ヲ見ルニ至ルモ知ル可ラス抑モ憲法ヲ制定スルハ日
本帝國ノ一大變革ナレハ内閣ハ之ヲ如何スル乎或ハ議官若干名ヲ特選シ以テ制定セシ
ムルアラシモ亦知ル可ラス故ニ各官ノ意見ハ大臣ニ面陳スルノ便ナルニ如カサルヲ信
ス

○十一番眞作 本官ハ本案賛成者ノ一人ナリ當初以爲ラク憲法ハ即チ法律ニシテ他日必
ス其議案ノ下付ヲ見ルハ疑ヲ容レサレハ本案ヲ提出スルノ必要ナカラント又以爲ラク

今一步ヲ進メテ憲法ノ起草ヲ請求スルニ如カスト然ルニ起草者等ヨリ縷々其必要アル所以ヲ聞キ遂ニ之ヲ贊成スルニ至レリ夫レ民法商法ハ一己ノ權利義務ヲ規定シ憲法ハ上天皇陛下ヲ初メ政府人民間ノ權利義務ヲ規定スル者ニシテ憲法モ亦法律タルヤ論ヲ俟タス故ニ其議案ハ他日必ス議定ニ付セラ、可キモ其期急迫セハ仔細ニ可否ヲ議究スル能ハサラン憲法ハ特ニ至重ノ法律ナレハ内閣モ之ヲ等閑ニ付スルコト無カル可シト雖モ從前急ニ迫リ議定ニ付セラレタル法案モ間マ之レ有レハ今此案ヲ提出スルハ無要ナラサルノミナラス寧ろ議法官タル職ヲ盡ス者ト謂フ可シ論者ハ憲法ノ親裁ナルト内閣ノ訓示トヲ援テ本案ヲ駁スルモ憲法即チ法律ナレハ本院ニ在テ議ス可ラサルノ理ナシ且内閣ノ訓示ハ親裁ヲ是非スル者ヲ謂フノミ欽定ニ出ル者ハ國會ノ議ニ下サ、ルモ元老院ハ格別ナリ欽定憲法ハ私議ス可ラスト云フモ年月ヲ經ルニ從ヒ時勢ノ變遷ニ依リテハ遂ニ人民ノ私議スルニ至ルモ知ル可ラス因テ親裁ニ先チ本院ニ於テ充分ニ之ヲ審議シ他日人民ノ嘖嘖ヲ來サ、ル如キ完全無瑕ノ憲法ヲ作ルヲ望ム之ヲ事實ニ徵スルニ若シ數名ノ有司ニテ草案ヲ作り内閣之ヲ審議スルニ止ル如クハ恐クハ其完備ヲ期スル能ハサラン某議官ハ「若シ又之ニ反ネル時ハ却テ國家ノ累ト爲リ」云々ヲ痛駁スルモ其意タル一着ヲ誤レハ遂ニ此ニ至ルト云フニ過キサレハ敢テ不敬ニモ非ル可シ凡ソ君主ヲ諫ルニ往々此ノ如キ言ヲ以テスル有ルノミナラス本院意見書トシテ之ヲ提出スル何ノ不可アララン然レトモ文章ハ本官ノ固執セサル所ナレハ之ヲ改ルモ亦可ナリ又某議官ハ前年本院議官中ヨリ憲法草案ヲ奏上セルノ故ヲ以テ本案ヲ非斥スルモ該草

案ヲ作レルハ國會開設ノ詔ノ出タル前ニ在テ今日トハ時勢モ異ナリ前草案ニテハ未タ足レリトセス故ニ今本案ヲ提出スルハ決シテ不可ナシ唯反對說中鞏固ノ理由ト做スハ獨リ章程論ノミ然レトモ議案ノ下付ヲ請求スレハコソ章程ニ觸ル、嫌ヒ有ルモ未タ案ヲ成サ、レハ速ニ之ヲ起草シ下付ヲ請フトノ意トスレハ敢テ抵觸セサル可シ然レトモ論者猶抵觸スト爲セハ幸ニ抵觸ヲ避ル好修正ヲ出サレンコトヲ

○三十九番 保村田 建議ヲ爲ス本案ニハ大ニ說アレトモ時既ニ午ニ及ヒ且迅速ノ議決ヲモ要セサル可ケレハ之ヲ他日ニ讓ランヲ乞フ午後ハ常ニ退席者多ク本官モ本日ハ事故アリ退席セサルヲ得ス成ル可ク各官參會ノ上ニ議究スルヲ要ス願クハ本日ハ此ニ議事ヲ止メンコトヲ望ム

○二十七番 尾崎三頁 木案ハ特ニ迅速ノ議決ヲ要ヒストハ實ニ三十九番ノ說ノ如シ然レトモ午前第九時ヨリ午後第三時マテハ本院執務時間ナレハ他ニ至急ノ公務ナキ以上ハ午後ト雖モ會議スルヲ要ス起立ノ敍一言セン欽定及ヒ「憲法ノ親裁」云々ノ文ヲ援テ本案ノ反對ニ立ツ者アルモ他議官ノ辯駁セル如ク憲法ニ就テハ一言一句モ容喙スルヲ許サストノ旨趣ニ非ス唯親裁ハ非ナリ民約憲法ニ爲ス可シナト制定方法ニ容喙ヲ許サ、ル意ニテ其親裁ト云フモ臣下ニテ審議奏上セシ憲法ノ可否ヲ裁定シ給フノ意ナルヲ知ル可シ若シ憲法議案ハ人民ニ議セシメス官吏ニ限リ議セシム可シトセハ誰レカ之ヲ議スルヲ適當トスルヤ即チ議法衙門タル元老院ニ優ル者アルナカラン故ニ本院ヨリ下付ヲ請フハ其當ヲ得タル者トス章程論ニ至テハ論者モ既ニ之ヲ辯セリ本官ヲ以テ之ヲ見ルモ

本案ハ縦ヒ全ク之ニ合セサルモ未タ抵觸ト做サス之ヲ譬ルニ本案ハ宛モ上野ヨリ仙臺ニ到ル乗車券ヲ携帶シ郡山ニテ下乗セントスルノ比ニシテ郡山ニ到ル乗車券ヲ携帶シ仙臺ニ行ントスルノ類ニ非ス但其文章ノ妥當ナラサルハ本官ト雖モ之ヲ知レハ調査委員ヲ設ケテ之ヲ修改スルヲ要ス

退席

四十二番 大鳥 圭介 五十三番 福羽 美靜

四十六番 橋口 兼三

○議長 三十九番建議ノ決ヲ取ン即チ本日ノ議事ヲ此ニ止ルヲ可トスル者ハ起立セヨ
起立者十七人

○議長 少數ナルヲ以テ三十九番ノ建議ハ消滅ス時既ニ午ヲ過ルニ依リ一旦散會セヨ
午後零時十五分閉場

○明治二十年十月四日 第一讀會ノ三日續

議長 大木 喬任

出席議員

二番 清岡 公張 四番 石井 忠亮
三番 永山 盛輝 六番 宮本 小一

七番	宍戸 璣	三十八番	細川潤次郎
八番	楠本 正隆	三十九番	村田 保
九番	榎村 正直	四十一番	長岡 護美
十番	大給 恒	四十三番	田邊 太一
十一番	箕作 麟祥	四十四番	坂本 政均
十二番	黒田 清綱	四十六番	橋口 兼三
十五番	大久保一翁	四十九番	神田 孝平
十七番	壬生 基修	五十番	三浦 安
二十番	岩村 定高	五十四番	加藤 弘之
二十二番	中村 正直	五十五番	調所 廣丈
二十三番	久我 通久	五十六番	林 友幸
二十五番	中島 錫胤	五十七番	神山 郡廉
二十七番	尾崎 三良	五十九番	長松 幹
二十八番	原田 一道	六十一番	楫取 素彦
三十番	本田 親雄	六十二番	渡 正元
三十一番	長谷部辰連	六十三番	渡邊 驥
三十三番	津田 出	六十五番	西 周
三十五番	津田 眞道	六十六番	鶴田 皓

午前第九時四十分開場

六十八番 岡内 重俊
六十九番 上杉 茂憲

七十番 東久世通磨

○議長 本日ハ號外第四十一號意見書ノ第一讀會續會ヲ開ク

○四十六番橋口 兼三 昨日意見ヲ陳シテ各官ノ傾聽ヲ煩ハシ各官種々ノ駁論アリタルモ本官ノ意見ハ毫モ變ルコトナシ此意見書ハ本院ノ章程第七條ニ適合スル者ニ非ス又憲法ハ他ノ法律ト別格ナルコトハ昨日已ニ述ヘタルカ如シ然ルニ十一番ヨリ憲法ハ重大ナル者ト雖モ固ヨリ法律タルニ相違ナシ何ソ特別ノ法トスルニ及ハントノ駁撃ヲ受ケタリ成程憲法ヲ新法制定ノ範圍内ト爲スハ敢テ差支ナカルヘキモ此意見書ヲ以テ直チニ本院章程第七條ニ據リ新法ト同視スルニ至テハ其不可ナル言ヲ俟タス章程第七條ノ主意ハ本院ニ於テ新法ヲ編纂シ討論ヲ盡シ議定上奏スル者ト又ハ現行法ニ就テ改正ヲ要シ案ヲ具シテ上奏スル者ヲ云フナリ然ルニ此意見書ハ全ク請求書ニシテ之ヲ新法制定ト云ヘル範圍内ニ引キ入ルルハ大ナル謬見ナリ蓋シ憲法ハ宇内ノ大勢ニ徴シテ創定シ國家重大ノ基礎ト爲ス可キ者ナレハ天皇陛下ノ御親裁ニ至ル迄ニハ數種ノ材料ヲ準備セサル可ラス我邦ニハ未タ別ニ憲法ト稱ス可キモノナキモ二千年來今日ニ至ルマテ自ラ不文ノ憲法有テ存セリ今ヤ之ヲ制定スル實ニ國體ニ重大ノ關係ヲ有スルヲ以テ陛下御裁定ノ聖意ヲ翼贊セントナラハ先ツ我邦ノ憲法トモ爲ス可キモノヲ纂修シテ上奏セハ固ヨリ新法制定ト稱ス可シテ章程第七條ニ適スルナラン某議官ノ說ノ如ク本案ニ於テ完

全ナル憲法ヲ起草セントスルニ非ス唯陛下御裁定ノ考照ニ供セントスルノ意ナラハ先ツ議長ノ特權ヲ以テ憲法取調ノ狀況如何ヲ内閣ニ問ヒ若シ陛下ノ御親裁ニ出ルヲ以テ元老院ノ議定ニハ付セサルノ意判然セハ其時ニハ各官半生進取敢爲ノ氣象ト學力ニ依リ完備ナル法案ヲ編成シテ意見書ト爲シ之ヲ奏上シテ陛下ノ御參考ニ供セハ却テ卒然此請求書ヲ出スニ比スレハ最モ穩當ナル順序ナル可シ然ルニ今此案ノ意ヲ考フルニ之ヲ編成セントスルニモ非ス只其議案ノ下付ヲ請願スルニ過キサレハ章程第七條ニ據テ之ヲ奏上スルハ如何ニ考フルモ其宜シキヲ得ス某議官ノ憲法ハ法律中ノ最重ナルモノ故ニ本院ニ於テ議ス可キヲ至當ナリト云ヘルハ本官固ヨリ同一ノ意見ヲ抱クモ本案ヲ意見書ト爲シテ奏上スルニハ不同意ナリ

出席 五十一番 井田 讓

○三十五番津田 眞道 本案ハ先キニ起草者ヨリ議長へ提出シ議長ヨリ各部ノ長ヲ招キ一應其意見ヲ問ハルルニ方リ本官ハ既ニ不同意ヲ表シ又起草者ヨリ協議アリシ際ニモ同意セス其不同意ノ主意ハ昨日各官ノ陳辯セラレタルト大ニ旨趣ヲ異ニシ即チ憲法ハ法律中ノ最モ重大ナルモノナレハ本院ヨリ請求セサルモ其法案ノ議定ニ付セラレハ必然ノコト信シタレハナリ然ルニ各官中憲法ハ欽定ナリ云云ヲ以テ本案ニ同意セサル所以ヲ述ヘラレタルアリ本官思フ所ト反對ニ出テ甚事理ニ合ハス或ハ各官ノ誤解ナルカ各官ニシテ此誤解アリトセハ我日本全國人民ニ於テハ猶ホ誤解ナキヲ保セス因テ前日ノ思想ヲ翻ヘシ本案ヲ賛成セサルヲ得サルニ至レリ今其理由ヲ述ンニ一應歐洲憲法ノ起因

ト我邦ニ於テ憲法ヲ制定セントスル原由トフ比較シテ言フ立テサルヲ得ス歐洲ニハ只露西亞土耳其ヲ除クノ外孰レモ憲法ヲ制定シ且國會議院ノ設ケアリ然ルニ其憲法ト國會ノ起因ハ我邦今日ノ景況ト全ク霄壤ノ差異ナリ抑往昔歐洲ニ於テ憲法及國會ノ起リシ其原由ハ勢已ムヲ得サルニ出テ即チ英國ノ如キ國家ノ費用ハ漸ク多額ニ上リ隨テ課稅ヲ重クセサル可カラサルニ至リシニ人民ハ重稅ニ堪ヘス君民ノ間漸ク不和ヲ生シ其極王黨ト民黨ト相分レテ爭鬪シ王黨ハ戰ヒ利アラシテ大敗ヲ取り遂ニ王黨ヨリ和議ヲ求メ兩黨ノ間始メテ相和シ以後國會ヲ起シ課稅ノ如キハ一ニ議員ノ決議ニ任スルノ約ヲ定ム是レ英國憲法ノ基本ニシテ有名ナル「マグナカルタ」是レナリ其レヨリ漸ク各般ノ規則ヲ更定シ又議院ノ體面ニ改良ヲ加ヘ現今ニ於テハ英國ノ政治ハ議院政治ト稱スルモ可ナラン其他各國憲法及議院ノ設ケハ英國ヨリ百年又ハ二百年ノ後ニ在ルモ是レ亦平安無事ノ日ニ起リシニハ非ス尤荷蘭國ハ佛帝第一世那破列翁敗軍ノ後公國ヨリ王國ニ進ミタリシカ當時ノ主相某ナル者憲法ヲ制定シテ議院ヲ置ケリ是レ人民ヨリ要求シタルニ非ス政府ヨリ制定セシモノニシテ歐洲ニ在テハ特種ノ者トス是荷蘭ハ從來民主主義ノ國ニシテ議院政治ヲ以テ國ヲ立ツルニ由ルナリ歐洲ノ憲法ハ皆上下ノ戰爭ニ起因シ今日ノ如ク進歩シタルモ我邦ニハ君民ノ間ニ不和ヲ釀シ戰爭ヲ起ス等ノ事ハ未タ曾テ之レアララス然ルニ我天皇陛下ノ睿聖ナル又内閣諸大臣ノ賢明ナル深ク歐洲諸國ノ情勢ヲ觀察シ後來今日ノ儘ニ置カハ歐洲ト同一ナル結果ヲ生スルモ測ル可ラサレハ之レニ先ンシテ憲法ヲ制定シ國會ヲ開キ之カ準備ヲ爲サントスルハ實ニ事ヲ爲ス

周密ニシテ缺漏ナキヲ遠ク白哲人種ノ及ハサル所ナリ本官ノ考フル所ニテハ將來政府ハ必ス過重ノ稅ヲ課セサルヲ得サルニ至ラン故ニ憲法ヲ制定シ國基ヲ固フスルノ必要ヲ見ルナリ何ヲ以テ過重ノ稅ヲ課セサルヲ得ストナレハ大凡ソ海邊ノ國ハ他ニ比スレハ特ニ戰備ヲ嚴ニセサレハ外侮ヲ免ル、能ハス其戰備ヲ嚴ニスルニハ莫大ノ費用ヲ要スルハ論ヲ俟タス而シテ其費用ハ何レヨリ收ムルヤト云ヘハ一般人民ニ課稅スルヨリ外ニハ方法ナカル可シ人民ハ固ヨリ自國ノ強キヲ欲セサルニ非ルモ目前ニ重稅ヲ課セラル、ヲ厭フヲ以テ毎々政府ト人民トノ意見相反スルコアルヲ免レス我邦ハ其情況歐洲ト異ナルモ將來國會ノ起ルニ際シ或ハ歐洲ノ如キ情況ヲ現スルナキヲ保ス可ラス故ニ我邦ノ憲法ハ尤モ意ヲ此ニ注キ後來ノ紛議ヲ避ルヲ要ス但憲法ヲ定メ國會ヲ起ス等全ク天皇陛下ノ敍慮ニ出テタルナレハ固ヨリ欽定ヲ以テ至當ト爲スモ欽定タルニ依テ元老院ノ議定ニモ付セスト云フニ至テハ謬見ノ甚シキ者ナリ因テ猶ホ我元老院ト歐洲諸國ノ元老院ノ成立セル性質ノ相異ナルコトヲ一言セサル可ラス元老院ノ名ハ歐洲ノ「セナート」ナル譯語ニシテ其主旨ハ我邦ノ元老院ト異ナリ歐洲ニ於テ最モ古キハ羅馬ノ「セナート」ナリ抑羅馬國ハ其初メ羅馬ト云ヘル一小府ヨリ起リ終ニハ其版圖全歐洲ノ半ハニ亘レル大國ト爲リ彼ノ「セナート」ナル名モ此時ニ始マリ即チ我邦ノ一町村或ハ一郡區ノ大サニモ當ル可キ郡中ノ財產家ニシテ最モ思慮アリ最モ年老タル者ヲ郡區町村ノ長ト爲シ其輩相集合シテ國事ヲ議シ其中ノ名望アル者王ニ撰ハレ爾後事ヲ議スルニ當リ王ハ議長郡區町村ノ長ハ議員トナルコト自然ノ慣例トナリシナリ歐洲各國ノ上院ハ大

抵此「セナート」ニ基キシモノニテ各種ノ權利ヲ掌握ス而シテ英國ノ上院ハ皆華族ヲ以テ組織シ恰モ我邦封建時代ノ大名ノ如クナリシ故ニ百般ノ事ニ權力ヲ有シ王ノ獨斷ニ任スルコトナシ例ヘハ他國ト戰端ヲ開キ費用ヲ要スル如キ王ノ財產ハ元ト大ナラサルヲ以テ獨リ之ヲ維持スル能ハス衆議ノ上之ヲ定ムルナリ其集議ノ如キモ人民總代ノ相集テ議スルトハ相異ナリ現今ノ李瀾西王ハ日耳曼全國ノ皇帝タルモ其下ニ在ル「エヂンボルグ」又ハ撒遜ノ國王モ元ト皇帝ノ儕輩タリシナリ歐洲上院ノ組織ハ大要此ノ如シ然ルニ我日本ニ於テハ上ニ述フル如キ事ハ未タ曾テ之レアラス幕府執政ノ際國家重要ノ問題アルハ衆諸侯ヲ集合シテ協議セシコアルモ尋常一様ノ事ニハ協議セシコナシ維新後廢藩置縣ノ舉アリシモ我華族ハ歐洲ノ華族ト異ニシテ頗ル恭順ノ風ヲ存シ封土ヲ奉還シテ悉ク天皇陛下ノ臣民ト爲リ敢テ他事ナク斯ク淳朴ノ國風ナル故ニ歐洲ノ如ク華族中固ヨリ喧噪シテ上ニ抗論セス其最モ權勢アル者モ或ハ麝香ノ間諜トナリ別ニ異議ヲ爲サス然ルニ國家漸ク多事ニシテ舊太政官ノミニテハ事充分ニ整頓セサルヲ以テ其後左院ヲ置キ後復左院ヲ廢シテ元老院ヲ置キタリ今左院ノ性質ヲ考察スルニ幾ト支那ノ諫院アルカ如ク支那ハ元來君主擅斷ノ制度ナルモ傍ラニ諫議大夫ヲ置キテ遺ヲ補ヒ過ヲ正スノ事ヲ掌ラシム我邦ニ左院ヲ置キ後ニ元老院ト改メシモ其主旨ハ支那ノ諫院ト相同シキモノト謂テ可ナラン在昔本邦ニ於テハ太政官ニ太政大臣左右大臣等ヲ置キタル外ニ參議ナル職ヲ設ケ此參議ハ大臣ヨリ地位ノ卑下ナル者ナレモ諸臣ノ中名望威權アル者ヲ撰ヒ此職ニ任シ國事ニ就テ可否ヲ上奏セシム即チ維新ノ後左院又ハ元

老院ヲ置キタルハ其名稱ハ異ナルモ畢竟諫議大夫參議ノ體格ヲ備フルモノナリ此ノ如ク元老院ハ參議ノ職掌アルモノトスレハ國家ノ大事ニ關スル事ハ固ヨリ建白スルヲ至當ト爲ス後來憲法ヲ發シ國會ヲ開キタルハ何如ナル事ト爲ルヤヲ知ラサルモ其迄ハ此意ヲ遵奉シテ赤心ヲ以テ帝室ニ忠義ヲ盡サ、ル可ラス古來未曾有ノ大改革ニシテ日本ノ面目ヲ一新シ第二ノ日本ヲ造ルトモ謂テ可キ憲法ヲ制定スルニ就テハ固ヨリ之ヲ元老院ノ議定ニ付セラレハ疑ヲ容レス然ルニ欽定ノ憲法ナレハ元老院ノ議定ニ付セサルヘシト臆測スルハ欽定ノ文字ヲ誤解スルモノニシテ異クモ天皇陛下ノ宸慮ニ背戻セン成程國會ヲ開テ代議士ヲ選フモ憲法ハ國會ノ議ニハ付セス國會ヲ開クニ先チ之ヲ制定スルハ固ヨリ然ラン然レモ元老院ノ議ニモ付セスト云フハ決シテ之レ有ラサル可ク又政府ヨリ憲法ハ元老院ノ議ニ付セストノ訓令アリシヲ聞カサルナリ況ヤ左マテ重要ナラサル新法ト雖モ是迄大概下付セラレタレハ最モ重要ナル憲法ノ如キハ現今本院ノ資格ニ依ルモ議定ニ付セラレサル理由アルヘカラス因テ故サラニ請求スルニ及ハスト思ヒシニ議官諸君中欽定ノ文字ヲ解釋スルニ木官ト異ナルアレハ或ハ憲法ハ本院ノ議定ニ付スルコトナキカノ疑惑ヲ生セリ果シテ然ラハ國家ノ爲メニ遺憾ナキヲ欲シ此意見書ヲ以テ其下付ヲ請求スルニ贊成ス世上ノ風說ナルモ政府ニ於テハ已ニ憲法草案ヲ編成セリト云ヘリ或ハ然ラン木官ハ元來事情ニ迂濶ニシテ未タ其草案ノ目ニ觸レタルコトナキモ之ヲ見タル者アリト聞ク内閣ハ之ヲ秘スルモ或ハ已ニ世上ニ漏洩シタルナラン此等ノ事ヲ以テ考フレハ憲法ハ略ホ編成ニ至リシモノト信ス思フニ今日ヨリ二十

三年マテハ其間若干ノ時日ナキニハ非ルモ憲法草案ノ如キハ至重至大ノ者ナレハ本院ニ於テモ一朝一夕ニ議了シ得可キニ非ス必ス充分ノ審議ヲ盡クシ務テ不都合ノ條件ナカラシムルヲ要ス尤モ如何ナル真憲法ナルモ元ト人ノ作爲セルモノナレハ將來歲月ノ久シキ多少ノ改正ヲ要スルアル可キモ他ノ法律ト異ニシテ成ル可ク改正ナカラシムヘシトノ説ハ歐洲各國ニ於テモ皆守持スル所ナリ本官ハ初メ此意見書ニ不同意ヲ唱ヘ起草者ノ協議ヲ謝絶シタルモ此ノ如キ理由アルニ因リ今日ハ翻テ賛成ヲ表ス然ルニ反對ノ諸君多キカ如ク或ハ此案ノ消滅ニ歸スルヤヲ知ラサルモ望ム所ハ之ヲ上奏シテ憲法草案ノ本院ニ下付アリテ我輩不肖ト雖モ充分ノ討論ヲ盡シ縱令數百年ノ後ハ期セサルモ成ル可ク數年間ハ不都合ヲ生セサラシムルニアリ

出席

四十八番

鳥尾小彌太

○三十九番 村田 本官ハ已ニ此意見書ヲ印刷シテ各議員ニ頒布セル際ニ疑惑ヲ抱キタルノミナラス議場ノ問題ト爲リタルヲ怪ム何トナレハ本院ノ章程ハ議長初メ各議員皆遵守ス可キモノニシテ一步ナリモ章程外ニ出ル能ハサルハ各官ノ熟知スル所ナリ故ニ議長ニ於テ章程ニ適合セサル者ト認メハ縱令何人ヨリ請求スルモ議長ノ職權ヲ以テ採用セシテ可ナリト信スレハナリ然ルニ議長ハ寛大ノ心意ヨリ一步ヲ讓テ衆議ニ付セラレ議場ノ問題トナリタル上ハ本官モ之ニ向テ意見ヲ述ヘサルヲ得ス倍此案ニ就キ昨日來起草者及各賛成者ノ論ヲ聽クニ其主旨各異ナルアリ今簡單ニ之ヲ序述センニ起草者ノ意ハ憲法ヲ發行スルノ期日已ニ切迫ニ及テ始メテ本院ニ下付シ或ハ甚ダ切迫セル爲

メニ遂ニ本院ノ議定ニ付セサルコトアルヤヲ憂慮スルモノニ似タリ又賛成者ニ於テハ其意ハ賛成スルモ文面ニ不都合ナル箇所アレハ別ニ委員ヲ設テ修改ス可シト云ヒ又ハ憲法ハ欽定ナルモ我輩ハ議員ノ職ニ居リ議場ノ權ヲ有スルヲ以テ天皇陛下ノ欽定ヲ助クルト云フノ意ヲ以テ賛成シタリシモ其章程ニ抵觸スルヤ否ヤニ心付カサリシト云ヒ又ハ憲法ノ本院ニ下付アルハ固ヨリ疑ヒナキモ時期切迫シテ下付アルハ重大ノ議案ヲ匆卒ニ議了スルノ不都合アルヲ以テ早ク下付アリタシトノ意ノミヲ賛成シタリト云ヒ其意見ノ在ル所ハ各種各様ナリトス然ルニ其章程ニ合フヤ否ヤノ一點ニ至テハ起草者賛成者共ニ其説明甚曖昧模糊トシテ毫モ明確ナル所ナシ某議員ハ初メ章程ヲ調ヘシテ賛成シタルモ後ニ熟考スルニ隨分章程ノ文面ヲ擴メハ此案ト雖モ議場ニ提出シテ不可ナカラント云ヒ又他ノ議員ハ此意見書ノ章程ニ合フヤ否ヤヲ必スル能ハサルモ章程ノ新法制定ト云ヘル文字中ニ議案ノ下付ヲ請求スルノ意ヲ含蓄スルモノト思フト云ヘリ然ルニ此案ハ固ヨリ新法制定ニハ關セスシテ只憲法ヲ本院ノ議定ニ付セラレタシト云フニ過キス且其含蓄トハ曖昧ナル説ニシテ必ス章程ニ適合スト云フニ非ス我輩議員ノ提出シテ元老院ノ意見書ト爲スヘキ者ハ何人ノ目ニ觸ル、モ一點ノ疑ヒナク實ニ章程ニ適合セハ毫モ愧色ナキモ強テ其意義ヲ擴メ斯ク解釋スルモ可ナラント云フ如キ曖昧ノ見解ヲ以テ意見書ト爲スハ本官ノ甚ダ望マサル所ナリ又本案ノ事柄ヲ考フルニ某議員ノ言フ如ク意見書ニ非スシテ歎願書ナリ若シ意見書ナレハ文面中「仰キ願クハ」ノ如キ文字ヲ用フルニ及ハス果シテ歎願書ト爲セハ決シテ元老院ノ議員共同シテ奏上ス

可キ者ニ非ス又某議官ハ欽定ナレハ本院ノ議ニ付セスト言ハレタルモ是レ亦道理ナキノ説ナリ其故ハ本官曾テ其取調ニ從事セル新律綱領ノ如キ其他今日ノ法律ハ皆天皇陛下ヨリ出ルモノニシテ悉ク欽定ナラサルハ莫シ此事ニ就テハ本官ハ十一番三十八番ト同一ノ意見ヲ抱キ必ス元老院ニ下付アル者ト信ス彼ノ刑法ナリ治罪法ナリ商社法ナリ民法ナリ重大ノ法律ニシテ未タ曾テ本院ニ下付セザリシモノナシ然ルニ憲法ノミ故サラニ下付ヲ請フハ政府ニ對シテ疑惑ヲ懷クカ如ク政府ニ於テモ自ラ之ニ對シテ不快ヲ覺フルナラン若シ憲法ノ下付ヲ請ハ、他ノ法律ト雖モ一一下付ヲ請ハサルヲ得サルニ至ラン本官ハ甚タ怪訝ニ堪ヘサルナリ賛成者中期日ノ切迫ナラサル前ニ下付アルヲ欲スト云フモ各種ノ議案ニ對シ成ル可ク早ク下付アリタシトハ職掌上言フ可キコニアラサルヘシ此意見書ハ章程ニ照スモ奏上ス可キモノニ非ルヲ以テ本官ハ不同意ヲ表ス

○十一番詳 本官ハ昨日本案賛成ノ大意ヲ陳ヘ且憲法ニ關スル意見書ナレハ新法制定ノ中ニ包含スト言ヒタルニ只今某議官ハ憲法ハ勿論新法ナルモ章程第七條新法制定ノ文面ニ照セハ此意見書ハ提出ス可キ道理無シト駁セリ然ルニ本官カ章程第七條ノ解釋ハ全ク相異ナルヲ以テ一應其所以ヲ陳辯セントス反對議官ハ新法制定トハ草案ヲ具シ議場ノ決議ヲ經テト奏スルモノヲ云ヒ草案ヲ具セサルモノハ「新法ヲ制定」云々ニ適合セスト云ヘルカ如シ恐クハ章程第七條ノ「新法ヲ制定」ト云フヲ「制定」ニテ切斷シ下文へ接續セサルコトニ解セルナラン是レ解釋ノ誤リニシテ此ノ如キ新法ヲ制定セハ如何ト云フノ意見書ノミニテ案ヲ具セサルモ可ナリ其理由ハ下文ノ「其批可スル者ハ内

閣ニ於テ案ヲ成スノ後再ヒ本院ニ下ノ議定若クハ檢視セシムト」アルニテ分明ナリ民法ニモセヨ商法ニモヨ今日ニ必要ト考察シ制定下付アリタシト請求セハ内閣ハ草案ヲ作リテ元老院ニ下付スルコトアラン章程第七條ハ必スシモ我ヨリ案ヲ具シテ上奏スルモノニ限ルニ非ス昨日モ言ヒシ如ク本案ハ直接ニ制定アリタシト明記セサルモ下付ヲ奏請スルハ即チ制定ヲ求ムルニアリ本官ノ第七條ヲ解ス此ノ如シ然ラサレハ前後ノ文章相貫通セサルナリ各官モ此條ハ尙ホ一層注意アリテ「制定」ニテ分斷セザル文章ナルコトヲ認メラレタシ又某議官ハ議案ノ制定ヲ請フ意見書ナレハ可ナルモ下付アリタシトハ第七條ニ適合セスト云ヘルモ已ニ述ル如ク本案ハ制定ノ上ニテ下付アリタシト云フノ意ナレハ矢張制定ヲ請フ意見書ト同一ニシテ十分第七條ノ範圍内ニ入ル可キモノトス若シ只下付ヲ請フハ第七條ニ適合セストセハ之ニ修正ヲ加ヘ適合セシメテ可ナリ僅カカ文意ノ足ラサルカ爲メニ不同意ヲ唱フルハ解ス可ラサルナリ又「仰キ願クハ」ノ文字アリテハ意見書ニ似スト云ヘルモ本院ヨリ天皇陛下ニ願ヒ奉ルコトナレハ此文字アルモ決シテ不可ナルナシ我輩ノ交際間書翰ヲ贈ルニ直チニ辯難ス可キ事柄ニ於テモ猶ホ敬語ヲ用フルヲ常トス何ソ「仰キ願クハ」ノ文字ノアルヲ以テ意見書ニ非ス請願書ナリト區別スルヲ要セン又議官ノ職權上ニ於テ憲法議案ノ下付ヲ請フノミナラス其他如何ナル法律ニ對シテモ皆下付ヲ促カスヲ得可キカトノ詰問アリシモ是レ亦解セサル説ナリ試ミニ此意見書ヲ見ヨ「憲法、國會ノ如キハ國家未曾有ノ大典ニシテ」云々トアリ政府ノ都合ニ依テ施行ノ時期ニ迫テ下付アルハ已ムヲ得サレモ憲法ノ如キハ何如ニ急施ヲ要

スルに僅數日間ニ議了シ得可キモノニ非ス各官モ憲法ノ勿々ニ議了シ得可ラサル
 一ハ同感ナラシ然レハ憲法ハ法律中最モ至重ニシテ國家ノ基礎ヲ定ムルモノナレハ成
 ルヘク早ク下付アラシコトヲ請フハ至當ナリトス或ハ若シ十年二十年ノ後ニ施行スルモ
 ノナラハ別ニ請求ヲ要セサルモ其施行ハ最早今ヨリ二年間ニ迫リタリ本官ハ意見書ヲ
 出サレモ憲法ハ必ス元老院ニ下付アルヲ信スレモ起草者ハ萬一時期切迫シテ下付ア
 リテハ充分ノ審議ヲ盡ス能ハサルヲ憂慮シ此意見書ヲ提出スルニ至リタルヲ以テ之ヲ
 贊成スルナリ聊カ贊成ノ理由ト第七條ノ解釋ニ就テ一言ス

○二番清岡公張 昨日來各官ノ討論アリテ本官ノ言ハント欲シタル所モ其中ニアレモ一應本
 官ノ意見ヲ陳述セン臣子ノ分トシテハ憲法ノ如キ重大ノ法律ハ丁寧ニ審査シ遺漏ナカ
 ラシムルヲ欲スルハ勿論ノコニテ我輩議員ハ固ヨリ法律ヲ制定スルト之ヲ辯論スルト
 ノ權ヲ有スル以上ハ内閣ニ對シテ意見ヲ述フルモ差支ナキコナルモ表面ヨリ本院ノ章
 程規則ニ依テ案ヲ立テ内閣ニ提出スルニハ其順序手續ニ從ハサル可ラス然ルニ各官モ論
 スル如ク此案ハ本院ノ意程ニ適合セリト謂フヲ得ス過刻三十九番ノ言ヘル發議者贊成
 者ノ間各見ル所ヲ異ニスル如キ案ナレハ之ヲ内閣ニ出スモ本院ノ總會議ニ於テ決議シ
 タル意見書タルノ勢力ハ之レ無キノミナラス本案ハ此議場ニ提出シテ議論ス可キ性質
 ノ者ニ非ル可シ若シ起草者ニシテ憂國ノ精神ヨリ出テタル意見ナリトセハ一身ヲ以テ
 直ニ内閣諸大臣ニ陳白スルナリモ又ハ直ニ天皇陛下ニ奏上スルナリモ自己ノ意ヲ達ス
 ルノ道ハ數多アル可シ故サヲニ本院ノ會議ヲ開キ多數決ヲ以テ上奏スルコトハ之ヲ章程

ヨリ視ルモ今日ノ狀況ヨリ考フルモ穩當ナラサルヲ覺フ要スルニ本案ハ三十九番ノ言
 フ如ク議長ノ手許ニ於テ棄却ス可キモノト考フルモ既ニ議場ニ出テタル上ハ已ムヲ得
 ス意見ヲ陳述セサルヲ得ス第七條ニ適スルト適セサルトハ昨日來各官ニ於テ數回ノ討
 論アリタレハ今又之ニ就テ喋々辯スルヲ須非ス本官ハ既ニ此案ヲ目シテ議場ニ上ル可
 キ性質ノモノニ非スト爲ス以上ハ無論消滅ニ歸スルコトヲ欲スルナリ尙ホ一言陳述ス可
 キアリ某官ノ言ニ憲法ハ重大ナル法律ナル故ニ必ス本院ノ討論審査ニ付セラル可シト
 云フモ是レ全ク豫想ニシテ今日ニ於テ確言ス可キニ非ス其下付アルト否トハ固ヨリ内
 閣諸大臣ノ意見ト陛下ノ敍慮如何ニ存スルナレハ本院ニ於テハ固ヨリ之ヲ知ル能ハス
 然ルニ本官ノ臆測スル所ニ依レハ某官ノ憲法ハ重大ナル法律ナレハ下付アル可シト云
 フニ反シ重大ナル法律ナルヲ以テ下付アラサル可キヲ信ス少シク長辯ニ涉ルモ今尙ホ
 詳カニ其理由ヲ述ヘン先キニ三十五番ヨリ我邦憲法ノ成立ト西洋憲法ノ成立トニ就テ
 其異ナル所以ヲ説ケリ即チ其異ナルアルニ依テ今日憲法ヲ欽定セラル、事ニ就テモ亦
 異ナルナキヲ得ス日本ハ固ヨリ二千年來君主擅制ニシテ今日陛下ノ宸衷ヨリ其權ノ幾
 分ヲ割イテ議院ヲ開キ立憲政體ヲ立テタマフ上ハ一ニ陛下ノ宸衷ニ從フ可ク決シテ臣
 下ヨリ彼此議ス可キニ非ス憲法草案ハ本院ニ下付セラレサル可シト言フ所以ナリ起草
 者ハ萬一憲法ニ缺漏アリテ國家ノ大事ニ關スル如キアラハ悔ユルモ及フナキヲ以テ下
 付ヲ請ハントスルハ實ニ憂國ノ精神ヨリ出テタルナランモ之ヲ議場ノ衆議ニ決スルハ
 不可ナリ尤我元老院ハ西洋各國ノ議院ト異ニシテ政府ノ一部分ニ居ルカ故ニ内閣ニ於

テ議スルモノハ元老院モ亦議スヘシトハ一理アルニ似タレモ元老院ハ各官衙トハ其性質ヲ異ニシテ到底議院ノ資格ヲ脱セス然ルニ其議院ニ憲法ヲ下付シテ議定セシムルトキハ他日國會議院ニモ之ヲ議定セシメサルヲ得サルノ端緒ヲ開クモノナリ併シ憲法ハ決シテ議院ノ喙ヲ容ル可キモノニ非スト云フニハ非ス已ニ憲法ノ完備ナラサル國ニ於テハ往々之ヲ國會ノ議定ニ付スレモ我邦ハ陛下ノ憲法ヲ定メタマヒシ後ニ非レハ議院ニ憲法ヲ議スルノ權利ヲ附與セラル、ヤ否ヤ之ヲ知ルニ由ナシ以上ハ決シテ本案ノ存廢ニ對シテ論スルニハ非ルモ昨日來各官中憲法ハ固ヨリ本院ニ下付セラレ、ト言ヘルニ對シ聊カ本官ノ所見ヲ陳辯シタルナリ又我輩議官ハ公然事ヲ議スルニハ必ス本院ノ章程規則ニ依ラサル可ラス然ルニ本案ハ章程ニ適合セサレハ議場ニ上ル可キ性質ニ非ストスル一言コソ即チ本案ニ對スル本官ノ大主意ナリ既ニ議場ニ上ル可キモノニ非ストスル上ハ固ヨリ此案ノ成立セサルヲ希望スルナリ一應本官ノ意見ヲ演述ス

○二十二番 中村 正直 本官モ簡單ニ意見ヲ陳述セン章程第七條ノ「新法ヲ制定シ若シクハ舊法ヲ廢止改正ス」云々ハ何レニモ解スルヲ得可シ「新法ヲ制定シ」云々トハ新法ノ制定ニ限ルカ如ク意義ハ狹隘ニ見ユルモ當初此章程ヲ制定セシキニハ或ハ其區域廣濶ニシテ意見書ノ如キハ固ヨリ第七條ニ含蓄スルモノト爲セシヤモ知ル可ラス然レハ此等ハ寧ろ其區域ヲ廣ムルヲ可トス書生ノ論ニ似タルモ殷紂ハ黙々ヲ以テ亡ヒ周昌ハ諤々ヲ以テ興ルト云ヘル古語モアレハ成ル可ク章程ノ區域ヲ廣メ餘リ文字ノ上ニ拘泥セス言路ヲ開通スルヲ要ス近來書生ノ都下ニ集合シテ囂々時事ヲ論スル如キモ必竟人ノ口ヲ

鉗ルニ起因スルナリ抑憲法ハ新法中ノ最モ重大ナルモノニシテ本院ニ下付アルハ至當ナルモ事情ニ因リ下付ナキヤヲ保セス故ニ之ヲ請求スルノ議起リタルナレハ此意見書ハ本院ノ章程ニ背戾スト云フ可ラス諺ニモ求ムレハ應スト云ヘルコアリ然レハ我ヨリ求メサレハ下付アル可キ者モ或ハ下付ナキヤモ測リ難シ且元老院ハ近來頗ル權力ヲ失ヒタルニ似タレハ進テ之ヲ恢復スルノ注意ナカル可ラス且憲法ハ本院ニ下付セラレサルヤノ疑ヒアル上ハ愈ヨリ以テ此意見書ヲ出スノ必要ヲ感スルナリ因テ之ヲ贊成ス

○六十八番 岡内 重俊 本官ハ昨日日本案ニ不同意ヲ表シ本院ヨリ此意見書ヲ提出スルハ自家撞着ナリト述ヘタリ今又之ヲ補陳セン願フニ明治九年ニ陛下ノ勅命ニ依リ本院ニ於テ憲法案ヲ起草シ已ニ之ヲ上奏セシ上ハ各人各箇ニ意見書ヲ奏上スルハ兎モ角モ今更ニ本院ノ議決ヲ以テ上奏スルハ不可ナリ故ニ本案ハ廢棄タランヲ欲ス但本官ノ考ヘニハ本院ノ議長ヨリ書面ヲ以テ内閣大臣ニ照會シ果シテ憲法案ノ下付ナキニ定マレハ或ハ之ヲ請求スルモ可ナラン

○六十二番 渡部 正 本案ハ本院ノ章程ニ關係スルヲ以テ一言セサルヲ得ス抑、本案ヲ元老院ノ意見書トシテ上奏スルノ可否ハ第七條ノ明文ニ適スルヤ否ヤヲ講究セハ分明ナル可シ昨日來第七條ノ見解ニ就テハ各官種々ノ論議アリテ盡セルカ如キモ此章程ノ見解ハ本官等ノ職務上ニ重要ナル關係アルヲ以テ今一層十分ノ討議ヲ盡サ、ル可ラス章程第七條ノ明文ハ滿場議官ノ熟知スル如ク新法ヲ制定シ舊法ヲ廢止改正スヘキノ意見書ヲ上奏スルヲ得ルコトヲ規定シタルナリ元老院ハ其職議法官ニシテ時世ノ變遷ニ從ヒ新

法ノ制定ヲ必要ト爲シ又現行法ニ缺漏アルヲ認ムルハ本條ノ如ク其意見書ヲ上奏スルハ固ヨリ當然ノ事トス然ルニ其上奏ノ方法タル其制定又ハ改正廢止スヘキノ理由ヲ書シテ上奏スルナリ故ニ本案ニシテ憲法ヲ制定スヘキヲ請フノ意見書ナレハ第七條ノ明文ニ適合スルモ只憲法草案ノ下付ヲ請フモノナルヲ以テ新法制定ヲ請フノ意見書ト見做スヲ得ス先刻來本案ヲ賛成スル各官ノ説ヲ聞クニ其說區々ニシテ一定ニ歸セス某官ノ見解ニ依レハ新法制定ノ意見書ニハ必スシモ法案ヲ具スルニ及ハス若シ内閣ニ於テ意見書ヲ批可スレハ法案ノ立稿ハ内閣之ニ任ス可シ或ハ本案ノ如ク憲法ノ下付ヲ奏請ストアルノミニテハ意義不完全ナリトセハ本案ヲ以テ憲法制定ヲ請フノ意見書ト見做スモ可ナリト云ヘリ是皆牽強附會ノ説ニシテ此ノ如ク見做スモ可ナリト云フカ如キ辯明ハ議場ニ於テ採用スルヲ得可ラス本官ノ論スルマテモナク本案ヲ意見書トシテ上奏スルヤ否ヤヲ決スルハ章程ヲ措テ他ニ求ム可キニ非ス然ルニ又某議官ハ章程ノ範圍ハ成ル可ク廣濶ナラシム可シ若レ自ラ之ヲ狹隘ナラシムレハ終ニ自働ノ力ヲ失フニ至ラント云フモ章程ハ畢竟自他ノ權限ヲ分畫スルモノナレハ妄リニ之ヲ擴ムルヲ得ス或ハ章程第七條ニ新法制定云々ノ事アルニ依リ新法ノ議案ヲ下付セラレンコトヲ請フノ意モ此中ニ含蓄スト云フカ如キハ本官ノ尤解スル能ハサル所ナリ本案ハ事柄ハ固ヨリ不可ナルナキモ奈何セン本院ハ章程ニ依テ進退シ章程ノ許サ、ル所ハ本院ノ意見書ト爲シテ提出スルヲ得サルハ言ヲ俟タス此點ハ各議官ノ十分ニ論究ヒサル可ラサルモノトス又本案ニ反對スル議官ノ説ヲ聞クニ二番三十九番ノ如キハ議長ニ於テ既ニ本案ヲ第

七條ニ抵觸スト認メハ議場ノ衆議ニ付スルニ及ハスト云ヘリ是レ甚事理ニ背キタル説ナリ若シ將來某官アリ章程ニ抵觸スルヤ否ヤニ疑ヒアル意見書ヲ提出スルコトアリトセシニ議長ハ其章程ニ抵觸スト認ムルノ故ヲ以テ衆議ニ問ハサルカ如キコトアラハ議院ノ集合体ナル原則ニ背戻セン畢竟議長ノ職務ハ議事ヲ整頓スルニ在リテ賛成ヲ得テ意見書タルノ軀裁ヲ具シ之ヲ提出シタルモノハ議長一人ノ意見ヲ以テ排斥スルヲ得サルヘシ今日ノ如ク議場ヲ開テ衆議ニ問フヲ至當ノ處理ナリトス故ニ本案ニ反對ナル議官ノ説モ亦其當ヲ得ス要スルニ本案ノ主旨ハ憲法ノ制定ヲ請フニ非スシテ下付ヲ請フニ在レハ第七條ニ適セサル者ト爲シ不同意ヲ表ス

○三十九番村田 只今六十二番ハ本官ノ先キニ陳述シタル所ノ本案ハ議長ニ於テ排斥シテ可ナリトスルノ説ヲ駁撃セリ其駁論ニ議長ノ職ハ議事ヲ整頓スルニ在リト云ヘルモ獨リ議事ヲ整頓スルノミニ非ス元老院職制中議長ノ職任ヲ按スルニ「議場ニ臨ミ議事ヲ整頓シ本院ノ章程ヲ遵守シ」云々トアリテ章程ニ違ヒタル意見書ノ如キハ議長ニ於テ斷然排斥スルノ權アリトス且從前一人以上ノ賛成ヲ得ルハ意見書トシテ提出スルヲ得タルモノハ議官ノ員數少ナキ時ニ定メタル例規ニシテ今日ハ七十人餘ノ議官アレハ一人以上ノ賛成ヲ得ルハ甚容易ナリトス然ルモ尙ホ一人以上ノ賛成サヘ得レハ直ニ提出スルヲ得ルト爲シ現ニ章程ニ背キタル意見書ト雖モ續々提出スルノ弊ヲ生セン故ニ議長ハ確ク章程ニ遵テ取捨スルノ權ヲ行ハサル可ラス若シ其章程ニ背キタルモノヲモ議事ニ付スルトセハ議長ハ自ラ本院ノ官制ヲ遵守セサルコトナラン今後モ此ノ如キ

意見書ニ對シテハ議長ハ斷然章程ヲ遵守シテ拒絕スルヲ可トスレハ一應其理由ヲ陳辯ス

○三十五番 津田 過刻本案ニ同意ナルコトヲ陳述セシカ昨日五十一番ヨリ此案ヲ調査委員ニ付ス可シトノ建議アリシト聞ケリ本官ハ調査委員ニ付スルヲ以テ適當ノ事ト爲ス故ニ之ニモ同意ス抑法案ハ集合体ナル多數ノ決議ニ付スルハ文明諸國ノ通則ニシテ苟クモ其法律ノ現存スル間ハ勢力ヲ有ス故ニ一人一個ノ意見ヲ以テ匆卒ニ制定施行ス可ラサルハ言ヲ俟タス間マ一人一個ノ意見ヲ以テ制定シタルモノニシテ善良ノ者ナキニ非ルモ若シ謬戾ノ法律ナルハ許多ノ弊害ヲ生ス因テ二十三年國會開設迄ノ間ハ法律ヲ議ス可キ集合体ハ元老院ヲ措テ他ニ之レナキカ故ニ日本開闢以來ノ制定ニ係ル憲法ノ如キハ元老院ノ議ニ付スルヲ以テ當然ト爲スハ諸君ニ於テモ必ス本官ト同感ナルヘシ憲法ハ天皇陛下ノ欽定シタマフ所ニシテ元老院ノ議ヲ容ル可キ者ニ非スト云フハ大ナル謬見ト考フルナリ些細ナル法律ト雖モ尙ホ元老院ノ議ニ付スルナレハ法律中最モ重大ナル憲法ノ如キハ無論下付アル可キコトナリ又各議官モ憲法草案ニ對シテハ他ノ法律ニ比スレハ一層ノ精神ヲ以テ調査討議シ務メテ完全ナラシメ施行ノ後弊害ノ起ラサルヲ期望スルナル可シ此ノ如キ重要ノ法律ナレハ本院ニ於テ其下付ヲ請求スルモ決シテ借越ノ罪ト謂フ可ラス然ルニ本案全ク第七條ニ牴觸セハ無論内閣へ提出スルヲ得サレハ其等ハ委員ヲ置キ之ニ付託シテ十分ニ攻究シ第七條ニ牴觸セサラシメ而ル後之ヲ内閣ニ提出セハ元老院ノ旨趣モ從テ貫通シ我々議官モ國家不朽ノ大典ナル憲法ニ向テ十

分ナル討議ヲ爲スヲ得ン是レ國家ノ爲メニ微力ヲ盡スノ機會ナレハ本官ハ成ル可ク此案ノ行ハル、ヲ欲ス且此議場ニ於テ此案ニ對シ甲論シ乙駁シ空シク時日ヲ費スハ實際限ナキコトナレハ速カニ調査委員ヲ置クニ如カス其委員ハ議長ノ特選或ハ投票何レニテモ可ナルモ少ナクトモ五人若クハ七人ノ全部付託調査委員ヲ設ケラレ好結果ヲ得ンコトヲ希望ス且終リニ一言スヘキアリ若、各官ニ於テ本案ノ標題ヲ不都合トセハ何等カ適當ナル名稱ヲ附シタシ標題ノ適否ハ本院ノ面目ニ關係スルナリ要スルニ本官ノ此案ニ對シ此ク熱心ナルハ其意憲法ハ國家重大ノ事ニ關スレハ成ル可ク多數ヲ以テ決スルヲ望ムニ在ルナリ諺ニ曰フ三人寄レハ文珠ノ智慧ト然レハ議官七十人寄レハ釋迦ノ智慧ニモ勝ル可シ故ニ萬機公論ニ決スルノ御誓文ニ背カス本案ノ主意ヲ貫ク爲メニ調査委員ヲ置クコトヲ贊成ス

○五十六番 幸林友 本官少シク建言ス可キコトアリ昨日來論議紛起セルカ本官ハ初メヨリ本案ニハ不同意ナリ章程第七條ニ對シテハ範圍ノ廣狹ニ就テ各官意見ヲ異ニセルモ本官ハ斷シテ第七條ニ適合セサルモノトス只今調査委員ヲ置クノ建議出テタルモ恐クハ之ニ同意スル者ハ多數ナラサラン然ルニ三十九番ノ言ヒタル如ク本案ハ議長限リニテ排斥セハ兎モ角モ今日議場ノ公共物ト爲リタル上ハ多數決ニ從フヨリ他ノ方法ナシ因テ調査委員ヲ置クノ建議ヲ決スル前ニ先ツ本案ハ議場ニ提出ス可キモノナルヤ否ヤノ決ヲ取ランコトノ特別建議ヲ爲ス

○四十八番 尾小 本案ニ就テハ前日來種々ノ議論アルモ若シ各議官ニ於テ何如ナル憲

法ノ制定アルモ思想ヲ費サス措テ問ハサル決心ナレハ本案ノ如キハ可否ヲ論スルニ及ハス直ニ廢棄スル可ナリ然モ憲法ハ重大ノ者ナレハ多數ノ議官悉ク之ヲ見限りテ毫モ此レニ意ヲ注カサルモノ無ラン他日憲法中不完全ナルアリテ之ニ喙ヲ容ル、ヨリハ寧ロ今日未タ發布セサル前ニ於テ喙ヲ容ル、ニ如カス因テ本案ニ修正ヲ加ヘテ成立セシムルコソ後來ノ好都合ナルノミナラス既ニ公布アルニ至テ其不完全ナル點ニ對シ意見書ヲ出サハ却テ憲法ニ疵瑕ヲ附スルノ理ナリ此レヲ以テ之ヲ考フレハ今日憲法ニ就テ論辯セサルハ表面ハ親切ニ見ユルモ其實ハ然ラス斷シテ此等ノ案ヲ提出スルハ國家後來ノ爲メニ大ナル幸福ヲ與フルモノナリ速カニ委員ヲ置クノ決ヲ取ランコソ望ム

○五十一番 井田 本官ハ昨日修正委員ヲ置クノ建議ヲ爲セシニ追々賛成者ヲ得タリ元來本官ノ建議ヲ爲セシハ本案ハ畢竟大切ナル者ナル故ニ種々ノ議論紛出スル事ト信スレ其議論ハ益々數派ニ分レ到底本案ノ成立セサルノミナラス遂ニハ何ノ爲メニ廢棄セラレタルヤノ理由モ不明ナルニ至ランカヲ恐ル、ニ由ルナリ思フニ本案ニ反對ヲ唱フル諸君モ憲法ノ重要ナルコトハ固ヨリ領會スル所ナラン然ルニ之ヲ否トスル者ハ本院章程第七條ニ適合セサルヲ以テ本案ハ議場ニ上ル可キモノニ非スト云ヒ或ハ憲法ハ元老院ニ於テ關係セスシテ可ナリト云ヒ或ハ草案ヲ具セサルヲ以テ提出シ難シト云ヒ或ハ元老院ヨリ今日卒爾ニ憲法案ノ下付ヲ請フハ不可ナルモ議長ヨリ書面ヲ以テ内閣ニ照會シ憲法案ハ本院ニ下付セストノ事ナレハ其時本案ヲ提出スルモ晚キニ非スト云ヒ議論紛々究極アルナシ然レモ若シ此等ノ議論ヲ爲ス人ノ腦髓ヲ尋ネハ憲法ハ重要ノ

モノナレハ充分ニ討議シタシトノ思考ハ必ス含有スルコト信ス又憲法ハ重要ナルモ元老院ノ議決ヲ經スシテ可ナリトノ說ハ號外第四十二號ニ掲クル所ノ凡ソ法律ハ元老院ニ於テ議決セサル可ラスト云ヘル本院ノ議權ヲ擴張スルノ主旨ト反對ス本案ニ於テハ悉ク議セスシテ可ナリト云ヒ後案ニハ悉ク議ス可シト云フハ所謂自家撞着タルヲ免レス然レハ後ノ議權ヲ張ラントスル案ニ賛成スル者ハ必ス此案ヲ維持セサル可ラスト憲法ノミハ取除ケナリト云フカハ知ラサルモ此ノ如キハ事理ニ於テ其當ヲ得タルモノニ非ス故ニ縱令本案ヲ廢棄スルニモセヨ其理由ヲ明瞭ナラシメ又之ヲ提出スルニハ何如セハ可ナルヤヲ審査スル爲メニ修正委員ヲ置カンコソ欲ス只本案ハ元老院ニ於テ議ス可キモノニ非スト云ヘルノ一言ヲ以テ廢棄スル如キハ後案ニ大ナル關係ヲ及ボスナリ是レ本官ノ此建議ヲ爲シタル所以ナリトス

○八番 楠本 本案ニ付各官ヨリ種々ノ論議アリシモ未タ取決ノ場合ニ至ラス然ルニ今日ハ議事ヲ正午十二時ニ止ムト聞キシニ既ニ十二時ヲ過キタレモ本官ハ少シク陳述セント欲スルコソアリ陳述シテ可ナルヤ一應議長ニ問フ

○議長 陳述スルモ可ナリ

○八番 楠本 此意見書ニ反對スル論者中ニハ憲法ハ重要ナルモノニシテ人臣タル者ノ喙ヲ容ル可キ所ニ非スト云ヒ或ハ憲法ハ本院ニハ下付ナカル可シト云フ是只像想上ニテ論議スルノミ某官ノ言ニ此ノ如キ曖昧ナル說ヲ以テ廢棄スルハ甚遺憾ナリ且本院ノ職權上ニモ關スルナレハ十分ニ論究シテ成立廢棄トモニ分明ナル理由ヲ立テサル可ラスト

ト然ルニ本官ノ主意ハ一言以テ之ヲ掩ヘハ此案ハ純然タル請願書ニシテ第七條ニハ適合セスト考フルト是レナリ本官ノ平常考フル所ニテハ本院ニ於テ憲法ヲ起草スヘカラサルハ勿論内閣大臣モ之ニ喙ヲ容ル可キニアラサルヲ信ス但將來別ニ憲法取調局ヲ設ケ之カ委員タル者ハ其人物ヲ特選シ十分ノ調査ヲ爲サシメ然ル後ニ欽定アルヲ可トス即チ其委員タル人ハ元老院中ヨリ適當ノ人物ヲ撰拔シ又朝野ヲ問ハス學識經驗アルモノヲ擧グルヲ要ス若シ此事ニ同意ナル人アラハ直ニ天皇陛下及内閣大臣ニ謁シテ意見ヲ陳述セントス某議官ハ憲法ヲ元老院ニ於テ審議セスハ何レニ於テ之ヲ議スルヤト云フモ憲法ハ必スシモ本院ニ下付アル者ト爲ス能ハス頭ヲ回ラシテ元老院ノ章程ハ何如ト考フルニ本院ノ議決セシモノハ天皇陛下ト雖モ之ヲ左右スル能ハサルモノナリ故ニ若シ議決上奏シテ陛下ノ意ニ協ハサレハ其案ヲ修正シテ再ヒ下付セララルハ本院設立以來ノ例規トス但法令ノ急施ヲ要スル場合ニハ重要ノ議案ト雖モ本院ノ議定ニ付セラレサルコアリ是レ本院ニ取テ甚遺憾トスル所ナルノヨリ然ルニ欽定憲法ヲ他ノ法案ト同一ニ本院ニ於テ議定セントスルニ至テハ深ク慎思セサル可ラス昨日モ言ヒシ如ク元老院ハ堂々タル議院ニシテ他日立憲政體ノ成立スルニ至レハ上院ト爲ル可キ者ナリ然ルニ上院ニ於テ憲法ニ異議アリ改正ヲ請求スル如キコアリト假想セヨ甚妥愷ナラサルヲ知ルナラン今日ノ案即チ之カ備ヲ作ルモノナリ是レ本官ノ別ニ取調局ヲ設ケンコヲ望ム所以ナリ而シテ憲法ハ欽定ナレハ天皇陛下御一身ニテ親定シ給フヲ得サレハ廣ク天下ノ人才ヲ選テ之カ委員タラシムルヲ以テ國家ノ安泰ヲ保持スルニ必要ナラント信

ス本案ノ如キ者ヲ章程ニ照シテ議スルコトハ本官ノ不同意ナル所ナレハ廢棄ニ付センヲ望ムナリ然ルニ某官ハ之ヲ修正セントノ建議ヲ爲セリ或ハ其建議ノ成立スルヤハ知ラサルモ之ヲ修正スルトモ只少シク文面ヲ圓滑ナラシムルニ過キス無用ノ煩勞ト謂フ可シ故ニ本案ニモ修正ノ建議ニモ不同意ナリ

○九番 榎村 正直 本官モ本案ニハ不同意ナリ各官ノ言ニ憲法ハ重要ナルモノナリト本官モ然カ思ハサルニ非ス又憲法ハ下付セララルト假定スルモ時期切迫シテ下付アリテハ充分ノ討議ヲ盡ス能ハサレハ今ニ於テ早く下付アルヲ請フニ如カスト云フハ一理ナキニハ非ス然ルニ目今ノ元老院議官ハ目今ノ章程外ニ事ヲ爲ス能ハス其章程ニ依レハ本案ハ到底意見書トシテ提出スルヲ得サルモノトス因テ已ムヲ得ス不同意ヲ唱フルナリ

○三十番 本田 親雄 本官モ不同意ナリ本案ノ反對者各所說アルモ其意ノ在ル所ハ大同小異ナリトス本官ノ意ハ概略八番ト同一ナレハ別ニ理由ヲ述ヘス因テ簡單ニ不同意ナル旨ヲ述フ

○二十七番 尾崎 三真 此案ニ對シテハ追々反對說出ルモ只順序手續等ニ於テ之ヲ非視スルノミニシテ眞ノ反對說ト見ル可キ者ハ未タ之レアラサルニ似タリ此等ノ反對說ノ爲メニ此案ヲシテ消滅セシムルニ至ルハ尤モ遺憾ナリ本官ハ種々ノ反對說ヲ聞クニ及テ却テ益々此意見書ノ必要ヲ感ス各官ノ論辯中本院ハ議法官ナレハ憲法ノ如キハ請求セサルモ下付アルニ相違ナシト云ヒ或ハ欽定トアレハ聖上親ヲ制定シタマフモノニシテ決シテ元老院ノ議ニ付スルモノニ非スト云ヒ或ハ本院ノ議ニ付スルヤ否ヤハ分明ナラサル

モ先ツハ元老院ニ下付アラサル可シト云フ此等ノ想像説ヲシテ確實ニ近シトセハ議法官タル者ハ固ヨリ下付ヲ請求スルヲ至當ト爲ス法ヲ議スルハ我輩ノ職分ニシテ天皇陛下ヨリ命セラル、所ナレハ憲法ノ早ク下付アルヲ請フコトハ決シテ不當ノ所爲ニ非ス且議官中下付アラサルヤヲ疑フ者アルモハ益々請求セサル可ラス默シテ待テハ何物モ來フストハ某官モ言ヘル所ナリ或ハ本案ノ如キハ議場ノ衆議ニ付セス一人ノ意見書ト爲シテ提出スルヲ可トスト云フモ我輩議官ハ法ヲ議スルコトヲ命セラレ居ル者ナルニ何故ニ衆議ニ決スル能ハサルヤ又某官ハ議長ヨリ内閣ニ向ヒ憲法ハ本院ニ下付アルヤ否ヤヲ照會シタル上ニテ本案ノ取捨ヲ決ス可シト云フモ是レ甚事理ニ當ラサル説ナリト考フ其他章程第七條ニ就テハ種々ノ論議アルモ必スシモ此ノ如ク自ラ窮屈ナル地ニ入ルニ及ハス第七條ハ決シテ此等ノ狹隘ナル意義ヲ以テ設ケタルモノニ非ル可シ某議官ノ言フ如ク法ヲ議スルハ既ニ各官ノ職權ニ在ルナレハ進テ自ラ勞働セサレハ益々力ヲ失フニ至ル可シ若シ又此案ノ下付ヲ請フト云ヘル標題ヲ以テ穩當ナラストセハ制定ヲ請フト云フニ改メナハ決シテ第七條ニ抵觸スルコトナカル可シ又某議官ハ元來欽定憲法ナル者ハ内閣大臣モ喙ヲ容ル能ハサル故ニ元老院議官ノ其議ニ與カルヲ得サルハ勿論ナリト云ヘリ此ノ如キ説ハ固ヨリ辯駁スルニモ及ハス何トナレハ縱令欽定ナリトモ天皇陛下御一身ヲ以テ制定シタマフコト能クシ難キハ彼ノ新律綱領ノ如キ例ヲ以テスルモ明カナレハナリ要スルニ本官ノ意ハ元老院ノ既ニ議法ノ職務アル上ハ重要ナル法律ノ早ク制定アリテ本院ニ下付セラレンヲ請ヒ其主意ノ貫達センヲ欲スルニ在リ若シ

本案ノ文面上ニ異論アラハ何様ニ修正スルモ可ナレハ成ル可ク其成立センヲ期望ス故ニ本案ヲ修正スル爲メニ調査委員ヲ設クルノ説ニハ固ヨリ起立シテ同意ヲ表セント欲ス因テ豫メ此事ヲ一言ス

○議長 五十六番ニ告ク此案ニ對シテ先ツ議ス可キヤ否ヤノ決ヲ取ル可シトノ建議ナレ其建議ノ意ハ過刻來追々各官ヨリ提出セル廢案説ト同一ニ歸ス第一讀會ハ大体ノ討論ヲ爲スニ過キサレハ該建議ハ第二讀會ニ於テ提出セハ可ナラン

○五十六番 林友幸 順序ヲ踐メハ第二讀會ニ提出ス可キナレモ本案ハ其迄ニ持續セサルヤヲ疑フヲ以テ特別ニ第一讀會ニ於テ此建議ヲ爲セリ

○議長 各官聞ク如ク五十六番ヨリノ請求アリ因テ先ツ五十一番ノ修正委員ヲ置ク建議ノ決ヲ取り若シ消滅セハ五十六番建議ノ決ヲ取ラン

○四十九番 神田孝平 本官ハ此案ニ對シテハ可否共ニ熱心ナラサレハ別ニ陳辯スルヲ須非サルモ今ヤ廢案説ト修正説トノ二ツアリ取決ノ順序ハ廢案説ヲ先キニスルヲ至當トス廢案説ニシテ成立セハ此レニテ結局トナル可シ若シ廢案説成立セスシテ此案ノ生存シ始メテ修正ノ説出ツ可キヲ順序ナリト信ス因テ議長ノ參考ノ爲メニ一言ス

○五十番 三浦安 本案ニ對シテハ可否ノ説種々出テタルモ第二讀會ニ至テ存廢何レニカ決ス可シ然ルニ第一讀會ニ於テ存廢ノ決ヲ取ルハ特別ノ建議トアレハ兎モ角モ本官ハ未タ其例ヲ見ス本官ハ元ト本案ヲ維持スルノ意ニ非ルモ只今ノ如ク事ヲ省ク爲メニ此ノ如キ新例ヲ用ヒハ恐クハ後來頻リニ新例ヲ開クノ弊此レヨリ生セン故ニ一言ス

○議長 五十六番ニ再告ス只今五十番モ不同意ヲ表スル如ク第一讀會ニ第二讀會ノ性質ヲ以テ取決セシコトハ未タ其例ナシ故ニ本日ノ建議ハ本席ニ於テ採用セス

○五十六番 林友幸 成程新例ナル故ニ採用セストナレハ強テ要求セス

○三十五番 津田真道 五十一番四十八番ハ修正委員ヲ置キタシト云ヘルニ似タリ本官ノ之ヲ賛成シタルハ全部付託調査委員ト思ヒシニ由ル僅カノ差違ナレハ成ル可ク全部付託調査委員ト爲サンコヲ希望ス發議者ノ意ハ何如

○五十一番 井田讓 昨日修正委員ヲ置クコトヲ建議セシカ本案ハ重大ノ事件ニモアレハ投票ヲ以テ十人ヲ選ヒ全部付託調査委員ト爲サンコヲ更ニ建議ス

○三十番 本田親雄 本案ニ付可否ノ討論中別ニ廢案說ハ之レ無カリシト思ヒシモ八番ノ說ハ結局廢案ニスルヲ可トスト云フカ如シ本官ハ八番ノ主意ニ同意ナレハ即チ廢案ニ同意スルモノナリ然ルニ今五十一番ノ建議ニ賛成者アルニ方リ四十九番ハ議事ノ抄取ノ爲メニ廢案說ヲ先キニ取決セハ可ナラント言ヒシト思ヒタリ議長モ四十九番ノ說ヲ聞キタルヤ

○議長 第一讀會ハ大体ノ討議ニ止マルヲ以テ廢案說ニセヨ修正說ニセヨ決ヲ取ラサルナリ故ニ本案ニ對シ廢案說アルモ決ヲ取ラス然ルニ五十六番ノ特別建議ハ廢案說ニ非スシテ只本案ハ議場ニ提出スヘキモノナルヤ否ヤヲ決セントスルニ在リテ一應ハ決ヲ取ラントセシナリ順序ハ廢案說ヨリ取決スル當然ナレト既ニ五十六番ノ說ヲ採用セサレハ四十九番ノ說モ採ラス故ニ其儘ニ爲シ置キタリ

○二番 清岡公張 本官ハ了解スル能ハス第一讀會ニ調査委員ヲ置クハ決ヲ取リ廢案說ハ決ヲ取ラスト云ヘルカ

○議長 然リ

○二番 清岡公張 第一讀會ニ調査委員ヲ置クノ說ノミハ採用シ廢案說ハ第二讀會ニ非レハ提出スル能ハサルカ

○議長 是迄ノ慣例ニ於テモ只今本席ヨリ述ヘタルカ如シ第一讀會ニ於テハ成ル可ク各官ノ討議ヲ盡サント欲スルカ故ニ廢案說ハ決ヲ取ラス第二讀會ニハ廢案說モ修正說モ提出スル可ナリ調査委員ハ必スシモ廢案ト云フニ非レハ第一讀會ニ採用スルヲ慣例トセリ

○五十番 三浦安 五十一番ノ建議ハ初メヨリ調査委員ヲ置クコト見做シテ賛成セシモ本日ノ發言ニ依テ修正委員ナリシコトヲ知レリ然ルニ發議者自ラ調査委員ト爲スニ改メタレハ固ヨリ賛成スルナリ又發議者ハ委員ヲ十人ト爲サント云ヒシモ丁數ニテハ議長ニ於テ採用セサル可シ何如

○議長 本官ハ少シク陳述セントスル事アリ暫ク本席ヲ七十番ニ讓ル
大木喬任 議長 七十番ノ席ニ着キ七十番 東久世通禧 議長ノ席ニ着ク

○七十番 大木喬任 少シク各官ニ陳告シ置キタキコトアリ先刻ヨリ此案ニ就テハ或ハ議長限りニ之ヲ斥ケ衆議ニ付セサルヲ可ナリトスル說アリ又之ヲ非ナリトスル說アリ故ニ本官ハ本案ノ今日迄經由セル順序ヲ述ヘ各官ノ參考ニ供セントス倍此號外四十一號ト四十

二號意見書案ノ初テ提出アルニ方リ各官ノ論スル如ク本官モ其章程ニ抵觸スルヤヲ疑ヒ議長ノ職タル固ヨリ章程ヲ遵守セサルヲ得サレハ其疑ハシキモノハ議事ニ付セスシテ可ナラン歟ト思考シタリ然ルニ此案ニシテ判然章程ニ抵觸スルヲ認メハ議長限リ之ヲ斥ク可キモ章程ノ見解ニ就キテハ各差異アラントコトヲ慮リ一應各官ノ意見ヲ問ヒ尙ホ相談會ヲ開テ之ヲ一定セント欲シタレモ各官自説ヲ主持シ遂ニ其運ヒニ至ラズ到底此見解ハ相談會ニテハ一定セサル可キヲ見出セリ併シ本官ハ章程ニ抵觸スル案ナリト信スレモ斯ク各見解ヲ異ニスル上ハ衆議ニ依リ決スルニ如カスト斷定シ此ニ議事ヲ開キタルナリ又某議官ハ議事ヲ整頓スルノミヲ議長ノ職分ト爲スカ如ク云ヒタルニ某官ハ然ラストノ駁論アリ議長ニ於テモ駁論ヲ至當ナリト爲ス尙ホ退テ熟考スルニ議長ハ固ヨリ章程ヲ遵守スヘキモ議官モ之ニ從テ議案ヲ議スヘキハ勿論ナレハ各官ニ注意ヲ願フ所ハ章程ヲ根據トシテ其範圍外ニ出テ、論議スルコトナカラニ在リ言迄モナク章程ヲ遵守スルハ本官モ各官モ同一ノ責アレハ一應此事ヲ辯シ置クナリ

議長本席ニ復ス

○議長 五十一番ノ全部付託調査委員ヲ置ク建議ノ決ヲ取ラン之ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十八人

○議長 少數ナルヲ以テ五十一番ノ建議ハ消滅ス討論既ニ盡キタリト認ムレハ第一讀會ハ終ル第二讀會ノ期ハ後日ニ報告セン散會セヨ

午後零時五十五分開場

○明治二十年十月十九日 第二讀會

議長 大木 喬任

出席議員

二番	清岡 公張	十六番	伊東 祐賢
三番	永山 盛輝	十七番	壬生 基修
四番	石井 忠亮	二十番	岩村 定高
六番	宮本 小一	二十一番	稅所 篤
七番	穴戸 璣	二十二番	中村 正直
八番	楠本 正隆	二十五番	中島 錫胤
九番	榎村 正直	二十七番	尾崎 三良
十番	大給 恒	二十八番	原田 一道
十一番	箕作 麟祥	三十番	本田 親雄
十二番	黒田 清綱	三十一番	長谷部辰連
十三番	伊集院兼寛	三十二番	津田 出
十五番	大久保一翁	三十四番	小畑 美稻

三十五番	津田 眞道	五十三番	福羽 美靜
三十六番	安藤 則命	五十四番	加藤 弘之
三十八番	細川潤次郎	五十五番	調所 廣丈
三十九番	村田 保	五十六番	林 友幸
四十番	綿貫 吉直	五十七番	神山 郡廉
四十一番	長岡 護美	五十八番	鍋島 直彬
四十三番	田邊 太一	五十九番	長松 幹
四十四番	坂本 政均	六十一番	楫取 素彦
四十五番	時任 爲基	六十二番	渡 正元
四十六番	橋口 兼三	六十五番	西 周
四十七番	野村 素介	六十六番	鶴田 皓
四十八番	鳥尾小彌太	六十七番	吉田 清成
四十九番	神田 孝平	六十八番	岡内 重俊
五十番	三浦 安	六十九番	上杉 茂憲
五十一番	井田 讓	七十番	東久世通禧
五十二番	由利 公正	七十一番	何 禮之

午前第九時五十五分開場

○議長 號外第四十一號議案ノ第二讀會ヲ開ク

書記官 森山 朗讀

憲法議案ヲ下附セラレンコトヲ奏請スルノ意見書

國會開設ノ期纔ニ二年ニ迫ル宜ク時ニ及テ憲法ヲ定メ國會ノ制度ヲ立テ公衆ヲシテ各其依ル所ヲ知ラシムヘシ然リ而シテ其憲法國會ハ當サニ建國ノ大體ニ基キ宇内ノ大勢ニ從ヒ又我國情民度ニ適セサルヘカラス果シテ能ク斯ノ如クナル時ハ上下和合協心勦力國運益隆盛ニ宇内強國ト相對峙シ凌駕スルニ至ルモ亦難ラサルヘシ若シ又之ニ反スル時ハ却テ國家ノ累ト爲リ爲メニ上下ノ乖離ヲ釀シ國勢日々ニ衰憊其弊終ニ言フヘカラサルニ至ラントス伏テ惟ルニ

陛下聰明初メ國會ノ聖詔ヲ發シ玉ヒシ時既ニ宇内ノ大勢ヲ達觀シ時勢民度ヲ洞察シ其大綱業已ニ

宸衷ニ斷シ玉ヒ又當局ノ有司皆其職ニ適ヒ憲法國會ノ章程時ニ及テ創定セラレンコト敢テ信スル所ナリ然レモ上下共ニ之ニ甘從シ之ヲ確守スルノ精神ナキ時ハ向ノ所謂和合決シテ望ムヘカラスシテ却テ乖離ノ媒ト爲ラン上下甘從確守ノ精神ヲ定メントスルニハ宜ク先ツ廣ク朝臣元老ニ諮詢シ衆議ヲ盡シ以テ

陛下ノ宸斷ヲ資クヘシ幸ニ本院議案ノ職ニ備ハル宜ク先ツ法案ヲ本院ニ下附シ審議セシメラルヘシ抑憲法國會ノ如キハ國家未曾有ノ大典ニシテ尋常法律ノ如ク區々タル旬日又ハ數月ノ能ク審査スヘキモノニアラサルハ論ヲ俟タス今ニ及テ速ニ其衆議ヲ盡サ、ルルハ恐クハ時期切迫審議スルノ遑アラサ上下ヲシテ此新設未曾有ノ大典ニ於テ始

メヨリ不滿ヲ懷カシメ終ニ以テ向ノ所謂乖離ノ不祥ニ陷ランコトヲ豈寒心セサルヘケンヤ仰キ願クハ速ニ憲法國會ノ法案ヲ本院ニ付セラレンコトヲ謹テ奏請進止ヲ取ル

○十番大給

本會ハ本案存否ノ決スル所ナルヲ以テ本官曾テ之ヲ贊成セル理由ノ未タ盡

サ、ルモノヲ陳ヘ各位ノ清聽ヲ煩サン憲法ヲ指シテ法律ト稱スルハ各官モ異論ナカラシ然レハ本院ノ之ニ關預スルハ不條理ニ非ス加之知テ言ハサルハ言責アル者ノ任ニ背キ縱令議案ノ下付ヲ請フハ少シク變例ニ涉ルモ法律ノ制定ニ關スル以上ハ之ヲ越權ト謂フ可ラス況ヤ其取舍ハ内閣ノ權内ニ屬シ本官輩之ヲ顧慮スルヲ要セサルオヤ又少シク議題外ニ涉ルモ此ニ一言セン若シ憲法議案ヲ下付セラレサレハ本官ハ八番ノ憲法取調委員勅選云々ノ說ヲ是認ス可シ聞ク嘗テ外國ニモ此說起リシニ獨逸有名ノ學者「グナイスト」之ヲ駁シテ委員ヲ設ケハ憲法可否ノ責此人々ニ歸スレヲ以テ人民ノ騷擾ヲ來ス可シト此說果シテ眞ナレハ「グナイスト」ハ遠ク歐洲ニ在テ八番ノ說ヲ駁セルカ如シ然レトモ本官八番ニ代テ曰ントス此說ヤ彼ニ在テハ適當ナルモ我ニ在テハ不當ナリ萬機親裁ノ國ニシテ臣下ニ下調ヲ命スル例ハ古來少ナシトセス況ヤ事務多端ノ今日出典ノ曖昧ニ成レルヨリ明瞭ナルニ如カス殊ニ勅選委員ニテ之カ稽查ヲ爲セハ世間ニ漏洩ノ恐レ無シ古語ニ曰ク事ヲ敬シテ信ト勅選委員ニ稽查ヲ命スル即チ事ヲ敬スルニ在ルナリ或ハ起草審查ハ斯ル鄭重ヲ要セスト言ンモ陶器ナリ漆器ナリ之ヲ造ルニ元質良好ノモノヲ以テセハ其品位目ヲ高尚ナルト一般學識アリ國家ニ功勞アル人ニ起草審查ヲ任セハ完備ノ憲法ヲ得ヘシ然レモ其委員五七人ニ過キサルハ本官ノ好マサル所ニ

シテ成ル可ク多カラシコトヲ要ス或ハ人員多ケレハ隨テ議論多ク終結ニ難シト言ンモ若シ迅速ノ終結ヲ欲セハ陛下ノ御獨斷ニテ餘リ有リ然レモ憲法ハ人民ノ休戚日本ノ體面ニ關スル最モ大ナルヲ以テ本院ノ審查ニ付セラル、ヲ當然トス冀ハクハ各官ニ於テモ本案ニ同意アラシコトヲ

○二十七番尾崎

木案ノ提出セル理由ハ大略前會ニ陳ヘタレトモ當時缺席セル議員アル

ヲ以テ尙ホ聊カ陳述セン反對者ノ說ニ四アリ第一本案ハ章程第七條ニ抵觸スト第二憲法議案ハ他日必ス本院ノ議定ニ付セラル可シ故ニ本案ハ無要ナリト第三内閣ハ憲法議案ヲ下付スルノ意ナルヤ否未タ知ル可ラサルニ之カ下付ヲ請求スルハ妥當ナラス寧ロ内閣大臣ニ就キ其意見ヲ質スニ若カスト第四我憲法ハ欽定ニテ之ヲ贊助スル内閣大臣ノ在ル有リ吾輩之ニ望慮ヲ要セスト第四說ヲ除クノ外ハ皆本案ノ旨趣ヲ全ク不可ト爲サス章程ノ解釋若クハ手續上ノ意見ヲ異ニセルニ似タリ若シ第四說ノ爲メニ廢案ト爲ルハ已ムヲ得サルモ然ラサルニ廢案ト爲ル如クハ本官並贊成者ハ無論反對者ト雖モ或ハ遺憾ナル可シ因テ試ニ前四說ニ就キ本官ノ意見ヲ陳シ第一說ハ二箇ニ分レ其一憲法ハ章程第七條ニ所謂「新法」云々ニ適合スルモ法案ヲ具ヘス之カ下付ヲ請求スルハ本院ノ慣例ニ反スト爲スト其二憲法ハ特殊ニテ「新法」云々ニ該當セスト爲スニアリ此說ノ非ナルハ學術上最モ見易ク且我黨論者ノ既ニ辯シ盡セルヲ以テ復タ贅セス第一段ノ說ハ頗ル勢力アルニ似タルモ已ニ本院ニ於テ可決上奏セル法律布告式ヲ改ル意見書ノ如キ起草者ハ其初メ章程第七條ニ據リテ之ヲ提出シタルモノタルヤ知ルヘシ况ヤ戶數

割賦課ノ規則ヲ定ル意見書ノ如キモ法案ヲ具ヘス意見書ノミヲ提出セル適例アルヲヤ本條ハ束縛ノ旨趣ニ非ス苟モ法律ニ關スルコトハ本院ヨリ意見書ヲ出スヲ得ヘシトノ旨趣ニシテ本案ハ決シテ之ニ合セスト謂フ可ラス又第二說ノ憲法議案ハ本院ノ請求ヲ俟タス他日必ス議定ニ付セラレ可シトハ之ニ反對スル論者中猶且然ラスト爲ス者アルカ如ク本官モ亦此ニ疑ヒ無キ能ハス然ルニ袖手傍觀シテ下付ヲ俟ツハ不信切タルヲ免レス又第三說ハ頗ル老婆心ニシテ私ニ言フ可ク議場ニ公言ス可キモノニアラス論者ハ會議ヲコトヤヤシク思フモ本院ノ事ハ會議ニ非サレハ決セス是レ其組織ノ然ラシム何ノ憚ルコトカ之レ有ン願クハ一步ヲ讓テ之ニ同意アランコトヲ第四說ニ抗辯セハ所謂水懸論ト爲ルニ依リ之ヲ擱キ良心ノ裁判ヲ請ントス欽定憲法ハ天皇陛下御一人ノ定メ給フモノトハ一種ノ新說ニテ政治學ニモ恐クハ之レ有ルナカラシ以上論スル如ク第四說ノ外ハ皆大同小異ナレハ再考シテ本案ニ同意アランコトヲ望ム若シ文字ノ妥當ナラサルハ改ム可シ駁論アレハ尙ホ辯セン

○二番 清國公張 二十七番ハ本官前會ノ說ヲ誤解セルニ似タリ本官ハ未ダ嘗テ本案ノ大體ニ贊成スト言ハス惟タ二十七番國家ヲ愛スルノ精神ヲ贊成スト言ヒシノミ大體贊成ナレハ修正ノ說モアル可キニ其コレナキハ本官ハ本院ニテ憲法議案ヲ議スルヲ不可トスレハナリ然レトモ方今ノ法律ハ皆欽定ナリト雖モ本院ニテ之ヲ議スルヲ常トス故ニ欽定憲法ト雖モ議スル能ハスト言フ可ラス聞ク各國ニモ之ヲ議スルノ例多シト而テ本官之ヲ不可トスルハ我國體上憲法ノ新定ハ廣ク臣下ニ諮フヲ不可トスルニ出テ内閣ノ曾テ

訓示スル所ヲ見ルモ其意幾ト明カナレハナリ尤モ時來レハ之ヲ議スルモ可ナリ建議スルモ亦可ナリ惟タ今日ハ猶未ダ議ス可キノ時ニ非スト言フノミ其時機ニ至レハ本院其他ノ權限モ確定シ本官等ノ進退モ定ル可シ其未ダ定ラサル間ハ本官等本院章程ニ據テ進退スルノ外ナシ若シ強テ議定セントシ天皇陛下ノ權内ニ議及スル如キアラハ社會ニ何如ナル感覺ヲ生スルヤ知ルヘカラス況ヤ本案ヲ議スルスラ既ニ世論ノ囂々ヲ來タセルヲヤ故ニ本官ハ今日猶未ダ本院ニ於テ憲法議案ヲ議ス可キ時ニ非スト爲セリ若シ議定ニ付セラレハ之ヲ議ス可シ人アリ付セラレ可キヤト否ヤト問ハハ斷シテ付セラレサルト言フノミ

○五十一番 井田 本官ハ前會ニ陳ヘタル如ク本案ノ精神ニ同意ナルモ議案下付ノ請求ヲ爲スニハ不同意ナリ反對者ノ說モ大概本官ニ同シ但タ一二議官ノ言ニ憲法ハ大切ナリ臣下ノ敢テ議ス可キモノニ非スト大切ナレハ愈ヨ博識者ニ諮問スルヲ要ス我皇帝陛下ハ夙ニ天下ノ大勢ヲ達觀シ給ヒ明治八年ニ漸次立憲政體ヲ建ルノ詔ヲ下シ十四年ニ二十三年ヲ期シ國會ヲ開クノ旨ヲ宣言セラレタリ是レ彼ノ第十七世紀ニ於テ撒遜王ノ宣言ニ相類セリ然ルニ當時國人ノ喜ヒ萬國無比ノ賢君ト稱セシニ憲法ノ出ルニ及テ人民ハ其權限ニ就キ意見ヲ異ニシ遂ニ君門ニ迫テ改正ヲ請ヘリト云フ我皇帝陛下ノ聖明ナル我人民ノ純良ナル斯ル覆轍ヲ蹈マサルヤ疑ヒヲ容レサルモ憲法ノ完備ハ普ク望ム所ナリ萬機親裁ニ決スト云フモ臣下ノ議定シテ可ナル部分ハ之ヲ付セラレハ可トス然レハ何人タルヲ問ハス苟モ陛下ノ信用シ給フ者ニ御下問アル可キハ勿論本院ノ如キ

ハ蓋シ適當ノ御下問所ナラン然レトモ之ヲ請求スルハ不可ト爲ス内閣諸公及ヒ本院議官ニモ學識經歷共ニ彼ニ讓ラサル人アレハ八番ノ説ノ如ク一局ヲ設ケ起草委員ヲシテ從事セシムルヲ至當ナリトス若シ二番ノ如キ理由又ハ章程第七條ニ抵觸云々ノミニ依リ廢案ト爲ルアラハ頗ル遺憾ナリ故ニ本官ハ今又本案全部付託調査委員ヲ置クヲ建議ス

○三十五番 津田眞道 本官ハ前會ニ賛成ノ意ヲ略陳シタレトモ今又少シク之ヲ辯セン今日政體ノ最優ナルモノハ立憲政體ナリトハ天下ノ輿論ナリ然ルニ歐米各國ノ外斯ル政體ノ何タルヲ知ラス之ヲ知ルモ實際ニ行フ可ラサル邦國ノミ今日亞細亞洲中歐米ト對峙シ國憲ヲ建ントスルノ希望アル者果シテ幾許カ有ル僅ニ我日本ト清國トノミ安南緬甸ハ佛ニ屬シ印度ハ英ニ領セラレ亞不汗斯且ハ猶ホ野蠻ノ域ヲ脫セス波斯土耳其ノ如キ亦未タ立憲政體ヲ建ル能ハス我帝國モ數十年前ハ鎖國政ヲ爲シ海外ノ形勢ヲ知ラス開港後岩倉大使ノ歐米各國巡視以來大ニ智見ヲ啓キ爾後我人士ノ彼國ニ航スル者日ニ多ク今日廟堂ニ立テ政ヲ執ル人ニシテ彼國ヲ巡視セサル者幾ト希ナリ今ヤ武斷政治ノ襲用ス可ラサル陛下ノ敍慮モ此ニ出テ遂ニ立憲政體ヲ建ルノ聖詔ヲ發セラレタルヤ知ルヘシ抑立憲政體ハ英國ニ始リ尋テ佛獨其他ノ國ニ興レリ其主眼タル第一君主ノ意ニ任シテ租稅ヲ徵收スルヲ得セシメス第二人民ニ言論ノ自由ヲ與ヘ苟モ治安ヲ害セサル限リハ之ヲ拘制セス第三裁判官ヲ獨立セシメ以テ君主專制ノ機關ヲシメス第四營業ノ自由ヲ許ス等はレナリ昔時我國ハ農業ヲ重シ殊ニ米作ヲ尙ヒ故ニ米田ヲ變シ糞澤品ヲ

作ルヲ禁セリ本官少年ノ時水戸家ノ領内ニ米田ヲ變シ紅花ヲ作レル者アリ

○議長 三十五番ニ告ク枝葉ニ涉ル點ハ成ルヘク之ヲ避ケヨ

○三十五番 津田眞道 是レ立憲政體ノ解釋ニ關係シ即チ問題ニ緣故アルモ此上ハカメテ簡單ニ陳述ス可シ却説時ノ郡代人ヲ遣テ悉ク之ヲ苟取ラシメタルニ烈公之ヲ聞キ大ニ其處置ヲ賞美セリト云フ今日ノ思想ヲ以テセハ壓制モ甚タシト謂フ可シ今ニシテ若シ此ノ如クンハ焉ソ能ク國ヲ富シ兵ヲ強フセン即チ漸次立憲政體ト爲ス聖詔ノ出ル所以ナレトモ昔ニ楚夏アリ各國其宜キヲ異ニスレハ均シク人民ニ自由ヲ許スニモ自カラ差ナキ能ハス殊ニ歐洲各國憲法ヲ制定セル多クハ人民ノ要請ニ原ケリ我國ハ全ク之ト異ナリ是レ之ヲ國會ノ議ニ付セス陛下ノ親裁シ給フ所以ナリ然レトモ既ニ萬機公論ニ決ス可シトノ聖詔アリ此公論トハ内閣ノ議定ヲ謂フ乎否今日ハ元老院ノ會議ヲ外ニシテ他ニ之レ有ルヲ知ラス故ニ本官ハ當初以爲ラク本案ハ無要ナリ憲法議案ノ議定ニ付セラルハ疑ヒヲ容レスト然ルニ當議場ニ於テ議定ニ付セサル可シトノ説アルヲ以テ見レハ或ハ内閣ニモ亦斯ル謬説ノ出ルナキヲ知ラス是ヲ以テ本案ヲ賛成セルナリ武斷專制ハ祖宗ノ法ナリ祖宗ノ法ハ千載ニ涉リ天壤ト共ニ窮極ナシト君民共ニ確信セルモ今日宇内ノ形勢ヲ察スレハ歐米各國ノ政體ニ倣ハサルヲ得サルニ到レリ然ルニ獨リ内閣大臣ノミ憲法ヲ議シ本院ヲシテ之ニ干與セシメサルハ斯政體ヲ建ル旨趣ニ背キ畏クモ敍慮ニ戻ラン因テ本院ニ於テ飽マテ審議シ完全無瑕ノ憲法ヲ作ランコトヲ切望ス

○五十番 三浦安 第一讀會ニテ各官ノ辯論モ大概盡キタルカ如シ本官ノ本案ヲ賛成セル理

由モ亦既ニ辯シ盡セリ要スルニ欽定憲法ハ成ル可ク完備ナルヲ希望スルニ依リ其欽定ヲ贊助セント欲スルニ過キス然ルニ本案ハ此マ、ニテハ到底成立セサル可シ幸ヒ五十一番ノ建議アルヲ以テ之ニ同意ス本案ノ成立如何ハ此建議ノ成立如何ニ因テト知スルヲ得ヘキナリ

○五十八番 直島 本官ハ前會ニ缺席セルニ依リ本日ハ充分ニ意見ヲ陳ント欲セシモ大概各官ノ説キ盡セルヲ以テ僅カニ一言セン本官モ五十番ト同シク憲法ハ成ル可ク完備ナルヲ希望スルヲ以テ之カ材料ト爲ルヘキモノハカメテ報聞ニ達スルヲ望メリ然ルニ起草者ハ欽定憲法ト一般法律ト同視スルニ似タルモ法律勅令ハ朕何々ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシムト有リ憲法ヲ公布スルニ方リ其公布文ハ決シテ此ノ如クナラサルヲ信ス何トナレハ是レ陛下ノ勅慮ニ依リテ定マリ或部分ニテ議定シ而ル後チ裁可ヲ經ヘキモノニ非サル可ケレハナリ起草者ノ辯論中憲法ハ或ハ本院ノ議定ニ付セラレ、ヲ知ラスト言ヒシモ蓋シ之カ爲メナラン又論者ハ本院章程ハ意ニ介スルニ足ラスト言ヘルニ似タルモ章程ハ陛下ノ命令ナレハ之ニ服從セサルヲ得ス又其第七條ハ何レニモ解スルヲ得シト言ヘルモ本官ハ本案ノ斷然之ニ抵觸スルヲ確信ス故ニ憲法ノコトハ廟堂ノ重臣ニ御諮詢アリテ然ラントノ建言ナランニハ格別ニ屬シ本院ニテ之ヲ議定ス可キヤ否ヤ又本案ハ第七條ニ合スルヤ否ヤナル問題ニ對シテハ本官ハ否ト答ヘサルヲ得サルナリ

○八番 楠本正隆 本官ハ第一讀會以來數回意見ヲ陳ヘタルニ依リ最早沈黙セント欲セシモ又少シク陳ヘサルヲ得サルニ至レリ是レ他ナシ過刻本案起草者ハ反對說ヲ四種ニ類別シ

一一之ヲ辯駁セシモ本官ノ反對說ハ之ニ入ラス是レ其駁スルニ足ラスト爲スニ由ル乎果シテ然レハ又已ムヲ得ザルモ前會ニ缺席若クハ本官發言ニ際シ離席セル議官アリテ本官ノ論旨猶ホ未タ議場ニ徹底セサリシヤモ知ルヘカラス抑、本案ノ以テ本院章程ニ背戾スルハ本官既ニ之ヲ辯シ五十八番モ亦詳説セリ之ヲ極論セハ欽定憲法ハ皇帝陛下躬ヲ制定シ給フ可キモノナリ然レトモ各官モ知ル如ク憲法ハ一タヒ定マレハ千載易フ可ラサル程ノモノナルニ依リ一ノ取調局ヲ置キ勅選ヲ以テ之カ取調委員ヲ命シ廣ク各國ノ例ヲ參酌シ其草案ヲ作り以テ陛下ノ親裁ヲ仰クヲ可トス但此點ニ關シテハ過刻十番ノ駁論一理アルカ如キモ今ノ元老院ニ在テ憲法議案ヲ議スルハ職權上恐クハ難カラシニ既ニ難シトセハ之カ下付ヲ請求スルモ到底無効ナリ然レハ本案調査委員ヲ設ルモ亦無効ニ歸ス可シ故ニ本官ハ此マ、本案ヲ廢棄シ寧ロ愛國ノ衷情ヨリ私ニ建議ヲ爲スヲ可トス

退席

二十番

岩村 定高

○五十四番 加藤弘之 本官モ前會ニ充分意見ヲ陳ヘタレトモ今又一辯セサルヲ得ス五十八番及八番ノ説ハ之ヲ要スルニ憲法ハ本院ニテ議ス可キ者ニ非ス何トナレハ是レ至重ノ者ナリ一般法律ト同シカラサレハナリト言フニ在リテ其兩説ノ異ル要點ヲ舉レハ八番ハ言フ憲法ハ至重ノ者ナリ陛下躬ヲ制定シ大臣モ關與ス可ラス但其取調委員ヲ勅選シ之ヲシテ草案ヲ作ラシムルヲ可ナリトスト夫レ至重ノ者ハ大臣ニモ諮詢シ元老院ニモ議定セシム可シトノ説ナレハ至當ナルモ至重ノ者ナレハ大臣モ關與ス可ラストハ解スル

能ハス論者ハ何ニ因テ然ク思考スルヤ又五十八番ハ言フ一般法律ノ公布文式ハ朕何々ノ件ヲ裁可シ云々ト有ルモ憲法ハ必ス然ラサル可シ此點ヨリ見ルモ憲法ハ以テ臣下ノ關與ス可キニ非サルヲ知ルニ足ラント説ノ如ク憲法ハ他法律ト公布文式ヲ異ニス可キモ大臣ノ之ニ署名スルヤ疑ヒヲ容レス元來立憲政體ハ我國未曾有ノ者ナレハ其大體ニ於テハ西洋ニ模倣シ幾許カ帝王ノ權ヲ限制スル者ナラン然ラサレハ專制政體ト何ゾ擇ハシテ專制政體ハ西洋ニ在テモ嘗テ一般ニ行ハレ之ヲ立憲政體ニ變ヘタルハ彼ニ在テハ概テ人民ノ強請ニ出ルヲ以テ帝王ノ權ヲ限制シ專ラ人民ノ權ヲ伸暢セリ故ニ其憲法モ民約ナリ本邦ハ然ラス陛下權ヲ割キ人民ニ付與シ給フニ在レハ其憲法ヲ國會ノ議ニ付セス即チ欽定ナリ但欽定ト言ヘルモ陛下制定シ大臣モ關與セス勅選委員ノ之カ材料ヲ蒐集スル如キコトヲ指スニ非ス若シ五十八番及八番ノ説ノ如クハ立憲政體ノ本旨ニ背カン斯政體ハ前陳ノ如ク幾許カ帝王ノ權ヲ限制スルモ之ニ依テ躬ラ政治上ノ責任ヲ負ヒ給ハス何ノ法律ニモ大臣シテ必ス之ニ連署シ以テ其法律施行ノ責ニ任セシム若シ大臣ニシテ之ニ不同意ナルハ署名ヲ辭セサルヲ得ス故ニ帝王ノ位ハ安泰ナリ然ルニ八番ノ説ニ據レハ陛下躬ラ政治上ノ責任ヲ負ヒ給フコトハナリ立憲政體ノ旨趣ニ背馳ス可シ是レ四十八番ノ所謂拜ミ倒シニ爲ス者ナリ然ラハ本官ノ本案ニ對スル意見何如ト云ハシニ其旨趣ハ不同意ナラサルモ章程第七條ニ矛盾スルカ爲メ廢棄スルヲ可トス調査委員ヲ設ルモ此矛盾ハ到底修改スル能ハサル可シト考フルニ依リ是亦同意スル能ハサルナリ。

○八番楠本正隆

本官モ廢案論者ナレトモ五十四番ノ論辯ニ就テハ尙ホ一言セサルヲ得ス抑欽定トハ朕躬ラ之ヲ決ストノ意ニシテ元老院ノ議定ニ付スルハ衆議ニ決スルカ爲メナリ然レハ則チ憲法議案ノ以テ議定ニ付ス可ラサルヤ昭昭火ヲ觀ルカ如シ然ルニ論者ハ陛下躬ラ之ヲ決シ給フニ於テハ立憲政體ノ旨趣ニ背馳スト云フ是レ論者ノ所謂解スル能ハサル説ナリ尤斯政體ハ帝王ノ權力ヲ人民ニ割與スルニ在ルハ論者ノ陳ル如シ本官前ニ憲法ハ陛下躬ラ制定シ大臣モ關與ス可キ者ニ非スト言ヘルハ惟タ極論セルノミ要スルニ本官ノ旨趣タル斯政體ハ本邦未曾有ノ者ナルヲ以テ大臣及ヒ元老院議官等ヨリ幾許名ヲ勅選シ之ヲシテ其草案ヲ作ラシムルハ可ナリ大臣ト雖モ職權上之ニ關與ス可キ者ニ非スト言フニ過キス又論者ハ言フ憲法議案ハ以テ本院ノ議定ニ付ス可キ者ナレハ特ニ其下付ヲ請求スルヲ要セスト自負心モ亦甚シカラスヤ本院ハ決シテ斯ル權カヲ有セス此説ノ如キハ蓋シ本院ノ權限ヲ熟知セサルニ由ルナラン又論者ハ本官ノ陛下躬ラ制定云々ノ説ヲ斥シテ拜ミ倒シニ爲ス者ナリト言フモ欽定憲法ノ性質及ヒ大臣等ノ職權ニ注目セハ論者ト雖モ本官ノ説ノ妄ナラサルヲ知ル可キナリ

○議長 五十一番ノ建議即チ調査委員選定ニ就テハ可否ノ論未タ盡キス且時既ニ午ヲ過ルヲ以テ本日ハ此ニ議ヲ止メ明後二十一日之カ續會ヲ開ク可シ散會セヨ

午後零時四十分閉場

○明治二十年十月二十一日 第二讀會 十九日

議長 大木 喬任
出席議員

三番	永山 盛輝	二十五番	中島 錫胤
四番	石井 忠亮	二十七番	尾崎 三良
六番	宮本 小一	二十八番	原田 一道
八番	楠本 正隆	三十番	本田 親雄
九番	榎村 正直	三十一番	長谷部辰連
十番	大給 恒	三十四番	小畑 美稻
十一番	箕作 麟祥	三十九番	村田 保
十二番	黒田 清綱	四十番	綿貫 吉直
十三番	伊集院兼寛	四十一番	長岡 護美
十五番	大久保一翁	四十三番	田邊 太一
十六番	伊東 祐賢	四十四番	坂本 政均
十七番	壬生 基修	四十五番	時任 爲基
二十一番	税所 篤	四十六番	橋口 兼三
二十二番	中村 正直	四十八番	鳥尾小彌太
二十四番	大迫 貞清	四十九番	神田 孝平

午前第九時五十五分開場

五十番	三浦 安	六十一番	楫取 素彦
五十二番	由利 公正	六十二番	渡 正元
五十三番	福羽 美静	六十三番	渡邊 驥
五十四番	加藤 弘之	六十五番	西 周
五十五番	調所 廣丈	六十六番	鶴田 皓
五十六番	林 友幸	六十七番	吉田 清成
五十七番	神山 郡廉	六十八番	岡内 重俊
五十八番	鍋島 直彬	六十九番	上杉 茂憲
五十九番	長松 幹	七十番	東久世通禧

○議長 本日ハ號外第四十一號意見書第二讀會ノ續キ會ヲ開ク

○二十七番^{尾崎} 本案ニ對シ前會ニ於テ種々ノ反對說アルモ其說甚錯雜ニシテ瞭解シ難キモノ多シ反對者中本案ヲ以テ章程ニ適合セス且其主意モ穩安ナラスト言ヒ其說ハ某官ヨリ之ヲ駁撃シタレモ本官ハ猶ホ進テ辯駁セントス反對者言フ憲法ハ天皇陛下ノ親ヲ欽定シタマフ所ニシテ臣下ノ喙ヲ容ル可キニ非スト是即チ我邦ニ於テハ何事モ陛下ノ親ノ慮ノ儘ニス可シト云フノ意ナラン然ルニ十四年ノ聖詔ニモ「在廷臣僚ニ命シ假スニ時日ヲ以テシ經畫ノ責ニ當ラシム」トアリテ元老院ノ如キハ經畫ノ責任ニ當ル可キヲ勿論ナリ陛下ノ親慮ニ任シ臣下ヨリ喙ヲ容ル可ラストハ此レ憲法ヲ神明ニスルモノニ

シテ古昔ニ在テハ貴重ス可キノ説ナランモ今日ニハ適セス彼ノ摩西ノ西乃山ニ於テ天
 帝ヨリ十戒ヲ傳授セラレタリトハ當時ノ猶太人ニハ適當ナルモ我邦ノ人民ニハ適セス
 猶ホ今日ニ在テ憲法ヲ神聖視スル如キハ某官ノ言ノ如ク所謂崇ミ倒シニスルモノナリ
 況ヤ陛下ノ元老院ヲ置キタマヒ天下ノ事ハ衆議ニ付スルノ聖意ニ背クヲヤ重要ナル憲
 法ヲ只陛下ノ私慮ニ任シ我輩議官ハ沈黙シテ成ルヲ俟ツ可シトハ何等ノ謬見ソヤ憲法
 ノ良否ハ實ニ天下ノ安危ニ繫リ我輩議官タル者之ヲ不問ニ置キ畏クモ陛下ノ聖意ニ背
 キテ可ナランヤ又某官ハ從前ノ法案ハ本院ノ議定ヲ經タル後陛下ノ裁可シタマフ所ナ
 レ正憲法ニ至テハ陛下親ラ決定シタマヒ他ノ法案ノ如ク元老院ノ議定ニ付スルコトナカ
 ル可シト云フモ十四年ノ聖詔ニ「朕自ラ衷ヲ裁シ」云々トアリ是レ臣下ヨリ奏上セシ者
 ニ就テ裁決シタマフコトニシテ決シテ陛下御一身ヲ以テ制定シタマフノ意ニ非ルコト明カ
 ナリ各官若シ虚心平氣ヲ以テ此案ヲ視ナハ決シテ異論アル可キニ非ス憲法ハ二十三年
 國會開設マテニハ必ス發布ス可ク其時期ハ今ヨリ僅カニ二年ノ後ニ迫リタレハ本官ハ
 成ル可ク早キニ及テ之ヲ議決センコトヲ期望スルナリ然ルニ章程ヲ盾ニシテ本案ニ抗拒
 セントスルハ甚解ス可ラス且章程ニ據テ之ヲ徵スルモ本案ハ毫モ差支アルヲ見ス今之
 ヲ證センニ明治十二年ニ本院ヨリ戸數割賦課ノ規則ヲ定ムルノ意見書ヲ奏上セシコトア
 リ其意見書ノ案文ハ「謹テ按スルニ明治十一年第十九號布告地方稅規則第一條中ニ營業
 稅并雜種稅及戸數割ノ目ヲ掲ケ而シテ同年十二月地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制
 限ノ儀並地方稅中戸數割ノ儀布告案ヲ以テ本院ノ議定ニ付セラル本院既ニ議定シテ之

ヲ上奏セリ其營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限ノ儀ハ同月中ニ布告セラレ戸數割ノ儀ハ未
 タ布告セラレ目今各府縣ノ戸數割ヲ賦課スルヲ視ルニ各府縣皆其方法ヲ殊ニシ甚タ
 シキハ各區各郡其方法ヲ殊ニシ隨テ其賦課ノ輕重均一ナラス此ノ如キハ他ノ稅額ニ制
 限ヲ設ル所以ノ意ニ負キ恐クハ政府ノ本意ニ非サラン此弊ノ由テ生スル所ヲ考フルニ
 蓋シ戸數割ニ付キ一定ノ規則及ヒ制限ナキニ出ツルナリ冀クハ速カニ戸數割賦課ノ規
 則及ヒ制限ヲ定メ以テ之ヲ布告セラレンコトヲ謹テ裁可ヲ乞フニ云々是レ即チ早ク戸數
 割ノ規則及ヒ制限ヲ定メ布告アランコトヲ奏請シタルナリ凡ソ此ノ如キ意見書ヲ奏上シ
 政府之ヲ可トスレハ案ヲ立テ、本院ニ下付スルヲ例トス本官ノ提出セシ此意見書モ早
 ク憲法ヲ制定シテ本院ニ下付アランコトヲ請フニアリテ彼ノ戸數割ノ意見書ト毫モ異ナ
 ルコトナシ然ル上ハ大體ニ同意ナル議官ハ小處ニ拘泥スルヲ止メ虚心平氣ヲ以テ此案ニ
 賛成センヲ望ム若シ章程ニ適合セサル所文章ノ不妥ナル所アラハ幸ニ全部付託調査委
 員ヲ置キ十分ニ修正セラレンコトヲ請フ因テ聊カ陳辯ス

出席

二番

清岡 公張

五十一番

井田

讓

○八番 楠本 正隆

先會ニ於テ意見ヲ陳述セシモ猶ホ餘意ヲ補ハントス本官ノ此意見書ニ反對
 セルハ起草者カ難スル只臣下ノ關係スル所ニ非スト云ヘル簡單ナル意思ヲ以テスルニ
 非ス憲法制定ニ就キ陛下ノ臣僚ニ下問シタマヒ其計畫ノ責ハ臣下ニ在レ正元老院ノ職
 務ニ照シ多數決ヲ以テ之ヲ議定スヘキモノニ非ス論者ハ杞憂ノ餘リ陛下御一身ニテ制

定シタマフハ何如ト云フハ是實ニ老婆心ニ過キス詳カニ本院ノ職權ヲ考察スレハ決シテ此意見書ヲ提出スルヲ得ス何トナレハ本院ノ議官ハ内閣ノ相談役ニ非ス多數ヲ以テ事ヲ決シ其決議ハ一定シテ動かカスヲ得サレハナリ恐クハ元老院ノ職權ヲ以テ憲法ノ下付ヲ請フハ陛下欽定ノ旨趣ニ背戾セン故ニ若シ全ク陛下ノ御參考ニ供セントノ意ナレハ一個人士ノ資格ヲ以テ意見書ヲ奏上スルヲ可トス元老院ノ多數決ヲ以テ之ヲ奏上スルハ不可ナリ本官ハ徒ラニ憲法ヲ神明視スルニ非サルナリ以上鄙意ノ在ル所議場ニ貫徹セシト考レハ陳辯ハ此ニ止ム

○三十九番保村田 第二讀會ニハ沈黙セント欲セシモ各官ノ論辯中往々誤謬アルヲ免カレサルニ似タリ立憲政ニ於テハ天子自ラ裁決スルニ非スト云ヒ或ハ欽定憲法ナレハ臣下ノ議ス可キモノニ非スト云ヒ或ハ憲法ヲ設クルノ國ニ於テハ其責任ハ内閣ニ在リテ天子親ラ憲法ヲ裁定ストセハ過失ヲ天子ニ歸スルニ至ルト云ヘリ是孰レモ見解ヲ誤リタルモノトス成程立憲國ハ政治上ノ責任ハ内閣ニ在ルニ相違ナキモ必ス立憲國ノミ然ルトセス見ヨ現今ノ日本ハ立憲國ニ非ス又支那及朝鮮ノ如キ孰レモ立憲國ニ非スト雖モ政治上ノ責任ハ天子ニ非スシテ宰相ニ在ルヲ本官ハ既ニ第一讀會ニ於テ述ヘタル如ク憲法ノ本院ニ下付アルハ必然ナレハ奏請スルヲ要セス之ヲ奏請スルハ政府ヲ疑フニ似テ事ニ於テ穩當ナラサルナリ日本ノ憲法ハ何如ニ制定スルカヲ知ラサレモ必ス則テ歐洲ニ取ルナラン若シ既ニ國會ノ設ケアラハ之ヲ國會ニ付シテ議セシメサルヘカラス本官先年官命ヲ奉シテ普漏西ニ渡航シ彼國ノ碩學「グナイスト」氏ニ憲法ノ事ヲ質問セシ

ニ立憲政體トハ君主專制ニ對スル語ニシテ即チ君主人民政ヲ共ニスルノ意ナリト言ヘリ歐洲ニ於テモ古ヘハ立憲ノ政體ニ非ラス立憲ハ英吉利ヲ初メトシ是レヨリ各國ニ波及シ一千八百二十年ヨリ三十年ノ間ニ佛蘭西白耳義ニ憲法ノ設ケアリ尋テ普國ハ人民ノ請求ニ依リ一千八百四十八年五月二十一日ニ憲法制定ノ爲メニ二十二人ノ委員ヲ設ケ「ウアルデック」氏委員長ト爲リ日夜勉強シテ終ニ同年七月二十四日ニ於テ草案ヲ編成シ同年十二月五日之ヲ國會ノ議決ニ付セシニ議員中種々ノ動議アリテ容易ニ一定セス千八百五十年ニ至テ漸ク之ヲ布告セリ然ルニ若シ憲法ヲ元老院ノ衆議ニモ付セサル如キアラハ日本ハ立憲國ト爲スヲ得ス立憲ハ人民ニ政權ヲ分與スルニアリテ歐洲諸國皆然ラサルハナシ我新刑法ニ於テ「ポアツナート」氏ノ草案ニハ政權ノ文字アリシニ日本ハ未タ立憲國タラサルヲ以テ審査局ニ於テ此文字ヲ削除セシコトアリ若シ立憲國トセハ政權ヲ人民ニ分與スルハ固ヨリ當然ナリ然ルニ憲法ハ天皇陛下ノ親裁シタマフ所ニシテ臣下ノ議ニ與ル可キ者ニ非ストセハ是レ立憲國ニ非スシテ專制國ナリ是レ「グナイスト」ノ言ニ依テ明瞭ナリトス故ニ本官ハ憲法案ノ本院ニ下付アルハ確信シテ疑ハサルナリ

出席

七番

六戸

璣

○五十番三浦安 只今三十九番ハ歐洲ノ例證ヲ舉ケテ立憲政體ノ事ヲ論辯シタルモ此等ノ事ハ其關係スル所至テ廣ク西洋ノ學者中ニモ各其說ヲ異ニス未タ一人ノ說ヲ以テ他ヲ概スルヲ得ス且其說タル根源ニ遡ルニ過キテ却テ本案ニ適切ナラサルモノト信ス願フ

ニ日本ハ自ラ日本ノ國體人情ヲ存ス必スシモ全然則テ英獨ニ取ル可キニ非ス彼此ヲ參考シ我邦ニ近キ者ニ就テ取捨折衷スルヲ要ス我邦ニ於テハ何如ナル種類ノ立憲制ヲ設クルヤ未タ知ル可ラサル今日ニ方立憲政體ハ必ス此ノ如クス可シト斷言スルヲ得サルナリ立憲政體ニ就テハ字内ノ學者各見ル所アリテ未タ一定ノ說アルヲ聞カス畢竟三十九番ノ說ハ只自己ノ一家言ニ過キス若シ其根源ニ遡リ甲乙相討論セハ遂ニ究極スル所ナカル可シ我邦ハ十四年ノ聖詔ニ依リ二十三年ニ國會ヲ開設セハ隨テ制度ヲ變更セサルヲ得サレモ其以前ニ在テハ純然タル君主專制ノ國體ナリ若シ今日ニ在テ憲法ハ必ス元老院ノ議定ニ付ス可シト云ハハ君主專制ノ旨趣ニ背戾セン抑々日本ハ古來君主獨裁ノ國ニシテ今ヤ畏クモ聖天子ノ敍慮ニ出テ立憲政體ト爲サントスルハ深ク字内ノ形勢ヲ考察アラセラレ國民ノ進度ニ應シテ之レニ適當スヘキ政權ヲ分與セント欲スルニ在リテ歐洲各國ノ如ク人民ノ脅迫ニ依リ已ムヲ得ス立憲制ニ改メシモノトハ全ク其旨趣ヲ異ニス然レハ憲法ハ其取調ハ臣僚ニ命スルモ聖天子ノ親ヲ欽定シタマフ所ナルヤ明カナリ只我輩議官ノ杞憂ヲ抱ク所以ハ御親裁アラセラレルノ際完全無疵一ノ遺漏ナキヲ欲スルノ意ニ過キスシテ是亦獻芹ノ微忠臣下當然ノ所爲ナリト雖モ我邦ニ於テ憲法ハ必ス元老院ノ議定ニ付ス可キモノト云フノ理ハ決シテ之レナキナリ佛蘭西獨逸ノ憲法ト其成立ヲ異ニスルハ固ヨリ當然ナルノミナラス日本ノ國體ニ於テ自ラ然カセサルヲ得ス然ルニ歐米ノ憲法ヲ引テ我邦憲法成立ノ當否ヲ論スルハ其正鵠ヲ得タルモノニ非ス本官ハ敢テ此等ノ論ニ抵抗セサルモ徒ラニ各自其是トスル所ヲ執リ毫モ國體ノ

何如ヲ願ミサルハ尤モ遺憾トスル所ナリ思フニ我邦ニ於テ立憲政ヲ施行スル上ハ彼此ノ權限モ自ラ確定スヘシ其迄ハ諸事聖天子ノ敍慮ニ出ツヘキハ言ヲ待ス但三十九番ノ言ヘル縱令君主專制ト雖モ政治ノ責任ハ宰相ニ在リトハ古今ノ格言ニシテ動かカス可ラス若シ立憲政體ノミ宰相ニ責任アリテ君主專制ハ責任ヲ君主ニ歸ストセハ昔時佛國ノ帝「ルイ」十六世カ議院ノ糾彈ヲ受クル如キノ逆亂ヲ來スニ至ルナキヲ保タス是立憲政體ノミ宰相ノ責任ヲ負フノ不可ナルヲ見ルニ足ラン偕本官ハ強テ本案ノ維持說ヲ唱フルニ非ルモ憲法上ノ學說ニ涉ル如キハ啻ニ此案ノ旨意ニ離隔スルノミナラス數十日討論スルモ究極スルコトナカルヘシ因テ成ル可ク論ノ學理ニ涉ルヲ止メ本案ニ親密ナル討論アルヲ望ム

○十一番 議作 本官ハ本會ニ於テ未タ一回ノ發言モセサリシカ今ヤ本案ノ反對論者ニ向テ一言セサルヲ得サルニ至レリ論者ハ前會ニ十四年ノ聖詔ニ朕自ラ之ヲ決スヘシトアルヲ以テ之ヲ極論スレハ内閣大臣ト雖モ之レニ干與スル能ハスト云ヘルモ其干與スル能ハサルノ意ハ聖詔ノ文中ニ見エサルナリ又憲法ハ特別委員ヲ設ケ其調査ヲ爲サシメ陛下之ヲ親裁シタマフ可シト云ヘリ本官謹テ十四年ノ聖詔ヲ拜讀スルニ「朕親ラ衷ヲ裁シ」トアリ又「在廷ノ臣僚ニ命シ」云々トアリテ在廷臣僚ト云ヘハ在野ノ人ハ舉クルコト無カル可キモ我元老院議官ノ如キハ即チ在廷ノ臣僚ナラスヤ然ルニ憲法ハ元老院ノ議定ニ付セスト云ヘル何ソ其言ヲ謬ルノ甚キヤ又元老院ハ一ノ團結體ナレハ各人各箇ニ意見ヲ出ス可ラス其團結體ノ意見ヲ以テ元老院ノ意見ト爲スハ至當ノ事ナリ反對論

者ハ各人各箇ニ内閣ニ向テ意見書ヲ提出スルハ可ナリ多數決ヲ以テス可ラスト云フハ何事ツヤ又憲法ノ事ニ就キ三十九番ハ獨逸國學士ノ言ヲ引キテ陳辯シタルニ五十番ハ之ヲ非トシ此ノ如ク學說上ニ涉ルルハ數百十日ニ涉ルモ議了スルヲ得スト云ヘルモ本官ハ縱令數月ニ涉ルモ充分ナル討議ヲ盡シ憲法ノ如何ナル者ナルヤ明瞭ナラシメサル可ラスト爲ス前會ニ五十四番カ憲法ノ事ヲ説キタルハ最モ分明ニシテ其中立憲政體ハ責ヲ宰相ニ歸スト云ヘリ然ルニ立憲政體ト雖モ君主其責任ヲ負ハサルニ非ス即チ佛國第三世那破翁ノ如キ責任ヲ宰相ニ歸セスシテ自ラ之ヲ負ヒタリ然レハ立憲政ハ概シテ君主ニ責任ナシト云フヲ得ス又某官ハ在廷ノ臣僚ニ諮詢セスシテ陛下ノ御獨斷ヲ以テ憲法ヲ制定シタマフトキハ立憲ト稱シ難シト云ヘルモ既ニ自ラ憲法ヲ定メ裁制ヲ付スル上ハ立憲タルニ相違ナシ同一憲法ノ内ニテ英語「コンスチテューション」ハ人民ニ諮詢スルコトニシテ「チャーター」ハ天子親ラ憲法ヲ定メ自身ヲ裁制スルナリ既ニ憲法ト爲シテ公布セル上ハ縱令天子ノ獨制ナリトモ妄リニ收銷スル能ハス故ニ歐洲ニ於テモ君主ノ獨制ナルヲ以テ憲法ト爲ス可ラストノ説ハ決シテ之レナキナリ然ルニ陛下ノ聖詔ニ「在廷臣僚」云々トアリテ今日ノ情況ヲ考フレハ新タニ日本ノ憲法ヲ制定スルニハ自ラ歐洲諸國ノ制度ヲ參酌セサルヲ得サレハ之ヲ臣僚ニ諮詢スルヲ要シタマフナルヘシ既ニ臣僚ニ諮詢ストセハ我輩議官ハ素ヨリ陛下ノ臣僚ナレハ本院議定ニ付セラルルハ言ヲ俟サルナリ又某議官ノ憲法ハ至重至要ニシテ尋常ノ法律ニ異ナレハ元老院ノ議定ヲ經可ラスト云ヘルハ大ニ事理ヲ顛倒スルモノナリ何トナレハ憲法ハ至重至要ナ

レハコソ元老院ニ下付スル當然ナレハナリ本官ハ愈ヨ此意見書ノ必要ナルヲ感シタリ則チ至重至要ノ憲法ヲ一朝一夕ニ議定ス可キモノニ非レハ一日モ早ク下付アリテ十分ニ審查討議スルノ餘日ヲ與ヘラレンコトヲ請フニ何ノ躊躇スルコトカ之レ有ラン各官若シ文章ノ不妥ナル所ヲ認メハ十分ニ之ヲ改正スルモ可ナレハ本案ノ旨意ニハ賛成アラシコトヲ望ム

○四十八番 尾小 彌太

此意見書ニ對シ賛成者反對者互ニ議論アリテ最早一通リ論議ノ盡キタル場合ニ至リタリト思考スレバ猶ホ本官ノ意見ヲ陳述セントス此案ハ甚紛雜解シ難キ者ノ如ク論スルモ至要ノ點ヲ云ハハ只此意見書ハ本院ノ章程第七條ニ適スルヤ否ヤト本院ヨリ上奏スヘキモノナルヤ否ヤトニ過キサルヘシ願フニ從前此等ノ事ハ往々之レ有リシナランニ此意見書ニ限リテ提出スル能ハスト云フハ拘泥モ亦甚シカラスヤ或ハ憲法ハ欽定ナルヲ以テ元老院ノ議定ヲ經可キモノニ非スト爲ス如キハ尤モ曖昧模糊ノ説ニシテ遂ニハ欽定ノ理義ヲ調査セサレハ議事ヲ爲ス能ハスト爲シ自ラ紛雜ナル理窟ニ陷ルモノニ似タリ世間普通ノ見解ヲ以テスレハ欽定トハ天子親ラ制定スルト云フニ非ス欽定ノ文字ヲ附スヘキモノモ皆臣僚ヲシテ審查編制セシムルナリ即チ帝王タル者法制ヲ定ムルニ當リ臣僚ヲシテ十分ニ討議ヲ盡シテ編制セシメ其成ヲ告ケ之ヲ施行スルニ方リテ欽定ノ文字ヲ附スルナリ凡ソ邦土ハ君主アリ臣民アリ相俟テ國ヲ成スモノニシテ君主獨リ國ヲ治ムルニ非ス即チ君主ハ一國ノ主宰ニシテ之ヲ人身ニ譬レハ君主ハ頭腦ノ如ク臣民ハ支體ノ如ク互ニ相離ル可ラサルモノトス然ルニ某官ハ立憲政體ト

爲リシ上ハ兎モ角モ其迄ノ間ハ總テ天子ノ敍慮ニ出ツ云々ト言ヘルモ若シ果シテ諸般ノ政務悉ク天子ノ敍慮ニ出ツトセハ百官有司ハ無用ナラン苟モ俸祿ヲ食ム以上ハ國政ニ干與スルハ至當ノ事ナリ或ハ又臣子ノ分トシテ喙ヲ容ル可ラスト云ヘルモ此レ一般ノ人民ニ於テ言フ可ク官職ニ居リ俸祿ヲ食ム者ノ言フ可キコトニ非ス我々ハ元老院ノ議官ナリ國家ノ制度ニ對シテ何事カ議スルヲ得サルモノアラシ古來君臣ノ間國事ノ議論相合ハサルトキハ臣下ヨリ其君ニ諫争セシ例ノ少ナカラサルハ各官ノ明知スル所ナリ然ルヲ君ニ對シテ爲ス可キコトニ非ストハ管ニ無用ナルノミナラス食祿ヲ受クル者ノ尤モ忌避ス可キ論辯ナリトス八番議官ノ憲法ハ元老院ニ於テ議ス可ラス別ニ委員ヲ置テ審議ス可シト云ヘルモ亦解ス可ラス何トナレハ議官ハ現ニ政法ヲ議ス可キ職權ナルニ之ヲ議スル能ハストハ其職權ノ何物タルヲ知ラサル論ナレハナリ又元老院ニ於テ議決シタルモノハ天子モ之ヲ動カス能ハスト言ヘルハ何ノ國ノ例何ノ道理ニ因リテ然ルヤ本院ノ章程中ニハ曾テ見サル所ニシテ杜選モ亦甚シト云フヘシ此ノ如キ順序ナキ議論ヲ爲サハ或ハ陷テ裏店ニ住居セル婦女子ノ井戸端會議ニ類スルナキヲ得ン彼ノ諸寺ノ門前ニ建設セル標石ニ不許葦酒入山門ノ文字ヲ酒ヲ嗜ム僧アリ葦酒ヲ許サス酒山門ニ入ルト讀ミタリト云フコトヲ聞キシカ此章程ニ對スル議論モ亦粗之ニ類シ各自各様ノ見解ヲ下ストキハ恐クハ論議ノ盡クル時ナカラシ故ニ本官ハ此際本院ノ章程ハ何如ナルモノナルヤヲ討究スル爲メニ調査委員ヲ置キ十分ノ明解ヲ與ヘンコトヲ望ム章程ノ精神ヲ内閣ニ聞合ハストモ當時ノ起草者ハ今仍ホ何レニ在ルヤ否ヤヲ知ル可ラス假令知ルヲ

得ルモ一子相傳ノ法ニ非レハ本院ニ於テ不明ナリトスルコトハ内閣モ同シク不明ナラン然レハ本院ニ於テ自ラ十分ニ解釋ヲ下ササル可ラス本官ハ此意見書ハ章程ニ反セサルモノト信ス願フニ元老院ハ十六年太政大臣ノ達ニハ立法官トアルモ章程第一條ニハ議法官トアリ若シ元老院ヲシテ西洋文明國ノ如ク立法官タラシメハ自ラ法案ヲ具シ君主ノ裁可ヲ請フヘキモ章程第七條ニ據リ新法舊法云々即チ國法ニ對シ此ノ如ク舊法ヲ改正スヘシ又ハ此ノ如キ新法ヲ設クヘシト意見書ヲ提出スルヲ得ルニ過サルハ是元老院ハ議法官ノ性質ニシテ其立法ノ權ハ内閣ニ在レハナリ其立法ト議法官ノ區別ハ全ク第七條ニ在テ存ス然レハ議法官ナルヲ以テ新法ノ制定舊法ノ改正ニ付意見書ヲ提出スルヲ得ル以上ハ憲法ニ對シテ意見書ヲ提出スルハ當然ナリ然ルニ之ヲ提出スルヲ得ストハ何等ノ理由アリテ然カ云フヤ反對論者ノ如キハ國政ヲ君主ノ神聖權ニ任ス可シト爲シ自己ハ袖手傍觀セントスルニアルカ苟モ國法ト爲ス上ハ君主モ朝ニ令レタニ改ムルヲ好マス國法ハ百官有志ハ勿論一般ノ人民ニ至ルマテ謹テ遵奉セサル可ラス是レ立法官議法官アリテ丁寧反覆之ヲ調査審議スルノ必要アル所以ナリ犬猫同様ナル野蠻國ナレハ兎モ角苟モ道理ノ存スル邦國ナラハ之レカ臣僚タル者ハ務メテ政治上ニ心ヲ用ヒサル可ラス况ンヤ其職ノ議法官タルニ於テヤ若シ何事モ天皇陛下ノ御意見ニ任ス可シト云ハ、先キニ伊藤總理大臣モ故サラニ獨逸ニ航シテ彼國ノ制度ヲ調査スルヲ須井ス又政治上ノ顧問者ヲ遠ク獨逸ヨリ聘スルニ及ハサルヘシ然ルニ彼國ノ制度ヲ調査シ彼國ヨリ顧問者ヲ聘スルモノハ是國法ノ至重ニシテ苟モス可ラサルヲ以テナリ本官ノ此

案ニ對スル意見ハ此ニ止ムヘキモ猶ホ一言ス可キアリ人或ハ本院ヨリ此ノ如キ意見書ヲ提出スルハ俗ニ謂フ我田ヘ水ヲ引クト一般ナルカ如ク思フ者アランモ此レ政治ノ大體ヲ洞察セサルモノナリ本官ハ職議官ニ在ルヲ以テ特ニ贊成スルニ非ス今ノ時ニ方リ本院ヨリ之ヲ提出スル決シテ不都合ヲ見サルナリ本官曩キニ明治十四年陸軍ニ在リシトキ既ニ同僚三浦谷等ノ將校ト共ニ立法行政司法ノ三大權ニ付政府ニ建言セシコアリ其事タル陸軍ニハ關係ナキモ憂國ノ衷情已ムヲ得サルニ出テタルナリ今其文ヲ朗讀セシ臣等側ニ聞ク頃日朝廷漸ク公論ヲ採取シ國憲ヲ創立スルノ議アリト是誠ニ無上ノ盛舉ナリ臣等豈喋々トシテ喙ヲ其間ニ容ル、コヲ得ンヤ然ルニ今上書シテ愚陋ヲ陳スル者ハ目今天下ノ形勢ニ於テ大ニ憂苦スル所アルカ故ナリ請フ之ヲ左ニ陳セン今日政府ノ組織頗ル其大體ヲ失シ古今内外ノ制度ニ於テ未タ其類例ヲ見サルカ如シ何トナレハ立法行政司法ノ三大權盡ク之ヲ内閣ニ統ヘ親政ノ名アリテ其實ナケレハナリ天下臣民ノ疑惑ヲ生スル所以ノモノ職トシテ之ニ由レリ請フ速ニ元老院ニ立法ノ大權ヲ委シ陛下親臨シテ法令ヲ議セシメ其決スル所ニ由テ之ヲ親裁シ以テ之ヲ内閣ニ附シ施行セシムルノ制ニ改メタマハントコヲ特ニ願クハ速ニ國憲創立議會ヲ元老院中ニ開設シ特命ヲ以テ各府縣會議員若干ヲ徵召シ此議會ニ列セシメ以テ國憲ヲ制定シ永世不拔ノ國基ヲ立テ民心ヲシテ歸着スル所アラシメンコヲ云々此建白書タル本官ハ全ク局外ニ居テ提出シタル者ニシテ即チ立憲ノ主意ニ本キ元老院ニ立法ノ大權ヲ委シ且府縣ヨリ委員ヲ徵召シテ憲法ヲ審議セハ可ナラント云フニ在リ是レ廣ク公議ヲ採ルノ主意ナ

リ此事ハ既ニ七年ヲ經過セシモ今日本官ノ意ハ昔日ト異ナルナシ然レハ各議官モ徒ニ小事ニ拘泥セス廣ク政治ノ大體ニ注目シ本案ノ大意ヲ可トシ贊成アラント望ム

○六十八番 重内 本官モ調査委員ヲ置クヲ贊成ス先會ニ本案并第四十二號意見書ニモ不同意ナル旨ヲ述ヘタリ元老院ノ權限ハ章程ニ於テ明載セルヲ以テ疑惑ヲ生スヘキ筈ナキニ各官中往々見解ヲ異ニセリ此レ畢竟立法ノ權ヲ擴張スル意ヨリ此ニ至ルナランモ明治八年ニ定メタル章程ノ今日ニ至テ不明瞭ナル點ヲ生スルハ實ニ不可思議ナリ此等ノ議論ニシテ本院ノ議事録ニ上ルトキハ本院ハ勅任官ノ退隱所ナリト言ハル、モ之ヲ辯解スルヲ得スシテ笑ヲ後世ニ遺サン本官ハ將來章程ニ就キ此ノ如キ事ナキヲ欲スルヲ以テ調査委員ヲ設ケ十分ニ章程ノ主義ヲ審查シ明確ナラシメンヲ欲ス

○議長 六十八番ハ四十八番ノ章程ヲ取調フルコトニ贊成スト述ルモ四十八番ノ章程ヲ審查ス可シ云々ノ說ハ建議ニ非スト認ム設令建議ナルモ本席ニ於テハ規則ノ據ル可キナキヲ以テ之ヲ採用セサレハ贊成スルモ無益ナラン

○六十八番 重内 四十八番ノ說ハ議事筆記ニ留マリシナラン確カニ調査委員ヲ設ケ章程ヲ明確ナラシメント云ヒタルカ如シ

○議長 本席ニ於テモ其說ハ之ヲ聞ケリ然レトモ採用セス

○六十八番 重内 議長ニ於テ採用セサレハ強テ望マサルナリ

○二十七番 尾崎 本官ノ意見書ニ對シテハ各官ノ論已ニ盡キタル如ク最早議長ニ於テ決

ヲ取ルノ場合ニ至リタリト信スレハ之ニ先チ尙ホ又一言セン只今四十八番カ章程第七

條ノ解釋ハ大ニ將來權限ニ關係スルヲ以テ充分ノ調査ヲ爲シ意義ヲ明確ナラシメン爲
 メニ調査委員ヲ置カント云ヘルハ特別ノ建議ト認ム此レニ對シテ六十八番ノ賛成モ之
 レアリ然ルニ本案ヲ議スルノ傍ラ章程ノ解釋ヲ定ムル如キハ其當ヲ得サレハ本案ヲ決
 スル前テ先ツ章程ノ調査ヲ爲シ凡ソ國法ニ關スルコトハ何事タリトモ本院ニ於テ議ス可キ
 ヤ否ヤヲ明確ナラシメンヲ欲ス四十八番ハ章程第七條ハ何如ナル意義ヲ以テ設ケシヤ
 不明ナリト云ヘルモ此章程ヲ設クルノ際大久保木戸板垣伊藤ノ四參議其取調ノ命ヲ受
 ケ本官ハ之カ書記タリシ然ルニ當時ノ衆議ニ於テハ決シテ今日某官ノ論スル如キ陝隘
 ナル區域ニ止ムルノ意ニ非ス大藏省ノ出納地方官ノ職務等行政部内ニ在ル者ヲ除クノ
 外凡ソ法律ト爲ルモノハ其種類ノ何ニタルヲ問ハス元老院ノ職權ニ於テ之ヲ議スルヲ
 得ルノ意ナリ然ルニ第七條ノ文字ニ拘泥シテ言ハント欲スルコトモ默止スルハ自ラ權限
 ヲ狭ムルモノナリ故ニ四十八番ノ言ノ如ク先ツ章程ノ意義ヲ明確ナラシメ然ル後本案
 ヲ議スルヲ至當トスルナリ又某官ノ言ニ元老院ニ於テ議決シタルコトハ陛下モ内閣モ之
 ヲ動かスヲ得スト云フハ甚解ス可ラス是レ章程ニモ實際ノ慣例ニモ決シテ之レナキナ
 リ然ルニ此ヲ以テ口ニ藉キ本案ヲ排斥スルノ手段ト爲スハ尤モ領會スルヲ得ス憲法ハ
 元老院ニ於テ多數ノ議決ニ付ス可ラスト云フモ多數ニ決スルハ本院議事ノ體制ナリ是
 レ其組織ノ然ラシムル所ナリ既ニ此組織ヲ以テ成立セル元老院ナル上ハ至大至重ナル
 憲法ニ對シテハ固ヨリ多數決ヲ以テ意見書ヲ奉呈スルヲ至當トス然ルニ沈黙シテ憲法
 ノ何如ヲ願ミサルハ言責アル者ノ爲ス可キ所ニ非ス故ニ本案ヲ内閣ニ提出スルトモ内

閣ハ決シテ不當ト爲シテ之ヲ斥クルコトハ萬之レアル可ラス因テ本官ハ此案ニ對シテ
 調査委員ヲ置カントスル五十一番ノ建議ニモ同意スレハ併テ一言ス

○議長 二十七番ニ告ク只今ノ發言中本院章程ニ對シ調査委員ヲ設ルヲ賛成スト云ヘル
 モ此レハ本席ニ於テ採用セス本案ノ全體ニ關スル調査ナレハ之ニ就テハ衆議ニ問ヒ決
 ヲ取ラントス又四十八番ニ一言ス先キニ章程ニ對シ調査委員ヲ設ケント言ヒシハ建議
 ノ思考ナリシヤ設令建議ナルモ本席之ヲ採用セス最早討議モ盡キタリト認メ五十一番
 ノ調査委員ヲ置ク建議ノ決ヲ取ラン此レニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十四人

○議長 少數ナルヲ以テ五十一番ノ建議ハ消滅ス

○議長 引續キ本案ノ決ヲ取ラン此ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者八人

○議長 少數ナルヲ以テ本案ハ消滅ス

○五十一番井田 最早議長ヨリ散會ヲ告グルナランモ聊カ一言セン此案ニ對シテハ各官
 往々其主意ハ賛成スルモ章程第七條ニ適當セサルヲ以テ同意セサルモノ多キニ似タリ
 即チ本案ハ其主意ノ可否ニ依ラス第七條ノ爲メニ拒却セラレタルヲ信ス又第七條ノ爲
 メニ種々ノ紛議ヲ生シ施イテ今日ニ至レルナレハ四十八番ノ言ノ如ク章程取調委員ヲ
 置クノ特別建議ヲ爲ス

○議長 五十一番ノ建議ハ規則モ慣例モ之レナキヲ以テ本席之ヲ採用セス

○五十一番 井田 本官ノ建議ハ全ク此議案ト關連セサルナリ即チ號外四十一號ハ已ニ消滅シタルヲ以テ次テ四十二號ノ會議ヲ開クノ前ニ建議スルモノナリ先キニ議長ノ四十八番ノ建議ヲ採用セサルハ四十一號ノ會議ニ差支アルヲ以テナラン只今ノ場合ハ之レト異ナレハ此建議ハ議長ヨリ議場ニ問フ可キモノト信ス

○五十番 三浦安 第二讀會ニハ本案ハ消滅シタルモ第三讀會ニ至ラサレハ其消滅ヲ確定スルヲ得ス然レハ此際只今ノ建議ノ決ヲ取ルハ不可ナリ

○二十七番 尾崎三良 特別ノ建議ナレハ何時ナリトモ議場ニ問フテ可ナラン

○五十一番 井田 本官ハ第二讀會ニテ本案ハ全ク消滅スト思ヒシヲ以テ只今ノ特別建議ヲ爲セリ猶ホ第三讀會ヲ開クトナレハ其際之ヲ提出セン因テ只今ノ建議ハ之ヲ取消ス

○議長 只今五十一番ハ建議ヲ取消セリ二十七番ハ何等カ發言セントスルヤ

○二十七番 尾崎三良 五十一番ハ建議ヲ取消シタルモ本官更ニ特別ニ建議ス章程ヲ明確ナラシムルハ第三讀會ヲ開カサル前ニ於テ之ヲ爲ス可シ然ルトキハ第三讀會モ速カニ經過スルナラン一人ニテモ此建議ニ賛成者アラハ議長ヨリ議場ニ問ハンコヲ望ム

○議長 本席ニ於テハ只今ノ建議ハ不都合ト認ムレハ採用セス第三讀會ハ各官ノ熟考スル場合モアル可ケレハ其期日ハ追テ報告セン散會セヨ

午後零時二十分閉場

○明治二十年十月二十四日 第三讀會

議長 大木喬任

出席議員

二番	清岡 公張	二十二番	中村 正直
三番	永山 盛輝	二十三番	久我 通入
四番	石井 忠亮	二十四番	大迫 貞清
六番	宮本 小一	二十五番	中島 錫胤
七番	尖戸 璣	二十七番	尾崎 三良
九番	榎村 正直	二十八番	原田 一道
十番	大給 恒	三十番	本田 親雄
十一番	箕作 麟祥	三十四番	小畑 美稻
十二番	黒田 清綱	三十五番	津田 眞道
十三番	伊集院兼寛	三十八番	細川潤次郎
十四番	渡邊 清	三十九番	村田 保
十五番	大久保一翁	四十番	綿貫 吉直
十六番	伊東 祐賢	四十一番	長岡 護美
十七番	壬生 基修	四十三番	田邊 太一
二十番	岩村 定高	四十四番	坂本 政均

四十六番	橋口 兼三	五十七番	神山 郡廉
四十七番	野村 素介	五十九番	長松 幹
四十八番	鳥尾小彌太	六十一番	楫取 素彦
四十九番	神田 孝平	六十二番	渡 正元
五十番	三浦 安	六十五番	西 周
五十一番	井田 讓	六十七番	吉田 清成
五十四番	加藤 弘之	六十八番	岡内 重俊
五十五番	調所 廣丈	六十九番	上杉 茂憲
五十六番	林 友幸	七十一番	何 禮之

午前第十時二十分開場

○議長 號外第四十一號意見書ノ第三讀會ヲ開ク本案ハ第二讀會ニ於テ已ニ廢棄ニ決シ
タレハ本會ニ於テハ議案ノ朗讀ヲ爲サス

○二十七番^{尾崎} 第三讀會ニハ全ク朗讀ヲ爲ササルカ

○議長 然リ只今モ述ヘシ如ク已ニ第二讀會ニ消滅シ其消滅シタルモノカ第三讀會ノ議
案ナレハ之ヲ朗讀セサルナリ

○二十七番^{尾崎} 第一讀會第二讀會ノ議場ノ景況ヲ追想スルニ本案ニ對スル反對論ハ種
々ナル理由ヨリ成立チ全ク本案ヲ非トスル議論ナキニ非サレモ要スルニ其旨意ノ如何
ンハ倍置キ只元老院章程ニ抵觸スト爲シ之ヲ非トスルノ論者其多數ヲ占ムルカ如シ本

官ハ斯ル末葉ノ議論ヨリ本案ヲ消滅ニ歸セシムルハ如何ニモ遺憾ニ堪ヘサルユヘ篤ト
熟考ヲ加ヘシニ起草ノ案又未タ完カラス又憲法議案ノ下付ヲ奏請スルト云フハ或ハ穩
當ヲ缺ケルヤモ計ラレス左レハ各位ノ論鋒專ハラ此二點ニ集マルヲ了解シタリ因テ
本官ハ一旦本案ノ議場ヨリ引キ充分ニ審究詳查ヲ加ヘテ後再ヒ議場ニ提出シ更ニ各位
ノ満足ヲ得ンコヲ欲ス此事ヤ已ニ本院ニ其先例アリト聞ケハ敢テ妨ケ無カル可シ因テ
特別ニ建議スルナリ願クハ各位ノ賛成ヲ得テ問題ニ上ランコヲ此建議ニシテ幸ニ成立
スルヲ得ハ十分ニ研究セント欲スレハ最早ヤ議場ニ論辯ヲ費サス若シ又成立スルヲ得
スレハ更ニ恢復說ヲ唱ヘンノミ

○議長 二十七番ニ問フ只今ノ建議ハ如何ナル主意ナルヤ已ニ第二讀會ヲ經テ消滅ニ歸
シタル意見書ヲ今改テ議場ヨリ引キタシト云ヘル希望ノ如ク聞取レリ如何ン

○二十七番^{尾崎} 起草者タル本官自ラ此意見書ヲ議場ヨリ引カント欲スルナリ併シナカ
ラ本官未タ議場ノ例規ヲ熟知セサルヨリ已ニ議場ノ公共物タルモノモ一個ノ請求ニ依
リ引去ルヲ得サルヤヲ疑ヒ特別ノ建議ヲ爲セシナリ然レモ起草者一個ノ請求ヲ以テ議
場ヨリ引クヲ得ヘクンハ議長ハ之ヲ採用シテ直ニ許可ヲ與ヘンコヲ望ム

○議長 本席モ未タ一々其先例ヲ取調ヘサレモ其請求建議ハ共ニ採用ス可キモノニ非ス
ト信ス何トナレハ已ニ第一第二讀會ヲ經過シ其正當ナル順序ニ依リテ消滅ニ歸シ今第
三讀會ニ於テハ其消滅シタル案ノ議題ニ上レル以上ハ起草者自ラ之ヲ引ク可キモノニ
非サレハナリ起草者ハ斯ル建議ヲ止メ衆議ニ依リ其存廢ヲ決シテ可ナリ

○三十八番細川 大郎 議長ノ演告ノ如ク斷シテ建議ヲ採用セストナラハ是非ナキコナレ
 本官ノ考フル所ヲ以テスレハ元來人間ハ自由ノ思想ヲ有スルモノニテ其自由ノ思想ヨ
 リ意見書ヲ提出スルハ彼ノ修正說特別建議等種々ノ思想ヲ議場ニ提出スルト同様ニシ
 テ賛成者ヲ得スルハ無論ニ消滅シ賛成者ヲ得ルハ問題ニ上リテ議場ノ公共物ト爲ル
 ヲ得ヘシ而シテ其一旦公共物ト爲レルヤ之ニ向テ種々ナル討議ヲ盡シ其間貴フヘキ他
 人ノ駁議ヲ聞キ之ヲ含味熟考スルハ又自ラ前說ヲ變シ來ルコト有リ凡ソ議場ノ公議ハ
 一人ノ討論談話ノ如ク慰ミ半分ノモノニ非ス大ニ其經過ヲ貴ムモノナレハ議場ノ景
 況ニ依リ變通ノ法ヲ考ヘサル可ラス左レハ其變説モ亦勝手次第ノモノナリ以上陳フル
 所ヨリ考フレハ二十七番ノ建議ハ衆議官ノ許ス無クハ固ヨリ已ムヲ得サルモ議長ニ
 於テ採用シ可否ヲ衆議ニ問フハ敢テ支障ナシト信スルナリ然レモ本案ハ已ニ議場ノ公
 共物ナレハ一人一個ノ請求ヲ以テ議場ヨリ引キ去ルヲ得サルハ本官ノ信シテ疑ハサル
 所ナリ若シ二十七番ノ意ニシテ是レマテ數回ノ討論ヲ經タル後一ノ調査スヘキ事柄ア
 ルヲ發見シ一旦議場ヨリ引キ去ラント云フニ在ラハ直ニ之ヲ採用セサルハ當然ナレモ
 二十七番カ該建議ヲ衆議官ノ前ニ公言セシヨリ見レハ右ノ如キ單純ナル考ヨリ出デシ
 ニ非スシテ衆議官ノ許否ヲ問ハントスルノ意ナルハ問ハスシテ明カナリ論理上ヨリ考
 フルモ自己ノ意見ヲ引キ去ルコトハ第一讀會ニ許サル可キモノナラハ第二讀會第三讀會
 ニ於テモ許サル可キ筈ニシテ多數ノ壓制ニハ勝ツ能ハサルモ其建議ヲ許ス可キヤ否ヤ
 ハ衆議ニ問フテ可ナリト信スルナリ本官ハ賛成者ノ一人ナレモ豫メ之ヲ審究スルノ暇

モ無カリシカ過日來種々ノ異說議場ニ紛出スルヨリ考フレハ意見書ハ多少穩當ヲ得サ
 ル所アル可ク又起草者ノ一旦引キ去リテ調査センコトヲ望ムハ是レ其穩當ヲ缺ケルコトヲ
 懸念スルノ故ナラン本官ノ記憶スル一例ヲ舉ケンニ本官カ本院讀會規則改正ノ意見書
 ヲ提出セシト數回ノ討議ヲ經過セシ後尙ホ議場ノ紛論已マサルヨリ本官ハ建議ヲ發シ
 テ之ヲ一旦收回シ再ヒ調査ヲ加ヘ遂ニ議場ノ可決スル所ト爲ルヲ得タリ即チ現行ノ讀
 會規則是レナリ此一例タル本案ノ事柄ト稍ヤ差異ナキニ非ス本官ノ記憶モ亦甚タ不確
 ナレモ先ツ大同小異ノ例證トシテ見ルヲ得ヘシ本官ハ建議說ハ成ル可クハ衆議ニ問フ
 ヲ可トスルナリ敢テ本官一個ノ意見ヲ陳述ス

○議長 只今三十八番議官ヨリ縷々ノ陳述アリテ一理ナキニ非サレモ從來第三讀會ニ於
 テ斯カル事ノ行ハレシ例證ヲ搜索シ得ス殊ニ本案ニシテ第三讀會ニ於テ生存スルモノ
 ナラハ或ハ支障ナカランモ已ニ第二讀會ニ於テ全案廢棄ニ決シ今第三讀會ト爲リテハ
 其形ノ存セサル意見書ノ議題ト爲レルノミニシテ謂ハハ意見書ハ存セサルナリ如何ニ
 起草者ノ建議ナリト云ヘ存セサルモノヲ引キ去ルト云フハ本席ノ一モ了解セサル所ナ
 レハ採用セサルコトヲ斷言セシナリ然レモ只今三十八番ヨリ一ノ意見ヲ陳辯セルヲ以テ
 之ニ依リ二十七番ノ建議ハ議場ニ問フヘキモノナルヤ否ヤヲ衆議ニ問ハントス
 ○十二番黒田 清綱 二十七番ノ建議ハ實ニ奇々妙々ト評ス可シ已ニ議長ノ演告セル如ク本案
 ノ生存中ナラハ之ヲ引クト引カサルトハ一ノ論點ト爲ルヲ得ヘキモ最早ヤ第二讀會ニ
 於テ其全案消滅シ第三讀會ニ取決スヘキハ再ヒ此案ヲ起スノ説出タルモ在リ然ルヲ

已ニ廢棄シテ生存セサルモノヲ議場ヨリ引キ去ル如キハ道理上爲シ得ヘカラサルモノトス議長ノ此建議ヲ採用セサルコソ當然ナリ

○十番 大給 本官ハ議長ノ演告ニ服スル能ハス何トナレハ假令ヒ第二讀會ニ於テ消滅シタル案ナリト第三讀會ヲ經過セスンハ未タ確定シタルモノト爲スヲ得ス若シ第二讀會ノ消滅ハ已ニ確定シ今ハ其形タニ存セストナラハ之カ爲メニ第三讀會ヲ開クノ謂ハレ無シ本官ノ考フル所ニ依レハ該案ハ第二讀會ニ廢棄ニ決シタリト其姿ハ猶ホ生存シ其生存セル姿カ第三讀會ノ議題ニ上ルモノニシテ第三讀會ノ決議コソ眞ニ存廢ノ結末ヲ報スルモノナリ要スルニ第二讀會以來或ハ改メ或ハ廢シ或ハ剛リ或ハ復スルノ討論決議ハ詰マリ確定ニ至ル經過ノ手續キニ過キスシテ第三讀會決了ヲ報スルマテハ原案ハ存スルモノト看做ササルヲ得ス因テ本官ハ議長ノ後次ノ演告ノ如ク先ツ三十八番ノ意見ヨリ衆議ニ問フヲ至當ノ順序ナリト信スルナリ

○五十一番 井田 議長ハ此號外第四十一號意見書ハ最早ヤ議場ニ生存セサルヲ演告セシカ其生存セサルモノニ對シ第三讀會ヲ開クハ本官ノ了解セサル所ナリ本官ハ本案ハ第二讀會ノ終ニ於テ同意者ノ少數ナルヨリ一旦廢棄論ニ決セシモ第三讀會ヲ開キタル以上ニハ所謂死灰再燃ニテ該案ハ此議場ニ存シ第三讀會ノ決議ヲ經テ始メテ其存廢確定スルモノナリト信ス因テ三十八番ノ意見ヲ取決スルニ先チ本案ハ議長ノ演告ノ如ク果シテ議場ニ存在セサルモノナルヤ否ヤヲ衆議ニ問ハンコヲ希望ス議長カ議官ヲ招集シテ第三讀會ヲ開ク以上ニハ本案ハ其形ヲ議場ニ存在セルニ相違ナキナリ本官ハ第三

讀會ナルニハトラス調査委員ヲ設クルノ建議ヲ提出セントマテニ思惟シタリ何故ニ斯ル思想ヲ有スルカト云フニ即チ本案ハ猶ホ議場ニ存セリト信スルニ依ルナリ然ルヲ該案ハ存在セス第三讀會ハ空物ヲ議スルナリト議長ノ演告セル主意ハ何レノ邊ニ在ルカ願クハ本官ノ了解シ得ルマテノ明瞭ナル説明ヲ下サンコヲ

○五十番 三浦 議論規則上ニ涉リシカ本官ハ號外第四十一號意見書賛成ノ一人ニシテ不幸ニモ第二讀會ニ於テ廢棄ニ歸シタレハ第三讀會ニ之ヲ恢復スルコトハ固ヨリ希望スル所タリ然ルニ由シ無キ規則論ニ時ヲ費シ本案ノ經過ヲ妨クルハ甚タ喜ハサルモ此際敢テ一言セサルヲ得ス成ル程第二讀會ニ於テハ少數ニシテ廢消ニ歸セシニ相違ナキモ第三讀會ヲ開ク以上ニハ議案ノ議場ニ存スルヤ疑ヒ無シ即チ第二讀會ニ於テ消滅ニ屬セシ議案カ其儘第三讀會ノ議場ニ存在スルナリ故ニ第三讀會ニ於テハ恢復說ヲ以テ之ヲ再起セシムルヲ得ヘク此再起セシムルヲ得ルハ即チ議案ノ元素ノ猶ホ存スルカ故ナリ之ニ反シ若シ其元素タニ存セス所謂皆無ナラハ到底第三讀會ヲ開キテ之ヲ左右スルヲ得ルノ理ナカル可シ故ニ論者ハ第二讀會ニ消滅セル議案ハ其消滅セル儘ヲ以テ存スルト又全ク消散シテ其形タニ止メサルトハ宜ク眼ヲ注キテ區別スヘキナリ起草者自ラ意見書ヲ引キ去ランコヲ請求スルハ一應尤モノ如クナレトモ已ニ第二讀會ニテ廢棄セラレタル案ナレハ第三讀會ニ至リ之ヲ恢復スルノ方向ヲ取ラスシテ直チニ引キ去ラントスルハ少ク順序ヲ失シタルモノニ非サルカ本官ハ心中稍ヤ疑團ヲ生シ未タ彼此ヲ決定セサルニ先チ議長ハ斷シテ採用セサルコヲ陳告セリ此ニ於テ熟考スルニ建議ノ可否ハ兎

モ角モ已ニ特別建議タル以上ニハ議場ノ例規ニ基キ假令ヒ一人ノ賛成者ナクモ之ヲ起立ニ問ハサルヲ得ス前陳ノ如ク本案ハ已ニ第二讀會ニ於テ否決セシモ其否決ノ原案ハ猶ホ存在スルニ相違ナク其存在スルモノニ基キ第三讀會ヲ開キタルナレハ恢復說ニシテ若シ多數ノ同意者ヲ得ハ原案ハ復歸スルヲ得ヘシ其例ハ内閣下付ノ案ニ於テ屢々實驗スル所ナリ例ヘハ第二讀會ニ於テ原案ニ對スル修正說出テ之ヲ取決スルニ少數ナリ依テ更ニ原案ノ可否ヲ問ヘハ又少數ニシテ遂ニ原案ノ或ル條項カ全ク白紙ニ歸シタルノ例ハ一二之ヲ記憶セリ斯ル場合ニハ第二讀會ニ於テハ最早ヤ之ヲ如何ントモスル能ハサレハ第三讀會ニ及ヒ先ツ第二讀會ニ白紙ト爲レル原案ヲ恢復スルノ發議ヲ爲シ多數ノ同意ヲ得テ始メテ原案ニ復スルナリ論者アリ或ハ曰ハン一ケ條ノコト全案ノコトハ相比ス可ラスト是レ甚タ謬レリ何トナレハ假令ヒ一ケ條ニセヨ又全案ニセヨ第二讀會ニ消滅セシモノハ其消滅ノマヽヲ以テ第三讀會ニ存續スレハ之ヲ恢復スルニ於テ彼此異同アルノ理ナケレハナリ因テ原案ヲ維持セントセハ先ツ第三讀會ニ恢復說ヲ提出シ之ヲレテ成立セシメサル可ラス若シ夫レ已ニ第二讀會ニ消滅シ第三讀會ニ生存セサル空物ニ向テ何故ニ第三讀會ヲ開クヤト論難スルハ所謂ル語弊ヲ咎ムル末葉論ノミ

○議長 五十一番ニ告ク過刻本席ヨリ演告セシハ只今五十番カ陳述セシ意ト一ノミ即チ第二讀會ニ廢棄セラレタル案カ其儘第三讀會ノ議場ニ存在シ若シ其恢復說ニシテ問題ト爲ラハ第三讀會ノ討議此ニ起始スルナリ若シ本席ニ於テ第二讀會ノ廢棄ハ其影タニ止メスト言ヒシナラハ第三讀會ヲ開クノ謂ハレ無ク又之ヲ開カハ所謂空物ヲ議スルコト

ト爲ランモ前陳ノ次第ナレハ各議官恢復說ヲ發スルニ支障ナキナリ

○三十九番保村田 本官ノ所見ヲ陳ヘンニ或論者ハ第二讀會ニ消滅セシモノハ第三讀會ニ恢復スルヲ得故ニ第二讀會ハ第三讀會ニ連續スルモノナリト説ケル本官ノ信スル所ハ却テ然ラスシテ第一讀會ハ第一讀會ニ了リ第二讀會ハ第二讀會ニ了リ第三讀會ハ自ラ第三讀會ニシテ第二讀會ノ引殘リノ會議ニ非サルコトヲ信ス故ニ第二讀會ニ於テ廢棄ニ決シタルモノハ是レ第三讀會ニ至リテ廢棄ニ決シタルモノニ非ス號外第四十一號意見書ハ已ニ第二讀會ヲ了リタレハコソ更ニ第三讀會ヲ開ケルナリ其證據ニハ假令ヒ第二讀會ニ於テ同意者少數ナリシ案モ若シ第三讀會ニ於テ同意者ノ數ヲ増サハ成立スルヲ得ヘシ而シテ其同意者ハ必シモ第二讀會ノ同意者ト同一ナルヲ要セサルナリ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ第二讀會ハ第二讀會ニテ一ト句切ヲ成シ第三讀會ニ至リテ新ナル同意者ヲ得テ成立セルモノナリ又已ニ第二讀會ニ於テ一旦廢棄セラレシ案ハ必ス第三讀會ニ之ヲ再起セサル可ラサルノ理由モ無カル可シ本官ハ上ニ陳ル如ク考フルヲ以テ號外第四十一號意見書ハ假令ヒ第二讀會ニ廢棄ニ決セシモ今日第三讀會ノ議場ニハ依然議題ト爲リテ存スレハ之ニ向テ第三讀會ノ討議ヲ初ムルハ決シテ第二讀會ノ結果ニ關係スルヲ要セスト信スルナリ

○議長 三十九番ニ一言ス三十九番所説ノ是非ハ之ヲ知ラサレモ從來本院ノ慣例ハ過刻本席ノ演告セル所ノ如シ是レ敢テ各官發言ノ區域ヲ狭ムルニ非スシテ議場ノ整頓上然ラサルヲ得サルナリ即チ第二讀會ニ廢棄ニ決セシ案ニ對シ第三讀會ニ於テ恢復說ヲ出

スモ又第二讀會ニ成立セル案ニ對シ第三讀會ニ於テ更ニ廢棄說ヲ唱フルモ只表裏ノ差アルノミニシテ其歸局スル所ノ理由ハ一ナリ且本官ノ陳告セシ所各位ノ耳ニ貫徹セスシテ取決ノ際ニ紛雜ヲ生センコトヲ慮リ敢テ一言ス

○十一番議案 規則上ノ件ニ就キ議長ニ質問ス一議案ニ對シ第一讀會第二讀會第三讀會ヲ開クハ下付議案意見書共ニ一ニシテ其經過ノ順序ニ彼此ノ別ナキハ本官ノ信スル所ナリ而シテ第二讀會ニ於テ原案廢案ニ決スルモ尙ホ第三讀會ヲ開クコトハ内閣下付議案ニ就キ常ニ行フノ例規ナリ然ルニ今此場合ニ原案ハ第二讀會ニ廢棄セラレシニ拘ラス第三讀會ニハ生存セルモノ、如ク見做シ之ヲ全ク廢棄センニハ更ニ廢棄說ヲ提出シ五名ノ賛成者ヲ得テ問題ニ上ルヲ要スルカ將タ議長ノ演告ノ如ク此場合ニハ廢棄案ハ取モ直サス第三讀會ノ原案ニシテ何人ノ發言モ無クンハ其儘廢案ト爲ルカ本官ハ内閣下付案ノ例ヲ以テ推セハ發言ナキ以上ハ第二讀會廢棄ノ結果ハ第三讀會ニ及ホスモノナリト信ス而モ意見書ニ於テハ異ナル所アル乎此點ヲ明ニセンコトヲ乞フ

○議長 本席ハ過刻其事ヲ辯明セシナリ讀會經過ノ規則ニ於テ意見書下付議案ノ間一ノ差別アル無シ例ヘハ茲ニ十ヶ條ノ下付原案アリトセン第二讀會ニ於テ其中ノ三ヶ條削除ニ決シタルモハ第三讀會ニハ該三ヶ條ハ之ヲ朗讀セス是レ第二讀會ニ於テ消滅シタレハナリ然レモ第三讀會ニ於テ之ヲ恢復セントスルハ固ヨリ自由ニシテ恢復說ヲ提出スル者アリテ五名以上ノ賛成者ヲ得ハ此ニ問題ト爲リ其問題ニ對シ可否ノ取決ヲ爲スナリ是レ已ニ陳フル如ク表面ヨリ言フモ亦裏面ヨリ言フモ同一ニシテ消滅セルモノ議

場ノ案ナルモハ恢復說問題ニ上ルヲ得ヘク又生存セルモノ案ナルモハ廢棄說問題ニ上ルヲ得ヘシ本案モ亦此理ニ出テ已ニ第二讀會ニ廢棄セルモノカ第三讀會ノ原案ナレハ若シ之ヲシテ生存セシメント欲スル者アラハ恢復說ヲ提出スルヲ得ヘシ恢復說ニシテ定數ノ賛成者ヲ得ハ此ニ初メテ問題ト爲ルノミ

○十一番議案 領解セリ成ル程十ヶ條中三ヶ條ヲ削除セハ第三讀會ニ之ヲ恢復セントセハ別段ニ恢復說ヲ提出スルヲ要スルハ本官ノ知レル所ナリ然レモ第二讀會ニ於テ全部廢案ニ決シタルモノヲ第三讀會ニ於テ更ニ廢棄說ヲ議セシ先例アルコトヲ記憶セリ全部廢棄ト一部ノ削除トハ其理素ヨリ一ナレモ其全部ヲ恢復スルニ方リテモ猶ホ全部廢棄ニ對スルト同様ノ手續ナル乎本官ノ記憶スル先例ニハ全部廢棄ノ案ヲ第三讀會ニ於テ更ニ朗讀セシニハ非サルカト考フルヨリ此質問ヲ發セシナリ

○議長 本院ノ先例ハ過刻本席ノ陳告セル所ノ如シ
○二十七番尾崎 規則論ハ大ニ本官ノ期望ニ利害ノ關係ヲ有スルヲ以テ一言セサルヲ得ス議長ノ辯明ハ第三讀會ノ議題ト爲レルモノハ即チ第二讀會ニ廢棄ニ決セシ案ニシテ是レ慣例ノ然ラシムル所ナリト云フニ在レモ果シテ然レハ已ニ第二讀會ニ廢棄シテ生存セサル案ニ向テ更ニ會議ヲ開クコトモ出來難カラシムル或ハ其慣例ノ適用ニ少ク混雜ヲ生シ居ラサルカト疑フナリ何トナレハ從來全案中ノ一二條ヲ削除セシモノニ向ヒ第三讀會ニ至リ恢復說ヲ提起スルコトハ已ニ見聞セル所ノ例ナレモ是レ只一ノ修正ニシテ廢棄ヲ以テ見ル能ハサレハナリ從來第二讀會ニ廢棄セシ案ヲ以テ第三讀會ノ議ニ付スルハ

第二讀會ニ於テ全ク消滅シ其蹟ヲ存セサルモノト見ルニ非ス然ラスハ斯カル議案ヲ以テ第三讀會ノ議案ト爲スノ理由ヲ見出ス能ハス已ニ十一番カ陳ヘタル如ク内閣下付ノ議案中第二讀會ニ全廢セシモノヲ直ニ第三讀會ニ於テ議セシノ先例アルヨリ考フルモ第二讀會ノ全廢ハ第二讀會ニ止マリ第三讀會ハ更ニ原案ニ對シテ開クモノニ相違ナシ要スルニ第二讀會廢棄說ノ多數ナリシハ是レ真正ノ廢案ト云フニ非スシテ只原案賛成者ノ少數ナリシノミ尙ホ一步ヲ進メテ考レハ反對者中ニモ或ハ原案ニ幾分ノ修正ヲ加ヘハ全ク賛成者ニ變ス可キ者多カリシナラン然ラハ第二讀會ノ決議ヲ以テ確然タル廢案ト做ス能ハス若シ第二讀會ノ決議ハ確然タル廢案ナリト言ハハ空物ニ對シテ第三讀會ヲ開クカ如キ不都合ナル結果ヲ免レサル可シ夫レ然リ然レ以上ハ本官一個ノ見解ニシテ他ニ反對ノ見解ヲ有スル者アラシ又先例ヲ熟知セル者アラシ因テ此際議長ハ第二讀會ニ於テ廢棄セシ案ハ第三讀會ノ議場ニ存在スルヤ否ヤヲ起立ニ問ヒ以テ規則論ノ局ヲ結フ可キナリ

○議長 本院ノ慣例ハ本席ノ過刻陳告セル所ニ違ハス元來第三讀會ハ第二讀會ニ於テ十分ナル結末ヲ見ハ第三讀會ヲ開クヤ否ヤノ決ヲ取り若シ開クヲ要セサルニ決セハ第三讀會ヲ開カスシテ議事ヲ決了スルコトハ先例ノ存スル所タリ故ニ前刻ヨリ屢陳フル通り表面ヨリスルモ裏面ヨリスルモ其局一ニシテ是等ノコトハ本席自ラ其慣例ヲ謬マラサルコトヲ確信スルナリ各位宜シク此意ヲ領スヘシ併テ過刻三十八番ノ陳述セシ意見ハ之ヲ決スル最モ必

要ト信スレハ先ツ之カ決ヲ取ラン

○三十八番 新川 潤 本官ハ意見ノ在ル所ヲ單簡ニ陳述セシカ今第三讀會ノ議場ニハ意見

書ハ全ク廢滅セシモノナルヤ否ヤヲ以テ一ノ論題ト爲スモノノ如シ本官ノ前キノ陳述ハ現今ノ論題ニ對シ意見ヲ陳ヘタル後ニ爲ス可カリシニ其前後セシハ今更ニ止ム可ラス偕説ク本官ハ前會缺席セルカ爲メ第二讀會ノ廢棄說ハ如何ノ程度マテニ及ヒシヤヲ詳ニセス只全部付託調査委員ヲ置クノ建議少數ニシテ消滅セシトノコトハ仄カニ聞キ及ヒタリ前會廢案ノ結末ニ就キテハ各官ノ見解各異ナルモ本官ノ考ヲ以テスレハ號外第四十一號意見書ニ對シ第三讀會ヲ開ク以上ハ該案ハ第二讀會廢棄ノ決議ヲ以テ全ク其生命ヲ絶テルモノト爲ス能ハサルナリ然ラハ第三讀會ハ該案ニ向テ如何ナルコトヲ爲スヘキヤト問ハハ即チ之ヲ起生セシムルカ又ハ留メヲ刺スカニ在リ過刻本官カ議長ニ向テ一言セシハ起草者ノ建議ハ不相當ニ非スト信セシニ出テ敢テ本官ノ意見ヲ以テ議場ニ問ハンコトヲ請求セシニ非ス故ニ今各官ノ動議中決定ヲ要スル點ハ即チ二十七番ノ建議ヲ許スト許ササルトニ在リ因テ議長ハ先ツ此コトヨリ取決センコトヲ望ム

○議長 二十七番ノ建議ハ本官限り斷シテ採用セサルコトヲ陳告セシカ三十八番ハ採否ハ議場ノ決ニ委ス可シト論シ其他十一番等ヨリモ意見ノ陳述アリシヲ以テ先ツ本案ヲ此マ、議場ヨリ引キ去ルコトノ建議ヲ採用ス可キヤ否ヤノ決ヲ取ラント欲ス

○四十九番 神田 孝平 若シ建議ヲ採用スルニ決セハ朱線ヲ以テ抹殺セシ如キ意見書ノ全部ヲ議場ヨリ引キ去ルノ結果ト爲ル乎

○議長 然リ併シ第二讀會ニ於テ廢棄セラレシ案カ其マ、第三讀會ノ議案ト爲レルモノナレハ之ヲ恢復スルノ說ヲ出スハ固ヨリ妨ケ無シ

○四十九番神田孝平 恢復說ニ賛成者アリテ問題ニ上リ其問題說可決セハ本案ノ復起スルハ過刻以來ノ辯明ニ依リ明ニ領解セリ然レモ建議ヲ可決セハ二十七番ハ已ニ死セル議案ヲ議場ヨリ持去リシ後隨意ニ之ヲ再起セシメ再ヒ議場ニ持出スヲ得ルコトハナラサル耶斯カル建議ハ到底可決セラレサル可シト信スレモ本官ハ大ニ疑訝セサルヲ得サルナリ

○議長 本官モ然カ信シタレハコソ採用セサルコトヲ斷言セシカ三十八番ノ說アレハ一應其採用ス可キヤ否ヲ起立ニ問フ可シ

○四十九番神田孝平 三十八番ノ說トハ奈何ン

○四十八番尾小彌太 四十九番ノ質問ハ無用ナリ

○議長 三十八番ノ意見ハ二十七番ノ建議ヲ議場ノ多數決ニ問フ可シト言フマテニシテ今四十九番ハ強テ其說ヲ問ハサルモ可ナラン

○四十八番尾小彌太 只今四十九番ノ質問ヲ無要ナリト喚ヒシ理由ヲ陳明セン四十九番ハ號外第四十一號意見書ハ全ク已ニ白紙ノ案ニ歸セリト自斷シテ質問ヲ發スレモ其白紙ナルヤ否ハ最前ヨリ議論アル如ク目下議場ノ一問題ナルニ論者ノ自斷スルハ甚タ解セサルナリ本案ハ第二讀會ノ決議ニ依リ已ニ全ク消滅ニ歸セシヤ否ハ頗ル大切ナル問題ナレハ本官敢テ一言ヲ發セサルヲ得ス過刻來種々異様ノ見解ヲ聞キシカ本官ハ本案

ノ全ク消滅セシコトヲ認メス畢竟第二讀會ニ於テ賛成者ノ少數ナリシハ起草者ノ起草案面ノ不完全ナルニ在リテ其意見書タル本質ヲ害スルコト無シ要スルニ原案通り成立セシムルコトヲ得サリシナリ已ニ議案カ議場ノ公共物タル以上ハ假令ヒ原案通りノ賛成者少數ナリシトテ直ニ全案ノ消滅ヲ認ムルヲ得ス何トナレハ第三讀會ニ至リ如何ナル好修正ノ出ツル有ルヤモ知ル可ラサレハナリ然ルヲ第二讀會ニ於テ已ニ消滅シテ其蹟ヲ留メストセハ原案ヲ是認スルコトハ言フマテモ無ク假令ヒ如何ナル名修正說ヲ貯フルモ之ヲ施ス可キ物ナカラシ蓋シ第一第二第三讀會ヲ經テ原案ヲ討議スルハ粗ヨリ精ニ入り簡ヨリ密ニ至ルノ順序ニシテ此三級ノ順序ヲ經テ後始メテ原案廢存ノ結局ヲ告クルナリ去レハ廢案論一旦第二讀會ノ決議ニ於テ行ハルルモ尙ホ原案一分ノ命脈ハ最終ノ決議ニ至ルマテハ依然繼續スルヤ疑ヒ無シ然ルヲ若シ全ク消滅シ已ニ議場ノ公共物タル性質ヲ失ヒタリトセハ本案ニ對シ修正回復如何ナル發議ヲモ爲スヲ得サルノミナラス第三讀會ヲ開クノ謂ハレ無キナリ各議員ノ考フル所各異ナル有ランモ現ニ號外第四十一號意見書ノ第三讀會ヲ開キ之ヲ議スル以上ニハ之ヲ議ス可キ議案ノ命脈ノ存スルハ何人モ疑ハサル所ナラン而シテ其命脈ハ第三讀會ヲ決了シテ後始メテ確定スルヤ又爭フ可ラス此一問題ハ本案ニ對シ頗ル重要ノ關係ヲ有スルヲ以テ十分ナル討議ヲ盡シ明瞭ナル決定ヲ見ントヲ望ム

○十番大給恒 本案ノ現ニ議場ニ存在スルヤ否ヤノ論頗ル盛ナリ宜シク確然タル論決ヲ得ヘキナリ本官ノ所考ヲ開陳センニ本官ハ内閣下付ノ議案ハ讀會ノ都度必ス之ヲ朗讀ス

ルヲ正則ト爲スト信セリ但シ議案浩翰ナルハ朗讀ヲ省略スルノ便法ヲ用ユル無キニ非サレト已ニ讀會毎ニ朗讀スルヲ正則ト爲セル以上ニハ此一事ヲ以テ各讀會ノ議場ニハ必ス議案ノ存在スルヤ明カナリ何トナレハ消滅セル案ナラハ爲メニ會議ヲ開クノ必要ナク從テ議題ヲ朗讀スルノ實ヲ生セサレハナリ斯ノ如ク議案ノ存スルモノナレハ第三讀會ヲ決了スルニ至ルマテノ間ハ之ヲ存セントスル思想ヲ有スル者ハ何所マテモ贊成シ之ヲ廢セントスル思想ヲ有スル者ハ何所マテモ排撃スルヲ得ヘシ是レ議題ノ存スルカ故ナリ左レハ假令ヒ第二讀會ニ於テ已ニ廢棄ニ決セシモ第三讀會ニ至リテ故ラニ之ヲ持直ストカ之ヲ回復スルトカ云フ如キ手段ヲ要スルノ道理ナカル可シ要スルニ各讀會ハ各獨立ト見テ可ナリ以上ノ問題ハ即チ二十七番ノ建議ノ採否ヨリ生シタルモ二十七番ノ建議ハ自ラ特別ノ意見ニ屬シ即チ起草者自ラ議場ヲ煩ハスノ甚ダシキヲ好マズ本案ヲ一旦議場ヨリ引キ去リ更ニ審案ヲ加ヘンコトヲ欲スルニ在リ斯ル特別ノ建議ナル以上ニハ之ヲ許シテ引キ去ラシムルハ決シテ支障ナシト考フルナリ然レモ本案ハ已ニ議場ノ公共物タリ其公共物タル以上ニハ假令ヒ起草者ト雖モ自己ノ隨意ニ之ヲ引去ルヲ得ス故ニ之ヲ許スニハ宜ク多數決ニ依ラサル可ラス此例ヤ已ニ讀會規則案ヲ議スルニ當タリテ經驗セル所ナレハ彼ノ例ニ依ルモ之ヲ拒否スル能ハサル可シ議長ハ議場ノ多數決ニ問フコトニ躊躇セラレシモ三十八番カ本官ノ所見ト同一ノ意見ヲ提出シ之ヲ引カシムルモ可ナリ但シ之ヲ議場ニ問フ可シト論セシヨリ議長ハ此說ヲ採用シ先ツ三十八番ノ意見ニ就キ可否ヲ決セントセリ然ルニ三十八番ハ更ニ起チテ自己ノ說ヲ議場

ニ問フハ敢テ求ムル所ニ非ス寧口直ニ建議ノ可否ヲ議場ニ問フノ速カナルニ如カスト論セシヨリ議長ハ又二十七番カ建議ノ採否ヲ衆議ニ問フコトヲ預告スルニ至レリ本官ハ固ト二十七番ノ建議ヲ採用ス可キヲ主張スル一人ナレハ三十八番ノ意見ヲ取決スルモ又直ニ建議ノ許否ヲ取決スルモ共ニ同意起立セント欲スルナリ

○五十番

三浦安

種々ノ論議ヲ生シ來リタレハ前論ヲ主持スル爲メニ尙ホ一言ヲ費サン今

本論題ヲ決スルニ漫ニ理窟ノミヲ用ヒテ從來ノ慣例ヲ拋棄スル如キハ頗ル注意ス可キコトタリ四十八番ハ曰ク第三讀會ノ議場ニハ議案現ニ存在セリト實ニ然リ即チ第二讀會ニ於テ廢棄ニ決セシ議案ノ存在セルナリ故ニ此案ニ向ヒ如何ナルコトヲ爲スヲ得可キヤト云フニ先ツ回復說ヲ提出セサル可ラス而シテ其回復說成立シ原案ノ復起スルニ至リテ修正說ヲ提出シ得ヘキナリ第一讀會第二讀會第三讀會ハ各共ニ獨立ノ性質ヲ有スルトノ說ハ甚ダ解セサルナリ成ル程第一讀會ハ所謂ル全體論ニシテ衆議ニ問ヒ決ヲ取ラサレハ或ハ第二讀會以下ト關係セサルヤヲ知ラサレモ第二讀會ニ至テハ修正ニセヨ廢棄ニセヨ取決ヲ實行シテ定ムルカ故ニ修正說多數ナラハ修正ニ決シ廢棄說多數ナラハ廢棄ニ決スルナリ而シテ其修正セルモノ其廢棄セルモノハ直ニ第三讀會ノ議題ト爲ルナリ平易ノ眼ヲ以テ解シ來レハ自ラ右ノ結果ニ歸セサルヲ得ス若シ反對ノ論ヲ以テ此平易ノ解釋ヲ破ランニハ論者ノ主張スル如キ第二讀會ノ廢棄ノ決議ハ廢棄ニ非ストノ規則アルコトノ證ヲ舉ケサル可ラス本官ハ未ダ斯ル規則ノ存スルコトヲ知ラサルナリ本院從來ノ慣例ハ本官ノ平易ノ見解ノ如ク第二讀會ノ廢棄ノ決議ハ即チ廢棄ニシテ第三讀

會ハ其廢棄案ヲ議題ト爲シテ論スルナリ然ルニ第二讀會ニ廢棄セラレタル案ニ對シ敢テ回復説ヲ提出スル無クシテ直チニ引去ル如キハ一モ條理ノ據ル可キ無キノミナラス該案ニ對シ第三讀會ヲ開クノ詮ナカル可シ今日ヨリ慣例ヲ改ムルナラバ伊ザ知ラス慣例ヲ守リテ議事ヲ經過セントセハ現ニ消滅セルモノヲ引キ去リ更ニ修改シテ提出セントスル如キ順序錯誤ノ事柄ヲ議長ニ於テ採用セサルハ固ヨリ當然ナリ但議長カ三十八番ノ意見ヲ納レ先ツ之ヲ議場ニ問フ如キハ是レ念ニ念ヲ入ルルノ主義ニ出ツレハ敢テ喙ヲ容ル可キニ非ス然レモ二十七番ノ建議ニシテ若シ議場ノ容ルル所ト爲ラハ第二讀會ノ決議ハ無要ノ決議タルコトニ歸セン又四十八番ハ第一讀會第二讀會第三讀會ヲ經過スルハ是レ粗ヨリ精ニ入り簡ヨリ密ニ就クノ順序ナリト説ケモ其各讀會中骨髓トモ稱ス可キハ第二讀會ナリ去レハ第二讀會ハ發言ニ制限ヲ設ケス十分精密ナル討議ヲ盡ス可キ餘地ヲ與フルヲ以テ此第二讀會ノ決議コソ最モ正確ヲ得タルモノニシテ第三讀會ノ討議ハ第二讀會ノ矛盾牴觸等ノ不備ヲ補理スルノ主意ニ過キス然ルヲ第二讀會ノ決議ニ依リ廢棄シタルモノハ殆ント第三讀會ニ効力ヲ有セストセハ第二讀會ハ無精神ノ會議ト言ハンノミ豈ニ第二讀會ノ本性ニ反スルナカラシヤ切ニ建議ノ行ハレサルヲ望ムカ爲メニ一言ス

○五十一番 井田 五十番ノ説ハ本案ハ已ニ死セリト爲スニ在リ是レ最モ服シ難キ所ニシテ若シ直ニ死セリトセハ第三讀會ニ至リ如何ナル方劑ヲ用ユルモ之ヲ蘇生セシムル能ハサルノ理ナリ本官ノ考案ニ據レハ假令ヒ第二讀會ニ廢棄ニ決セシモ是レ全ク消滅シ

了リタルニ非スシテ其全ク之ヲ殺スハ第三讀會ノ決議ニ在リ要スルニ第二讀會ニ取決セルハ殺ス可キヤ否ヤヲ決スルニ過キスシテ即チ議案ノ第三讀會ニ未タ全ク死セサル證據ナリ若シ五十番ノ言フ如ク全ク消滅セリトセハ第三讀會ヲ開キテ之ヲ議セントスルモ議スルニ其物ナカル可シ本官等ハ第三讀會ヲ開クハ議案ノ存スルカ故ニシテ議案ノ存スル以上ニハ之ヲ引キ去ルニ支障ナシト信スレハ直チニ建議ヲ採用スルヲ可トス

○四十九番 神田 議長ニ問フ例規ニ依レハ第三讀會ノ發言ハ一人一回ニ止マレモ現問題ハ議案ニ關セサル規則論ナレハ敢テ其制限ニ從ハサルモ可ナルカ

○議長 議題ノ外ナレハ敢テ制限ヲ要スルノ限ニ在ラス

退席

七番

六戸

璣

○四十九番 神田 本案ハ第二讀會ニ於テ消滅ニ歸シ已ニ白紙ノ議案ト爲レリ是レ朗讀セサルヲ以テ知ル可シ然ルヲ議官中往々誤解セル者アリテ意見書ハ現ニ存立セリト説ケリ此ノ如ク其白紙ナルヤ白紙ナラサルヤ模稜ノ中ニ在リナカラ直ニ建議ノ決ヲ取ルモ到底正當ノ結果ヲ得サルヤ甚タ明カナリ因テ建議ニ先チ白紙ナルヤ否ヤノ決ヲ取ランコトヲ希望ス

○議長 議案ノ存在スルヤ否ヤハ各自ノ見解ニ在リテ敢テ本席ノ強ユ可キニ非ス本席ハ只慣例ヲ遵守シテ議場ヲ整理スルノミ今其白紙ナルヤ如何ニ就キ聊カ思フ所ヲ陳ヘン本案若シ全ク白紙ナラハ第三讀會ヲ開クノ謂ハレ無シ然レモ今ハ則チ第二讀會ニ於テ否決セル議案カ第三讀會ノ議案ト爲レルナリ換言スレハ第二讀會決議ノマ、ヲ以テ今

日ニ存スルナリ故ニ全ク白紙ナリト極言スル能ハサル可シ眞ニ白紙ニ歸セシムルハ第三讀會ニ於テ回復説成立セサル最後ノ決議ニ在ルノミ

○四十八番尾崎小 議長ノ辯明ハ詳カニ領解セリ本官前刻來書記官ニ就キテ先例ヲ調ヘタルニ果シテ議長ノ言ニ違ハス是レ本院ノ慣例タルニ疑ヒ無キナリ即チ第二讀會ニ於テ全體消滅セリトセハ第三讀會ヲ開クノ必要ナキカ如キモ第二讀會ニ殺セルモノヲ再ヒ蘇生セシムルヤ否ヤハ第三讀會ニ於テ決定シ得ヘキモノナリ已ニ議場ノ公共物タル以上ハ假令ヒ起草者ノ提出セル儘ヲ以テ行ハレストスルモ其主意精神ノ廢滅ニ歸セサル限リハ何レノ邊ニカ行ハル可キ場合ハ第三讀會ニ殘存セリト云ハサル可ラス然ラハ其再ヒ蘇生セシム可キ命脉ハ何レノ邊ニカ存在スルコト疑ヒ無シ因テ改テ議長ノ辯明ヲ是認スルナリ

○議長 過刻二十七番ハ賛成者ヲ得テ問題ト爲ランコトヲ希望スル旨ヲ陳述セシカ個ハ動議ト異ナリ特別建議ニ屬スレハ敢テ賛成者ヲ要セサルナリ

○二十七番尾崎三瓦 本官ハ例規ヲ解セス動議ト同ク五名以上ノ賛成者ヲ要スト信セシヨリ然ク陳述セシカ若シ之ヲ要セストナラハ大幸ナリ只議長ノ特別建議ニ係ル例規ニ依リテ採用センコトヲ望ム

○議長 本席ハ特別建議ニハ賛成者ヲ要セサルノ例規ナルコトヲ信スルヨリ過刻議長限リ斷シテ採用セサルコトヲ陳ヘシカ其採否ニ付キ異論ヲ生シ三十八番モ亦採用シテ可ナリト説ケリ因テ其之ヲ採用ス可キヤ否ヲ起立ニ問ハント欲ス即チ二十七番ノ特別建議ヲ採用スルヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十三人

○議長 少數ナルヲ以テ二十七番ノ特別建議ヲ採用セサルニ決ス

○二十七番尾崎三瓦 本官ハ務メテ慣例ニ從フヲ欲スレハ心得ノ爲メ或ル一事ヲ議長ニ問フ第二讀會ニ否決セル案ニ對シ第三讀會ヲ開クハ其否決セル點ノミニ就キ之ヲ開クヤ將タ初發ヨリノ案ニ對シテ之ヲ開クヤ

○議長 初發ヨリノ案トハ少ク解シ難キ語ナレモ要スルニ第二讀會ニ否決セル案ハ其マヽ第三讀會ノ議題ニ上レルナリ故ニ之ヲ回復センニハ他ノ動議ト同ク回復説ヲ發シ五名以上ノ賛成者ヲ得ルコトヲ要ス

○二十七番尾崎三瓦 本案ハ第二讀會ニ於テハ各官ノ賛成ヲ得ルコト少ク爲メニ廢棄ニ歸セシモ本官飽マテ微意ヲ徹底セント欲スレハ只今ノ議長ノ説明ニ從ヒ此ニ該案ヲ回復スルノ議ヲ提出ス願クハ五名ノ賛成者ヲ得テ問題ニ上ランコトヲ偕テ議長ニ一問ス此回復説幸ニ問題ト爲ルヲ得ハ更ニ前會ノ餘意ヲ繼キ其盡サハル所ヲ補説セント欲スレモ第三讀會ハ發言一回ノ制限ナレハ再ヒ發言スルヲ許サハルヤ將タ問題ト爲レル後ナラハ猶ホ一回ノ發言ヲ許スヤ

○議長 問題ト爲レル後ハ發言ハ一回ヲ超ユルヲ得ス然レモ今原案ヲ回復セント欲スル要旨ヲ陳述スルハ敢テ妨ケサルナリ

○二十七番尾崎三瓦 本案ノ回復ヲ熱望スルヨリ前會ニ盡サハリシ二三ノ點ヲ開陳セン本案

ハ第一讀會以來種々ノ障碍ヲ受ケ第三讀會ノ今日ニ至リテハ幾ント全ク廢案ニ歸セン
トスルノ色アリ然レモ細カニ反對各位ノ意思ヲ追察スルニ本案ノ大體ニ對シテ異議ヲ
有スル者甚タ少レナリ畢竟重大ナル國家ノ大典ヲ元老院ノ議定ニ付スルトノ精神ハ大
ニ贊成スルモ只元老院章程タル一規則ニ拘泥シテ本案ヲ否認スルニ過キサルノミ是レ
固ヨリ各位ノ思想ニ在リテ本官ノ左右スル能ハサル所ナルモ本官ノ說ヲ指シ之ヲ主張
スルハ不可ナリ之ヲ說クハ背則ナリトハ少ク大層過キタル考ニハ非サル乎本官ハ虚心
平氣ヲ以テ考ヘ規則ナルモノハ然クムツカシキコトニ非スト信シタレハ提出ノ後斯カル
規則論ノ障碍ニ出會スルコトハ毫モ豫想セサリシナリ願フニ我國古來法律ノ設ケ多シト
雖モ憲法ハ開闢以來未曾有ノ大典ニシテ元老院カ此大典ニ對シテ議權ヲ有スルヤ否ヤ
ハ疑問ノ生シ易キコトナレモ既往ヲ追觀スレハ已ニ明治八年ニ於テ元老院ヲ設ケ立法ノ
源ヲ擴ムル旨ノ聖詔アリ此聖詔ハ即チ立法ノ源基ヲ開ケルモノナリ後元老院ノ章程ヲ
改定セラレ更ニ議法院ト爲セシヲ以テ立法ノ權ハ最早ヤ元老院ニ屬スト言フヲ得サル
モ議法院ノ元老院ニ存スルヤ疑フ可クモ有ラス天皇陛下ヨリ付與セラレシ此議法院即
チ議法院ノ職分ヲ以テ國家ノ憲法案ヲ議セントスルニ何ノ支障スル所アラシク實ニ當然ノ
職分ト言フ可キナリ然ラハ則チ其手續ハ自ラ據ルヘキ有ランモ當然ノ職掌タル元老院
カ憲法案ヲ審議討究センコトヲ陛下ニ奏請スルニ何ノ不可カ有ル此論旨ニシテ若シ認マ
ル無クンハ奏文ノ不妥ハ之ヲ改ムルニ易シ故ニ各位ノ満足スルマテ十分ニ修改ヲ加フ
ルハ本官ノ辭セサル所ナルノミナラス又大ニ希望スル所ナレハ若シ全部付託調査委員

ヲ置クノ建議出ツル有ラハ本官ハ欣ンテ贊成セント欲スルナリ併シナカラ今ニ及ヒ幾
回ノ辯論ヲ盡スモ已ニ第一第二讀會ヲ經過シタルヲ以テ逆モ本官ノ納辯能ク其功ヲ奏
シ挽回ノ幸運ニ遭遇スルヲ得ル能ハサランモ我輩議官ノ職掌ニ對シ飽マテ極論セサル
ヲ得サルナリ假令今日議場ニ一敗スルモ此精神ヲ貫クニ他ノ手段ナキニ非サラン見
スヤ赤坂城陷落スルモ猶ホ千早城ノ峻アルヲ本官ハ一戰一敗ニ依リテ其精神ヲ挫折ス
ル者ニ非サルナリ之ヲ歐洲ノ例ニ照スモ一國ノ大事件ハ其眞理ノ目前ニ灼然タルモ之
ヲ決行スルニ尙ホ數多ノ歲月ヲ要スルコト有リ曾テ英國ニ於テ穀物條例ヲ廢スルニ當リ
其穀物條例ノ不條理ナルコト明瞭ナルニ議論常ニ困難ヲ極メ幾十年ヲ經ルノ後漸ヤクニ
シテ廢棄スルヲ得タリ國家ニ關スル大事件ノ一朝一夕ニシテ決定スルヲ得サルヤ夫レ
斯ノ如シ本官ハ本案ニ對シ斯ク紛議難論ヲ醸シテハ到底好結果ヲ得サルヲ信シ之ヲ引
キ退ケンコトヲ請求セシニ之ニ就キ更ニ紛議ヲ生セリ此點ヨリスルモ事ノ重且大ナルヲ
證スルニ足レリ蓋シ各位カ數日ヲ費ヤシテ熱心本案ニ抵抗シ若クハ贊成スルハ是レ皆
ナ憲法ノ大問題タルコトヲ知レルニ因ルナリ斯ク日子ヲ費シ斯ク討議ヲ盡ス上カラハ假
令ヒ本案ハ消滅スルモ其精神ハ容易ニ議場外ニ消散セサル可シ本官亦永ク此精神ヲ保
維シテ他日ヲ待タントスルナリ尙ホ且一言ヲ要スルモノ有リ反對論中元老院カ憲法ヲ
議定スルハ抑々不可ナリト論スル者アリ其論旨ヲ約言スレハ憲法ハ必ス欽定ナリ然ル
ヲ憲法ヲ元老院ニ下付シ一旦其議定セルモノハ天皇陛下ト雖モ之ヲ動カス能ハス遂ニ
欽定憲法ノ性質ニ乖クト云フニ在リ此說ニ對シテハ前會已ニ論駁ヲ下セシ如ク元老院

ノ議定ハ陛下之ヲ動カスノカナレト謂フ可ラス然レモ本家中若シ議定ノ文字ヲ用ヒハ
 或ハ元老院カ切リニ立法權ヲ弄シテ法律ヲ議定シ陛下ノ欽定ヲ破フルカ如キ嫌ヒ有レ
 ハ本案ニハ故ラニ「本院ニ下付シ審議セシメラルヘシ」ナル語ヲ用ヒタリ論者ノ懸念ハ
 之ヲ以テ除却シ得ルニ足ル可シ憲法ハ固ヨリ陛下ノ欽定ナリ本官等敢テ一言ノ異議ヲ
 唱フ可キ無シ然レモ陛下如何ニ聰明睿智ト雖モ獨斷以テ國家ノ大典ヲ定メタマフコ難
 シ去レハコソ十四年ノ勅文中「在廷臣僚ヲシテ經畫セシム」ナル一語ヲ下シタマヘリ其
 臣僚トハ即チ專ラ元老院ヲ云フモノニシテ元老院ハ憲法ヲ議ス可キ適法ノ場所ナリ然
 ルヲ元老院ハ只遙カニ之ヲ傍觀シ憲法ハ何レノ時ニ制定セラル、モ關セサル如キ思想
 ヲ以テ満足スルハ豈其職掌ニ背クモノト謂ハサルヲ得ンヤ故ニ今ノ時ニ在リテハ元老
 院ハ進ンテ其職掌ヲ完フセンコヲ務メ陛下ニ請フテ憲法案ヲ議シ以テ陛下親裁ノ材料
 ニ供センコハ一日モ忽ニス可ラサルナリ各位願クハ元老院カ故ラニ權利ヲ主張シテ陛
 下ノ特權ヲ侵カストノ懸念ヲ棄テ以テ本官ノ說ニ贊同センコヲ

○二十二番 中村正直 動議ヲ贊成ス理由ハ敢テ陳述セサルモ只各位ノ之ヲ贊成シテ本案ヲ回
 復セシムルニ盡力センコヲ望ム

○五十番 三浦安 贊成

○十一番 巖崎作 贊成

○十番 大給恒 贊成

○七十一番 何禮之 贊成

○五十一番 井田 本官ハ第二讀會マテハ或ル理由ヨリ本案ニ不同意ヲ唱ヘ只調査委員撰
 定ノコノミヲ主張セシカ今第三讀會ニ至リ更ニ熟考ヲ加フルニ此結構ナル精神ヲシテ
 無氣ニ消滅ニ歸セシムルハ如何ニモ遺憾ニ堪ヘサレハ改テ回復說ヲ贊成ス請フ聊カ其
 理由ヲ陳ヘン憲法案ノ元老院ノ議定ニ付セサル可ラサル所以ハ發議者贊成者各位ノ詳
 論セル所ナレハ本官今更贅言ヲ呈セサルモ茲ニ本官ノ杞憂ニ堪ヘサル點アリ一言セサ
 ルヲ得ス杞憂トハ何ソヤ即チ我國ノ憲法制定ヲ外國人ニ商議セシト云ヘルコ是レナリ
 此コハ前已ニ某議官ノ告クル所ナリシカ我カ廟堂ニ在ル或人ノ談ヲ聞クニ同氏カ前年
 伯林ニ至リ同國ノ學士「グナイスト」ト會合セシモ「グナイスト」ハ大ニ我カ施政上ノ事ニ
 喙ヲ容レシト或人ハ「グナイスト」カ數千里ノ波濤ヲ距ツル日本ノ國勢人情ヲモ知ラス
 シテ叨リニ政治上ニ容喙スルハ眞ノ學者ニ非スト言ヒテ大ニ嗤笑セリ此嗤笑セル所ヨ
 リ考フレハ彼ノ憲法ノコヲ外人ニ商議セシトノ事實ハ或ハ虛ナラン然レモ向キニ四十
 八番カ某事ヲ壁越シニ聞キタリト言ヒシカ本官モ亦一二ノ忌ハシキ事柄ヲ壁越シニ聞
 キタリ即チ過般ノ條約改正會議ノ際或ル外國人ノ一人カ大ニ此會議ニ障礙ヲ與ヘント
 企テシカ爲メニ改正ノ議モ幾ント中止セラレントスルニ當リ我カ廟堂ノ一人ハ之ヲ商
 議ス可キ所ニ商議セスシテ却テ敵人モ謂フ可キ一二ノ外國人ニ商議セリトノコ是レナ
 リ我カ權利ヲ回復シ我カ利益ヲ計畫セントスルニ却テ之ヲ利己主義ヲ以テ充タサレタ
 ル外人ニ相談スル如キ舉動ヨリ推考スレハ或ハ我カ憲法制定ヲ外國人ニ商議セシヤモ
 知ル可ラス是レ本官カ半ハ信シ半ハ疑フテ杞憂ニ堪ヘサル所以ナリ向キモ陳ヘシ如ク

商議スヘキ適當ノ場所ニ向テハ務テ商議ス可ク彼ノ外國人ヲ以テ商議ス可キ範圍内ニ容レシ以上ニハ我カ元老院ニ下付シテ計議セシムルハ固ヨリ其所ナリ彼レ外人ハ遠ク萬里異域ニ生長セル人類ニシテ日本ノ國勢人情ニ通セサルハ言フ俟タス之ニ反シ法律ヲ議スルノ職ニ備ハリ殊ニ國勢人情ニ通曉シ學識ト熟練トニ富メル人人ヲ以テ組織シタル我元老院ヲ以テ適當ノ場所ト見スハ亦他ニ適當ノ場所アラサル可シ本官ハ只管ニ此重大ノ法典タル憲法制定ニ向テ彼ノ條約改正ニ起リタル障碍ト同一ノ障碍ヲ生セシコトヲ恐レテ已マサルナリ反對論者中憲法ハ欽定タリ總理大臣ニサヘ計議スルヲ要セスト論スル者アリ或ハ内閣限リヲ以テ議定シ元老院ノ如キハ敢テ喙ヲ容ル可ラストマデ主張スル者アリ何ソ叨リニ自ラ議權ヲ抛擲シ國家ヲ思ハサルノ甚ダシキヤ本官ハ反對論者ノ株守スル元老院ハ憲法案ノ下付ヲ奏請スルノ權ナシトノ說ハ飽マテ不同意ヲ唱ヘサルヲ得ス今日ハ如何ナル時期ツ今日ハ斯カル鎖細ナル論據ヲ守リテ不同意ヲ表スルノ時ニ非サルナリ本官ノ精神ハ上來陳述スル所ノ如シ而シテ已ニ第三讀會ト爲リテハ本案生死ノ決スル所ナレハ漫ニ小節ニ拘リテ論スヘキニ非ス因テ前日ノ調査委員撰定說ヲ繰ヘシ一字一句ヲ改ムル無クシテ本案ヲ回復スルニ同意スルナリ

○四十三番 田邊 太一 本官ハ固ヨリ本案ヲ賛成スル一人ナリ向キニ本案ヲ議場ヨリ引キ去ルノ建議ニハ起立ヲ表セサリシハ是レ本案ヲシテ議場ニ再起セシムルコトヲ希望セシニ依ルナリ其理由ヲ陳ヘスシテ現動議ノ取決ニ起立セハ或ハ各官ノ之ヲ恠マンコトヲ慮リ敢テ一言ス

○三十八番 細川 潤 次郎 賛成

○議長 二十七番ノ原案回復說ハ定數以上ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

退席 五十七番 神山 郡廉

○三十八番 細川 潤 次郎 本官ハ本案ノ賛成者トシテ意見書ニ記名セシ一人ニシテ向キニ本案及ヒ號外第四十二號意見書ヲ合シテ意見ノ有ル所ヲ陳辯セシカ本案賛成ノ單純ナル意見ニ至テハ未タ一言ヲ發セサリシヲ以テ今現動議ヲ賛成スルニ臨ミ前回ノ發言ニ脱漏セシ所ヲ補陳セン賛成各位ハ實ニ熱心シテ論セラルル如キモ本官カ本案ヲ賛成セシハ至テ冷淡ナル意ニ出テ其冷淡ナルコトハ前回ノ陳述ニ依リテ明ニシテ蓋シ會議筆記ニ就キテ知ルヲ得ヘシ然レモ前回ニハ其冷淡ナル所以ヲ一一明言セサリシヲ以テ今茲ニ之ヲ陳述セン蓋シ其冷淡ナル意トハ決シテ本案ハ可モ無ク不可モ無シト言フニ非スシテ只本案ノコトハ深ク論スルマテモ無ク當然ノコトナリト信シ初メヨリ然クムツカシキ事ニ非スト考ヘシニ豈ニ圖ラン議場ニ斯ノ如キ混雜ヲ惹起サントハ換言スレハ本案ニ對シ紛々タル反對論ヲ生スルハ頗ル奇ニシテ本官ノ冷淡ナル意ニ反對セリ因テ今本官ノ意ヲ分析シテ各位ニ告ケスンハ其論旨ノ茫漠トシテ那ノ邊ニ存スルヲ知ラサルヲ恐レ茲ニ數言ヲ陳セサルヲ得ス蓋シ憲法制定ノコトハ我日本帝國ニ取リテハ未曾有ノ珍事ニシテ實ニ重大ノコトナレハ固ヨリ冷淡ナル心情ヲ以テ見ル可キニ非ス然ルニ本官カ本案ヲ見ルコト何故ニ冷淡ナルヤト各位ハ其不可思議ナルニ迷ハン本官ハ之ヲ說クニ言アリ曰ク我カ天皇陛下ハ已ニ立憲政體ヲ組立スルコトヲ有衆ニ誓ヒタマヒシニ非スヤ人民ハ疾

ク其聖旨ヲ遵奉シテ立憲政體ノ組立ヲ確信セルニ非スヤ國會ハ數年ヲ出テスシテ開設セラルルニ非スヤ元老院ハ議法人職ニ備ハリ言責ヲ荷フノ官ナルコトヲ知レルニ非スヤト此ノ如ク今日ハ憲法ハ最早ヤ其案成リテ發布ノ日近キニ在ルノ推測ヲ下スヲ得ヘキ時ナリ本官等曾テ議長ノ命ヲ受ケテ國憲ヲ調査シ之ヲ編成シテ提出セシコト有リ以上ノ有様ヨリ考ルモ憲法ヲ制定セラルルヤ論ヲ俟タヌ又之ヲ元老院ニ諮詢セラルルヤ疑ナシ何トナレハ法ヲ議スルノ職タルヲ認メタル上カラハ些細ナル法律ノミヲ議セシメテ重大ナル憲法ヲ議セシメサルノ理ナケレハナリ去レハ憲法制定ニ就キテハ各位ノ如ク大ナル杞憂ヲ懷キ明目張膽シテ論スルマテモ無ク必定起草者ノ意ヲ満足セシム可キ成行ヲ見ルヲ得ルハ本官ノ信シテ疑ハサル所ニシテ三十九番ノ言フ如ク言フニモ及ハサル程ノコトナリ是レ本官カ本案ヲ賛成スルニ冷淡ナル所以ナリ然ルニ猶ホ賛成セル一理由アリ其ハ意見書ノ冒頭ニ言フ如ク國會開設ノ期纔ニ二年ニ迫レルコト是ナリ如何ニ智囊ヲ振フモ如何ナル權力ヲ以テスルモ二年ヲ延ヘテ三年ト爲スヲ得ス此期限ハ最早ヤ動カス可ラサル確定ノ期限タリ若シ此期ニ迫リ尙ホ憲法ノ制定アリシコトカ我輩ノ耳染ニ觸ルル無キハ如何ン是レ痛心措ク能ハサルナリ好シ斯カル不都合ナシトスルモ國會開期ノ前相當ノ期限内ニ下附セラレンコト必要ナリ若シ時機切迫審議ニ違アラサル時ニ至テ新設未曾有ノ大典ヲ議セシムルニ至テハ啻ニ各議員ハ十分ナル思想ヲ費シ反覆審議ヲ加フルノ暇ナキノミナラス遂ニ欽定ニ供ス可キ參考資料ヲ缺キ萬々一ニモ白璧ニ微瑕ヲ留メンコトヲ恐ルルナリ五十一番モ引證セル如ク我輩ト雖モ憲法ヲ制定シ之ヲ

本院ニ諮詢セラル可キハ固ヨリ信用スルモ切迫ノ際如何ナル弊害ヲ生スルヤモ知ル可ラス彼ノ各位ノ熟知セル條約改正ハ我カ賢明ナル大臣ハ身ヲ挺テ之ニ任スルモ力猶ホ足ラスシテ外人ヲ顧問トセルニ非スヤ加之一步ヲ過タハ國權ヲ失墜セントスルニ至リシコトヲモ傳聞セリ海外諸國ニ對シ大切ナル關係ヲ有スル權力ニシテ其窮スルニ至リテハ此危キコト有リ況ンヤ我カ國體大變革ノ際ニ於テヲヤ國會開期ニ切迫シ俄カニ狼狽シテ憲法ヲ制定スル時ニ當リ普通ノ知慧ヲ以テ其好結果ヲ得ントスルノ危キヤ萬々ナリ故ニ切迫ノ困難ニ陷ラサルニ先チ豫メ是カ注意ヲ催スハ臣子タル者ノ分ニシテ殊ニ言責ヲ荷ヘル元老院ノ爲ササル可ラサル所ナリ願ミレハ聖詔實踐ノ期二年ヲ出テス今日ハ業已ニ起草者ノ憂苦スル境界ヲ過キタルヤモ知ル可ラス然ラハ則チ明日憲法案ヲ下附セララルモ以テ十分ナル時間アリトスル能ハス彼ノ北米合衆國カ憲法ヲ制定スルニ方リ非常ナル混雜ヲ蹈ミ數多ノ時間ヲ費シテ漸クニ起草ノ効ヲ奏シ大統領華盛頓ノ承認ヲ經之ヲ各聯邦ニ通知シテ其承諾ヲ經ルニ猶ホ三年ノ日子ヲ經過セシコトハ歷史上顯著ナル一事ニシテ華盛頓ハ戰爭ニハ困難セサルモ憲法ニハ大ニ困難セリトハ今猶ホ世界ノ一話柄ト爲リテ存セリ日本ノ憲法ハ欽定憲法ニシテ彼ノ共和政體ノ國ニ於ル憲法トハ之ヲ制定スル困難ノ度稍ヤ低シト假定スルモ其困難ハ決シテ他ノ法律制定ノ比ニ非サルナリ前會ニモ外國ノ例ヲ引證シテ論セシ議員アリシカ歐洲中二三ノ國ニ於テハ人民ノ脅迫ニ依リテ憲法ヲ制定シ憲法ハ幾ント不祥ノ器ト爲リシ例ニ乏シカラス近代ニ至リテハ時勢ノ變遷ノ免レサルヨリ人民ノ脅迫ヲ待タスシテ之ヲ制定スルコト爲

リ其最モ近代ニ成リシハ李滯生憲法ナリ普魯士憲法ハ干戈ヲ見スシテ制定スルヲ得シ
 モ其實頗ル困難ナル状態ヲ蹈來リシナリ即チ普魯士ハ特ニ憲法議會ヲ設ケ人民ヲ召集
 シテ之ヲ審議セシモ其間種々ノ紛議難論ヲ生シ辛フシテ其制定ヲ得シモ猶ホ容易ク其
 好結果ヲ奏スルヲ得サリシトハ我輩ノ常ニ聞ク所タリ或ハ論セン外國ハ外國ナリ日本
 ハ日本ナリ日本ノ政權ハ獨リ天皇陛下ニ在リ人民ノ權利ハ纔ニ國君ヨリ分與スルモノ
 ニシテ所謂君許國憲トセハ人民ハ其間ニ一言ヲ容ル可ラスト或ハ然ラン然レモ今日
 ノ時勢ハ已ニ變遷セル時勢ナリ其變遷以前ノ議論ヲ以テ變遷以後ノ時勢ニ適用セント
 欲スルハ恐クハ難事ナラン蓋シ一般ノ法律殊ニ憲法ノ如キハ成ル可ク公衆ト共ニ思慮
 ヲ盡シ其正鵠ヲ討究ス可キハ天地間磨滅ス可ラサル道理ナラン況ンヤ憲法、國會ハ輸入
 物ナリ輸入物タル以上ハ幾分カ其本元ニ準據ス可キハ免レサル所ナリ事ヲ斷スルノ速
 カナルハ少數ノ人ニ如ク無シ然レモ其斷定ノ結果ヲシテ正當ニ出テシムルニハ多數人
 ノ思慮ヲ用ヒサルヲ得ス去レハ務メテ衆ニ謀ル可シトノ古聖人ノ言ヲ採用シ成ル可ク
 合同ノ思慮ヲ蒐ムルハ憲法ノ堅固ヲ得ルニ於テ棄ツ可ラサル手段ナリ獨逸ハ憲法議會
 ヲ設ケテ憲法ヲ制定シ噍馬ハ之ヲ上下兩院ノ議決ニ付セリ是レ實ニ依ル可キノ好例ナ
 レモ如何セン我國未タ國會ノ設ケ無シ然ラハ特ニ憲法議會ヲ開ヒテ人民ヲ召集センカ
 名ニ於テハ頗ル可ナルモ實際ノ混亂ヲ免レサル可シ只茲ニ元老院ノ在ル有リ元老院ハ
 固ト立法ノ源ヲ擴ムル爲メニ設立セラレ天皇陛下ノ聖詔ヲ以テ其職權ヲ定メラレタリ
 今天皇陛下欽定ノ憲法ヲ議法ノ權ヲ付與セラレシ所ニ諮詢セラルルハ實ニ當然ノコニ

シテ左マテ奇ナルコト思ハサルナリ但時機切迫ノ一段ニ至テハ頗ル憂フ可ク本官ハ時
 已ニ遲キニ非サルカヲ懸念スルナリ若シ過テ條約改正會議ノ如キ迷路ニ蹈込マハ其極
 如何ナル所ニ陷ルヤ知ル可ラス斯ク考へ來レハ今ハ冷淡ナル意ハ全ク變シ最モ熱心シ
 テ贊成セサルヲ得サルナリ

○十四番 渡邊 本官ハ旅行ノ爲メニ第一讀會以來欽席セルヲ以テ未タ議場ノ成行ヲ詳ニ
 セス之ヲ知ラスシテ漫リニ發議シ其論點ヲ謬リテハ甚タ遺憾ナリ且憲法制定ニ關スル
 事ハ固ト國家ノ一大事ナレハ聊カ議長ニ一問ス發議者ノ意ハ憲法案ヲ他ノ法律ト同様
 ノ方法ヲ以テ元老院ニ下付ス可シト云フニ在ル乎將タ時機已ニ切迫シタルヲ憂ヒ速ニ
 憲法案ヲ下付セラレンコトヲ望ム一時ノ奏請ナル乎奈何ン

○五十番 三浦 十四番ノ議長ニ對スル質問ハ起草者若クハ贊成者ヨリ答辯ス可キ事柄ナ
 レハ本官代テ答辯セン起草者ノ精神ハ固ヨリ一時ノコニ係リ憲法制定ハ實ニ國家重大
 ノ事件ニシテ若シ欽定ナリトシテ敢テ意ヲ注カスンハ陛下欽定ノ材料ヲ欽カン元老院
 ハ現ニ議法ノ職ニ備ハレリ宜シク案ヲ此ニ下シテ諮詢セラレルヘキコトヲ奏請スルナリ
 未タ憲法案ノ治定セラレシヤ否ヤヲ知ラサルニ先チ元老院ハ漫ニ議權ヲ主張シテ欽定
 セラル可キ憲法ニ立入ラントスルノ意ニ非ス十四番ハ起草者ノ精神ハ一時ノ奏請ニ在
 リト解シテ可ナリ

○十四番 渡邊 了解セリ
 ○四十八番 尾小 本官ハ本案ノ大體ヲ贊成スレモ原案ノマヽニ決センヨリハ寧口全部

付託調査委員ニ付託シ十分ニ修改セシコトヲ望ム思フニ當議場ニ於テモ同感ノ人多カル可シ却説ク人人ノ思想ハ固ヨリ隨意ニシテ敢テ之ヲ難スルニ非サルモ今議場ノ景況ヨリ考フレハ往々本案ヲ輕視スル議官アルニ似タリ然レモ本官ハ憲法ノ大切ナルヨリシテ本案ノ大切ナルヲ確信スレハ其要領ヲ陳ヘテ全部付託調査委員ニ付託セシコトヲ請ハントス憲法ノ大切ナルコトハ各官ノ熱中シテ論スル所ヨリ見ルモ一應明カナレモ本官ハ猶ホ本官ノ考フル所ヲ論セサルヲ得ス抑憲法ハ國家ノ根本基礎ナレハ永ク國家ヲ幸福ノ地ニ置キ確乎不動ノモノタラシメサル可ラス然ラスンハ憲法タル本旨ニ背戻セン苟モ永久不動ノ根本ヲ成スモノナラハ君民共ニ之ヲ確守スルノ精神ナカル可ラス此精神ハ何ニ依テ起ルカ即チ其制定ノ手續ニ在リ古昔ニ在リテハ伊勢大神宮ノ神託ハ國家ノ憲法タルノ効力ヲ有セシナランモ已ニ今日ト爲リテハ斯ル事柄ヲ以テ國家ヲ維持スヘキ根本ト爲ス可ラサルナリ然ラハ國家ヲ維持スルハ何ニ由ルカ又上天皇ヨリ下平民ニ至ルマテ各其位地ニ安シ各其幸福ヲ享受スルハ何ニ由テ得ルカ皆ナ憲法ニ由ラサル無キナリ然レモ憲法ノ背後ニ兵隊ヲ立タシメ之ヲ守ルニ踴躍スル者ハ直ニ擊殺ストノ壓力ヲ以テ之ヲ守ラシメ以テ國家根本ノ鞏固ヲ計ラントスルハ固ヨリ能ハサルノミ又獨逸憲法ハ能ク國家ノ根本ヲ堅フセリ之ヲ日本ニ施用セハ日本モ又獨逸ノ如クナリト言フヲ得ス其他佛蘭西ハ斯ノ如シ英吉利ハ斯ノ如シト云フモ是レ佛蘭西英吉利ニシテ可ナルノミ未タ必シモ日本ニ可ナラサルナリ斯ク論シ來レハ我國憲法ハ何ニ由テ勢力アリヤ人民カ信シテ以テ動カス可ラサルモノト爲スハ何レノ邊ヨリ生シ來ルヤト云フ

ニ欽定即チ天子ノ聖慮ニ依リテ定メラルル所ニ在リ然レモ天子ノ聖慮ナリモ若シ幾分ノ欽典アリテ政事上ノ道理ニ反スル所アリ又人民ニ不利益ニシテ人民ノ安寧ヲ害スル有ラハ欽定モ亦其効力ヲ保ツ能ハサルナリ何トナレハ假令ヒ君主タリモ謂ハレ無ク人民ヲ壓抑シテ可ナリトノ道理ノ天地間ニ存スル筈ナケレハナリ已ニ斯ル道理ノ存スル謂ハレ無クンハ國ヲ治メ民ヲ安スル公明正大ノ道理ニ反スル憲法カ其効力ヲ保ツ得サルヤ明カナリ歴史ニ就キテ考フルモ彼ノ淳朴敦厚ナル南北朝時代ノ武臣スラ尙ホ反覆綸旨ヲ惡ンテ朝廷ニ叛ケルニ非スヤ況ンヤ人民ノ見識進ニ謙遜辭讓ノミヲ以テ臣子ノ分ト爲ササル今日ヲヤ天皇ノ聖意ト雖モ若シ道理ノ大本ニ據ラスンハ欽定憲法ノ効力モ亦恐クハ烏有ニ屬セン斯ク直言セハ或ハ忌諱ニ觸ルルヤヲ知ラサレモ衷情亦已ム能ハサルナリ尙此コトニ就キテハ本官ノ實際ニ經驗スル所アリ敢テ一言セン彼ノ陸軍ニハ軍規ナルモノ有リテ其効猶ホ憲法ノ國家ニ於ケルカ如シ即チ之ニ依リテ軍隊ヲ支配シ軍人ノ精神ヲ固メ軍隊ヲシテ直接ニ天皇ノ權下ニ屬シ以テ國家ノ干城タラシム然ルニ日本ニ於テハ實際軍規ノ効力甚タ脆弱ニシテ堂々タル陸軍軍隊中ニ在ル軍人軍屬ニシテ僅ニ内閣一部ノ更迭ヲ聞キテ其顔色ヲ變スル者アリ此ノ如キハ畢竟軍規ノ根本未ダ堅カラス從テ軍人ノ資格威權ノ確立セサルニ依ルナリ豈ニ國家不祥ノ一事ナラスヤ是ニ於テ本官ノ同僚タル某將官ハ明治十八年ニ於テ軍體論ナル一書ヲ草セリ是レ軍紀ヲ正シ軍人ノ頭腦ヲ固ムルノ主旨ニ出テ上天皇陛下ヲ首ト爲シ下軍人ヲ以テ手足ト爲シテ立論シ軍隊ヲ以テ一ノ完全ナル人ノ身體ト同一ノ組織ヲ有セシメシモノナリ而シ

テ軍體論中共精神骨子トモ云フ可キハ軍隊ハ政府ニモ屬セス又帝室ニモ屬セス只天皇陛下大權ノ直轄ニ屬スト云フニ在リ詳ニ言ヘハ軍事ノ經濟兵器ノ増減如何ノ如キハ政治ニ屬ス可キモ軍人ハ軍人タルノ資格ヲ守リ天皇陛下大權ノ下ニ服シ敢テ脇目モ振ラサルコソ軍隊ノ本質ナリト云フニ在リ立草者ハ本官ニ此軍體論ノ草稿ヲ示シ且此書ヲ陛下ニ上ルノ意見ヲ求メタリ本官ハ即チ草稿ヲ熟閱シタル後立草者ニ向ヒ此書ニシテ若シ陛下ノ採用シタマハサルハ斷シテ職ヲ辭セサル可ラス故ニ此書ヲ上ランニハ豫メ一身ノ進退ヲ以テ決意ス可シト忠告シ且其協議ニ與カリ字句上ニ就キ多少ノ意見ヲ陳ヘタリ其後軍體論漸クニシテ稿ヲ脱シ直ニ内閣ニ提出セリ時恰モ本官ノ歐洲發航ノ前ニ際シ謁見ノ爲メ宮内省ニ出頭シ偶々總理大臣伊藤博文氏ニ面會セシニ氏ハ宮内大臣ノ資格ヲ以テ本官ニ向テ曰ク某ハ善長ナル將官ナレモ彼ノ軍體論ノ如キモノヲ著スニ至リテハ之ヲ軍隊中ニ置クヲ難シト本官ハ其故ヲ問ヒ且本官モ軍體論ノ提出ニ就キ多少協議ニ與カリタレハ軍事上ニ關スルコナラハ敢テ隔意ナク不都合ナル點ヲ舉示セラレヨト請ヒシニ大臣曰ク其不可ナル點ハ軍隊ハ政府ニ屬セス又帝室ニ屬セス獨リ天皇陛下大權ノ下ニ屬スト云フニ在リ斯カル理窟ハ果シテ何レニ在リヤト本官答ヘテ曰ク軍隊ノ或事柄ハ固ヨリ政府行政ノ下ニ服スルコト無キニ非スト雖モ軍隊ノ權ニ至リテハ獨リ陛下ニ屬スルノミト大臣曰ク然ラハ帝室ニ屬セサル理由如何シ若シ帝室ニ屬セストセハ先帝崩御シ後帝未タ立タサルノ間ハ軍隊ハ何レノ所ニ屬スルヤト本官ハ反問シテ曰ク先帝崩御シ後帝未タ立タサルハ國家ハ如何ニスルカ國家一切ノ政治ハ何

レニ屬スルヤト大臣曰ク其言理ナキニ非ス然レモ軍隊ハ亂ヲ生シ易ケレハ之ヲ帝室ニ屬セシメス其間或ハ彼ニ屬シ或ハ此ニ屬スル如キ有ラハ遂ニ國家ノ變亂ヲ招キ所謂ル噬臍ノ悔ヒ有ラント本官吏ニ論シテ曰ク其說甚タ訝ル可シ何トナレハ日本帝國ハ皇統一系ニシテ臣民ハ假リニモ皇位ヲ踐ムヲ得ス然ルヲ皇統繼承ノ間或ハ彼ニ屬シ或ハ此ニ屬スルトハ日本ニ於テ不通用ノ論ナレハナリト遂ニ別ヲ告ケテ退キシカ以後猶ホ熟考スルニ歐羅巴ニハ王統王家ナル者甚タ多ク或ハ其恐レ無キニ非サレモ我日本帝國ハ只一ノ皇統アルノミ日本人民タル軍人タル者決シテ之ヲ謬ルコト無ル可シ伊藤氏ハ固ト博學多識ノ人ナレモ此點ニ關シテハ大ニ見解ヲ謬レリ何トナレハ本論ニ對シテハ漫ニ歐洲ニ於ケル思想ヲ適用ス可ラサレハナリ以上ノ一話ハ我日本帝國ノ國體ニ適合スル憲法ヲ制定スルニ當リ鑑照ニ利アリト信シ此ニ一言スルナリ偕テ將ニ制定セラレントスル憲法ハ必ス欽定ナリ欽定トハ御撰ノコナリト解スルモ彼ノ天智天皇「秋の田の」ノ御製ノ如キコトニ非ス其草案ノ如キハ總理大臣ハ遠ク獨逸ニ航シテ之ヲ調査シ又多クノ外國學士ヲ聘シテ之カ顧問ニ備ヘ廣ク内外ノ事情ヲ觀察シテ編成スルモノナレハ其完全ナルヤ論ヲ俟タス然レモ已ニ明治ノ初年ニ於テ廣ク會議ヲ起シ萬機公論ニ決ス可シトノ詔ヲ發セラレ次テ元老院ヲ設ケテ議法ノ職ニ當ラシメタル以上ニハ元老院ハ決シテ袖手傍觀ス可キニ非ス宜ク元老院ノ審議ヲ經テ毫末ノ缺點ナカラシメントコトヲ計ラサル可シ抑々天皇陛下カ百官ヲ設ケフルル所以ハ何ソ即チ天下百般ノ事ヲ處理セシムルノミナラス斯ル重大ノ事件ニ對シ特ニ力ヲ致サシムルカ爲メナリ然ルヲ反對論者ノ

如ク憲法ハ元老院ノ容喙ス可キモノニ非スト論スルニ至テハ實ニ時候後レノ僻說ナリ
 管ニ僻說ナルノミナラス實ニ道理ニ乖戾スルモノナリ願クハ各位ハ一層奮發シ本案ヲ
 以テ一ヒ調査委員ニ付託スルニ同意シ各自自身ノ一大事ナリト思惟シ傾ケタル頭ヲ引
 起シ完全ナル意見書ヲ作り出スニ盡力センコトヲ望ム若レ然ラスシテ此マヽニ本案ヲ打
 破シテハ實ニ議官タル職分ニ安セサルナリ論者ノ如ク政府ハ多分憲法案ヲ下附スナラ
 ント空想セハ其反對ニ多分憲法案ヲ下附セサルナラントノ想像ヲモ生シ得ヘシ憲法ハ
 日本開國以來未曾有ノ大典ナリ臣子タル者皆ナ神心ヲ傾ケテ注意ス可キニ却テ議法官
 タル元老院ハ恬然顧ミル所ナク君其問之水濱ト云ヘル如キ顔色ヲ以テ經過スルハ實ニ
 恥ツ可キノ限リナリ各官請フ反省セヨ因テ本官ハ全部付託調査撰定ノ建議ノ行ハレン
 コトヲ希望ス

○五十番 三浦安 四十八番ハ全部付託調査委員撰定ノ建議ヲ爲シ併セテ本案ノ廢棄ス可ラ
 サル理由ヲ痛論セリ實ニ第三讀會マテノ間十分ナル討議ヲ盡シタル末ナリトハ言ヘ之
 ヲシテ議場ニ廢滅セシムルハ遺憾ニ堪ヘス斯ル重大ノ事件ナレハ假令ヒ其結果廢案ニ
 歸スルモ一ヒハ調査委員ノ審議ニ掛ケ遺憾ナキマテニ論究センコトハ希望シテ已マサル
 所ナリ今ヤ調査委員ニ託スルノ好時機ナリト信シ喜ンテ建議說ヲ贊成ス

○三十五番 津田眞道 建議ヲ贊成ス今日ニ在リテハ憲法ノ至重至大ナルコトハ明瞭掩フ可ラサ
 ル所ニシテ之ヲ本院ノ議定ニ付スルノ當然ナルハ本官ノ最初ヨリ信用スル所ナリ然ル
 ニ或ハ反對ノ意見ヲ有スル者アリ其說素ヨリ一ナラスト雖モ極點論者ハ欽定憲法ハ陛

下ノ外指差シモ出來サルトマテニ論セリ國家ノ爲メ實ニ危害ナル論說ナリ管ニ國家ニ
 危害ナルノミナラス天皇陛下ニ對シ不忠ナル論說ナリ歐洲中文明ノ一帝國タル露西亞
 ヲ觀ヨ露西亞ハ武斷專制ノ國體ニシテ凡百ノ政治一ニ皇帝ノ掌裡ニ在リ然ルニ此國體
 却テ常ニ帝室ニ大害ヲ與ヘリ彼得大帝以降數世ヲ重ヌルモ其間皇帝ノ終ヲ好クセシ者
 甚タ少ニシテ或ハ弑虐ニ遇ヒ或ハ不測ノ變災ニ罹リ又在世中ト雖モ一日モ安穩ノ日ア
 ラサルナリ蓋シ是レ國家ノ大權獨リ皇帝ノ掌中ニ歸シ皇帝ハ常ニ人民ノ怨府ト爲ルニ
 坐スルノミ其毒勢ハ近世ニ至テ殊ニ甚タシキヲ加ヘ大祭大禮ニ際シテハ必ス刺客又ハ
 爆發物ヲ使用スルノ談ヲ聞カサル無シ專制其極ニ達スルモ亦危カラスヤ我日本ハ斯ル
 運命ニ遭遇スルヲ避ケ上下和睦シテ國勢ノ圓滑ナランコトヲ欲スル陛下ノ御卓見ヨリ憲
 法ナルモノヲ制定セラレントス已ニ憲法ヲ制定セラレントスルカラハ其完全無瑕ヲ要
 スルハ論ヲ峻タス陛下ノ叡慮ニ依ルトハ云ヘ衆議ノ力又之ヲ贊助セサル可ラス去レハ
 總理大臣ハ獨逸ニ赴キ内閣ハ外國ノ學士ヲ聘セリ此ノ如ク賢明ナル大臣學識アル顧問
 官ノ力ヲ盡シテ調査スルヲ見レハ其完全無瑕ノ功ヲ望ムヤ明カナリ苟モ斯クマテニ大
 切ナル法案ナラハ更ニ元老院ニ下シテ毫末ノ微瑕タニ存セシメサルヲ計ルハ誠ニ至理
 至當ノコトト謂フ可シ他ノ法律ハ蔑視シテ可ナリト言フニ非サレモ憲法ニ至テハ新ニ精
 神ヲ凝ラシテ之ヲ審究ス可キハ實ニ元老院ノ本分タリ本案ハ已ニ第二讀會ニ於テ否決
 ノ結果ヲ呈セシモ尙ホ之ヲ回復シテ其精神ヲ貫徹セシメンコトヲ熱望スレハ四十八番ノ
 建議ノ成立センコトハ亦復タ本官ノ熱望スル所ナリ

○二十二番 中村 正直 一旦回復説ヲ賛成セシカ今改メテ四十八番ノ建議ヲ賛成ス
○二十八番 原田 一 建議ヲ賛成ス若シ不幸ニシテ建議ノ成立セスハ訥辯ナカラ意見ヲ陳
辯ス可シ

○三十九番 村田 保 已ニ午後一時ヲ過キタレモ議論ハ尙ホ盡ク可シモ思ハレス因テ一旦散
會シ更ニ開會センコトヲ建議ス

○議長 各官ノ論説將ニ盡キントスルニ際シ調査委員選定ノ建議出テ之ニ對スル發議ハ
猶ホ未タ盡サルト認ム且已ニ午後第一時ヲ過キタレハ本日ハ此ニ閉會シ明後日例刻ヨ
リ續會ヲ開カン散會セヨ

午後第一時二十分閉場

○明治二十年十月二十六日 第三讀會 十月二十四日續會

議長 大木 喬任

出席議員

- | | | | |
|----|-------|----|-------|
| 二番 | 清岡 公張 | 七番 | 尖戸 璣 |
| 三番 | 永山 盛輝 | 八番 | 楠本 正隆 |
| 四番 | 石井 忠亮 | 九番 | 榎村 正直 |
| 六番 | 宮本 小一 | 十番 | 大給 恒 |

- | | | | |
|------|--------|------|-------|
| 十一番 | 箕作 麟祥 | 四十一番 | 長岡 護美 |
| 十二番 | 黒田 清綱 | 四十三番 | 田邊 太一 |
| 十四番 | 渡邊 清 | 四十五番 | 時任 爲基 |
| 十五番 | 大久保一翁 | 四十六番 | 橋口 兼三 |
| 十六番 | 伊東 祐磨 | 四十七番 | 野村 素介 |
| 十七番 | 壬生 基修 | 四十八番 | 鳥尾小彌太 |
| 二十二番 | 中村 正直 | 四十九番 | 神田 孝平 |
| 二十三番 | 久我 通久 | 五十番 | 三浦 安 |
| 二十七番 | 尾崎 三良 | 五十一番 | 井田 讓 |
| 二十八番 | 原田 一 道 | 五十二番 | 由利 公正 |
| 三十一番 | 長谷部辰連 | 五十四番 | 加藤 弘之 |
| 三十三番 | 津田 出 | 五十五番 | 調所 廣丈 |
| 三十四番 | 小畑 美稻 | 五十六番 | 林 友幸 |
| 三十五番 | 津田 眞道 | 五十九番 | 長松 幹 |
| 三十六番 | 安藤 則命 | 六十一番 | 楫取 素彦 |
| 三十八番 | 細川潤次郎 | 六十二番 | 渡 正元 |
| 三十九番 | 村田 保 | 六十五番 | 西 周 |
| 四十番 | 綿貫 吉直 | 六十六番 | 鶴田 皓 |

六十八番	岡内 重俊	七十番	東久世通禧
六十九番	上杉 茂憲	七十一番	何 禮之

午前第十時開場

○議長 號外第四十一號意見書第三議會ノ續會ヲ開ク

○四十六番橋口 本官ハ先日本案ニ對シ意見ヲ述ヘタレトモ言訥ニシテ各官ノ腦裏ニ印スルニ足ラサリシト認ムルヲ以テ今復々本案ニ對シテ廢棄說ヲ主張セン

○議長 四十六番ニ告ク調査委員ヲ設クルノ可否ニ關シテ意見アラハ今發議シテ可ナレトモ然ラサレハ宜シク取決後ニ讓ルヘシ

○四十六番橋口 調査委員ノコトニ關シテモ意見アリ

○議長 然ラハ陳辯シテ可ナリ

出席

三十番

本田 親雄

○四十六番橋口 過日來各官ノ論說ヲ承ルニ喋々憲法ノ大切ナルコトヲ論セラル、ニ止マリテ本院章程ノ大切ナルコトヲ說カル、者ナキカ如シ起草者及ヒ贊成者ハ本院ニ於テ遵奉セサル可カラサル章程ニ對シテ牽強附會ノ言ヲ構ヘ恰モ圓形ノ器物ヲ以テ方形ノ器物ト相合セシメントスル如キ強辯ヲ爲セハコソ斯ク紛々ノ論議モ出ルナレ試ミニ一考セヨ此第四十一號意見書ハ新法ノ制定ニ係ルヤ舊法ノ廢止改正ニ係ルヤ本官ノ見ル所ヲ以テスレハ本案ハ新法ノ制定ニモ非ス又舊法ノ廢止改正ニモ非スト信ス若シ本官ノ見ニシテ誤ラストセハ本院ニ於テ斯ノ如キ意見書ヲ議スルノ職權ヲ有セサルナリ

抑憲法ノ重大ナルコトハ本官カ更メテ言フマテモ無ク過日內閣總理大臣ヨリ地方長官ニ下シタル訓示ヲ見テモ明瞭ナラン而シテ憲法カ如何ホトニ大切ナリトスルモ國會開設ノ期カ目前ニ迫リ來レリト爲スモ本院ヨリ憲法草案ノ下付ヲ請求スルカ如キハ其職權ニ於テ決シテ爲シ得ヘキコトニ非ス僻見カハ知ラサレトモ本官ノ所見ヲ以テスレハ憲法ノ如キ重大ナル法律ハ或ハ陛下ノ思召ニテ本院ニ下付セラレサルヤモ知ル可カラス何トナレハ憲法ハ他ノ法律規則トモ其性質ヲ異ニセル者ニシテ其中ニハ陛下ノ御權力ノ一部ヲモ殺クコト無キニ非サルヲ以テナリ議官各位ノ中ニハ憲法ハ必ス本院ニ下付アル可キ筈ノモノナリト明言セラレタル人モ有リタレトモ本官ハ之ヲ信スルコト能ハス果シテ本官ノ見ノ如クナレハ假令此意見書ヲ無理ニ章程第七條ニ合ハシテ上奏スルモツマリ徒勞ニ歸センノミ又若シ本官ノ見ノ如クナラスシテ憲法草案ヲ本院ノ議定ニ付セラル、トスルモ明治二十三年ニ至リ彌々國會ヲ開カル、ノ場合ニ臨テ急速ニ此憲法ヲ議定上奏セヨト言フ如キ無理ナル命令ヲ下サル、コトハナカル可シ政府モ人アリ恐レ多クモ陛下ハ殊ニ聰明ニ在マスコトナレハ苟モ本院ニ下付セラル、以上ハ之ヲ議スルニ方リテ充分國情ヲモ考ヘ人情ヲモ察シ祖宗以來ノ習慣如何ヲモ熟慮スルノ日時ヲ與ヘラル、ハ勿論ナリト信ス又若シ憲法ヲ本院ノ議ニ付セラレスシテ發表セラレ其憲法中ニ不都合ノ點アリトセハ其時コソ章程第七條ニ據リテ憲法改正ノ意見書ヲ上奏シテ可ナリ是發表ノ後ニハ決シテ改正スルヲ得スト云フノ理モ無ケレハナリ而シテ內閣ハ本院ノ意見ヲ善長ナリトセハ立トコロニ改正アルハ信シテ疑ハサル所ナリ又

前會以來本案ヲ修正ス可シトノ論アレトモ本官ハ得テ解スル能ハス何トナレハ假令修正ヲ爲スモ本案ノ意義ニ依リテ其字句ヲ改ムルニ過キサル可ケレハナリ若シ起草者贊成者等ニ於テ憲法草案ヲ編製シテ陛下萬一ノ御參考ニ供シ奉ラントナラハ本官ハ喜ンテ贊成ヲ表ス可キモ本案ノ如ク憲法草案ノ下付ヲ請求スルト云フ如キハ徹頭徹尾不同意ナリトス以上言辭少シク冗長ニ涉リタルモ要スルニ本官ノ意ハ本案ニ不同意ナルヲ以テ調査委員修正委員等ヲ設ケ之ニ付託スルニ及ハス速ニ本案ヲ廢棄センコトヲ望ムニ在ルナリ

○二十七番尾崎三頁 本官ノ發議ハ前會ニ於テ定數ノ贊成者ヲ得テ問題ト爲レリ然ルニ其際全部付託調査委員ヲ設クルノ說出テタルヲ以テ第二讀會ニ於テ贊成セシト同一ノ理由ヲ以テ之ヲ贊成セリ然レトモ本官ハ今更ニ特別ノ建議ヲ爲サント欲ス其建議タル他ニアラス今ニ於テ一應此意見書ヲ引キ戻シ充分ニ調査修正シ各官ニ於テ喜ンテ贊成セラレ、ヤウ面目ヲ改メテ提出セントスルコト是レナリ本案ニ關シテハ既ニ先日來數回ノ會議ヲ經タルヲ以テ充分ニ各官ノ意見ヲ拜聽スルヲ得タレトモ反對論者中純然タル廢棄論者ハ極メテ少數ニシテ他ハ概ネ憲法ハ無論本院ノ議ニ付セラル可キモノナレトモ此意見書ヲ上奏スルハ章程第七條ニ觸ル、モノナリト言フニ過キサルニ似タリ而シテ反對論者ノ意思モ日ヲ經ルニ從ヒテ自ラ本官等ノ意思ニ近ツクニ至レリ諸君モ記憶セラル、ナラン先會ニ於テ憲法ハ法律ニ非スト揚言シ憲法ハ天皇陛下親カラ起草セラル可キモノニシテ臣僚ノ身トシテハ之ニ喙ヲ容ル、コト能ハスト斷言シ又内閣大臣ノ賢

明ニシテ過チ無キヲ信スルヲ以テ憲法制定ノコトニ關シテハ一言モ疑ヲ容ル、ヲ要セス又容ル可キニ非スト明言サレタル四十六番ノ如キスラ本日ハ憲法發表ノ後ニ至リテ不都合アリタラハ其時コソ章程第七條ニ據リテ憲法改正ノ意見書ヲ上奏シテ可ナリト公言セリ是レ前日ノ見トハ反對ニ憲法ハ法律ノ一部ナリト解セラレタルニ因ルモノナル可シ本官ハ四十六番カ前日ノ迷蒙ナルヲ悟ラレタルヲ賀シ併セテ四十六番ニ一考ヲ請フコトアリ即チ憲法ハ法律中ノ最モ重大ナルモノナレハ尋常ノ法律規則ノ如ク屢々改更ス可キモノニ非サルヲ以テ一旦發布シタル以上ハ假令些少ノ不都合アリトモ之ヲ忍ンテ實行セサル可ラサル是ナリ四十六番ニシテ若シ憲法發表ノ後ニ至リ不都合ノ箇所ヲ修正スルノ意見書ヲ上奏スル意思アラハ何ソ速ニ其發表ノ前ニ方リテ意見ヲ獻セサル豈不親切ニ非スヤ又四十六番ハ曰ク本院ニ於テ憲法草案ヲ編製シテ陛下萬一ノ御參考ニ供シ奉ラハ可ナラント此言敢テ一理ナキニ非ス然レトモ本官ハ内閣ニ於テ已ニ憲法案ノ成レルコトヲ傳聞セルヲ以テ其下付ヲ請ヒ而シテ該案ニ就キ意見ヲ獻セハ毫モ僭越ノ恐レ無ク又臣僚謙遜ノ意ニ適フ可シト信ス尤モ各官ニシテ案ヲ具シテ上奏スルヲ可ト爲セハ本官ハ之ニ對シテ敢テ不同意ヲ表セサルモ若シ然セハ之カ爲メニ多少ノ時日ヲ費ササル可ラス故ニ本官ハ單ニ此意見書ニ修正ヲ加ヘテ提出スルノ速カナルニ如カスト信ス四十六番ハ又曰ク憲法ハ或ハ本院ノ議ニ付セラレサルヘシト然レトモ本官ハ内閣ヲ信スルノ厚キ必ス下付セララル可シトハ確信スレトモ或ハ氣付カスシテ下付ヲ遷延セラル、ヤモ知ル可ラス故ニ今日ニ方リテ注意ヲ惹キ起サンカ爲メ本院ヨリ

意見書ヲ上ツレハ内閣必ス速ニ本院ニ下付セラル、ハ疑ヒ無シ是本院ハ議法官ニシテ充分ニ憲法ヲ議スルノ職權アルモノナレハナリ尙ホ特ニ各位ニ對シテ一言ヲ要スルコトアリ其事タル他ニアラス本官等ノ說ニ對シテ大反對論ヲ主張セラレタル四十六番カ意見ヲ開發セラレタルコト是レナリ既ニ四十六番スラ前日ノ迷蒙ナルヲ悟ラレタル以上ハ他ノ反對議官ハ言フマテモ無カル可ク豈悦ハシカラスヤ切ニ望ムラクハ各位幸ニ本官カ前述ノ主旨ヲ諒シ本官ノ特別建議ニ同意アランコトヲ特別建議ハ問題ニ先ダチテ取決セラル、ハ從來ノ慣例ナレハ只今ノ本官ノ特別建議モ問題ニ先ダチテ取決セラレンコトヲ併セテ希望ス

○八番楠本正隆 本官ハ前會ニ欽席セシヲ以テ其實況ヲ知ルニ由ナシト雖モ只今聞ク所ヲ以テ推察ヲ下セハ調査委員ヲ設クルノ特別建議現ニ問題ニ在ルカ如シ然ルニ起草者タル二十七番ハ已ニ本案ヲ引キ込マセントノ特別建議ヲ爲セルハ是レ自カラ其過チヲ知リタルモノナリ殊ニ本案ハ内閣下付ノ議案トモ異ナリ我同僚カ親切上ヨリ提出シタルモノナルヲ以テ其提出者即チ起草者ニシテ一旦引キ込マセ更ニ調査ヲ加ヘント言フ以上ハ本官ハ喜ンテ其望ミニ應スルヲ可トス調査委員ヲ設ク可シト云フ如キハ之ニ同意スル能ハサルナリ

○十一番箕作麟祥 今起草者ヨリ一旦本案ヲ引キ之ヲ調査シテ再ヒ提出セント言ヘリ本官モ本案賛成者ノ一人ナカラ同感ナルヲ以テ之ヲ賛成ス先日來議場ノ景況ヲ見ルニ憲法ハ元老院ニ於テ議ス可キモノニ非スト云フノ說ハ極メテ僅々ニ過キスシテ多クハ章程第

七條ニ觸ル、ト云フニ在ルモノノ如シ左レハコソ第二讀會ニ於テ委員ヲ設ケテ章程第七條ニ觸レサルヤウ調査修正セントノ說モ出テタリシカ少數ニシテ消滅ニ歸シ原案モ亦消滅ニ歸セリ而シテ本會ニ於テ第二讀會ニ消滅セシ原案ヲ回復スルノ說出テ、現ニ問題トナリ又調査委員ヲ設クルノ說出テタレトモ是レ亦決ヲ取ラハ消滅ニ歸セン本官ハ滿場ノ議官諸君カ如何ナル思想ヲ有セラル、ヤハ知ラサレトモ願フニ憲法ノ法律タルコトハ疑ヒモ無ク法律中ニ於テモ最モ重シクモナレハ本院ニ於テ議ス可キ性質ナルハ勿論ニシテ内閣ニ於テモ下付セラル可シトハ本官等ト同感ナレトモ本案カ意見書ノ體裁ヲ得サルカ爲メニ之ヲ内閣ニ出スニ同意セラレサルナラント思惟ス此議場ニ於テ外國ノ事例ヲ引クモ如何ナレトモ佛國及其他ノ國々ニ於テハ憲法ヲ保護スルノ任ハ元老院若クハ上院ニ在ルヲ以テ日本トテモ既ニ元老院ノ設ケアル以上ハ元老院ニ於テ充分ニ憲法ノ爲メニ力ヲ盡サンコトヲ望マサルヲ得ス此點ニ於テハ滿場議官トテモ本官等ノ見ト大差ナカル可ク只章程第七條ノ抵觸ヲ嫌ハル、者ノ如シ故ニ本案ヲ修正シテ章程第七條ニ適セシメハ各官ニ於テモ異見ナカラン本官ハ此理由ヲ以テ二十七番ノ特別建議ヲ賛成ス但二十七番ハ内閣ヲ信スルコト厚キヲ以テ云々ト言ヘリ然レトモ本官ハ若シ二十七番ノ如クニ内閣ヲ信スルコト厚ケレハ本院ニ於テ態々此意見書ヲ奉呈セサルモ可ナラント信ス故ニ本官ハ内閣ヲ信スルト信セサルトノ如キハ第二段ニ置キテ兎ニ角ニ此意見ヲシテ貫徹セシメンコトヲ希望スルナリ

○二十二番中村正直 本官ハ未ダ本院ノ慣例ニ通熟セサレトモ起草者ニシテ自ラ本案ノ不完

全ナルコトヲ悟リ之ヲ引キ戻シテ更ニ改修セント云フハ道理上至當ノコトト信ス加フルニ本案ハ未タ第三讀會ニ於テ否決セルモノニ非スシテ現ニ議場ノ問題ト爲レルモノナレハ之ヲ引キ戻スハ敢テ不都合ヲ見サルヘシ

○三十番^{本田} 今二十七番ヨリ特別ノ建議ヲ爲シテ本案ヲ引キ戻サンコトヲ請ヘリ本官ノ見ル所ヲ以テスレハ既ニ起草者賛成ヲ得テ議場ニ提出シタル以上ハ議場ノ公共物ニシテ殊ニ第三讀會マテ議シ來リシモノヲ我カ物カホニ引キ戻ス等ノコトハ萬々出來得ヘキノ事ニ非サルヲ信ス二十七番ニシテ若シ衆議官ノ賛成ヲ得ル爲メニ改更セントナラハ宜シク修正説ヲ議場ニ提出スヘシ今ニ至リテ本案ヲ引クト云フ如キハ實ニ不都合ノ至リナリ

○六十八番^{岡内} 本官モ二十七番ノ特別建議ヲ是認スル能ハス抑、本案ノ如キ意見書ヲ内閣ニ提出スルトキハ「其院章程第七條ニ抵觸スルヲ以テ差戻ス」ト附箋ノ上差戻サルハ必然ニシテ本院ノ不面目議官ノ耻辱コノ上モアラサル可シ故ニ本官ハ先キニ議場ニ向ヒテ先ツ本案カ章程第七條ニ適スルヤ否ヤヲ定メンコトヲ建議シタレトモ其採用ヲ得サリシカ宛ニ角今日ニ於テ本院ヨリ憲法議案ノ下付ヲ請求スルハ不可ナリ本官ハ第四十二號意見書即チ本院章程ノ改正ヲ請フノ意見ニ關シテハ同意ヲ表シタレトモ章程ニシテ改正セラレサル以上ハ憲法ノコトニ容喙シ得ヘキノ非スト信ス故ニ先ツ本案ニ關シテ議長ヨリ内閣總理大臣ニ照會シ其答ヲ得テ然ル後チ本案ヲ上奏スルモ可ナラシ今日ニ於テ直チニ之ヲ上奏スル如キハ順序ヲ得サルノ甚シキモノト信スルナリ

○六十一番^{掛取} 本官ハ本案ニモ不同意ニシテ委員ニ付託スルモ亦不同意ナリ其理由ハ現今此意見書ヲ上奏スルモ無用ニ屬セントスルニ在リテ章程第七條ニ適スルト適セサルトニヨルニ非ス從來ノ有様ヲ觀ルニ本院ニ於テ各議官カ充分ニ心力ヲ盡シテ修正議決スルモ内閣ニ於テ何カ都合アリト見エ便宜ニ之ヲ修改シ公布ノ後ニ至リテ檢視ニ付セラル、コト往々之アリ左レハ本案ノ如キハ假令之ヲ上奏スルモ其採否如何ハ内閣ニ在ルヲ以テ其儘ニ書函中ニ投入セラル、ヤモ知ル可ラス起草者賛成者ノ如キハ其採否ハ内閣ニ任スコトト爲シ本院ハ職務上此意見書ヲ提出セサルヲ得スト言ヘリ成ル程此意見書ヲ議シ上奏スルハ其職務ヲ盡ス上ニ於テハ當然ノコトナレハ之ニ對シテ非難説ハ取ルニ足ラサレトモ今日ノ有様ヲ如何セン又之ヲ議スルニ方リテ文字ノ激烈ナルト穩當ナルトニ關シテ説アレトモ概切ナルコトヲ筆ニ寫サントセハ勢ヒ激烈ナラサルヲ得ス若シ文字ノ穩當ナル爲メニ行ハル、ヲ得ハ勉メテ穩當ト爲スニ如クハ無ケレトモ本官ハ逆モ文字ヲ以テ今日ノ内閣ノ意ヲ動カサンコトハ今日ノ有様ニ於テ望ミ得ヘキ事ニ非スト信ス他日國會開設ノ後ニ至レハ元老院ハ上院トナル可ク其ノ時ニ至レハ隨分激烈ナル下院ノ議論ノ衝ニ當ルコトアル可ケレハ其時コソ激烈ト婉曲トニ關シテ充分ノ注意ヲ要ス可キモ今日ニ在テハ此注意ヲ用フルヲ要セサル可シ故ニ本官ハ八番ノ言フ如ク有志ノ議官ニシテ内閣員ニ面接シ親切ニ此意見書ノ主旨ヲ辯論忠告セハ却テ此意見書ヲ奉呈スルニ優ルコト數等ナラント思惟ス因テ本官ハ本案ニモ委員ヲ設クルニモ又本案ヲ引キ戻シテ修改スルニモ同意スル能ハサルナリ

○三十九番保村田 二十七番ノ特別建議ハ如何ニモ卑怯鄙劣ノ仕方ナリ本案ノ不可ナルコトハ二十七番自ラモ既ニ第一讀會ニ於テ知り得タルナラン而シテ同會ニ於テ調査委員ニ付託スト云フノ說出テタルトキ喜ンテ之ヲ賛成シ第二讀會ニ於テ廢棄ニ決シタルヲ見テ迎モ此意見書ノ恙ナク第三讀會ヲ通過シ得サルヲ察シ今日ニ至リテ一應本案ヲ引キ戻シ各官カ喜ンテ賛成スルヤウ面目ヲ改メテ提出セント云ヘリ實ニ丈夫タル者ノ言フ可ク又爲ス可キコトニ非サラン堂々タル議官ニシテ己レカ一旦提出セシ意見書ノ景氣惡クシテ敗北ノ勢ニ立チ至リタルヲ見テ斯ノ如キ建議ヲ議場ニ提出スルハ實ニ卑怯鄙劣ト言フ可シ其卑怯鄙劣ナルハ少ラク之ヲ恕スルモ本官等同列ノ議官カ先日來熱心ニ反對說又ハ賛成說ヲ主張シ第一第二ノ兩讀會ヲ經テ第三讀會マテ議シ來レルモノヲ引キ戻ストキハ先日來二十七番ニ玩弄視セラレタルカ如シ左リ乍ラ議場ノ景況カ是非トモ引キ戻サ、ルヲ得サルノ場合ニ立チ至リタルナレハ或ハ已ムヲ得サレトモ調査委員ヲ設クルノ建議已ニ問題ニ在レハ此說ニシテ成立セハ起草者ハ調査委員ニ選ハルハ必然ナリ左スレハ實際ニ於テハ調査委員ニ於テ調査スルモ議場ヨリ引キ戻シテ調査スルモ同一ノ結果ナラスヤ然ルニ調査委員ノ事ヲ措テ引キ戻シ說ヲ唱フルハ議場ヲ惑亂スルモノニハ非サルヤ二十七番ノ言フ所ハ毫モ論理立タス徒ラニ議場ヲ惑亂スル者ト言フノ外ナシ故ニ望ムラクハ速ニ調査委員ヲ設クルヤ否ヤヲ決シ可決セハ調査委員ヲ置キ否決セハ直チニ本案ノ存廢ヲ決スルヲ要ス本案ニシテ否決セル後ニ二十七番ニ於テ再ヒ意見書ヲ提出セントナレハ敢テ異見ナケレトモ今日ニ在テ引キ戻シ說ヲ唱

フルハ不可ナリ本官ハ二十七番ノ舉動ノ男兒ヲシクアランコトヲ希望スルナリ

○五十番^{三浦}安 本官ハ本案ノ賛成者ナレトモ本案ヲ引キ戻スノ說ニハ同意セス若シ本案

ニシテ廢棄ニ歸セハ已ムヲ得ス更ニ後日ニ提出スルモ可ナラント思考セリ倍只今三十九番ヨリ二十七番ノ特別建議ニ關シ卑怯鄙劣ト言ヒ議場ヲ惑亂スト言ヘリ左レトモ本官ハ起草者ニ於テ卑怯鄙劣ノ心ナキヲ信ス起草者ノ意見ヲ察スルニ本案ノ主意ハ可ハ則チ可ナレトモ章程第七條ニ觸ル、等ノ論多キカ爲メニ其主旨ヲ貫徹スル能ハサルニヨリ寧ロ自ラ本案ヲ引キ戻シテ充分ニ修正ヲ加ヘントスルノ深切心ニ出テタルニ在ル可シ故ニ毫モ卑怯鄙劣ニアラサルヲ知ル三十九番ノ言ニシテ今一步ヲ進メハ議事條例ニ禁セル一身ノ毀譽ニ涉ルニ至ラン本官ハ三十九番カ二十七番ニ對シテ卑怯鄙劣ト言ヒ議場ヲ惑亂スト言ヒタルハ三十九番ノ失言ナラント信ス

○二番^{清岡}張 本案ノ會議ハ段々ト長ヒキテ幾ント一月ニ涉リ未タ決了ニ至ラス本官ハ初メヨリ反對ニ立チテ章程第七條ニ關シテモ本案ノ主旨ニ關シテモ共ニ不同意ナルコトヲ辯セリ今ヤ調査委員ニ付託スルト本案ヲ引キ戻ストノ二建議アルモ是レ亦二ツナカラ之ヲ是認スル能ハサルナリ然レトモ起草者ニ於テ悟ル所アリテ之ヲ引キ戻サント請フニ其儀ハ相成ラスト言ヒテ之ヲ差止ムルモ穩當ナラサルカ如シ既ニ内閣下付ノ議案ノ如キモ屢々中途ヨリ返還ヲ命セラル、ノ例ナキニ非ス左レハ本案ノ如キハ第三讀會ニ至リ將ニ確定ニ至ラントスルニ方リテ引キ戻シノ建議ヲ爲スハ少シク時機ヲ失シタルニ似タレトモ時機ヲ失シタルカ故ニ之ヲ許サスト云フノ理モ無カル可シ起草者ニ於

テ空シク敗ヲ取ランヨリハ之ヲ引キ戻シテ立派ニ改修セントスルニアラン之ヲ軍事ニ例フレハ將來ハサテ置キ此一着タケハ降旗ヲ樹テタルモノト言フテ可ナラン然ルヲ一旦提出シタル以上ハ設令降旗ヲ樹ルモ飽クマテ責メ殺サ、ル可ラストハ苛酷ト言フ可シ本官等ハ起草者ニシテ何回之ヲ改更シテ出シ直ストモ所謂七縱七擒タルヲ免カレサル可ケレハ本官等同説ノ議官ハ左ノミ心狭ク之カ降參ヲ許サスト云フ如キハ甚タ取ラサル所ナリ然レトモ起草者ハ如何様ニ改更セラル、ヤ知ラサレトモ大體ノ主意ヲ異ニスルコトハ爲シ能ハサルコトニシテ標題ヲ書キ改ムルトカ少シク文章ヲ書キ改ムルトカニ過キサル可シ左リナカラ起草者ノ方寸中ニ如何様ナル妙案アルモ知ル可ラストレハ其妙案ヲ言ハシメテ可ナリ三十九番ノ言モ一理ナキニ非スシテ本案ノ會議ハ本月三日以降今日マテ六回ニ及ヒ本月ハ幾ント此意見書ノ爲メニ日子ヲ費シタル様ナレトモ是レ議場ノ運ヒ方ニ於テ已ムヲ得サルモノトス起草者ニシテ妙案アラハ燒キ直シテ提出シ今日ノ反對論者ヲシテ賛成セシムルモ亦妙ナラン畢竟二十七番カ本案ヲ提出シタルハ毫モ惡意ニ出テタルニ非スシテ全ク憂國ノ精神ニ出テタルモノナレハ章程第七條ニ觸レストセハ左マテ反對ス可キ事柄ニモ非ス尤モ二十七番ニシテ本案ヲ更改シ章程ニ觸レシメサラントスルハ頗ル難事タル可シト雖モ其ノ爲シ得ルヤ爲シ得サルヤハ今日ニ於テ輕々ニ言ヒ得ヘキニ非ス故ニ引キ戻シ説ハ全ク悟ル所アリテノコトナル可ケレハ本官ハ卑怯ナリトモ鄙劣ナリトモ言ハサル可シ因テ本官ハ二十七番トハ反對ノ意見ヲ有スルニ拘ラス引キ戻シ説ニ同意ス或ハ衆議ニ問ハル、モ或ヒハ議長限リ決セ

ラル、モ何卒二十七番ノ特別建議ノ如クナランコトヲ望ム

○二十七番^{尾崎}

本官ノ特別建議ニ關シテハ賛成者モアリ又反對者モアリタルカ二番ノ如キハ初メヨリ反對ニ立チタルニ拘ラス本日ハ本官ノ特別建議ヲ許サント言ヘリ其公平ナル實ニ感服ス可シ又二番カ二十七番ハ降旗ヲ樹テタル者ナリ然ルヲ飽クマテ責メ殺サ、ル可ラスト言フハ苛酷ナリ云々ト言フニ至リテハ譬喻至妙ニシテ之ヲ形容ス可キノ賛辭ナシ本官ハ當初本案ノ如クシテ可ナリト思惟シ本案ヲ提出セシモ數日間各官ノ高論ヲ拜聽シ大ニ悟ル所アルヲ以テ一旦本案ヲ引キ戻シ充分ノ調査ヲ爲シ再ヒ提出セント欲スルニ在リ故ニ降旗云々ノ言ハ今日ニ於テ甘ンシテ之ヲ受ケ他日好機ヲ待チテ大ニ恢復ヲ圖ラント欲ス諸君幸ニ之ヲ諒セヨ反對者中ニハ今日コソ反對者ノ地位ニ立テトモ他日本官カ妙案ヲ提出シタル曉ニハ忽チニ感服アリテ片言隻語ノ不同意ヲモ唱ヘス一モ二モ無ク本官カ意見ニ賛同セラル、ヤモ知ル可ラスト然ルニ一旦之ヲ提出シタル以上ハ如何ナル理由アリトモ引キ戻スコト相成ラスト主張シ俗ニ所謂意地ヅクニテ是非トモ勝敗ヲ此議場ニ決セサル可ラスト言ヒ無我夢中ニ反對説ヲ主張セラル、ハ實ニ頑固ノ極ト言フ可シ本官ハ今ヨリシテ今マテ學ヒ得サリシ典籍ヲモ繙閱シ世間ノ論議ヲモ聽キ種々ノ勘考ヲ加ヘ充分ニ本案ヲ改更シテ諸君ヲ驚カサント欲スルニ諸君カ本官ヲシテ其妙案ヲ出サシメサルハ實ニ得テ解スル能ハス斯ク論壇ノ上ニテ敵ト云ヒ味方ト云フモ畢竟スル所ハ共ニ國家ノ爲メニ憂ヲ懷キ彼此ノ意見ヲ攻究スルニ在レハ一旦提出シタルカラニハ反對ノ地位ニ立ツ者ハ必ス歎ト看做シテ敵キ潰サ、ル可ラ

スト云フノ理モ無カラシキ起草者カ更ニ妙案ヲ考出シタリト言ハハ諸君ハ之ヲ聽カンコトヲ求メラル、コソ至當ナル可シ又各官ハ本官カ今其妙案ヲ議場ニ公言セサレハトテ二十七番ニハ妙案ナシト斷言スル能ハサラン諸君幸ニ理非ニ拘ラス二十七番ノ意見ヲ敲キ潰サント云フ如キ頑固執拗ナル僻見ヲ去リ本官ヲシテ一旦本案ヲ引キ戻サシメンコトヲ請フ又只今本官ノ離席中ニ某議官ヨリ本官ニ對シテ卑怯鄙劣及ヒ議場ヲ惑亂ストノ言ヲ放テリト聞ケリ本官ハ譏諷誹譏ニ涉リタル言辭ハ議長ヨリ差止メラル可キコトトハ信スレトモ未ダ議長ノ差止ナキヲ以テ之ヲ見レハ卑怯鄙劣等ノ語ハ或ハ譏諷誹譏ノ部内ニハ入ラサルヤモ知ル可ラス若シ譏諷誹譏ノ部内ニ入ラストナラハ本官ハ後來時宜ニヨリテ斯ル言辭ヲ用ヒント欲ス如何ン後來ノ心得ノ爲メニ議長ノ説明ヲ煩ハス

○三十九番 村田 五十番ハ本官ノ言ヲ誤解セリ

○五十番 三浦 議長ニ問フ第三讀會ニ於テハ二回發言スルコトヲ得サルニ非スヤ

○議長 問題外ノコトナレハ妨ケ無シ

○三十九番 村田 本官ハ議事條例ニ關シテ意見ヲ述ヘント欲ス發言シテ可ナルヤ

○議長 發言シテ可ナリ

○三十九番 村田 本官ハ二十七番ヲ卑怯鄙劣ナリト言ヒシニ五十番ハ本官ノ言ヲ失言ナラント言ヘリ本官決シテ失言ニ非ス五十番ハ議事條例ヲ誤解セルニハ非サランカ議事

條例第七條ニ據レハ「元老院ノ會議ハ人身上ニ就イテ褒貶毀譽ニ涉ルコトヲ得ス」トアリ

リ人身上ノ毀譽トハ例ヘハ某ハ密賣淫ヲ買ヒタリ某ハ賄賂ヲ取リタリ某ハ平素斯ノ如キ醜行アリト言フ如キコトニシテ斯ノ如キコトヲ議場ニ公言スルハ條例ノ禁スル所ナレトモ何番ノ說ハ天下未曾有ノ名說ナリト言ヒ何番ノ說ハ惡說ナリト言フカ如キハ決シテ人身上ノ褒貶毀譽ニアラスシテ議事條例ノ禁スル所ニアラサルナリ然ルヲ若シ名說ナリト言ヒ惡說ナリト言フコトヲモ議事條例ノ禁スル所ナリト言ハ、討論審議ヲ爲ス能ハサルニ至ラン本官ハ毫モ二十七番カ一身ノ毀譽ニ關シテハ議場ニ一言ヲ發セス只二十七番カ此議場ニ於テノ仕方カ卑怯鄙劣ナルヲ以テ之ヲ明言シタルノミ決シテ譏諷ニ非ス又誹譏ニ非サルナリ請フ是ヨリ二十七番ノ議場ニ於テノ仕方ノ卑怯鄙劣ナルコトヲ陳辯セン當初二十七番ハ本案ヲ提出セントスルニ方リ議長ヨリ章程第七條ニ關シテ注意ヲ催カシタレトモ強テ之ヲ提出シ第一讀會ニ於テ調査委員ヲ設クルノ說出テタルトキ之ニ賛成シ第二讀會ニ於テ本案消滅ニ歸シ第三讀會ニ至リ敗軍ノ色アリタルヲ以テ調査委員ヲ置クノ說ニモ賛成セス自ラ本案ヲ引キ戻サント云ヘリ實ニ卑怯鄙劣ニ非スシテ何ソヤ本案ノ不是ナルコトハ既ニ第一讀會ニ於テ反對論者ノ意見ニテ明瞭セルニ其際ニハ本案ヲ主持シテ議場ヲ通過セシメント試ミナカラ今ニ至リテ自儘勝手ナル事ヲ言ヘリ是レ亦卑怯鄙劣ニ非スシテ何ソ若シ本案ヲ引キ戻サントヲ欲スルナラハ第一讀會ニ於テ調査委員ヲ設クルノ建議アリタルトキニ之ヲ請フテ可ナラン然ルニ其時ニハ喜ンテ其建議ニ賛成シナカラ今ニ至リテ本案ヲ引キ戻サントヲ請ヘリ是レ亦卑怯鄙劣ニ非スシテ何ソ又既ニ今日ニ至リタル以上ハ勝敗ヲ議場ニ任セ若シ敗ヲ

取ラハ改メテ意見書ヲ提出セハ可ナランニ之ヲ是レ爲サスシテ氣隨ノ仕方ヲ爲スハ實ニ卑怯鄙劣ト言フ可シ是レ本官カ二十七番ノ仕方ヲ卑怯鄙劣ト言ヒタル所以ニシテ決シテ一身上ノ毀譽ニ關シテ論辯セシニ非サレハ毫モ議事條例ニ觸ル、者ニ非スト確信ス

○五十番^{三浦安} 三十九番ノ言ニ關シテ本官ニ再回發言ノ許可ヲ請フ

○議長 可ナリ

○五十番^{三浦安} 三十九番ハ卑怯鄙劣等ノ語ハ一身上ノ毀譽ニ關セスト言ヘリ本官ノ所見ヲ以テスレハ何番ノ論スル所ハ條理ニ違ヘリ何番ノ説ク所ハ議場ノ整頓ニ妨ケ有ラント言フ位ナレハ可ナレトモ苟クモ卑怯鄙劣等ノ語ヲ發スレハ人身上ニ關スル者ト言ハサルヲ得ス若シ今一步ヲ進メハ議事條例第七條ニ觸ル、ニ至ラント信シテ三十九番ノ失言ナラント言ヒタルナリ然ルニ三十九番ハ本官ヲ指シテ議事條例ヲ誤解セリト言ヘリ本官決シテ誤解セス三十九番ノ過刻ノ發言ニシテ條例第七條ニ觸レタリト認ムレハ本官ハ起チテ無用ト呼フ可カリシモ然ク認メサリシヲ以テ其發言ノ終リタル後三十九番ニ向ヒ辯解ト忠告トヲ兼テ一言シタルナリ又二十七番ハ三十九番ノ前發言中ニ離席シ就席ノ後他人ヨリノ傳聞ヲ以テ議長ニ質問ヲ爲セシハ疎漏ト言ハサルヲ得ス後來ニ於テ斯ノ如ク直聽セサルノ言ヲ以テ議長ニ質問スルカ如キ惡例ヲ貽ストキハ議場ノ混雜ヲ生スルノ恐レアラシク因テ併セテ一言ス

○二十七番^{尾崎三頁} 只今五十番ヨリ仲裁ノ如キ言ヲ聞クモ本官ハ離席コソ爲シタレ決シテ

傳聞シタルニ非ス五十番カ三十九番ノ言ヲ辯セルヲ此議場ニ於テ公開シタルモノナリ又三十九番ハ卑怯鄙劣ナル語ハ毀譽褒貶ニ涉ラスト言フモ本官ハ其一部分ナラント信ス人ト人トノ間ニテ之ヲ言ヘハ俗ニウヌ、畜生ト言フト同シク罵詈ノ言辭ニシテ毀譽ノ毀ノ字褒貶ノ貶ノ字タルヲ免レス然ルヲ若シ議場ニ於テ公然此ノ如キ言語ヲ吐クモ差支ナシトナラハ議場ハ紛亂シテ裏店社會ノ雲助三八輩ノ寄合ノ如ク成リ行キ此堂々タル元老院議場ノ體面ヲ汚スニ至ラン又斯ノ如キ言辭ヲ放チテ議事條例ニ觸レストナラハ本官ハ大ニ驚カサルヲ得ス畢竟斯ノ如キノ言辭ヲ用ヒサランカ爲メニ特ニ議事條例ニ制止ノ箇條ヲ設ケラレタルナラン何卒將來ニ於テ斯ノ如キ鄙劣ナル言辭ヲ用ヒサランコトヲ望ム事小ナリト雖モ將來ニ關スルコト大ナルヲ以テ議長ノ説明ヲ煩ハシタルナリ斯ノ如キ野鄙ナル語ヲ用ヒサルモ議論ハ充分ニ爲シ得ヘキニ三十九番ノ如ク言論ノ範圍外ニ出テタル言辭ヲ用フルハ甚タ穩カナラサルナリ

退席

五十二番

由利 公正

○議長 人身上ノ毀譽褒貶ニ涉ルコトハ議事條例第七條ニ於テ之ヲ禁セリ而シテ本官ハ三十九番ノ言辭ハ該條例ニ觸ル、程ノコトニ非サル可シト思惟セシニ二十七番ヨリ後來斯ノ如キ言ヲ用ヒテ可ナリヤトノ質問アリシカスル言辭ハ之ヲ用ヒサルヲ要ス併セテ三十九番ニ勸告ス後來斯ノ如キ言辭ヲ陳述セサランコトヲ望ム

○四十八番^{尾小 彌太} 卑怯鄙劣ノ言辭ニ關シテ一場ノ紛議ヲ惹起セリ凡ソ人ノ論說ヲ駁撃スルニ方リテ攻撃ト罵詈トノ分界ハ至テムツカシキコトナレトモ本官ハ心中ニ判然タ

ル限界ヲ畫ケリト信スルヲ以テ試ミニ之ヲ陳述セン成ルホト卑怯鄙劣ト云フ言辭ハ正シキ言辭ニハ非サル可ケレトモ名ハ事實ヨリ生スルモノナルヲ以テ足袋ハ足袋、帳面ハ帳面、糞ハ糞、小便ハ小便ト謂ハサルヲ得ス忌憚ナク言辭ヲ用フレハコソ充分ニ彼我ノ意ヲ達スルヲ得ルニ穢ハシキコトハ一切議場ニ公言スルヲ得ストセハ事ヲ論スルニ當リテ甚タ窮屈ナラン左レハ卑怯ナル者ヲ卑怯ト云ヒ卑屈ナル者ヲ卑屈ト云ヒ議場ヲ感亂スル者ハ議場ヲ感亂スルト言フハ毫モ妨ケ無カナラン然レトモ議場ハ言語ヲ以テ表示スルモノナレハ彼ノ舉動ハ卑怯ナリ此ノ舉動ハ鄙劣ナリトハ言フヲ得サル可シ例ヘハ斯ク議長ヲ初メトシテ各議官此席ニ列スルニ當リ此舉動ヲ指シテ其仕方ハ卑怯ナリ鄙劣ナリト言ヒ又其仕方ハ議場ヲ感亂スト言ハ、一身ノ舉動ヲ指ス者ニシテ是レ則チ罵詈ナリ譏謗ナリ議事條例ニ觸ル、者ナリ然レトモ其舉動ヲ指スニ非サル以上ハ或ハ卑怯ト云ヒ或ハ犬猫ト言ヒタレハトテ罵詈譏謗ニ非サレハ若シ議長ニ於テ斯ル言ヲ用フルヲ止メラレタランニハ議論ヲ爲スコトヲ得サラン何事ニ拘ラス物ハ實アリテ而シテ名アルモノナレハ頭ハ貴ク足ハ賤キハ當然ニシテ時宜ニヨリテハ如何様ナル言辭ヲモ用ヒサルヲ得ス然ルヲ世間ノ生意氣書生ノ如ク無暗矢鱈ニ漢語ノミヲ用ヒサル可ラスト言フノ理モ無ラン又五十番ヨリ斯ノ如キ言辭ヲ用フルトキハ罵詈譏謗ニ陥ル可シトノ論アリ本官敢テ之ヲ咎ムルニハ非サレトモ五十番ノ說モ少シク奇異ニ涉ルナカラシ乎例ヘハ茲ニ人アリ他人ノ所有セル物品ヲ見テ「コレハ結構ナ物ダ」ト言ヒタリトテ「泥棒ヲシテハイケナイヨ」ト忠告スルニ似タリ若シ斯ル風ノ議場ニ行ハレタランニハ

此議場ハ化シテ忠告議場ト爲ラン故ニ本官ノ見ヲ以テスレハ五十番ノ言ハ恐ラクハ無用ノ忠告ナラン倍此事ハ此ニ言ヲ結ヒ更ニ議長ニ問フ本官ハ前キニ調査委員ヲ設ク可シトノ建議ニ付キ既ニ一回ノ發言ヲ爲シタレトモ更ニ二十七番ノ本案ヲ引キ戻サントノ建議ニ對シ尙ホ發言センコトヲ欲ス如何ン

○議長 發言シテ可ナリ

○四十八番 尾小 二十七番ノ建議ノ許否ハ各己ノ意中ニ在ル可キモ自ラ本案ヲ引キ戻サント云フニ在レハ強テ之ヲ拒ムノ理由モ無カラシ然レトモ本官ノ考フル所ニ據レハ本案ニ關シテ章程上種々ノ論アレトモ既ニ本院ニ於テ議ス可キ性質ノモノナレハコソ此議場ニ上リタルナレハ假令章程ニ適合セサルト爲スモ青物店ニ於テ干瓢ヲ賣ル位ノコトニテ生魚ヲ賣ル程ノコトニハ非サル可シ然ルニ發議者ハ種々氣付キタルコトアリトテ之ヲ引キ戻シテ更ニ改修セント言ヘリ左リ乍ラ既ニ議場ノ公共物タル以上ハ本官カ前會ニ建議セシ如ク調査委員ヲ置キ充分ノ調査ヲ爲シ廢棄ナリ修正ナリ其委員ノ所見ニ委シ而シテ議場全體ノ望ミニ應シテ局ヲ結フコソ穩當ノ處置ナラン又反對論者トテモ國家ヲ憂フルノ點ニ至リテハ本官等ト同一ニシテ大切ノ憲法ヲ馬耳東風ニ付スルコト無キハ過日來ノ議場ノ景況ニテモ知ルコトヲ得ン故ニ議場ニ於テ調査委員ヲ公選シ之ニ付託シテ廢案ナリ修正ナリ充分ニ其理由ヲ明カスヲ望ム、神聖ニ非サルヨリハ何程賢明ナル人ト雖トモ一人ニテハ落度アルヲ免レス既ニ起草者タル二十七番ノ如キモ初メハ本案ヲ金科玉條ナリトシテ提出セシナル可キモ議場ノ議論ヨリシテ種々ノ不

完全ノ點ヲ發見シ今日ハ自ラ引キ戻シタシト言ヘルニ非スヤ二十七番ハ過刻理非ニ拘ラス我意見ヲ敲キ潰サル、ハ不深切ナリト言フ如キ怨言ヲ爲セリ是レ所謂疑心暗鬼ヲ生スルモノニテ議場ノ空氣中ニ幾分カ其分子ノ存スレハコソ其言モ出テタルナラン故ニ委員ニ付託スルトキハ是等ノ疑心モ消散シ彼我ノ意見モ徹底スルコトヲ得テ反對者ト雖モ満足スルニ至ラン本官ハ獨リ本案ノミナラス本官カ提出セル號外第四十二號意見書ニ於テモ同一ノ希望ヲ有セリ各位幸ニ本案ニ賛成セラル、ト反對セラル、トニ拘ラス本官ノ意見ニ賛同アラシコトヲ望ム

○三十九番保村田 議長ニ問フ議長ハ本官ニ向ヒ卑怯鄙劣等ノ語ハ議事條例ニ觸ル、トハ見認メサレトモ斯ノ如キ言辭ハ之ヲ用ヒサルヲ要スト陳告セラレタリ五十番過刻ノ陳辯ハ忠告ナルヲ以テ其忠告ヲ用フルト用ヒサルトハ本官ノ勝手ナレトモ議長ハ何ニ據リテ本官ニ向ヒ斯ノ如ク陳告セラレタルヤ本官ハ二十七番ノ仕方ハ何レノ點ヨリ之ヲ見ルモ英雄ノ仕方トハ見エス卑怯鄙劣ノ仕方ナルヲ以テ卑怯鄙劣ト言ヒタルナリ敢テ二十七番ノ一身上ニ關シテ言ヒタルニ非ス知ラス議長ハ何ニ據リテ本官ヲ咎メラレタルヤ

○議長 三十九番ニ告ク卑怯鄙劣等ノ語ヲ用フルトキハ其言ヨリシテ議場ニ紛議ヲ生シ爲メニ無用ノ時間ヲ費スノ恐レ有ルヲ以テ成ル可ク斯ル言辭ハ之ヲ用ヒサランコトヲ望ミ注意ヲ喚ヒタルナリ

○六十八番岡内重俊 本官ハ議事ノ時限ニ關シテ特別ノ建議ヲ爲ス從來ノ如ク毎日午前十時

ニ開會シ正午ニ閉會ト爲セハ容易ニ議事ノ抄取ヲ得ヘカラス因テ願ハクハ午前第九時開會午後第三時閉會ト爲サンコトヲ現ニ監獄則改正案ヲ議定ニ付セラレ居ルニ該案ヲ跡回シト爲シ意見書ノミヲ議スル如クニテハ不都合ニアラスヤ若シ號外第四十二號意見書ニ掲クル如ク國家細大ノ法律ハ盡ク本院ノ議ヲ經ルコトト爲ラハ隔日ニ二三時間ノ開會ニテハ容易ニ議了シ得ヘキニ非ラス因テ建議ヲ爲ス

○議長 六十八番ノ建議ハ將來ニ於テ注意セン

○三十番本田親雄 種々ノ論議アリタレトモ最早結局セル者ノ如シ速ニ決ヲ取ラレテ可ナラ

○議長 第三讀會モ既ニ兩日ニ涉リ各官ノ討論モ盡キタリト認ムルヲ以テ決ヲ取ラン四十八番ノ調査委員ヲ設クルノ特別建議ト二十七番ノ本案ヲ引カントノ特別建議アリ先ツ二十七番ノ特別建議ヲ決セン之ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十三人

○議長 少數ナルヲ以テ二十七番ノ特別建議ハ消滅ス

○議長 四十八番ノ特別建議即チ全部附託調査委員ヲ設クルノ說ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十八人

○議長 少數ナルヲ以テ四十八番ノ特別建議ハ消滅ス

○議長 本案ノ取決ニ關シ若シ本官ノ陳告不明瞭ナルトキハ各官ノ疑惑ヲ生ス可キヲ以

テ念ノ爲メ陳辯セン只今ノ問題ハ第二讀會ニ於テ否決セシモノヲ生存セシムルニ在リ之ヲ生存セシムルニ同意スル者ハ起立セヨ

○五十番 三浦安 議長ノ言辭詳ニ聽キ取レス再應ノ陳辯ヲ煩ハス

○議長 只今ノ問題ハ第二讀會ニ於テ否決セシモノヲ生存セシムルニアリテ其問題ニ同意スル者ヲ起立ニ問ハントスルナリ

○六十八番 岡内重俊 然ラハ第二讀會ニ於テ否決セシモノヲ蘇生セシムルニ在ルヤ

○五十番 三浦安 本案ハ第二讀會ニ於テ少數ニテ否決セシニ第三讀會ニ於テ之ヲ生存セシムルノ説出テ定數ノ賛成者ヲ得テ現ニ生存セルモノト信ス

○議長 生存シアルニアラス生存セシムルノ説カ問題ト爲レルナリ

○四十八番 尾小彌太 假令第二讀會ニ於テ否決セルモ其ハ第二讀會限リノ否決ナレハ第三讀會ニ於テハ別段ニ回復ノ發議ナクトモ順序上第三讀會ヲ經ルニ在ル可シ故ニ第三讀會ニ於テハ本案現ニ問題ニ在リト信ス如何ン

○議長 本官ノ陳述若シ不明瞭ナルトキハ各官ノ疑惑ヲ生センコトヲ恐レ念ノ爲メ各官ニ注意シタルナリ即チ本日ノ問題ハ第二讀會ニ於テ否決セシ原案ヲ回復セント云フニ在レハ其取決ニ當リテ起立者多ケレハ號外第四十一號意見書ハ生存スルナリ

○五十番 三浦安 本官ハ未タ議長ノ言ヲ解スル能ハス第三讀會ニ方リ二十七番ヨリ回復説ヲ提出シ定數ノ賛成者アリテ問題ト爲リ此問題ニ對シテ調査委員ヲ設クルノ説モ出テ又引キ戻サントノ説モ出ツルナリ故ニ澹泊ニ本案ニ同意ナルヤ否ヤノ決ヲ取ラレハ

可ナラン然ルヲ只今第二讀會ノ結果タル否決ヲ引キ來リテ本案ノ生死ヲ決セントスルハ何分ニモ領解スル能ハス

○議長 現ニ回復説問題ト爲リ居レトモ未タ生存セルニアラス故ニ決ヲ取りタル以上ニテ二十七番回復ノ問題ニ同意スル者多數ナレハ始メテ本案ノ如ク決スルニ在リ

○十二番 黒田清綱 何モ左程ニムツカシキコトニ非ス澹泊ニ本案ノ可否ヲ起立ニ問ハレンコトヲ望ム

○十番 大給恒 本官モ議長ノ言ヲ解スル能ハス既ニ第三讀會ニ於テ付託委員ヲ設クルノ説出テタル位ナレハ本案ノ生存セルヤ明白ナリ故ニ只今ハ議長ヨリ「本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ」ト言ハルレハ本案ノ可否ハ立チトコロニ決セン本官ハ只今ハ本案ノ生存如何ニ關シテ決ヲ取ルノ場合ニ非スト信スルナリ

○十一番 巖作麟祥 本官ハ議長ノ陳告ヲ明瞭ナリト信セリ例ヘハ通例ノ内閣下付原案ニ於テ第三讀會ニ方リ一議官修正ヲ提出シ五名以上ノ賛成者ヲ得テ問題トナリ而シテ討議ノ末其問題ニ關シテ決ヲ取ルト同一ノ場合ナリ此意見書ハ第二讀會ニ於テ否決シ第三讀會ニ於テ更ニ提出アリタルモノナレハ之ニ同意スル者多ケレハ行ハル可ク同意スル者少ケレハ行ハレスシテ廢案ニ歸スルニ在リ本官ハ斯ノ如ク解スルヲ以テ前陳セシ如ク議長ノ言ヲ明瞭ナリト信ス

○二十七番 尾崎三郎 本官モ五十番ノ言ノ如ク信セリ元來第二讀會ニ於テ否決シタル以上ハ第三讀會ニ於テ回復説ヲ提出シ之ニ五名以上ノ賛成アルニ非サレハ問題ト爲スコトヲ

得サレ用已ニ問題ニ上レハコソ之ニ對シテ駁撃スル者アルナリ未タ問題ニ上ラサルニ駁撃ノ起ル可キ筈ナシ然レハ本案ノ場合ニ於テハ既ニ可否ヲ決スルノ期ニ迫レルヲ以テ先ツ廢案說ノ可否ヲ起立ニ問ハレンコトヲ望ム

○八番楠本正隆 斯ノ如キコトヨリシテ議場ニ紛雜ヲ生スルハ甚タ遺憾ナリ因テ本官ハ議事ヲ拂ラシメンカ爲メ廢案說ヲ提出セン其理由ハ前會以來陳辯セル如クナルヲ以テ改メテ陳辯セス

○議長 八番ハ前會即チ第三讀會ヲ開クノ際ニ當リ缺席ナリシヲ以テ當時ノ景況ヲ知ラレサルヨリ今廢案說ヲ提出サレタルヤモ知ル可ラサレトモ第三讀會ニ於テハ第二讀會ニ於テ否決シタル案カ自然辭題ト爲レルカユエ二十七番ヨリ本案即チ第二讀會ノ否決セルモノヲ回復セントスル動議ヲ議場ニ提出シ定數以上ノ賛成者ヲ得テ問題ト爲リ今日マテ討論シ來リタルナリ故ニ問題ニ同意ナレハ本案ノ決ヲ取ルニ當リ起立セハ可ナリ而シテ若シ少數ナレハ號外第四十一號意見書ハ消滅ニ歸ス故ニ只今ハ廢案說ヲ提出スルノ場合ニ非サルナリ

○八番楠本正隆 明瞭ニ了解セリ但其了解ハ議長ノ意見ヲ了解セル者ニシテ本官ノ心中ノ疑團ハ依然トシテ氷解スル能ハス本官ノ議場ノ紛雜ヲ避ケンニハ廢案說ヲ議場ニ上ラシムルニ如カスト信シ提出セントセシナリ然レトモ之カ爲メニ議事ノ撓取ヲ妨クル様ニテハ不本意ナルヲ以テ暫ク差扣イテ各官ノ高論ヲ聽カン

○四十九番神田孝平 二十七番ノ提出セシ回復說問題ト爲リ居ルコトナレハ二十七番ノ發議

セシ問題ニ就キ取決セハ可ナラン全ク生存說云々ト言フニヨリ其間ニ疑惑ヲ生シタル者アルナラシ

○五十番三浦安 漸ク了解セリ二十七番ノ發議セシ問題ノ結末ヲ附クルカ爲メニ取決セラハトアレハ明瞭ナリ

○二十七番尾崎三夏 本官ノ回復說ハ第三讀會ニ於テ定數ノ賛成者ヲ得テ問題ト爲リタレハコソ之ニ對シ調査委員ヲ設クルノ說モ出ルナラン若シ問題ニ上ラサルナラハ斯ノ如キ說ノ出ツ可キ筈ナシ只今五十番ハ疑惑ヲ解ケリト言フモ本官ハ愚昧ナル故カ更ニ解スル能ハス議長ノ意ハ五十番八番十番等ノ意ト同シキヤ如何

○議長 二十七番ニ告ク是レ敢テ入り込ミタルコトニ非ス問題トナレルモノヲ取決セント云フニ在リ即チ第三讀會ノ始メニ當リ二十七番ヨリ發議セル回復說ニ同意スル者ヲ起立セシムルニ在レハ之ヲ回復成立セシメントスル者ハ起立セラル可ク之ヲ成立セシメサラント欲スル者ハ起立セシメテ可ナリ其起立スルト起立セサルトハ固ヨリ各官ノ意思ニ任ス可キモ此取決法ニ關シテハ議論セラハト要セス

○議長 現問題即チ二十七番ノ回復說ニ同意スル者ハ起立セヨ
起立者十二人

○議長 少數ナルヲ以テ二十七番ノ回復說ハ消滅ス

○四十八番鳥尾小彌太 本官ハ元老院章程第七條ニ關シテ特別ノ建議ヲ爲サン

○議長 四十八番ニ告ク章程ニ關シテノ發議ナレハ號外第四十一號意見書ノ局ヲ結ヒタ

ル後ニ發議セヨ

○四十八番鳥尾小彌太 謹諾ス

○議長 二十七番ノ回復說消滅シタルヲ以テ茲ニ號外第四十一號意見書ノ第三讀會ヲ終ル

○議長 四十八番ニ告ク發議ス可キコトアラハ發言セヨ

退席

二番	清岡 公張	四十六番	橋口 兼三
三番	永山 盛輝	四十七番	野村 素介
六番	宮本 小一	四十九番	神田 孝平
七番	尖戸 璣	五十五番	調所 廣丈
十二番	黒田 清綱	五十六番	林 友幸
十五番	大久保一翁	五十九番	長松 幹
三十番	本田 親雄	六十一番	楫取 素彦
三十六番	安藤 則命	六十五番	西 周
三十八番	細川潤次郎	六十九番	上杉 茂憲
四十一番	長岡 護美		

○四十八番鳥尾小彌太 本院ノ章程ニ關シテ種々紛議アリタルヲ以テ之ニ關セル詳細ナル證據及ヒ歐洲諸國ニ行ハル、法律ノ見解ヲモ調査シ議場ノ議ニ上ホセテ之ヲ決定センコ

トヲ望ム然ラサレハ後來此事ヨリシテ屢々議場ニ紛雜ヲ來シ議長モ議場ノ整頓上ニ不都合ヲ生セン若シ後來此事ヨリシテ紛雜ヲ生スル毎ニ人々自己ノ意見ヲ主張スルトキハ議論底止スル所ヲ知ラサルニ至ラン因テ此際充分ニ調査ヲ遂ケンコトヲ望ム

○議長 四十八番ノ言ハ章程全部ヲ調査スル委員ヲ設ク可シト言フニ在ルヤ

○四十八番鳥尾小彌太 第七條タケニテモ種々ノ議論モ出タル譯ナレハ從來本院ノ慣例歐洲諸國ノ制度及ヒ學問上ノ道理ヲ材料ト爲シ本院章程ノ全部ヲシテ明瞭ナラシムル様充分ニ調査センコトヲ望ム

○議長 四十八番ニ告ク號外第四十二號意見書會議ノ際ニモ同一ノ發言アリシモ斯ノ如キハ規則トテモアラサルコトナレハ本席ニ於テ採用スルヲ得ス

○五十一番井田 本官ハ一ノ議案ヲ議スルノ中途ニ於テハ採用アラサル可キモ既ニ第四十一號意見書ハ議事モ畢リタルコトナレハ四十八番ノ建議ハ議長限り拒却セラル、コト無ク議場ノ問題ニ付セラレンコトヲ望ム

○議長 五十一番ニ告ク號外第四十一號意見書ハ決了シタレトモ號外第四十二號意見書ハ第一讀會ヲ了リタルマテノコトニシテ未タ決了ノ場合ニ至ラス四十八番ハ其第一讀會ニモ建議アリタルニ之ヲ採用セサリシハ章程ヲ調査スル如キハ規則ノ據ル可キナケレハナリ因テ只今ノ建議モ採用スルヲ得ス

○五十一番井田 議長カ其特權ヲ以テ建議ヲ許サストナレハ止ムヲ得ザレトモ規則ナキヲ以テ議スルヲ得スト言ハル、ハ解スルヲ得ス議セサル可ラサルノ要用アル以上ハ之

ヲ議スルモ何ノ妨ケカ之アラン既ニ議セサル可ラサルノ要用アルニ議長ハ何等ノ規則ニ據リテ之ヲ議スルコトヲ許サレサルヤ

○五十番^{三浦安} 四十八番ニ問フ四十八番ハ號外第四十二號意見書ヲ議了シタル後ニ調査セント云フニ在ルヤ將タ其以前ニ調査セント云フニ在ルヤ

○四十八番^{鳥尾小彌太} 本官ハ第四十三號ノ第二讀會ニ先タチテ調査セント云フ望ムニ在リ

又先刻ノ議長ノ陳告即チ四十二號意見書ハ議事中ナリトノ言ハ甚タ解スルヲ得ス本官ハ議事ハ起ルトキニ始マリ終ルトキニ已ムモノナリト考フ然ルヲ若シ決了ニ至ラサル

間ハ何時ニテモ議事中ナリト云ハハ往來ヲ歩行スル間モ議事中ナリト云ハサルヲ得ス尤モ第一讀會ヲ開クヨリ第一讀會ヲ閉ルマテハ日子ヲ異ニスルモ第一讀會中ト云フテ

可ナランモ既ニ第一讀會畢リテ未タ第二讀會ヲ開カレサル間ハ障礙ナキ天地ナリ然ラサレハ號外第四十一號意見書ヲ議シ畢ラサルニ號外第四十二號意見書ヲ議スルヲ得サル譯ナラン其邊ハ議長ヨリ明瞭ニ辯解セラレサル以上ハ本官ハ承服スル能ハサルナリ

○五十番^{三浦安} 號外第四十二號意見書ノ抄取ノ爲メニ章程ヲ取調ヘント云フモ該意見書ヲ擱キテ章程全部ノ調査ヲ爲スハ矢張枝葉ニ渉ル者ナレハ議長ノ採用ナキカ適當ナラ

○十一番^{箕作祥} 號外第四十一號意見書ハ已ニ第三讀會畢リタレハ直チニ散會ヲ告ケラルベシト信セシニ四十八番ヨリ何カ意見アリトノコトユエ謹ンテ承リ居リタルニ何事ヲ言ハレ居ルヤ更ニ解スルヲ得ス元老院章程調査ノ事ハ號外第四十一號意見書ニモ又第

四十二號意見書ニモ關係ナク議案モ無ケレハ意見書モ無シ本官等ハ何ノ爲メニ此ニ列席スルヤ怪訝ニ堪ヘス只今ハ矢張會議中ナルヤ將タ會議中ニ非スシテ通常ノ談話ヲ爲セルヤ何ニセヨ空ニ此議場ニ留メ置カルハ甚タ迷惑ナリ

○四十八番^{鳥尾小彌太} 意見書取扱手續第二條ニ「意見ヲ提出セント欲スル議員ハ議場ニ於テ自ラ之ヲ陳述スルモ妨ケナシ此時ニ方リテ他ノ議員一人以上之ヲ賛成スル者アルトキハ議長又之ヲ本院ノ意見書案トナスコトヲ得」トアリ斯ノ如キ明文ノ存セルニ十一番ハ盲人カ章程ヲ讀ミタル如キコトヲ言ハルハ本官コソ怪訝ニ堪ヘス斯ク言ハ、過刻ノ紛雜ノ如ク譏謗ナリト言ハルハ、ヤ知ラサレトモ本官ハ意見ヲ提出シテ妨ケ無キヲ信スルナリ

○十一番^{箕作祥} 四十八番ハ本官ノコトヲ盲人カ章程ヲ讀ミタル如キコトヲ言フト言ハルレトモ本官ハ別ニ譏謗サレタルトモ何トモ思ハス然レトモ四十八番カ言フ如ク意見ヲ提出センカ爲メニ陳述セラルハ、ナラハ更メテ之ヲ言ハルハ、ハ妨ケ無キモ他ノ會議ノ序テニ之ヲ言ハルハ、ハ其可ナル所以ヲ知ラス

○十番^{大給恒} 最早午後二時ニ近シ假令此議場ニ於テ議ス可キノ理アリト爲スモ議席寥々タルヲ覺フ宜ク他日ニ讓ラレテ可ナラン

○議長 十番ノ言ハ適當ナリト認ム本席ニ於テハ到底四十八番ノ建議ハ採用スルヲ得ス其レハ兎モ角モ今日ハ散會セヨ

午後第一時三十五分閉場

元老院會議筆記

○號外第四十二號意見書元老院章程ニ關スル件

禁傍聽

○明治二十年十月五日 第一讀會

議長東久世通禧

出席議員

二番	清岡 公張	二十二番	中村 正直
三番	永山 盛輝	二十三番	久我 通久
四番	石井 忠亮	二十四番	大迫 貞清
六番	宮本 小一	二十五番	中島 錫胤
八番	楠本 正隆	二十七番	尾崎 三良
九番	榎村 正直	二十八番	原田 一道
十一番	箕作 麟祥	三十番	本田 親雄
十五番	大久保一翁	三十一番	長谷部辰連
十七番	壬生 基修	三十五番	津田 眞道
二十番	岩村 定高	三十六番	安藤 則命
二十一番	稅所 篤	三十八番	細川潤次郎

三十九番	村田 保	五十五番	調所 廣丈
四十三番	田邊 太一	五十六番	林 友幸
四十四番	坂本 政均	五十七番	神山 郡廉
四十六番	橋口 兼三	五十九番	長松 幹
四十八番	鳥尾小彌太	六十一番	楫取 素彦
四十九番	神田 孝平	六十二番	渡 正元
五十番	三浦 安	六十五番	西 周
五十一番	井田 讓	六十八番	岡内 重俊
五十四番	加藤 弘之	六十九番	上杉 茂憲

午前第九時五十分開場

○議長 號外第四十二號意見書第一讀會ヲ開ク朗讀ノ後例ニ遵ヒ發議セヨ

書記官 森山 朗讀

元老院章程ニ關スル意見書及提出候也

起草者

明治二十年九月二十七日

議官

鳥尾小彌太

贊成者

議官

岡内 重俊

議官

加藤 弘之

議官

原田 一道

議官

榎村 正直

議官

林 友幸

議官

津田 眞道

議長大木喬任殿

元老院章程ニ關スル意見書

國家經綸ノ道ハ百端ナリト雖就中立法ハ國家ノ根本基礎ニシテ一切ノ利害盡ク其得失如何ニ因リテ生スルコト恰モ樹木ノ根幹ニ由リテ發育スルカ如シ故ニ此立法權ノ鞏固ナルハ其國家鞏固ニシテ立法權ノ脆弱ナルハ其國家脆弱ナリ存亡ノ數一ニ立法權ノ如何ニ關ス是故ニ東洋古來ヨリ創業ノ主タルモノハ必ス天命人心ヲ顧ミ古聖人ノ道ヲ憲章シテ法度ヲ定メ之ヲ子孫ニ傳フ其子孫タルモノハ常ニ祖法ヲ守リ天命人心ニ隨順シテ天下ニ君臨ス所謂天ノ則ハ即チ古聖王ノ道ニシテ百代ノ後ト雖必ス遵守シテ違フコトナシ今日西洋ノ政學ヨリ論スル時ハ守株膠柱時勢ニ從テ變通スルコトヲ知ラストノ非難ヲ免レスト雖之ヲ暗君佞臣私意己見ヲ逞フシテ朝令暮改遂ニ社稷ヲ失ヒ天下蒼生ヲ害スルニ比スレハ相距ルコト萬々ナリ我帝國ノ如キモ東洋政學ニ依テ國家ヲ組織シ來リ最モ祖宗ノ法ヲ重シ假令上天皇陛下ト雖祖宗ノ法ニ隨順シテ君臨シ玉フ故ニ下臣民タル者ハ固ヨリ恭敬之ヲ奉スルノ外他事ナシ維新以來時勢ノ大變ニ因リ徒ラニ祖法ヲ墨守スルノ不可ナル者アリテ政體職制等ノ變更アリ五ヶ條ノ御誓文ヲ天下ニ示シ玉ヒ國家經綸ノ道ヲ廣ク内外ニ求メ西洋ノ政學ヲ採用シ爾來改革ニ改革ヲ重子遂ニ明治十四年ノ秋ヲ以テ立憲政體ト確定セラル、ニ至ル是レ實ニ千歲ノ一時未曾有ノ大改革ニシテ我帝國萬代不朽ノ基礎ヲ定ムル

ノ時ナリ名ハ中興ト云フト雖其實ハ創業ナリ此時ニ方リテ立法ノ大事ナルハ固ヨリ論ヲ俟タス其立法權ノ落着スル所抑モ亦國家存亡ノ落着スル所ナリ若シ之ヲ其始ニ認ル時ハ國家後來ノ厄運全ク此中ヨリ胚胎シ來ラン本官等ヲ以テ之ヲ觀ルニ今日ノ勢天命天則モ復タ以テ制法ノ權ヲ輕重スルニ足ラス祖法モ以テ後代ヲ範圍スルニ足ラス上陛下ノ隨意ニシ玉フコハ猶更難シ東洋ノ政學ニ於テスラ上君王ノ隨意ニ法度ヲ定ムル時ハ暴君暴政トテ賤ミ惡ム事ナリ况ヤ今日文明ヲ進ムル時ヤ已ニ立憲政體ト云又御誓文ニモ萬機公論ニ決ストアリ今日立法權ノ落着ハ實ニ一大至難ノ時ナリ國會開設ノ期モ已ニ二ヶ年後ニ迫リ條約改正ノ事モ立法上ニ關係スル所アリト聞ク是時ニ方リ吾輩議官タル者袖手傍觀シテ存亡ハ命運ナリト觀念スルモ實ニ遺憾ノ至ナリ熟惟ミルニ有司百官任ヲ分チ職ヲ守リ以テ國家ニ奉事ス各其職トスル所ヲ重ンスト雖就中立法上ノ事ハ殊更至重ノ件ナリ今日ノ職制ニアリテハ此一大事ヲ舉テ獨リ内閣大臣ノ全權ニ委ス我元老院ノ如キハ立法ノ任アル者ノ如シト雖其職制上ニ於テ些少ノ權限モ無ク實ニ有名無實ノ官ノミ内閣大臣ノ意見ニ於テ議事ヲ經ルコトヲ要セストナセハ如何ナル至重ノ法律モ只ニ檢視ニ付シテ決行スルコトヲ得假令議事ニ付スルモ内閣大臣ノ意見ニ合セサレハ本院ノ議決ニ頓着ナク隨意ニ決行ス立法權ハ言フニ及ハス議法人ノ權モ無シ堂々タル帝國ノ元老院ニシテ國家多事ノ時ニ當リ寸分ノ功ヲ致スコ能ハス七十有餘名ノ元老坐シテ俸祿ヲ仰クノミ慨嘆スヘキノ至ナリ固ヨリ内閣大臣ノ賢明ナル萬舉一錯無ルヘシト雖今日内外多事多端ノ際ニ於テ立法行政ノ二大權ヲ掌握シ創業以テ百代ノ基礎ヲ定メント欲ス上ハ天則祖法ノ據ルヘキ

ナク下ハ民意人心ノ歸向ヲモ察セス獨リ西洋諸國ノ法令成規ヲ取捨シ以テ萬機ヲ攝ス豈危殆ナラスヤ且ツ行政ノ事タル何ノ國何ノ世ニ於テモ必ス情實都合ナルモノアリ其情實都合ナル者ハ全ク執政者出身ノ地位ヨリ生スル者ニシテ一朝執政者ノ更迭ニ遭ハ、前内閣ノ情實都合ハ後ノ内閣ノ不情實不都合トナル者往々ニシテ之レアリ且行政上ノ事タル執政大臣ノ主義意見ニ伴ヒテ行ル、ハ當然ノ事ニシテ若シ執政大臣ノ更迭スル時ハ政事ノ趣向モ必ラス變改スルコト古今ノ常勢ナリトス制法ハ之ニ反ス國家ノ基礎行政ノ規律ニシテ執政大臣ノ一進一退ヲ以テ變更スヘキ者ニアラス若シ夫レ執政大臣ノ一進一退ニ由テ容易ニ制法ヲ變更スヘキ時ハ是レ國家ニ根本基礎ナキナリ是レ全ク國家ナキナリ吾國今日ノ有様ヨリ之ヲ言ヘハ立法行政ノ二大權ヲ舉ケテ之ヲ内閣大臣ノ掌握中ニ歸スルカ故ニ行政上ノ都合ヲ主トシテ制法スルノ傾向アルヲ免カレス所謂情實ナル者モ亦幾分ノ關係ヲ及スコアラン假令制法ニ情實ノ關係ナシトナスモ今日ノ法度ハ今日ノ内閣大臣ノ主義意見ニ由テ之ヲ定ムルコト分明ナリ是豈萬機公論ニ決スル者ナランヤ且ラク一步ヲ讓リ今日ノ内閣大臣ハ盡ク賢明ニシテ其主義意見直ニ公論ナリトナスモ後ノ今ニ繼テ内閣大臣ノ地位ニ立ツ者ヲシテ前内閣大臣ノ主義意見ハ公論ナリ吾輩ノ主義意見ハ偏僻ナリト觀念シ前内閣大臣ノ制法ヲ墨守セシムルコトヲ得ヘカラス必スヤ各、自ラ賢明ヲ恃テ隨意ニ制法ヲ變更スルコト鏡ニ懸ケテ見ルカ如シ詩ニ言ヘルアリ曰ク惟其有之是以似之ト此ニ由テ之ヲ言ヘハ後來ノ執政者ヲシテ謹慎ニ國家ノ法度ヲ遵守セシメント欲セハ今日内閣大臣ノ掌握セル立法權ヲ制限シ國家ノ制法ヲシテ不偏不黨ノ地ニ在ラシメントコトヲ要ス

之ヲ約言スレハ吾之ヲ爲スハ功ナリ汝之ヲ爲スハ罪ナリト言ハ、已ニ公論ニ非ス況ンヤ
 執政者之ニ代ル時ハ其意見ニ反スルカ故ニ之ヲ變更スルノ不幸ヲ來ス者ナリ豈懼レサル
 ヘケンヤ人アリ之ニ答テ曰ク國家ノ法度ハ内閣大臣ノ奏議スル所ニシテ我天皇陛下ノ裁
 可シ玉フ所ナリ然レハ則内閣大臣ノ制法ニ非ス全ク天皇陛下ノ法ナリト此說允ニ然リ我
 日本帝國ノ法一トシテ陛下ノ法ニ非ルコナシ然レトモ今日ノ國法ハ一タヒ定リテ再ヒ變
 更スヘカラサル者ニ非ス已ニ所謂天則ヲ顧ミス容易ニ祖宗ノ法ヲ變改スルコト得後來今
 ニ繼テ執政大臣タル者モ亦必ス陛下ノ親任シ玉フ所ノ者ナリ其法度ハ奏議ヲ經テ陛下ノ
 裁可シ玉フ所ナリ是則チ相同シキノミ陛下ハ既ニ公論ニ決スト誓ヒ玉フ故ニ隨意ニ專制
 シ玉フヲ得ス是レ誠ニ君主ノ盛德ナリ然ルニ執政大臣タル者ハ却テ自己ノ意見ニ因リ隨
 意ニ制法シ其弊ノ生スルニ方リテハ陛下ヲ引テ正論ノ口ヲ鉗ス是レ所謂内閣大臣ハ責任
 ナクシテ無上ノ實權ヲ掌握シ上陛下ヲ弄スルナリ豈臣タル者ノ分ナランヤ今ノ内閣大臣
 ハ斯ル不忠ノ人ニ非ス蓋シ創業ノ際王事頻繁他日流弊ノ此極ニ至ルヲ顧ミルニ違アラサ
 ルノミ然リト雖今ノ内閣大臣ニシテ之ヲ顧ミサル時ハ其流弊必シモ他日ヲ俟タス既ニ容
 易ニ法ヲ制シ容易ニ之ヲ變ス朝令暮改民心國家ノ大法ヲ輕視スルノ勢アリ諸官ノ廢立職
 制ノ變改ノ如キハ又年トシテ之ナキハ無シ大小ノ吏臣自ラ守ルノ地ナク喘々焉トシテ日
 一日ノ無事ヲ祈ル假令忠君愛國ノ心アルモ何ノ違アリテ色ヲ正シテ直言スルコト得ンヤ
 古曰天視自民視天聽自民聽又曰十目所視十手所指其嚴乎ト市議巷說ニモ公論アリ況ンヤ
 新聞雜誌ノ諸說ノ如キハ採テ以テ民心ヲ察スルニ足ル然ルニ時ニ公論ニ近キ者アレハ謬

テ治安妨害ノ律ニカ、ル口ニ言ント欲シテ言フヲ得ス筆ニ筆セント欲シテ筆スルヲ得サ
 ル者ノ如シ公論ノ門ヲ塞キ正議ノ路ヲ絶ツ已ニ此ノ如キモノアリ夫レ泰山ハ土壤ヲ讓ラ
 ス江海ハ細流ヲ逆ハス公論ヲ聽ント欲セハ暴言ヲ惡ムヘカラス正議ヲ聽ント欲セハ苦言
 ヲ忌ムヘカラス雜樹繁ル所ニ珍木アリ古人馬骨ヲ買テ千里ノ馬ヲ得ル皆類ヲ以テ招クモ
 ノナリ本官等竊ニ以爲ク今ノ内閣大臣ノ聰明ナル豈此等視易キノ道理ヲ解セスシテ自ラ
 弊政ノ窠窟ニ墮ル者ナランヤ然リ而シテ此事アル者ハ何ソヤ蓋シ自ラ聰明ヲ以テ人ニ先
 ンスルノ過ナリ以爲ラク今日朝廷大小ノ有司用ルニ足ル者ナク天下ノ公議輿論モ顧ミル
 ニ足ル者ナク適マ以テ事ヲ害スルノミト内外多事ノ中心ニ立テ外國ノ交際法令ノ改正建
 築ノ結構等ニ至ルマテ專任決行事ニ應セント欲ス是ヲ以テ百難一身ニ集リ胸中餘地ナク
 知ラス識ラス今日危殆ノ事情ニ迫ル是レ時勢ノ然ラシムル所ト雖亦諸大臣ノ聰明餘リア
 リテ人ヲ信セサルノ過ニ非ルヲ得ンヤ已ニ聰明自ラ信シテ朝廷ノ有司百官ヲ信セス已ニ
 聰明自ラ恃テ天下ノ公議輿論ヲ顧ミス其人ヲ信セサル者ハ人亦之ヲ疑フ輿論ヲ顧ミサル
 者ハ天下亦之ヲ惡ム是ヲ以テ中外疑惑シ謗議百出恰モ鼎沸ノ如シ耳アル者ハ實ニ之ヲ聞
 カン目アル者ハ實ニ之ヲ見ン是レ本官等ノ私言ニ非ルナリ然リト雖内閣大臣モ人ノミ人
 情隨意ヲ尙ヒ勝手ヲ好ム已レノ意見ニ天下ヲ範圍スルハ一快事ト云フヘシ假令鄙夫小人
 ト雖其地位權勢ヲ得レハ喜テ之ヲ爲ス豈必スシモ聰明諸大臣ノ如キヲ待ン是ニ由テ之ヲ
 觀レハ今日ノ弊事ハ畢竟諸大臣聰明人ニ先ンスルノ過ニ非ラスシテ行政立法ノ大權ヲ一
 手ニ掌握シ臨機應變容易ニ法令ヲ廢立スルコトヲ得ルノ害ナリ是レ實ニ今日政堂ノ弊事ノ

ミナラス國家後來ノ大患必之ニ因テ生セン若シ一時ノ事情ニ付シ悠々看過スル時ハ所謂國家至重ノ立法權ヲシテ遂ニ國家敗亡ノ機關ト變セシムルニ至ル豈寒心セサルヘケンヤ故ニ本官等不肖ヲ願ミス別紙ノ數件ヲ奏議シ以テ創業一分ノ功ヲ贊シ國家百代ノ基礎ヲ守ラント欲ス謹テ裁可ヲ乞フ

- 一 國家細大ノ法律ハ盡ク元老院ノ議事ヲ經ルコ
- 一 元老院ニ於テ非決サル、法案ハ陛下ノ裁可ヲ請フヲ得サルコ若シ行政官ニ於テ猶ホ必要ト考フル時ハ其理由書ヲ草シ之ヲ陛下ニ呈ス陛下更ニ其理由書及法案ヲ元老院ニ下シ再議セシメ猶非決スル時ハ廢案トナスヘキコ
- 一 元老院議官ノ身分ヲ明ニシ行政官ノ威權外ニ立シメ其地位ニ安シテ言責ヲ全フセシムルコ

出席

- 四十一番 長岡 護美
- 四十七番 野村 素介
- 六十三番 渡邊 驥
- 七番 矢戸 璣

○六十八番鳥尾小彌太 本案ノ要領ハ只今書記官ノ朗讀セル意見書ニ記述セルカ如シ只各位ノ注意ヲ乞フ可キハ本案ノ文章ハ最初議官諸君ニ向テ本院ノ章程ヲ改正セサル可ラサルノ主意ヲ通告スルニ便シタルモノヲ取り僅ニ其末文ノ一句ヲ修改シテ直ニ上奏体ニ擬セシモノナレハ全編總テ上奏ノ文体ヲ備ヘス故ニ文章ノ改竄修正ハ固ヨリ議官各位ノ意見ニ任ス願クハ文章ノ不備ヲ以テ本案ノ旨趣ヲ咎ムル勿レ但聊カ本案ノ餘意ヲ補

陳センカ爲メ尙ホ各官ノ聽取ヲ煩ハサントス語少ク長キニ涉ルヤモ測ラレサレハ豫メ各位ニ陳告ス却説ク我カ明治天皇陛下ハ明治八年ニ於テ元老院ヲ設ケテ立法ノ源ヲ廣ムル旨ヲ詔ラセタマヒシカ今日ノ元老院章程ハ此聖詔ニ依リテ定マリシモノナリ今日國家多事ノ秋ニ際シ苟モ元老議官タル者宜シク其聖詔ヲ奉體シテ言責ヲ全フシ其職ヲ虛フセサランコヲ務ムヘシ蓋シ國家ノ法律ヲ制定シテ之ヲ悠久ニ確立セシムルハ至重至大ノ事柄ニ屬シ而シテ其責任ニ當ル者ハ上天皇陛下ハ勿論元老院其最モ重任ニ在ルモノナリ内閣大臣ノ責任ハ固ト甚タ重キモ是レ專ラ行政官ノ地位ニ立チ只行政上ノ事實ヨリ一進一退ヲ爲スノミ即チ内閣大臣ハ行政上ニ就キ大ナル責任ヲ負擔スルヲ以テ若シ行政上過失アラハ自ラ位ヲ退カサルヲ得ス然ラスンハ行政上ノ責任ハ獨リ陛下ニ歸シ至尊ヲ傷クルニ至ル此事實ハ洋ノ東西ヲ問ハス歴史ニ徴シテ炳然タルモノナリ之ト同ク一國立法上ノ責任モ亦其歸スル所ナカル可ラス然ルニ立法權ノ獨立ナク立法上ノ責任ノ專屬スル所ナクンハ立法上ノ過失ニ就キ假令内閣大臣其位ヲ退ク有ルモ尙ホ其責任ノ止息スルモノニ非ス到底陛下ニ歸スルヲ免レス之ニ反シ若シ元老院ニシテ立法ノ實權ヲ握ルアラハ其責任ハ獨リ元老院ニ歸シ決シテ至尊ニ及フノ虞ナカル可キナリ彼ノ立法權ヲ行政官ニ委シ立法上ノ過失ノ責ヲ負ハシムルハ大ニ弊害アルヲ免レス何トナレハ若シ立法權ヲ行政官ニ委スルハ法律ハ常ニ内閣大臣ノ交迭ニ依リテ變更シ易ク其効力ハ爲メニ晚弱ニ流レ遂ニ紛雜ヲ生スレハナリ今日ノ如キ國法ノ改良進步ヲ謀ル善良ノ順序ヲ得タルモノト謂フ可ラス凡ツ立法上ノ事ハ國家ノ存在スル限リハ

敢テ蹉跎スルコト無ク一直線ニ進行セサル可ラサルモノニシテ苟モ此目的ヲ完フセンニハ先ツ立法上ノ責任ノ歸スル所ヲ明カニシ之ヲシテ天皇陛下ニ歸セシムル如キ不都合ナカラシメサル可ラス即チ元老院ニ立法ノ權ヲ委子元老院ヲシテ立法ノ責任ニ當ラシムルハ立憲國當然ノ体裁ナリト謂フ可シ元老院ハ一ノ集合体ナレハ假令過失アルモ其過失ハ一人ノ私意私見ヨリ出ツルモノニ非ス公平無私ナル多數ノ心ヨリ生スルモノナレハ人民ノ之ヲ見ルコト一私人一官吏ノ過失ノ如クナラス爲メニ怨恨ヲ來シテ頓ニ國家ノ信用ヲ傷クル如キコト無クシテ多數ノ議官モ亦過ヲ改ムルニ吝ナラサルヲ得ン近來民間ノ有様ヲ窺フニ立法上施政上ニ就キ議論常ニ露々タリ卒カニ聞ケハ甚タ愕クハキ如キモ仔細ニ其由來ヲ考フレハ其紛論ノ出ル偶然ニ非スシテ其萌芽ノ遠ク二十年ノ古ニ胚胎セルコトヲ知ラン詳カニ之ヲ言ヘハ明治元年五箇條ノ御誓文コソ其根源ヲ成セルモノナリ御誓文ニ曰ク「廣ク會議ヲ起シ萬機公論ニ決スヘシ」又曰ク「上下心ヲ一ニシ盛ニ經倫ヲ行フヘシ」ト又當時ノ勅諭ニ曰ク「汝億兆舊來ノ陋習ニ慣レ尊重ノミヲ朝廷ノコト爲シ神州ノ危急ヲ知ラス朕一タヒ足ヲ舉クレハ非常ニ驚キ種々ノ疑惑ヲ生シ萬口紛々トシテ朕ノ志ヲ爲ササラシムルノミナラス從テ列祖ノ天下ヲ失ハシムルナリ汝億兆能ク朕カ志ヲ體認シ相牽テ私見ヲ去リ公議ヲ採リ朕カ業ヲ助ケ神州ヲ保全シ列祖ノ神靈ヲ慰メ奉ラシメハ生前ノ幸甚アラシト此御誓文御勅諭コソ今日ノ狀態ヲ開キシモノナリ加フルニ西洋ノ學術歲月ヲ逐ヒ入來リテ人智ヲ養フヨリ人民自ラ種々ノ思想ニ富ミ或ハ法律ヲ論シ或ハ政治ヲ議スル者ヲ増スニ至レルナリ然ルコトヲ見テ一概ニ上

ニ抗シ上ヲ犯ス者ト爲スハ封建ノ遺習タル僻見ナルノミ今日廟堂ニ在テ政ヲ執ル者ハ天下ノ議論ハ後來益ス紛出スルコト覺悟シ此中ニ立チテ能ク國家ノ基礎ヲ鞏固ニシ確トシテ動搖セシメサルヲ之レ務メサル可ラス例ヘハ大洋ヲ航行スルニハ極メテ船體ヲ堅牢ニシ針路ニ注意シ如何ナル風浪ニ遭フモ危險ノ虞ナカラシメスハ容易ニ船ヲ指定ノ港灣ニ繫クヲ得サラン蓋シ一國ノ政治モ亦然リ今日政府ノ人民ニ對スルニハ威ヲ示スヲ得策ト爲ス乎將タ信ヲ示スヲ得策ト爲ス乎威ヲ示ス固ヨリ必要ナルモ威ハ時ニ盡クルコト有リ信ニ至テハ久フシテ益ス効力ヲ増進スルモノナリ信ヲ示シテ天下ノ紛論ヲ鎮ムルハ國家ノ組織ヲ鞏固ナラシムルノ一大良手段ナリ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ立法行政司法ノ三權ノ間判然タル區域ヲ存シ以テ疑惑ナカラシム可シ而シテ本官ハ就中本院ノ章程ヲ改正シ立法權ヲシテ獨立セシムルヲ緊要ト爲スナリ論者或ハ言ハン憲法ノ制定近キニ在リ國會ノ開設眼前ニ迫マレリ姑ク口ヲ鉗シテ其期ヲ待テト今日在朝有司ノ思想ハ一般ニ此方向ニ流ルルカ如シ是レ強チ咎ムルニ足ラサレト深ク考フレハ迂遠ノ甚タシキモノニシテ之ヲ默黙ニ付スル能ハス何事モ二十三年ニ在リトシテ放擲シ果シテ國會開設ノ期ニ際シ豫想ノ諸事ヲ整理シ得ヘキ耶憲法ヲ定メ國會ヲ開クノ時ニ至ラハ世事ニ多少ノ紛雜ヲ生シ遂ニハ如何ナル變動ヲ惹キ起スヤモ知ル可ラス故ニ若シ豫メ政體ノ組織ヲ一定シ憲法ノ旨趣ニ適合セシムルニ注意セスハ憲法ヲ制定スルモ其實行ニ支障ヲ來シ其効力ノ幾分ヲ減損セン彼民選代議院ハ三大權中ナル立法權ヲ有スルモ細カニ考ヘ來レハ上ニ天皇陛下アリ元老院アリテ立法權ヲ有スルハ只其一部分

ナリト云フモ可ナリ此一部分ナル民選代議院ノ起ルヲ待チ爲メニ百事ヲ放擲スルハ甚
 タ危カラスヤ憲法ヲ制定シ國會ヲ開設スルノ時ニ至ラハ政体ノ組織官吏ノ進退等ニ一
 大變動ヲ起シ多少ノ混雜ヲ免レサルコトハ必然ナレハ現在ノ政府ハ豫メ之レニ應スルノ
 根本ヲ作り以テ現政体ヲシテ憲法ニ合セシムルノ覺悟ヲ爲ササル可ラス徒ラニ國會開
 設ノミヲ待ツノ迂遠ナルヤ言フ俟タス又纏テ一方ノ點ヨリ考フレハ現今ノ元老院ハ幾
 ント上等官吏ノ退隱所ト云フ可ク此有様ヲ以テ經過シ二十三年ニ達シテ能ク下院ト對
 峙シテ國家ノ法律ヲ監督シ國歩ヲシテ順序アル改進ノ方向ニ趣カシムルノ責ニ當ルヲ
 得ヘキヤ甚タ懸念ナキ能ハサルナリ西洋諸州ノ元老院ハ貴族、學者、富豪家其他國家ニ
 名望アル者等ヲ以テ組織ス日本今日ノ元老院議員モ亦皆ナ學識ニ富ミ功勞アル人ナ
 レハ此上ニ富豪家名望家ヲ加ヘ尙ホ多少ノ權限ヲ増サハ其形能ク西洋ノ元老院ニ似ル
 モ今日ノ有様ヲ以テシテハ然ク著キ勢力ヲ増進ス可シト思ハレサルナリ假令議員ヲ増
 シ權限ヲ加フルト其職ニ當ル者振テ大事ヲ執ルノ決心ナクシテハ毫モ其効ヲ見ス故ニ議
 官タル者ハ宜シク奮勵シテ充分ノ責任ヲ有ツコトヲ務メ今日ノ元老院ヲシテ後來確然タ
 ル立法院タラシメ以テ天下ノ信ヲ惹キ永ク順序アル國家ノ進歩ヲ見届クルコトヲ熱心計
 畫スヘキナリ各位本官ノ微表ヲ洞觀シ本官ノ意見ニ贊同センコトヲ乞フ

○五十四番加藤弘之 只今發議者ヨリ詳密ナル演說アリ殊ニ提出ノ意見書ニ於テ其意ヲ詳記
 シタレハ最早ヤ贊成者タル本官輩ノ贊言ヲ要セス唯意見書ノ文案ニ至リテハ未タ完璧
 ト爲スヲ得サレハ其成立ノ上ハ大ニ修改シ上奏体ノ文ト爲シテ敬禮ヲ盡シ遺憾ナカラ

シメンコトヲ欲スルナリ偕テ本案ハ一ノ法律案トシテ提出シ得ルヤ否ヤハ本案ノ最初ニ
 於テ決ス可キ問題タリ本院章程第七條ニハ「元老院ハ新法ヲ制定シ若シクハ舊法ヲ廢
 止改正スヘキノ意見書ヲ上奏スルヲ得」云云ト有リ本案ノ果シテ之ニ恰當スルヤハ稍
 ヤ疑ヒ無キニ非サレトモ熟考スレハ官制改革以來ハ元老院ノ議定ヲ經過セシ議案ニシテ
 現ニ法律ノ名稱ヲ付シテ公布セラレタルモノハ僅ニ一二件ニ過キス其他ハ盡ク勅令ト
 シテ公布セラレタリ若シ章程第七條ノ新法舊法ト稱スルモノハ現ニ法律ノ名稱アルモ
 ノノミトセンカ其區域甚タ狹隘ニ過ク然レトモ現ニ元老院ノ議定セルモノハ重ニ勅令ナ
 ルヨリ考フレハ所謂法律トハ現ニ存スル法律ト勅令トヲ包含スル廣キ意義ヲ有スルモ
 ノト信ス然ラハ則チ元老院ノ權限ニ關スル章程ヲ定ムルハ最モ重キ法律ノ一ニ屬スル
 ヤ明カニシテ歐米諸國ニ於テモ已ニ然ル所ナリ近來本邦ノ制度ハ多ク歐米ニ摸倣シ勅
 令ノ名ヲ付シテ法律ノ實アラシムルヨリ見ルモ元老院章程ノ法律ニ非サル謂ハレ無カ
 ル可シ況ンヤ元老院章程ノ如キハ法律中最モ重キモノナルヲヤ斯ク考ヘ來レハ章程第
 七條ヲ以テ本案ニ適用セントスルニ未ダ符節ヲ合スル如クナル能ハサルモ又決シテ背
 馳スルモノニ非サルナリ本官ハ以上陳ヘタルカ如ク細思熟考ヲ加ヘタル後本案贊成者
 ノ一人ニ加ハリタリ此說或ハ各位ノ意ヲ得サルヤヲ知ラサレトモ若シ法律ノ名稱ヲ明記
 セルモノノミ眞ノ法律ナリト解釋セハ勅令ハ法律ニ非ス法律ニ非サル勅令ヲ現ニ元老
 院ニ於テ議定スルトノ不都合ナル論結ヲ生セン是ニ由テ考フレハ章程ニ關スル意見書
 ヲ議スルハ敢テ元老院章程第七條ノ明文ニ抵觸セサルコト明カナリ

○五十六番 林友 本官モ意見書賛成者ノ一人ニシテ其旨趣ハ已ニ發議者ノ詳述セシ所ノ如シ本官ノ本案ヲ賛成セシハ只今五十四番ノ陳述セル如ク最初ハ章程第七條ニ抵觸スル所ナシト信セシモ他ノ意見書ニ對シ其議論ノ紛出スルニ至リ深ク願レハ如何ニモ元老院章程ヲ以テ法律ト解釋スルノ不可ナルヲ悟レリ故ニ本官ハ偏ヘニ希望ス他ノ議論ハ姑ラク措キ先ツ其章程第七條ニ適合スルヤ否ヤヲ討議センコトヲ若シ抵觸スルニ決セハ直チニ之ヲ廢棄ス可ク又若シ適合スルニ決セハ議會ヲ繼續ス可キナリ

○三十五番 津田眞道 本官モ賛成者ノ一人ナレド本案ノ主旨ハ本面上ニ詳カナルノミカラス過刻起草者カ一層其意ヲ敷衍シ明ニ演述シ其旨趣已ニ明瞭ナレハ敢テ贅辨ヲ加ヘス只之ニ關シ感覺シタル所ヲ簡單ニ陳述セント欲ス抑モ本案ハ本院ノ章程ニ關スル意見書ニシテ元老院議官タル本官等ノ職權ニ向テ直接ノ關係ヲ有スル重大ノ案ナルコトヲ信ス現行ノ章程ニ依レハ元老院ハ眞ニ有名無實ノ官衙ニシテ發議者ノ言ノ如ク功勞アル元老ノ退隱所タルコトヲ免レヌ現ニ世ノ新聞紙ハ之ヲ評スルニ辻番ノ阿爺ヲ以テス豈ニ慨嘆ノ至リナラスヤ凡ソ國家ノ組織ハ時代ニ從テ變遷スルハ歷史上爭フ可ラサル事實ナリ我邦ノ歴史ヲ閱スルニ神代ハ茫漠トシテ之ヲ知ルニ由ナキモ神武天皇以後ノ變遷ハ着々之ヲ視フヲ得ヘシ史ヲ案スルニ神武天皇實祚ヲ踐ミ此土ニ君臨シタマヒシヨリ降テ神功皇后ノ時ニ至リ自ラ三韓ヲ討伐シタマヒ彼レ我レニ貢スルニ及ヒ百濟人ノ如キハ頻リニ我ニ往來シ始メテ支那ノ文明ヲ齎シ來リ續テ印度ノ佛教ノ如キモ百濟ヲ經テ移入シタリ以後我邦文武百般ノ制度盡ク支那ニ摸倣セシコト恰モ今日上下一ニ西

洋ノ風ニ摸倣スルト同一ノ有様ナリシナラン倍テ我カ國家固有ノ組織ハ君主專制ニシテ百般ノ政事ハ獨リ君主ノ手ニ出テ天下ハ天下ノ天下ニ非スシテ天皇陛下一人ノ天下ナルヲ以テ原則トス是レ深ク根底スル所アルニ由ルナリ各位モ知ル如ク日本國土ノ位地ハ四面海ヲ以テ環ラシ古昔已ニ造船ノ業開ケシト雖モ之ヲ以テ三韓支那ニ航渡スルサヘ甚タ危險ナル程ニテ從テ海外トノ交通ヲ開キシハ至テ遲カリシ支那トノ交際ハ始メテ推古天皇ノ時即チ隋ノ時ニ至リテ起リ時々遣隋使ヲ發セシモ難破ノ危害常ニ之ヲ妨ケ満足ニ交通ノ目的ヲ達スル能ハサリシ彼ノ唐ノ時ニ至リ遣唐使ノ制ヲ置カルヤ吉備眞備等遣唐使ノ命ヲ被リテ唐朝ニ使セシコト有リシカ續テ安祿山ノ亂起リテヨリ以來實際ニ行ハレス遂ニ遣唐使ノ制モ廢セラレテ支那トノ交通ハ幾ント中絶ノ姿トナレリ

○議長 三十五番ハ簡單ニ陳述スト云ヒシカ引用歴史ノ如キハ務メテ省略セヨ

○三十五番 眞道 敬諾ス降テ鎌倉ノ時ニ及ヒ元ノ寇筑紫ニ襲來セシコト有リシモ暴風起リテ船艦ヲ破碎シ此ニ至リテ全ク支那トノ交通ヲ廢セリ後西洋諸國大ニ航海ノ術ニ長セシヨリ元龜天正ノ交西班牙人葡萄牙人ノ頻リニ我ニ來航スル有リシモ是レ當時最モ嫌惡セシ耶蘇教普教ノ目的ナリシヲ以テ堅ク拒絕シテ入ルヲ許サス左レハ古來我邦ハ東洋ニ孤立シテ外國ノ形勢ノ如キハ一モ之ヲ知ス然ルニ今ヲ去ル三十年前米國初メテ使節ヲ我ニ致メシテ開港ヲ催カセシカ當時ノ形勢之ヲ拒ム能ハス港ヲ開テ海外トノ交通貿易ヲ始メ遂ニ今日ノ隆盛ヲ見ルニ至リシナリ蓋シ航海ノ術開ケ船舶ノ便ヲ増シ假令歐羅巴ノ遠キモ數十日ヲ以テ能ク往來スルヲ得ル今日ト爲リテハ我邦如何ニ固有ノ制

ヲ墨守セント欲スルモ能ハス是ヲ以テ我天皇陛下ハ賢クモ五ヶ條ノ御誓文ヲ發シタマヒ以後大ニ國政ヲ釐革シ廣ク内外ノ形勢ヲ見テ以テ事ヲ議スルコトハ爲レリ故ニ國政ノ改革アレハ其改革毎ニ西洋文明諸國ノ制ニ傾クハ自然ノ勢ナリ古昔ハ古昔ニ在リテ其制ノ宜キヲ貴ヒ今日ハ今日ニ在リテ其制ノ宜キヲ貴フヤ理ノ當ニ然ルヘキ所ニシテ人民ハ國政ニ向テ喙ヲ容ル可ラストノ原則ハ古ニ在リテハ能ク人情國勢ニ適セシモ已ニ今日文明ノ時代ニ達シテハ之ヲ用ユ可ラス假令君主獨裁ノ政体ト雖モ政權ハ君主ノ占斷ス可キモノニ非ラス是ニ於テ元老院ヲ設ケテ法律ノ議權ヲ付與スルコト爲レリ凡ソ立法ノコトハ多數人ノ意思ヲ以テ之ヲ定メサルヲ得ス左レハ二十三年國會開設ノ時ニ至ラハ其一院ナルカ將タ兩院ナルカハ豫メ知ル可ラサレ也今日ニ數倍スルノ議員ヲ以テ法律ヲ議ス可キヤ明カナリ其時ニハ議事ノ混雜ハ逆モ今日ノ比ニ非サル可キモ其混雜面倒ノ結果ハ能ク偏見ニ陷ルノ憂ヒヲ防キ正確ナル法律ト爲リテ顯ハルルヲ得ン要スルニ正理ヲ叩キ出スハ多數ノ議決ニ如クモノ無シ今日ノ元老院ハ尙ホ幼稚ノ度ニ在リテ起草者モ言フ如ク幾ント有名無實ナルノミ豈慨歎セサル可ケンヤ抑モ政府カ元老院ヲ置クハ老年ノ官吏ヲ休養スル爲メニ非ス國家ノ法律ヲ議定シテ人民ノ幸福ヲ保護スルニ在リ然ルニ政府ハ直接ニ法律ヲ制定發布シテ後元老院ノ檢視ニ付シ又ハ近來純然タル法律ノ性質ヲ具有スル勅令ニシテ全ク元老院ノ議定ヲ經スシテ發布スルモノ有ルニ至レリ斯クテハ元老院ヲ設タル旨趣ヲ貫徹スル能ハサルノミナラス幾ント無要ニ屬ス此ノ如ク内閣ノ決議ヲ以テ輕々ニ法律ヲ發布スルハ其弊害ノ歸スル所ハ内閣ノ困難

ヲ惹キ起シ天皇陛下ノ敍慮ヲ惱シメ奉ルニ至ラン本官ハ國步改進ノ勢ニ逆ヒ全國人民ノ幸福ヲ害ヒ終ニ日本政府ノ失體ヲ來サンコトヲ懼ルルナリ然ルヲ元老院ノ章程ヲ論スルハ元老院ノ職權ニ非ス宜シク政府ノ隨意ニ打テ任セ置クヘシト云フニ至リテハ實ニ議官タル者ノ本心ニ對シ耻ツ可キノ限リナラスヤ苟モ議官タル者ハ國家ノ利害ニ關スルコトニ心付カハ政府ニ向テ飽マテ意見ヲ述フ可シ況ンヤ元老院章程ノ如キ重且大ナルモノヲヤ若シ元老院ノ權限カ眞ニ起草者ノ意ノ如ク爲リシナラハ國家立法ノ根基此ニ固マリ日本帝國ノ幸福ハ是レヨリ増進セントス却テ説ク起草者モ已ニ公言セシ如ク本案ノ文章ハ未タ上奏體トシテ其當ヲ得タルモノニ非ス故ニ第一議會ノ畢ニ達セハ之ヲ全部付託修正委員ニ託シ充分ニ修改ヲ加ヘンコトヲ望ム此ニ原案賛成ノ意ヲ表シ併セテ特別ノ建議ヲ爲ス

○六十八番 閣内 重俊 本官モ賛成者トシテ意見書ニ署名セシ一人ナリ然レモ意見書ノ末尾ニ具セル三項ノ綱領中同意スル能ハサルモノ有リ即チ第一項「國家細大ノ法律ハ盡ク元老院ノ議事ヲ經ル」及第三項「元老院議官ノ身分ヲ明カニシ行政官ノ威權外ニ立タシメ其地位ニ安シテ言責ヲ全フセシムル」ノ二項ハ喜ンテ同意スル所ナレモ第二項ニ至リ甚タ不同意ナルノミナラス發議者ノ辯論上又大ニ不同意ノ點アリ殊ニ第二項ノ末文ナル「猶非決スル時ハ廢案トナスヘキ」ノ一句ニ至リテハ憲法學上ノ一大問題ニ屬シ主權論ニ涉ルモノニシテ大ニ君主ノ權限ヲ減殺シ行政官ノ活動ヲ檢束スルノ嫌ヒ無シトセス實ニ容易ナラサルコト謂フ可シ故ニ本案ニシテ若シ成立セハ之ヲ委員ニ付託

シテ修正ヲ加フルコ最モ肝要ナリ本官ハ各國ノ憲法並ニ憲法沿革論ニ就キ種々取調ヲ爲シタレトモ何分適當ナル例證ヲ得ル能ハス只茲ニ白耳義王國元老院規則ニ關スル小冊子中同院事務官「ゼ、ワルナン」ナル者ノ説明ヲ見出シタリ曰ク「政府ヲ顛覆スルニ甚タ簡易ナル方法アリ其方法トハ政府ヨリ法律草案ヲ下付スル時之ヲ廢却シ猶ホ之ヲ再付スルニ於テハ復タ之ヲ廢却スルニ在リ此場合ニ於テ其政府ハ政事ヲ執ルヲ得ス而シテ一國ノ信用ヲ失ヒ全ク其勢力ヲ失フヘシ是ニ於テ乎國王ハ兩院ヲ解散セシメ全國ニ對シ商議スルナリ」ト是レ等ノ說ハ參考上必要ノ論說ニシテ稍ヤ本官ノ論旨ヲ確ムルヲ得ルモノナリ現今我邦ノ國体上ヨリセハ主權ハ充分ニ君主ニ存シ内閣ノ活動ニ便利ヲ與ヘサル可ラス然レトモ反對論者ノ言フ如ク元老院ハ法律ノ名ヲ有スルモノニ非サレハ議定スルヲ得ストセハ現ニ元老院カ勅令案ヲ議定セシハ全ク錯誤ニ歸ス可シ若シ章程ハ憲法ニ屬スルモノナリ之ヲ議ス可ラスト云ハハ章程第七條ノ法律ナル意義ノ範圍ハ至テ狹少ト爲ラントス此事ニ就キテハ五十四番ノ所說コソ穩當ヲ得タルモノナリ願クハ本案ノ爲メニ七名ノ修正委員ヲ撰定センコトヲ

○二番 清岡 公張 起草者賛成者ハ交々起テ其辯論ヲ爲セシカ賛成者中ニモ本案ハ本院章程第七條ニ觸ル、ヤノ意見ヲ有スル者アルヨリ見レハ此コニ就テハ幾分カ疑惑ノ存スルヲ知ル可シ本案ハ起草者ノ精神及ヒ事件ノ性質トモニ號外第四十一號意見書ト幾ント逕庭アルヲ見ス故ニ號外第四十一號意見書ニシテ若シ章程ニ抵觸スルニ決セハ本案亦抵觸スルコトヲ免レス然レトモ其議決ノ結果ヲモ見スシテ漫ニ抵觸ヲ斷スルハ速ニ過キ

因テ本官ハ聊カ意見ノ在ル所ヲ開陳セント欲ス兩案起草者ノ精神ヲ察スルニ與ニ立法ノ完全ナランコトヲ冀望スルニ出テ其旨趣ニ至テハ固ヨリ間然スル所ナキモ之ヲ議スルニ當リ元老院章程第七條ニ觸ルルヤ否ヤハ充分ノ討究ヲ要スル事柄ナリ昨日モ略水陳述セシ如ク我輩議官タル者ハ主トシテ元老院章程ヲ遵守ス可キハ勿論ニシテ如何ニ其精神ノ良好ナル案ナレハトテ章程ノ範圍外ニ出テシムルハ決シテ爲スヲ得サル所ナリ苟モ議官ニシテ國家ノ爲メ意見書ヲ提出シ其善事ナル以上ニハ十分ニ討論審議ヲ盡シ只管ニ其行ハレンコトヲ圖ル可キハ萬々ナレトモ眞ニ其目的ヲ達センニハ宜シク踏ム可キノ順序ヲ踏マサルヘカラス若シ此順序ヲ踏マス所謂書生論ノ轍ニ出テ徒ラニ辯論ヲ事トセハ遂ニ一言ノ下ニ鼻ヲ挫カルルニ至ラン況シテ現内閣ノ容ルルヲ好マサル性質ノ案ナルヲヤ因テ其主旨ヲ貫徹セシメント欲セハ務メテ法則ヲ守リ順序ニ從ハサル可ラス若シ法則ニ背キ順序ヲ誤マル有ラハ元老院ハ如何ナル法律ノ明文ニ據リテ此ノ如キモノヲ議定セシカトノ一言ヲ以テ彈キ飛サルルモ知ル可ラス其時ニ至リ元老院ハ章程第七條ヲ以テ之ニ抗辨シ内閣ト交論スルヲ得ルヤト言フニ蓋シ能ハスト答ヘンノミ章程ノ明文ヨリ見ルモ亦實際ヨリ考フルモ内閣ノ發布スル法律勅令中ニハ元老院ノ議ニ付スルモノト付セサルモノトノ區別アルカ如シ彼ノ官省ノ章程ノ如キ從來本院ノ議ニ付セシコト有ルヲ聞カス此點ヨリ考フルモ本案ハ章程第七條ノ範圍ニ包含セサルモノト信ス之ヲ包含スト解スルモ内閣ハ之ヲ許サス若シ之ヲ許ストセハ内務、外務、司法、陸海軍等ノ諸官衙ニ屬スル權限ニ對シ元老院ハ議權ヲ有ス可ク尙ホ一步ヲ進メテ内閣ノ組

職權限ニ對シテモ議權ヲ有ス可キ筈ナリ此ノ如キハ今日ニ於テ何人ノ思想ニモ浮ハサル所ナル可シ斯ク論シ來レハ意見書ノ精神ハ甚タ嘉ミス可キモ之ヲ元老院ノ職權内ニ於テ議スルハ稍ヤ疑ヒ無キ能ハス若シ夫レ之ヲ別段ノ手續ニ據リテ内閣ニ提出スルハ格別ナレトモ之カ爲メニ會議ヲ開キ決議ノ後元老院ノ意見書トシテ上奏スルハ本院ノ職權外ナラン論者或ハ章程第七條ノ解釋甚タ狹ク其活用ニ乏シトノ駁撃アラシモ本官ハ其駁撃ノ如クナルヲ信ス如何ニ解釋ヲ下シ如何ニ活用ノ範圍ヲ擴メントスルモ内閣ニ於テ之ヲ認メスンハ活用ノ効力ヲ實際ニ有スルヲ得ス是ヲ以テ本官ハ遺憾ナカラ本案ニ向ヒテモ亦號外第四十一號ト同ク廢棄說ヲ呈セサルヲ得ス終リニ一言ス起草者贊成者ハ本案ノ文章ハ甚タ不完全ナレハ大ニ修正ヲ加フルヲ要スト言フモ既ニ起草者カ議場ニ提出シタルハ自ラ其完全ナルヲ信シ贊成者カ進ンテ署名シタルモ亦良好ノ案ナルヲ信セシニ依ルナル可シ自ラ不完全ナルヲ信シナカラ之ヲ提出シ之ヲ贊成スル如キ理アル可ラス故ニ已ニ提出シ已ニ贊成シタル以上ニハ飽マテモ議場ヲ通過セシムルニ盡力ス可キ筈ナルニ却テ自ラ其鋒先ヲ折リテ修正ヲ主張スルハ甚タ奇ナリ本官ハ文章ニ對シ頗ル議論ヲ貯フレ已ニ起草者自ラ文章ノ不備ナルヲ訴フル以上ニハ敢テ論スルヲ好マサルナリ

○九番^{榎村}本官モ意見書贊成者トシテ署名セシ一人ナレトモ二番モ言フ如ク文章ニ至リテハ起草者自ラ述ルカ如ク不完全タルヲ免レス他ノ贊成者モ率子其大意ヲ贊成スルマデニシテ敢テ文章ヲ以テ完全無疵ト見タルニ非ラサル可シ殊ニ六十八番ノ言フ如ク綱

領ノ第二項ノ如キハ尤モ不都合ナリトス要スルニ本官カ本案ニ左袒セシハ只一般人民ニ關スル法律ニシテ元老院ノ議定ヲ經サルモノ有リ又僅ニ檢視ニ付スルモノ有リ之ヲ廢シテ法律ハ總テ元老院ノ議定ヲ經ヘキモノヲラシムルヲ欲スルニ在リシナリ然ルニ本案配布ニ際シ議長ハ議案ニ附箋ヲ貼シテ該意見書ハ元老院章程第七條ニ抵觸セサルヤヲ各議官ニ相談セリ之ヲ讀ムヤ本官ハ一時大ニ疑惑ヲ生セシカ之ヲ章程第七條ノ「元老院ハ新法ヲ制定シ若クハ舊法ヲ廢止改正スヘキ意見書ヲ上奏スルヲ得」云云ニ照スニ至リ到底其範圍ニ入レテ本院ノ意見書ト爲スヲ得可シト考ヘシナリ號外第四十一號ナル憲法議案ヲ下附セラレンヲ奏請スル意見書ノ如キハ意見書タルノ性質ニ乏ク寧ロ催促書トモ云フ可ク故ニ已ニ第一讀會ニ於テ不同意ナルヲ陳ヘ置キタリ本案ハ意見書タルヲ疑フ可ラサルモ只其法律タルヤ否ヤハ議長ノ符箋ニ言フ如ク甚タ疑ハシキナリ元老院章程ハ法律ト言ヘハ法律ナレトモ從來諸官衙ノ章程ニシテ本院ノ議定ニ付セラレタルヲ無キノミナラス檢視ニサヘモ付セラレタルヲ無キナリ其議定ニ付スル法律ト議定ニ付セサルノ法律トハ他ノ内規ニ依リ又ハ議長ト内閣トノ熟議ニ依リ定マレルヤハ知ラサレトモ章程ハ我章程ノ法律ナルモノニ恰當スルヤハ本官ノ未タ知ルヲ得サル所ナリ法律ナル文字ヲ嚴格ニ解釋セハ彼ノ公證人規則登記法ノ如ク明カニ法律ノ名稱アルモノヲ云ヒ而シテ勅令ハ即チ勅令ナルノミ或ハ勅令ヲ本院ノ議ニ付スルカラハ章程モ亦議スルヲ得ヘシトノ考ヲ生ス可キモ現ニ本院ニ於テ章程ヲ議シタルノ例ナキノミナラス之ヲ以テ法律ト見ルコトハ少ク難カル可シ是ヲ以テ本案ノ事柄ヲ議スルノ前

先ツ其章程第七條ニ抵觸セルヤ否ヤハ充分ニ討究シテ可ナリ若シ然ラスシテ漫ニ内閣ニ提出セハ二番ノ言フ如ク一言ノ下ニ退ケラルルノ不体裁アランモ知ル可ラス本官ハ人民一般ニ向テ公布スル法律ハ總テ元老院ノ議決ヲ經ンコトハ熱心希望スレモ其規則ニ抵觸スルト文章ノ不穩ナルトニ於テ躊躇セサルヲ得サルナリ

○八番楠本

本案ニ對スル所見ヲ陳フルノ前正隆先ツ本官ノ論旨ヲ簡單ニ盡サントセハ即チ

本案ハ元老院章程第七條ニ抵觸スト言ハンノミ元來法律トハ一般ニ關スル規則ヲ謂フモノニシテ一官衙ニ關スル章程ノ如キハ之ヲ法律ト爲ス能ハス將來憲法ヲ制定シ國會ヲ開設スルニ至ラハ其時コソ立法院ノ章程ハ法律ノ一部ヲ爲サンモ今日ノ制度ハ未タ此ニ至ラサルモノナリ此ノ如ク元老院權限ノ基礎確定セサル時ニ於テ如何ニ章程ヲ改メント盡力スルモ恐クハ徒勞ニ屬セン然レモ法律ハ必ス元老院ノ議定ヲ經テ國民ノ信憑ヲ取ルコトハ國家ノ爲メニ熱心希望スル所ニシテ各議官ノ夙ニ心配スル所タリ其一例ヲ舉クレハ前年某某議官ハ檢視會ヲ廢スルノ意見ヲ内閣ニ具狀シ本官モ其驥尾ニ從フテ盡力シタリ然レモ是レ等ノ意見ハ議官ノ希望トシテ議長ヨリ之ヲ内閣ニ提出シ又ハ議官ノ資格ヲ以テ内閣ニ向テ直接ニ論シタルモノニシテ未タ元老院ノ意見ト爲スノ目的ヲ以テ議場ニ提出セシコト有ラス其議案ト爲リシハ本案ヲ以テ嚆矢トス本官ハ其意見ハ固ヨリ前日ニ異ナラサルモ之ヲ元老院ノ意見書トシテ公然陛下ニ上奏スルノ適法ナルコトハ未タ信スル能ハサルナリ本案ハ固ト國家將來ノ大計ニ關シ起草者ノ深切ナル精心ハ案面ニ溢レ尙ホ過刻補陳セル所ニ依リ一層明亮ヲ加ヘリ然レモ此論ヤ本案アリテ

始メテ生セシニ非ス已ニ滿場各議官ノ定論トシテ存スル所ナレハ左マテ耳新キ論ニモ非ス然レモ本案ハ内閣ヨリ下付セルモノニ非ス又章程第七條ニ適合シタルモノニモ非ストセハ本會ハ一個意見ノ攻究會ニシテ職掌ヲ以テ討論スルモノニ非ス隨分面白キ會議ト謂フ可シ然ラハ本案ノ旨趣全ク取ルニ足ラサルカト云フニ大ニ然ラス實ニ國家ヲ思フノ懇ロナル衷心ニ出テ殊ニ其文章ニ至リテハ激切悲壯讀ム者ヲシテ戰慄セシムル程ノ名文ナリ但各官中或ハ文章上奏体ニ適セスト論スル者アリ或ハ然ラン然レモ是ハ之レ各自ノ見ル所ニ任セ敢テ之ヲ質スヲ好マサルナリ又末段ニ記列セル三綱領ノ如キハ正ニ將來ニ立法ノ基礎ヲ確立セシメントスル精神ノ存スル所ニシテ彼ノ職ニ在リテ漫ニ威權ヲ貪ラントスル者ノ爲ニ非サルナリ惜ヒ哉章程第七條ニ抵觸スル爲メニ取テ以テ本院ノ意見書ト爲スヲ得サルコト然ラハ此精神ヲ貫クニ如何ナル方法ニ依ル可キカ只一個人ノ資格ヲ以テ政府ニ建白スルカ然ラスハ當局者ニ向テ直接ニ談合スルノ外ナキノミ前ニモ開陳セル如ク元老院ノ權限ヲ擴張ス可キコトハ本官等ノ平素考究シテ持論ト爲セル所ニシテ此希望ハ一日モ我カ腦裡ヲ離レス抑モ十九世紀ニ至リ東洋ニ立憲政体ノ一帝國ヲ見ル如キハ古人ノ夢想ニタモ上ラサリシ所ニシテ將ニ此盛運ニ會セントスルハ實ニ天皇陛下ノ盛德ト謂フ可シ然レモ新ニ立憲政体ヲ組立ルハ頗ル大事ニシテ一旦方向ヲ誤ル有ラハ其結果ヤ國家ノ興廢ニ關シ之ヲ如何トモスル能ハス故ニ理論上ノ順序ヲ踏ミ憲法ヲ發シテ後遽カニ上院ノ組織ヲ改メントスル如キハ甚タ難事ナレハ寧ロ今日成文ノ憲法ナキ時ニ於テ恰モ成文憲法アルカ如クニ看做シ豫メ其組織ヲ

釐正スルコソ策ノ得タルモノト信ス本官ノ持論ハ能ク起草者ノ精神ト符合スルヲ以テ之ニ贊同ス可キ筈ナレモ只章程第七條ノ在ル有ルヲ如何セン起草者ニ望ム本案ヲ以テ其目的ヲ達セントスルハ頗ル危キヲ以テ一旦議場ヲ引キ退キ更ニ同意者ト議リ議官ノ資格ヲ以テ直接ニ當局者ニ談論スルノ捷徑ヲ取ランコヲ若シ然ラハ數ナラヌ本官ト雖モ亦誓テ其驥尾ニ躡シテ力ヲ盡サントス本官ハ斯ル深切ナル意見書ヲ無氣ニ議場ヨリ追拂フヲ吝ムノ衷情ヨリ聊カ意見ノ有ル所ヲ陳ヘテ發議者ニ告ク

○議長 發議未タ盡キサレモ將ニ正午ニ垂ントスレハ一應散會シテ午後續會ヲ開カン
午前第十一時五十七分閉場

午後ノ會議ヲ七日ニ延會ス

○明治二十年十月七日 第一讀會 十月五日續

議長 東久世 通暉
出席議員

- | | | | |
|----|-------|----|-------|
| 二番 | 清岡 公張 | 六番 | 宮本 小一 |
| 三番 | 永山 盛輝 | 七番 | 穴戸 璣 |
| 四番 | 石井 忠亮 | 八番 | 楠本 正隆 |

- | | | | |
|------|-------|------|-------|
| 九番 | 榎村 正直 | 三十六番 | 安藤 則命 |
| 十番 | 大給 恒 | 三十八番 | 細川潤次郎 |
| 十一番 | 箕作 麟祥 | 三十九番 | 村田 保 |
| 十三番 | 伊集院兼寛 | 四十一番 | 長岡 護美 |
| 十五番 | 大久保一翁 | 四十三番 | 田邊 太一 |
| 十六番 | 伊東 祐啓 | 四十四番 | 坂本 政均 |
| 十七番 | 壬生 基修 | 四十六番 | 橋口 兼三 |
| 二十番 | 岩村 定高 | 四十七番 | 野村 素介 |
| 二十一番 | 税所 篤 | 四十八番 | 鳥尾小彌太 |
| 二十二番 | 中村 正直 | 四十九番 | 神田 孝平 |
| 二十四番 | 大迫 貞清 | 五十番 | 三浦 安 |
| 二十五番 | 中島 錫胤 | 五十二番 | 由利 公正 |
| 二十六番 | 河田 景與 | 五十三番 | 福羽 美静 |
| 二十七番 | 尾崎 三良 | 五十四番 | 加藤 弘之 |
| 二十八番 | 原田 一道 | 五十五番 | 調所 廣丈 |
| 三十番 | 本田 親雄 | 五十六番 | 林 友幸 |
| 三十一番 | 長谷部辰連 | 五十七番 | 神山 郡廉 |
| 三十五番 | 津田 眞道 | 五十八番 | 鍋島 直彬 |

五十九番	長松 幹	六十六番	鶴田 皓
六十一番	楫取 素彦	六十八番	岡内 重俊
六十二番	渡 正元	六十九番	上杉 茂憲
六十三番	渡邊 驥	七十一番	何 禮之
六十五番	西 周		

午前第九時三十分開場

○議長 本日ハ號外第四十二號第一讀會續キ會ヲ開ク

○四十三番^{田邊} 本官ハ此意見書ノ大体ヲ賛成ス各官ニ於テモ亦然ラン但下ノ三ヶ條中第二條ニハ少シク意見アリ第二讀會ニ至レハ修正說ヲ提出セント欲ス又本官ハ初メ本案ノ本院章程第七條ニ適スルヤ否ヤヲ疑ヒシモ熟考ノ後本案ニ於テハ其適否ヲ論スルヲ要セス畢竟章程ノ性質ハ法律ナリヤ否ヤニ關係スルヲ以テ各官見解ヲ異ニスルニ至リシナランモ各省ノ章程ハ皆其省ニ於テ立案シ勅裁ヲ經ルヲ以テ例トスレハ本院ノ章程ノ如キモ亦本院ニ於テ立案ノ上、奏上シテ勅裁ヲ仰クヲ以テ當然トス故ニ本案ハ斷然意見書トシテ奏上スルヲ可トス只其文章ハ提出者ノ言フ如ク修正ヲ加フルヲ望ムナリ

○二十七番^{尾崎} 本官ハ本案ノ大意ヲ賛成ス然ルニ之ヲ上奏スルニハ文意ノ妥穩ナラサル所アリト考フレハ全部付託修正委員ヲ置キ之ヲ修正センコトヲ欲ス本官ノ意ハ今日ノ政体ニ於テ元老院ノ章程ハ必ス此ノ如クセサル可ラスト云ヘル點ヨリ論ヲ立ツルヲ望ム

△既ニ一昨十八年參事院ヲ廢シ隨テ内閣ノ組織ヲ變革セシ上ハ立法官ノ組織モ亦之ヲ變改シ立法權ヲ確定シテ偏重偏輕ノ憂ナカラシムルヲ期ス可シ此事ハ本官參事院ヨリ本院ニ轉任セシニ當リ既ニ其意見ヲ同列諸君ニモ談話セシ所ナリ抑モ十八年ニ太政官ヲ内閣ト爲シ參議及卿ヲ大臣ト改メ西洋立憲國ノ組織ニ倣ヒ責任大臣ノ制ヲ立テタル所以ハ即チ二十三年國會ノ準備ナルノミ然レハ二十三年迄ニハ立法權モ必ス立憲國同一ニ行政權ト並立スルニ至ル可キモ凡ソ事ハ漸ヲ以テ歩ヲ運フヲ要スレハ今ヨリ之レカ豫備ヲ爲サ、ル可ラス本官ノ豫想ヲ以テスレハ二十三年ニハ上下兩院ヲ置クナル可シ而シテ今ノ元老院ハ其上院トナル可キナレハ其組織ハ漸次改良ヲ加ヘ立法ノ權ヲ擴張セサルヲ得ス然ルニ現今ノ如ク本院權限ハ漸ク狹隘ト爲レルハ本官ノ尤モ遺憾トスル所ナリ二十三年ニ國會ヲ開設シ各地方ノ人物此ニ集會スルニ至レハ事ノ艸創ナルヲ以テ恐クハ頗ル混雜ヲ極ムラン故ニ今ヨリシテ本院ノ組織ヲ改良シ立法部ノ立法部タル体制ヲ確立セシメハ二十三年民撰議院ノ創設ニ際シ例ヲ元老院ニ取ルヲ得ルノミナラス或ハ民選議院ノ激進ヲ矯制スルヲ得ン是レ一ハ本院ノ權限ヲ確定シ一ハ二十三年國會開設上ニ便宜ヲ與フルナリ然ルニ本案ニ對シテハ賛成者中ニモ下ノ三ヶ條中ニ於テハ往々異論アリ就中第二項ニ掲クル再議ニ付シタル後猶非決スルトキハ廢案ト爲ス如キハ畏クモ陛下ノ權ヲ減殺スルモノナリト云ヘリ然ルニ本項ノ如キ此案ニ取リテハ尤モ重要ニシテ立憲政体ヲ立ツル以上ハ固ヨリ人民ニ權利ヲ分與スルヲ以テ陛下ノ權ハ幾分カ減セサルヲ得ス若シ之ヲ嫌忌セハ立憲政体ヲ立テサルニ如カス又本官ノ

提出セシ號外第四十一號ノ意見書ノ法律部内ニ入ル可ラサルヲ以テ本院章程ニ抵觸ス
ト云ハ、本案モ亦然ラン然ルニ一昨年來法律ノ名ヲ以テ本院ニ下付アリシモノハ登記
法ト公證人規則トノミ他ハ皆勅令ナリ要スルニ一般人民ノ身体財產ニ關スル者ハ法律
ニシテ他ハ勅令ナリト雖昨一昨年ノ改革後ハ法律モ勅令中ニ入り別ニ區畫ヲ設ケサル
ニ似タレハ本案ハ法律ニ非ル故ニ本院ニ於テ議ス可ラストハ言フヲ得ス又元老院ハ新
法制定及改正ヨリ外ニハ手ヲ出ス能ハスト云フモ嘗テ本院ヨリ布告式ヲ改ムル意見書
ヲ上奏セシニ當時參事院ハ不當ト爲シテ之ヲ却下セサリシナリ今其意見書ヲ朗讀セン
(謹テ按スルニ從來立法ノ官未ダ立タスシテ而シテ指シテ以テ法律トスヘキ者又未ダ
明白ナラス曩ニ本院ノ設アリテ立法ノ事務ヲ擔保セリ爾來布告スル所、者本院ノ議定
ヲ經ル者ハ固リ立法權内ニ在ル者ニシテ其檢視ヲ經ル者モ亦立法權ノ干預スル者ニ非
サルコナシ此ノ如キ者ト其他ノ布告布達トノ區別ヲ明ニセスハ本院立法ノ權限ニ於
テ明ナラサル所アリテ人民モ亦將ニ其法律タルト否サルトニ於テ疑フ所アラントス故
ニ冀クハ從來ノ布告文例ヲ改メ明ニ本院ノ干預スル所ヲ示シ以テ法律ノ明義ヲ掲ケ本
院ノ權限ヲ定メ且以テ人民法律ヲ遵守スルノ念ヲ固フセンコトヲ又按スルニ外國ノ制布
告ニハ必ス其事ニ關スル大臣ノ加印アリテ以テ其責任ヲ示ス今請フ此制ヲ斟酌シテ法
律及其他ノ布告ニモ必奉勅大臣ト奉行ノ卿トノ名印ヲ加ヘ以テ體裁ヲ全フセン謹テ裁
可ヲ乞フ)此意見書タル法律ノ改正トハ稱ス可ラス是レ只一面ハ元老院ノ地位ヲ確立
シ一面ハ大臣ノ責任ヲ固定ス可シト云フニ在リ而シテ之ヲ一般人民ニ布告スルノ意思

ナリシヤ否ヤハ判然セサリシモ要スルニ布告式ヲ法律ト爲ス可シト云ヘル意ナリ然レ
ハ元來法律ト認メサル者ヲ法律ト爲ス可シト云フハ決シテ第七條ニ抵觸スルコト無カ
ラン且元老院ノ章程ハ憲法制定ノ後ハ法律ト爲ス可キモノナレハ寧ロ本案ヲ修正シ本
院章程ハ之ヲ法律ト爲シ以テ權限ヲ定ム可シト云ヘル文面ト爲シテ可ナリ又一方ヨリ
之ヲ言ヘハ本案ハ本院自己ノ職掌ニ關スル意見書ナレハ強テ第七條ヲ願ルニ及ハサル
可シ何トナレハ諸省ノ如キ皆其權限事務ヲ擴張セントスルトキハ其案ヲ具シテ奏請ス
ルヲ得ルニ獨リ元老院ノミ然スルヲ得サル道理ナケレハナリ尤モ諸省ハ行政官ナレハ
卿一人ノ意見ヲ以テ奏請スルモ元老院ハ集合体ナレハ議長一人ヲ以テセス各議官合同
シテ意見書ヲ奏上スルヲ至當トス是レ其組織上然ラサルヲ得サルナリ或ハ多數決ヲ以
テ之ヲ奏上スルハ事ニ於テ妥穩ナラスト言フモ此等ハ掛念スルヲ要セス故ニ本案ハ調
査委員ニ付シ十分ニ調査スルヲ望ム

出席

三十三番

津田

出

四十五番

時任

爲基

○四十六番橋口 本案ニハ先會ニ二番議官ノ反對說アリシカ本官モ之レト同意ニシテ本
院ノ章程ニ當ラサル者ト認定ス二十七番ハ本院自己ノ規則ヲ改修スルナレハ強テ章程
ヲ願ルニ及ハスト云フモ之ヲ上奏スルニハ必ス章程ニ依ラサル可ラス元來本官ハ滿腔
ニ元老院ノ職權ヲ擴張セント欲スルノ意ヲ蓄フルモ奈何セン事ヲ爲スニハ順序アリ徒
ヲニ理論ニ馳セテ順序ヲ踐マサルハ少年血氣者ノ所爲ナリ且本官ハ現今ノ章程ヲ以テ

我邦今日ノ情況ニ適合セルモノト信ス何トナレハ我邦ノ景況ハ外面ヨリ之ヲ望メハ殆ト歐米各國ニ比ス可キカ如クナルモ進テ内部ヲ顧ミレハ國家必要ノ五法ノ如キモ猶ホ未タ具備スルニ至ラサルヲ以テ獨リ本院ノ職權ノミヲ改修スルトモ其實際上ニ益アルハ保證シ難クハナリ彼ノ檢視ノ如キモ本院ノ權限ヲ擴張スル意ヨリ之ヲ言ヘハ固ヨリ廢止セサルヲ得ス然レモ今日ノ景況亦之ヲ奈何スル能ハス後來諸法律全備シテ他ヨリ刺衝セラル、ニ至レハ本院ノ職權モ自然擴張スルニ至ルヘシ且ヤ檢視ノ性質ヲ熟考スレハ單ニ之ヲ通覽セヨト云フニ非ルヲ以テ不明不備ナル箇所アレハ意見書ヲ以テ之カ改正ヲ請フヲ得可ケレハ左マテ輕視ス可キニ非スト信ス今日立法ノ事ハ之ヲ内閣大臣ニ委シ議案ノ全備セルモノヲ本院ノ議定ニ付スルコトハ時勢ニ適當シ萬機公論ニ決スルノ時機ニハ未タ達セス故ニ若シ新法ヲ制定スルニ關スル意見書ヲ出サントナレハ必ス第七條ニ照ラシ内閣ニ於テ一點ノ非難ス可キナキ様ニス可シ然ルニ第七條ニ適當セサルモノヲ出サハ到底内閣ノ受理スル所トナラサルハ明カナリ或ハ第七條ニ適當セル法案ト爲シ之ヲ提出スルモ内閣ニ於テ之ヲ必要トスルノ時機ニ非ラスト見ハ只其儘ニ置クノミナリ但適當ナル意見書ナレハ賢明ナル政府ハ決シテ之ヲ措テ顧ミサルコトナカラシム要スルニ今日ノ時運ニ於テハ現章程ヲ以テ適當ナルヘシ且時運ノ充分ニ達セサル間ハ行政部ニ大器量ヲ有スル二三ノ人アリテ法案ヲ編制セハ實際ハ却テ能ク時勢ニ適當スルモ知ルヘカラス故ニ本案ノ儘多數決ヲ以テ上奏スルニハ到底同意ヲ表スル能ハス

○十一番^{議作} 本案ノ大体ヲ賛成ス其理由ヲ述フルニ當リ先ツ本案ノ章程ニ適スルヤ否ヤヲ以テ初メトセン某官ハ本院自己ノ職制ナレハ章程ヲ顧ミスシテ可ナリト云フモ本官賛成ノ意ハ然ラス願フニ現今ハ公布ニ法律ト勅令トノ二種アリ法律ノ名稱ヲ以テ發布アリシ者ハ登記法公證人規則ノ二ツノミニシテ餘ハ皆勅令ナルモ其勅令中法律ト爲ス可キ者之レアリ決シテ前ノ二法律ノミニ非ス一昨年ノ改革前ハ布告布達ノ區別アリ布告ハ法律ニ係リ布達ハ行政部内ノ者ニシテ法律ニ非ス故ニ布達ハ本院ニ下付アリシコトナキモ苟モ布告ニ係ル者ハ必ス議定又ハ檢視トシテ本院ニ下付セラレサルコトナカリシナリサレハ本院章程第七條ノ法律ヲ制定改正スルト云ヘルコトハ改革前ノ例ニ依レハ即チ舊布告ヲ改正シ新布告ヲ制定スルノ權アルヲ云フナリ今日ノ勅令法律二者ハ即チ從前ノ布告ノ如ク解釋ヲ下シテ可ナラン何トナレハ今日迄本院ニ下付アリシモノハ前ニ述フルニ法律ヲ除クノ外皆勅令ナレハナリ只怪ム所ハ勅令ハ同一ノ者ニシテ彼此輕重ナカル可キニ中學校令ノ如キ諸省ノ職制ノ如キハ勅令ナルモ本院ニ下付セラレス是レ何等カ別ニ理由ノ存スルナラン今日ノ場合ニテハ其本院ニ下付アルト否ラサルトヲ問ハス現今ノ勅令ハ從前ノ布告閣令省令ハ從前ノ布達ト看做シテ可ナリ以上論シ來レハ已ニ元老院ノ章程ヲ改ムルモ勅令ヲ以テ發布セルヲ以テ章程中新法舊法云々ノ中ニ入ル可キコト益明カナリ但此意見書ノ文章ノ如キハ韓柳ニモ讓ラサル名文ナル可キモ言ヲ盡サント欲シテ却テ無要ノ文字ヲ使用セリ無用ノ文字ハ宜シク之ヲ削ルヘシ又下ノ三項中第二ニ檢視ヲ廢スルコト再議ニ於テ非決スルトキハ之ヲ施行スルヲ得ス

ト掲ケシハ元老院ニ於テ天下ノ權ヲ全有シタルモノニシテ進取ニ過クルニ似タレハ只再議ニ付スルニ止ムルヲ可トス又他項中元老院議官ノ身分ヲ明カニストハ何事ナルヤ了解ニ苦ムナリ今日タリトモ身分ハ既ニ明カナルニ非スヤ故ニ本案ノ大体ハ第七條ニ適スルトスルモ意見書ノ文章ト末ノ項中ニハ不同意ナル所アレハ大ニ修正アラシコトヲ欲ス因テ全部付託調査委員ヲ置クノ建議ヲ贊成ス

○十番 大給 本官ハ前會ニハ欽席セシカ今日ハ各官ノ所論ヲ聞キ又自ラ熟考スル所アリテ本案ノ大体ハ之ヲ可トスルモ多少異見ヲ抱ケリ意見書ノ前文ハ毫モ顧慮スル所ナク意言ハント欲スル所ヲ盡シ所謂朝ニ諤々ノ聲アル者ニシテ尤モ欣賀ス可ク且其筆ノ縱横ニシテ窘束ノ態ナキハ尤モ感服スル所ナリ然レ其文章或ハ冗長ニ失セルニ似タリ但起草者ノ意ハ此ノ如ク十分ニ論陳セサレハ本案ノ主意ヲ貫ク能ハストスルヤハ知ラサルモ本官ハ今少シク簡短ナルモ意ヲ達スルヲ得可シト信スルナリ又後ノ三項ヲ熟考スルニ本院ノ章程中只一部ノ改良ニ過キス起草者ノ意ハ二十三年國會設立ノ場合ニモ今日ノ元老院ノ章程ニ只此三項ヲ加フルノミニシテ足レリトスルヤ本官ハ尙ホ不足ヲ感スルナリ二十三年ニハ元老院ヲ上院ト爲スヤ又ハ元老院ノ名稱ヲ存スルヤハ知ラサルモ何レニセヨ必ス上下院ノ權限ヲ定メ之ヲシテ並立セシメサル可ラス現今ノ元老院章程ニ就テ一二ノ改正ヲ爲ストモ只當分ノ事ナレハ其一二姑息ノ事ヲ爲サンヨリハ寧ロ十分ノ改良ヲ爲サンヲ欲ス之ヲ爲スニハ眼ヲ憲法ニ注カサル可カラス而ルニ號外第四十一號ノ意見書ハ憲法ノ下付ヲ欲スルニ在レハ本官ハ先日之ニ向テ贊成ヲ表シタ

リ若シ四十一號ノ意見書ニシテ成立セハ固ヨリ立法上ニ就テ十分ニ改良スルノ便宜ヲ得ルヲ以テ此意見書ヲ要セサルニ似タレ起草者ノ意ニ於テ本案ハ二十三年ノ準備ニハ不足ナルモ眞成ノ立憲政体ヲ立ル迄姑息ナカラモ此ノ如クセサル可ラストセハ本官ハ敢テ之ヲ不可ト爲サス但某官モ言フ如ク三項ノ中一項ハ意義甚安穩ナラス若シ歐洲各國ニ的例アラハ或ハ之ヲ取ル可キモ某官ハ未タ其例ヲ見スト言ヒタレハ愈此一項ニハ同意シ能ハサルナリ又奏上文ニモ妥穩ナラサル所アリト認ムレハ之レニモ修正ヲ加ヘ繁ヲ削リ簡ニ就キ其要點ニ止メンコトヲ欲ス以上述フル如キ意見ヲ抱クヲ以テ議長ヨリ調査委員ヲ置クノ決ヲ取ラハ之ニ同意ヲ表セント欲スルモ此儘ニテハ贊成スルヲ得サルナリ

○五十八番 直島 各官モ言ヘル如ク本官モ此意見書ヲ一讀シテ實ニ痛切激昂ノ大文章ナリト思考セリ此ノ如キ大文章ハ起草者カ時運ト政体ノ上ニ就キ大ニ感スル所アリテ滿腔ノ誠心ヲ吐露シタルモノナラント信ス或ハ文意ノ痛激ニ過キ議場ニ提出スルニハ妥穩ナラスト言フ者アルモ意見書ノ文章ニ於テ別ニ制度ナキ以上ハ十分ニ言ヲ盡スモ妨ケナカル可シ願フニ元老院ノ權限ハ今日ノ景況ニテ二十三年ニ至ルマテ此儘ニ經過シ立憲政体ノ確立スルノ際俄カニ上院ノ職權ヲ實行スルノ難キハ多數議官ノ認識スル所ナラン明治八年四月十四日ノ聖詔ニモ漸次ニ國家立憲ノ政體ヲ立テ汝衆庶ト俱ニ其慶ニ賴ラント欲ストアリ此聖詔ニ依テ考フレハ我邦ノ國會ハ上下院ヲ置クニ相違ナシ但今ノ元老院ヲ上院ノ地位ニ置クヤ否ヤハ判然ナラサルモ立憲政体ヲ創ムル爲メニ

元老院ヲ置クノ聖意ニ基ケハ元老院ヲ以テ上院ノ基礎トスルハ確信ス可キナリ然ルニ二十三年ハ最早二年ノ後ニ迫ルノミナラス二十二年ニ於テハ撰舉法ヲ初メ其他行政立法ニ關スル諸般ノ事項ハ悉ク之ヲ準備シ國會開設ノ際ニ狼狽失措ナキヲ期セサル可ラス此ノ如ク論シ來レハ餘マス所ハ只明年一ケ年間ナルノミ斯ノ時期切迫ノ場合ニ於テ本院ヲ上院ニ當ルノ準備ヲ爲サント欲セハ今ヨリ十分ノ準備ヲ爲ス可シ其準備ハ本院章程ニ改良ヲ加ヘ上院ノ精神ト功カト有セシムルニ如カス若シ否ラスシテ上下二院アルモ上院ハ毫モ功カナク一院アルト同一ナル如キハ本官ノ甚欲セサル所ナリ然ルニ本案中後ノ三項ハ單簡ニ過キテ解ス可ラサルモノアリ故ニ發議者贊成者ノ本案ニ就キ希望スルノ點ヲ質問セン即チ之ヲ内閣ニ提出シテ勸告スルノミニシテ足レリトスルヤ或ハ之ヲ奏上シテ此案ノ本院ニ下付アルマテノ期望ナルヤ此點ノ確然タルヲ俟テ然後章程ニ適スルヤ否ヤヲ論セント欲ス

○二十二番 中村正道 本官ハ立法ノ事ニ暗シト雖モ起草者贊成者共ニ法律ニ明カナル人々ナレハ本官ニ於テハ第七條ニ抵觸スルヤ否ヤノ疑ヲ存セサルモ若シ此意見書ヲ以テ章程ニ抵觸ストセハ本院ノ章程ヲ改修スルニハ何如ノ手段ヲ施セハ可ナルヤ先日モ言フ如ク職ヲ本院ニ奉スル者自ラ進取スルニ非レハ誰カ之ヲ爲ス者アラン或ハ此意見書ヲ以テ激烈ニ過クト云フモ平清盛ノ如キ專横忌憚ナキ所爲トハ同シカラス且主意ニシテ取ル可クハ文章ハ修正スルモ可ナレハ成ル可ク本案ノ行ハルヲ望ム

○三十九番 保村田 本官ハ贊成ト否トヲ述フルノ前ニ起草者ニ質問セン此意見書中ニ目今

ノ元老院ハ啻ニ立法ノ權ナキノミナラス議法人ノ權モ亦之レナク七十有餘人ノ議官カ國家多事ノ際口ヲ緘シ手ヲ袖ニシ坐シテ命運ヲ俟ツハ遺憾ナリト云ヘルハ固ニ理ナキニ非サレトモ本案ヲ内閣ニ提出スルノ後内閣之ヲ採用セスシテ却下スルトキハ議官タルモノハ之ニ對シテ何如スルヤ尙ホ一身ヲ犠牲ニ供シ飽クマテ其精神ヲ貫カントスルヤ若シ默シテ退クトキハ何ノ功益モナク元老院ハ依然舊觀ヲ改ムル能ハス英國ノ議院ノ如キハ内閣ニ意見書ヲ提出シ採用セラレサルハ遂ニ君主ニ要求シ内閣ヲ變革スルノ權アリテ其結局ノ處置ハ自ラ明瞭ナリ然ルニ本院ノ議官ハ之レト異ニシテ諸事皆政府ノ命スル所ノ儘ナリ此ノ如キ場合ニ此ノ如キ意見書ヲ出シ政府之ニ應セサレハ甚殘念ナル次第ニ非スヤ又號外四十一號即チ憲法ノ下付ヲ請フ意見書ノ如キハ内閣之ヲ承認セサルモ別ニ本院ノ体面ニ關スルコトナキモ此案ノ如キハ然ラス本院ヨリ此案ヲ内閣ニ提出シ内閣之ヲ承認セサレハ直ニ陛下ニ訴願スルヤ起草者ノ決心ハ何如

- 四十八番 鳥尾小彌太 三十九番ノ言ハ重複ナリ
- 議長 三十九番ノ發言ヲ止ムルヤ
- 四十八番 鳥尾小彌太 別ニ之ヲ止ムルニ非ルモ三十九番ノ重複ヲ避ケテ陳述センヲ欲ス
- 三十九番 保村田 本官ノ言ハ決シテ無要重複ニ非ス之ヲ要スルニ我輩議官タルモノ此案ヲ内閣ニ提出シタルトキ内閣之ヲ採用セサルトキハ職ヲ去ル迄ニ至ルヤ將タ之ヲ政府ノ參考ニ供スルノミニテ採否何如ニ關セサルヤ問フナリ
- 四十八番 鳥尾小彌太 三十九番ノ質問ハ甚答辯ニ苦ムナリ成程歐洲各國ノ議員ノ如キハ政

府ニ向テ意見書ヲ提出シ行ハレサレハ職ヲ去ルヲ常トスト云フモ必スシモ其例ニ倣フニ及ハス此案ヲ提出シテ採用ナキトキハ何如スルト人ノ内實ヲ探ル如キ質問ハ人間ノ言フ可キコトニ非ス因テ此ノ如キ質問ハ以來斷然謝絶スルナリ五十八番ノ質問ハ若シ此意見書ノ議場ニ成立スルトキハ之ヲ修正シテ政府ノ參考ニ供スルノ意ナルヤ何如ト云ヘルニ似タリ此レハ適當ナル質問ト思ヘハ之ニ答辯セント欲スルモ聊カ不明ノ廉アレハ今一應質問者ノ陳述アルヲ欲ス

○五十八番 直島 本官ノ問フ所ハ即チ只之ヲ内閣ニ勸告スルニ止ムルヤ又ハ之ヲ議案ト爲シテ下付スルニ至ル迄ヲ望ムカト云フニアリ

○四十八番 尾小 此事ハ今日政府ニ於テ明斷スルヤ否ヤハ之ヲ知ル能ハス本官ハ本案ヲ議案ト爲シテ下付アルヲ望ムモ若シ政府ニ於テ法律ト爲シ元老院ニ下付ス可キモノニ非スト爲セハ強テ之ヲ爭フヲ得ス五十八番之ヲ領セヨ倍又章程第七條ニ此意見書ノ適スルト否トニ就テハ必ス明文ニ據ラサル可ラス何トナレハ若シ人ノ意思ニ依テ之カ定義ヲ立テ其人死歿シ其意思ヲ繼續スルモノナキトキハ後人各見解ヲ異ニスルニ至ルヘケレハナリ故ニ内閣ニ於テハ必ス之ニ就テ一定ノ規則アラシ只内閣大臣ノ意思ニテ此ノ如ク見解ヲ下スト云フ如キ不明瞭ノ事ハナカル可シ然ルニ是レ亦想像上ノ談話ニシテ内閣ノ所見何如ヲ斷定スル能ハス因テ章程第七條ニ就テハ本官ノ所見ヲ十分ニ開陳シ其抵觸ナキヲ明サン若シ本案ノ体裁ニシテ章程第七條ニ觸レ本院ノ意見ト爲シテ提出スルヲ得サルナラハ其得失是非ヲ論スルモ何等ノ益モナケレハ此議場ニ於テハ先

ツ本案ノ章程ニ適スルヤ否ヤヲ論ス可シ然ラスシテ事柄ノ可否ヲ論スルハ門ニ入ラスシテ直ニ堂ニ上ルニ異ナラス然ルニ第七條ニ適スルヤ否ノ分界ノ不明ナル今日ニ於テハ何如シテ當否ヲ定ム可キヤ特別ノ法律ノ其區分ヲ解釋ス可キモノナキトキハ學理及事實上ニ就テ之ヲ斷定セサル可ラス故ニ本案ノ如キ先ツ學理ニ依テ其性質ヲ調査セントスルモ本官ハ元來身軍職ニ在リ法律ニハ精通セサルモ聊カ之ヲ歐洲ノ例ニ徵スルニ本案ハ決シテ第七條ニ抵觸スルコトナシト斷定ス或ハ歐洲ハ然ランモ日本ハ自ラ日本ノ流義アリト論スルモノアラシモ單ニ流義ト稱スルノミニテハ未タ衆人ニ向テ之ヲ證明スルノカナシ若シ又流義ハ現任内閣大臣ノ意中ニ在リト云フモノアラハ是レ自ラ本院ノ議權ヲ破壞スルモノナリ決シテ此ノ如キ模糊タル說ヲ以テ第七條ヲ左右スルヲ得ス因テ既ニ言ヘル如ク學理上抵觸スルナシトスルヨリ他ノ方法ナシ而シテ學理ニ次テ解釋ニ力ヲ與フル者ハ先規前例是レナリ故ニ本官ハ此ニ就テモ種々ノ調査ヲ爲シタルモ尙ホ判然タラス然ルニ獨リ明治十六年六月二十八日太政大臣ヨリ本院ヘノ通牒文ハ大ニ證明ノ力ヲ有セリ其通牒文ニ依レハ布告ハ必ス元老院ノ議ニ付スル者トシ其中性質專ラ行政權内ニ屬スル者例ヘハ宣戰講和締約等ノ如キハ元老院ノ議ニ付セサルモノトセリ但其條項中各省ノ廢置勳爵制度ハ行政權ニ屬スルモノノ如クアルモ此レ甚疑フヘシ則チ正面ニ此條項ヲ解釋スレハ天下ノ事物ハ悉ク行政權内ニ屬セサルナキニ至ラン何トナレハ此條項ニ示スカ如クナレハ全政府ニ向テ廢置ヲ施スニ當リテモ猶ホ行政權ニ屬スト謂フヘケレハナリ又勳爵制度トアリテ勳爵ノ制度ト讀ムニアラスシテ勳爵ト

制度ト分讀スルナランモ單ニ制度ト云ヘハ立憲制ノ如キ共和制ノ如キ皆制度ノ内ニ入ル可キモノニシテ天下何事カ制度ナラサラン此ヲシモ同シク行政權ニ屬ストセハ政府ハ自ラ政府ヲ廢置スルコトモ亦成シ得サルナク行政權ハ無上ノ權力アリト謂フ可シ是レ本官ノ疑ヒナキヲ得サル所ナリ願フニ行政權トハ元來司法立法ノ二權ニ對スルノ言詞ナレハ此ノ如キ無限ノ權力ヲ有スルモノニ非ス然レハ通牒文ニ示セル制度トハ服務規律ノ類ヲ指スヤ知ルヘシ今日政府ニ於テハ官省ノ廢置及制度ノ上ニ就テ自ラ立法行政上ノ分界ノ確定セルモノアラン若シ此制度ナル文字アルニヨリ權力ヲ亂用スル如キアラハ是レ無法ナル政府ノミ何ソ立憲ヲ望マン今日ノ政府ハ決シテ此ノ如クナラサルヲ信ス恐クハ此制度ノ文字ハ一時使用シテ深ク考ヘス又元老院ニ於テモ論究セスシテ看過セシナラン然レハ服務規律ノ如キ者ヲ除ク外事ノ法律ニ關スル者ハ皆元老院ニ下付ス可キモノトス因テ又本院章程ノ如キ類ハ法律ナリヤ否ヤヲ確定セン爲メ其類ヲ調査セシニ明治九年ニ司法警察假規則并糾問判事ノ職務假規則ヲ本院ノ檢視ニ付セラレタルコトアリ是レ職務章程モ亦法律ト見做ス可キノ一證ナリ又明治十六年ニ山縣參議ヨリ元老院ニ差廻セシ布告區分ノ明解書アリ是レ前ノ太政大臣ノ通牒ニ係ル者ニ向テ詳細ノ分解ヲ附シタルモノナリ其別紙ニ「布告中議定ニ付セラレサル者有之旨太政大臣ヨリ通牒被及候付テハ布告區分之儀追テ調査爲致候得共先以前年取調有之候別紙爲御參考差廻候此段申入度如斯候也」トアリ此文面ニ依レハ太政大臣ヨリ法律ノ分解ニ就テハ既ニ元老院ヘ達シタルモ猶ホ其分解ノ明瞭ナラン爲メ山縣參議ヨリ更ニ此書面ヲ本

院ヘ差廻シタルモノニテ其差廻シタルハ十六年ナルモ其調査ハ十二年ニ在リ其明解書ニハ各參議ノ捺印アリ先ツ例規中ノ確實ナルモノナラン此ニ依レハ凡ソ元老院ノ議ヲ經ルモノト云ヘル中ニ裁判ノ章程ヲ載セタリ是レ章程ヲ法律ト認メタルナラン然レモ法律ハ一般人民ニ知ラシム可キ者ナリ否ラサレハ法律ト爲ス能ハストハ甚無理ナル説ト謂フ可シ若シ廣ク人民ニ知ラシムル者ヲ以テ法律ト爲スナラハ行政官ノ章程モ亦然ラント謂フヲ得ヘシ該明解書ニハ司法官ノ章程ハ本院ニ於テ議ス可キモノト爲セルモ別ニ立法官ノコトナキヲ以テ過日來ノ紛論ヲ生セシナリ但當時ノ明解書ハ佛蘭西ノ例ニ依テ調査セシモノナレハ今日ハ諸事多ク獨逸ニ倣フヲ以テ或ハ前規ト異ナルヤヲ知ラス然ルニ其例規ニ拘ハラス尤モ明證トスヘキハ明治八年本院創立ノ際章程ヲ定メラレ爾後之カ改正案ヲ本院ニ於テ議セシコトアリ當時本官ハ職ヲ本院ニ奉シ實ニ其議事ニ與レリ今日ノ議官中續テ職ヲ奉セシ者ハ皆之ヲ知レルノミナラス本院ノ記録書ニハ必ス明載アル可シト信ス是レ立法官ノ章程ハ法律ト見做スヲ以テナリ若シ之ヲ疑フ者アラハ請フ本院ノ記録ニ就テ之ヲ徵センヲ又此案ノ如キハ重モニ立法權ニ關シ章程ヲ改正セサレハ立法官タルノ目的ヲ達スル能ハス故ニ此ニ及ヒシナリ且ヤ本院ノ立法官タルハ分明ニシテ明治八年ニ其基本ヲ置キ今日ニ至ルマテ十三年ヲ經其立法官ノ性質ヲ充分ニ發育セサリシハ恰モ雞卵ノ其形ヲ存シテ未タ晨ヲ爲スノ雞ト爲ラサルモ其性質ハ雞タルヲ失ハサルナリ即チ此意見書タル單ニ元老院ノ章程ヲ改正スルノミニ非ス立法權ヲ鞏固ナラシムルノ精神ナルハ各官ノ領會スル所ナラン然レトモ各官若シ元老院

ノ章程ハ法律ニ非ス行政官ノ服務規則ト同一ナリトセハ之ヲ改正スルトモ毫モ功益ヲ見サルモ恐クハ本院ノ章程ヲ以テ司法官ノ章程ヨリ劣レルモノトハ見做サ、ラン況ヤ司法官ニ關スル裁判所ノ章程ハ已ニ本院ニ於テ議セルヲヤ然レハ則チ本院章程ノ行政官ノ服務規律ト其性質ヲ異ニスルコトハ自ラ明瞭ニシテ若シ否ラストセハ元老院ナル者ハ行政官トモ立法官トモ名稱ノ下ス可キナカラシメテ不完全ナルハ猶恕ス可キモ其性質ヲ失フニ至テハ實ニ忽視ス可ラサルナリ此ノ如ク論シ來レハ天皇陛下ノ裁可シタマフ所ノ者ヲ不全備ナリト言フニ似タルモ決シテ然ルニ非ス畢竟自己ノ意見ヲ明瞭ナラシメン爲メニ言ノ此ニ及ヒシナリ本官ハ内閣大臣ノ意中何如ハ知ラサルモ例規ニ照スモ元老院章程ノ法律タルハ疑ヲ容レス即チ此意見書ノ如キ之ヲ事實ニ徵スルモ學理ニ徵スルモ其分界ハ明瞭ナリ然ルニ十六年ニ山縣參議ノ通牒ニ據レハ裁判官ノ章程其他ノ司法權ニ關係シタル章程ハ皆法律ト爲シ元老院ノ議ヲ經ヘキ筈ナルニ爾來該章程ニ多少改革アリシモ議定檢視共ニ本院ニ下付セラレス司法官ノ章程ノ如キハ固ヨリ下付アルヲ以テ當然トスルモ其然ラサルハ内閣都合アリテ之ヲ專斷セシヨ本院ニ於テモ其儘看過シ去リシモノナラン要スルニ第七條ハ固ヨリ本案ヲ拒マス章程ハ法律ト見做ス可キハ言ヲ俟タス且本院ノ章程中第七條ハ尤重要ニシテ本案ノ如キモ之ニ依テ以テ提出スルコトヲ得ルナリ畢竟本案ハ立法權ヲ確定スル意見書ナレハ等閑ニ看ル可キニ非ス嘗テ本院ヨリ内閣ニ提出セシ布告式ヲ定ムル意見書ハ其望ム所元老院ノ議定ヲ經サルモノハ布告セシメサルノ巧妙手段ニ在リシモ内閣之ヲ採用セサリシハ已ムヲ得ス然レ

本院ノ權利ニ關シテ幾回ナリトモ手段ヲ盡スハ我々議官タル者至當ノ職分ナリ然ルニ某議官ハ本案ヲ内閣ニ提出スルモ採用セサルコト分明ナレハ勞シテ功無ナカラント云ヘルモ是レ孟子ノ所謂謂其君不能者賊其君者ニシテ不深切ノ甚シキモノナリ苟モ國家ニ益アリト思ハハ何人タリトモ忠言ヲ獻スル可ナリ況ヤ其職ニ居ル者ヲヤ若シ内閣カ之ヲ採用シ得ルヤ否ヲ慮ラハ遂ニ事情ニ流レ言ヲ進ム可キナカラシム此ノ如キハ立法官ノ心腸ニ之レ有ル可ラサルコトナリ立法官タル者ハ國家ニ益アリ又事理ニ適シタリト思フコトアレハ固ヨリ進言ヲ憚カラサル可シ是レ其第一ノ目的ニシテ其採用スルヤ否ヤハ之ヲ第二ニ置カサル可ラス且維新以來事ノ行ヒ難キモノニシテ却テ行ハレタル明治四年ノ廢藩置縣ノ如キ其他世論ノ囂々タル十四年ノ國會開設ノ聖詔本年ノ條約改正中止ノコトヲ見ルヘシ若シ其行否ヲ慮リ躊躇セシナラハ天下一人モ誠ヲ獻スル者ナク陛下ハ政治ノ得失ヲ考ヘタマフコト能ハス國事ノ進歩モ亦決シテ今日ノ如キニ至ル可ラス今日德川幕府ノ時代ト異ナリテ言論ノ自由ヲ得タル時ナリ是レ則チ明治初年陛下ノ御誓文ナル萬機公論ニ決スルノ成果ナル可シ然ラハ我輩ノ如キ言責アル者ハ決シテ進言ヲ憚ルニ及ハス本官ノ考フル所ハ内閣ニ於テモ必ス喜テ此案ヲ採用ス可ヘシト信ス何トナレハ之ヲ採用スルトキハ則チ衆議ヲ容レテ公平ノ政ヲ爲スノ感覺ヲ天下ニ與フレハナリ或ハ之ヲ拒却スルモ又敢テ驚クニ足ラス何トナレハ内閣ハ天子ノ内閣ナリ其之ヲ拒却スルハ別ニ見ル所アリテ同シク忠君愛國ノ深慮ヨリ出レハナリ某議官ノ言ニ此案ヲ提出シタルトキ内閣之ヲ拒却セハ何如ト云フ如キハ實ニ内閣ヲ輕視スルモノト謂フ

可シ若シ此案ニ付内閣ノ不同意アレハ定メテ之ニ對シテ其理由ヲ述フルナル可シ其理由ニシテ明確ナレハ是レ固ヨリ已ムヲ得サルニ非スヤ各官ノ此ノ如キ事ニ就テ過慮セラルハ本官ノ取ラサル所ナリ願クハ各官本案ノ大体ヲ採用シ修正ノ勞ヲ取ランコトヲ若シ内閣ノ意ヲ迎ヘテ本案ヲ排斥セント欲シ爲メニ章程第七條マテヲ害スルニ至ルハ本官ハ實ニ遺憾ニ堪ヘス且ヤ此案ノ廢棄セラルハトキハ後來元老院ヨリハ國家ノ大事ニ關スルコトモ意見書トシテ提出スル能ハサル可シ是レ亦尤モ痛心スル所ナリ各官ノ此意ヲ領センヲ望ム

退席

二十一番

稅所 篤

三十六番

安藤 則命

三十番

本田 親雄

四十六番

橋口 兼三

○五十番^{三浦} 本官ハ初メヨリ此案ハ第七條ニ牴觸スト認メサリシカ只今發議者ノ學理及實例ヲ把テ辯論セシニ依リ益ス其意思ヲ確メタリ然レハ本案ニハ同意スルカト云フニ大ニ不同意ナリ其不同意ナル所以ハ則チ前置ノ文章ニ在ラスシテ末尾ノ三項ニ在リ其三項ハ皆立法權ヲ擴張セントスルノ意ニ出テタランモ若シ三項中ノ第二項ノ如クセハ天下ノ政治ハ皆元老院之ヲ爲スニ至ルナリ是レ恐クハ我輩議員ノ言フ可キコトニ非ル可シ英吉利ノ如キ全ク議院政治ニシテ内閣ノ進退モ亦議院ノ手ニ在リト云ヘル國ニ於テモ上院下院ハ必ス共ニ決議ヲ爲シ決シテ一方ノ議ニ決スルコトヲ爲サス故ニ政府ハ意ニ適セサルアレハ議院ニ解散ヲ命スルノ權ヲ有シ而シテ其下院ヲ解散スルヤ上院ハ其

案ヲ議決スル能ハサルナリ夫レ議院ニシテ政治ノ權ヲ握レル英國ノ如キ猶ホ且政府ハ之ヲ解散スルノ權アルニ我邦ニ於テ元老院ノ否決セルモノハ政府之ヲ何如スル能ハストハ餘リ進取ニ過キタリト信ス是レ不同意ナル所以ナリ

○議長 五十番ノ發言中ナレトモ已ニ午時ヲ過キ且退席議員モ多ケレハ本日ハ閉會シ來ル十日ニ續キ會ヲ開カン散會セヨ
午後零時二十分閉場

○明治二十年十月十日 第一讀會 十月七日續

議長^{大木 喬任}
出席議員

- | | | | |
|-----|-------|------|-------|
| 二番 | 清岡 公張 | 十三番 | 伊集院兼寛 |
| 三番 | 永山 盛輝 | 十五番 | 大久保一翁 |
| 四番 | 石井 忠亮 | 十六番 | 伊東 祐賢 |
| 八番 | 楠本 正隆 | 十七番 | 壬生 基修 |
| 九番 | 榎村 正直 | 二十番 | 岩村 定高 |
| 十一番 | 箕作 麟祥 | 二十二番 | 中村 正直 |
| 十二番 | 黒田 清綱 | 二十四番 | 大迫 貞清 |

午前第九時五十分開場

○議長 號外第四十二號意見書第一讀會ノ續會ヲ開ク
○五十番 安^{三浦} 前會ニ發言中時刻大ニ移リシカ爲メ議長ヨリ發言ヲ中止セラレ遂ニ散會

二十五番	中島 錫胤	五十二番	由利 公正
二十七番	尾崎 三良	五十四番	加藤 弘之
二十八番	原田 一道	五十五番	調所 廣丈
三十番	本田 親雄	五十六番	林 友幸
三十三番	津田 出	五十七番	神山 郡廉
三十五番	津田 眞道	五十八番	鍋島 直彬
三十六番	安藤 則命	五十九番	長松 幹
三十八番	細川潤次郎	六十一番	楫取 素彦
三十九番	村田 保	六十二番	渡 正元
四十一番	長岡 護美	六十五番	西 周
四十四番	坂本 政均	六十六番	鶴田 皓
四十七番	野村 素介	六十八番	岡内 重俊
四十八番	鳥尾小彌太	六十九番	上杉 茂憲
四十九番	神田 孝平	七十番	東久世通禧
五十番	三浦 安	七十一番	何 禮之

ヲ告ケシヲ以テ本日ハ其後ヲ繼キテ陳辯ス可キナレモ前會ニハ缺席ノ議官モ有リタレハ或ハ本官ノ論旨ノ徹底セサランコトヲ恐レ此ニ複説セン議場ノ多數説ハ本案ハ元老院章程第七條ノ明文ニ抵觸スト云フニ在ルカ如シ然レモ本官ハ其説ニハ大ニ不同意ナリ其抵觸セサル理由ハ發議者及ヒ贊成者ヨリ縷々辯明ヲ加ヘ尙ホ發議者ハ一例ヲ擧ケ會テ章程ヲ本院ノ議ニ懸ケシ先例アルコトヲ陳ヘタリ因テ本官ハ本院ノ記録ニ就キ調査セシニ果シテ明治八年ニ於テ其先例アルコトヲ發見セリ今記録ニ登載セル八年五月三十一日ノ上奏文ヲ朗讀セン

本院職制并事務章程增補更正ノ儀

右ハ本年四月二十九日本院ノ章程實際施行ニ便ナラシムル爲メ尙增補更正致度依テハ内議事ヲ起シ可然哉奉伺候處同五月二日允裁ヲ得テ同五月二十九日ヲ以テ本院會議ヲ起シ尙增補更正決定スル處ノ職制并事務章程別紙ノ通奉仰上裁度仍テ謹テ奏ス

要スルニ明治八年ノ頃ハ本院草創ノ際ニシテ章程ヲ議スルニ稍ヤ疑ヒ有リテ一時允裁ヲ經タルナリ既ニ允裁ニ依リ章程ヲ議スルノ權限アルコトノ定マレル以上ハ何ソ今日ト雖モ章程ヲ議スルニ差闕アラシヤ論者カ章程第七條ヲ盾トシテ排撃ヲ試ムルハ最早ヤ無要ノミ或ハ八年ノ一例ハ本院ニ於テ章程ヲ議ス可ラスト信シタレハコソ何ヲ經タリト解スル者アランモ此見解ハ謬ナリ何トナレハ已ニ何ヲ經テ其之ヲ議スルヲ得ルコト定マリタレハナリ是レ本官カ章程抵觸説ノ多數ナルニ拘ラス之ニ不同意ヲ表スル所以